

長野県松本市

*OHMURA*

# 大材遺跡Ⅵ

—緊急発掘調査報告書—



2005.2

松本市教育委員会

長野県松本市

*OHMURA*

# 大村遺跡 VI

—緊急発掘調査報告書—

*2005.2*

松本市教育委員会

## 序

大村遺跡は松本市の北東部、古くから宅地化が進んでいる地区に位置します。本遺跡は昭和25年に初めて発掘調査が行われて以来、弥生時代から中世に至る幅広い時代の良好な資料が得られる遺跡として知られており、松本市教育委員会としては今回で6回目の調査となります。

このたび当地に農村振興総合整備統合補助事業大村工区ほ場整備事業が計画されたため、大村ほ場整備組合の協力を得て、埋蔵文化財の保護を図るため松本市教育委員会が発掘調査を実施することになりました。

発掘調査は市教育委員会によって、平成15年10月から平成16年3月にかけて行われました。寒風吹きすさぶ中、降雪に悩まされながらの作業となりましたが、参加者の皆様のご尽力により無事終了することができました。その結果、古墳時代から中世のものを中心として様々な遺構・遺物を確認することができました。これらは、今後地域の歴史解明に大変役立つ資料になることと思われまます。

しかしながら開発事業に先立って行われる発掘調査は、記録保存という遺跡の破壊を前提とする側面があることも事実です。開発により私たちの生活が豊かになる一方、それにともない歴史遺産が失われてしまうことは残念なことです。発掘調査により当時の生活が明らかとなり、私たちの郷土松本が歩んできた歴史が一つずつでも解き明かされることは大変貴重なことだと考えます。

最後になりましたが、発掘調査にご協力いただいた参加者の皆様、また調査の実施に際して、多大なご理解とご協力をいただいた大村ほ場整備組合の皆様、そして地元の関係者の皆様に厚くお礼申し上げます。

平成17年2月

松本市教育委員会 教育長 竹 淵 公 章

## 例 言

- 1 本書は、平成15年11月19日から平成16年3月25日にかけて行われた、松本市大字大村5番地1他に所在する大村遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 本調査は、農村振興総合整備統合補助事業大村工区ほ場整備事業に伴って松本市教育委員会が行ったものである。
- 3 本遺跡は、平成15年度に発掘調査を行い、平成16年度に発掘調査報告書の作成を行った。
- 4 本書の執筆分担は次の通りである。
  - 第1章：事務局
  - 第2章 第1節：森 義直
  - 第3章 第3節1：澤柳秀利、菊池直哉 (P55～62)
  - 第3章 第3節2：三村竜一、内堀 団 (P88～90)、岡崎武祥 (P76～87)
  - 第3章 第3節3：内堀 団
  - 上記以外：澤柳秀利
- 5 本書の作成、編集にあたっての作業分担は次の通りである。
  - 遺物洗浄・接合：五十嵐周子、中澤温子、百瀬二三子
  - 土器・陶磁器実測：白鳥文彦、竹内直美、竹平悦子、松尾明恵、松山あずさ、八坂千佳
  - 土器・陶磁器トレース：竹内直美、松山あずさ、八坂千佳
  - 瓦実測・拓本・瓦トレース：三村竜一、白鳥文彦、村山牧枝、竹内直美、八坂千佳
  - 石器実測・トレース：村山牧枝、澤柳秀利
  - 金属器保存処理：内堀 団、洞澤文江
  - 金属器実測・トレース：洞澤文江
  - 遺構図調整・整理：澤柳秀利、松山あずさ、村山牧枝
  - 遺構図トレース：澤柳秀利、松山あずさ
  - 図版組み：澤柳秀利、内堀 団、清水 究、白鳥文彦、竹内直美、松山あずさ、村山牧枝、八坂千佳
  - 写真撮影（現場写真）：栗田幸信、澤柳秀利、菊池直哉、中村慎吾
  - （遺物写真）：宮嶋洋一
  - （航空写真）：株式会社地図測量編集：澤柳秀利
- 6 本書の中で使用した遺構名の呼称は次の通りである。
  - 第1号住居址→1住、第1号土坑→1土、第1号ピット→P1、第1号堅穴状遺構→1堅、
  - 第1号溝址→1溝、第1号流路址→流路1、第1号集石遺構→集石1、第1号焼土範囲→焼土1、
  - 第1号台状地形→台状地形1、第1号凹地状遺構→凹地1、第1号石列→石列1、
  - トレンチ1→T1、サブトレンチ→ST、グリッド→G、住居址内ピット1→P1遺物包含層調査におけるグリッド番号は、そのグリッド北東隅の座標を用いている。
- 7 土器・陶磁器の実測図において断面図の白抜きは縄文土器（縄文）及び土師器である。スミ塗りは須恵器、陶器、磁器で、(青)は青磁、(白)は白磁、(NS)は軟質須恵器、(K)は灰釉陶器、(陶)は陶器を示し、表示のないものは須恵器である。
- 8 本調査における出土遺物及び現場で作成した測量図、写真類の諸記録は松本市教育委員会が管理し、松本市立考古博物館に保管・収納されている。(松本市立考古博物館：〒390-0823 長野県松本市大字中山3738番地1 TEL：0263-86-4710 FAX：0263-86-9189)



# 目次

序

例言

目次

第1章 調査の経緯 .....	5
第1節 調査に至る経過 .....	5
第2節 調査体制 .....	5
第2章 遺跡の環境 .....	6
第1節 大村遺跡の地形・地質 .....	6
第2節 歴史的環境 .....	8
第3節 過去の調査 .....	10
第3章 調査結果 .....	13
第1節 調査の概要 .....	13
第2節 遺構 .....	17
1 竪穴住居址 .....	17
2 土坑 .....	23
3 ビット .....	23
4 竪穴状遺構 .....	24
5 集石遺構 .....	24
6 石列 .....	25
7 焼土範囲 .....	26
8 台状地形 .....	26
9 凹地状遺構 .....	27
10 溝址・流路址 .....	27
第3節 遺物 .....	46
1 土器・陶磁器 .....	46
2 古瓦 .....	73
3 金属器 .....	96
4 石器 .....	98
第4章 調査のまとめ .....	99

写真図版

## 図版目次

第1図	大村遺跡6次各地区基準土層柱状図	7
第2図	遺跡の位置と周辺遺跡	9
第3図	調査範囲	12
第4図	A地区北西遺構配置図	14
第5図	A地区北東・南東・B, D, E地区遺構配置図	15
第6図	C地区遺構配置図(1, 2面)	16
第7図	第78, 81, 87, 92号住居址	32
第8図	第84, 86, 91, 93号住居址	33
第9図	第82, 83, 85, 89, 95, 96号住居址	34
第10図	第97~100, 104, 105号住居址	35
第11図	第101~103, 106~109号住居址	36
第12図	第110~113号住居址	37
第13図	土坑(1)	38
第14図	土坑(2)・溝址・流路址	39
第15図	集石遺構・竪穴状遺構	40
第16図	石列1, 2・凹地状遺構	41
第17図	石列3	42
第18図	石列4, 5	43
第19図	台状地形1	44
第20図	各地区土層	45
第21図	土器・陶磁器(A地区1)	63
第22図	土器・陶磁器(A地区2)	64
第23図	土器・陶磁器(A地区3)	65
第24図	土器・陶磁器(A地区4)	66
第25図	土器・陶磁器(A地区5)	67
第26図	土器・陶磁器(A地区6, D, E地区)	68
第27図	土器・陶磁器(B地区1)	69
第28図	土器・陶磁器(B地区2, C地区1)	70
第29図	土器・陶磁器(C地区2)	71
第30図	土器・陶磁器(C地区3)	72
第31図	瓦分布図	88
第32図	瓦種別コード1・3・6分布図	89
第33図	瓦種別コード2・4・5分布図	90
第34図	古瓦実測図(1) 鷗尾	91
第35図	鷗尾模式図	92
第36図	古瓦実測図(2) 軒丸瓦	92
第37図	古瓦実測図(3) 軒平瓦・隅平瓦・不明品	93
第38図	古瓦実測図(4) 平瓦	94
第39図	古瓦実測図(5) 平瓦・丸瓦	95
第40図	金属器実測図	97
第41図	石器実測図	98

## 表目次

第1表	大村遺跡周辺の過去の調査	11
第2表	住居址一覧表	29
第3表	土坑一覧表	30
第4表	石列一覧表	30
第5表	溝址一覧表	31
第6表	流路址一覧表	31
第7表	集石遺構一覧表	31
第8表	台状地形一覧表	31
第9表	土器観察表	55
第10表	古瓦一覧表	76
第11表	凡例	85
第12表	軒平瓦観察表	85
第13表	軒丸瓦観察表	85
第14表	側面・端面の形状の分類	86
第15表	古瓦接合状況	87
第16表	瓦主要銘文	88
第17表	個体別資料一覧項目コード	88
第18表	瓦種別コード	88
第19表	一覧項目16・17問題コード	88
第20表	一覧項目16・17問題コード単位問題個体数と解決率	88
第21表	地区・問題含有項目単位個体数	88
第22表	地区・瓦種単位プロット個体数と率	88
第23表	金属製遺物主要銘文	96
第24表	地点別遺構単位製品率	96
第25表	金属器一覧	96
第26表	石器一覧表	98

## 第1節 調査に至る経緯

### 文書記録

#### 発掘調査について

平成14年12月	平成15年度文化財関係国庫補助事業計画書提出。
平成15年4月	平成15年度国宝重要文化財等保存整備費補助金交付申請書提出。
平成15年5月30日	平成15年度国宝重要文化財等保存整備費補助金交付決定（通知）。
平成15年10月	大村遺跡第6次発掘調査開始。
平成16年3月	発掘調査終了報告書提出。 平成15年度国宝重要文化財等保存整備費補助金実績報告書提出。
平成16年4月14日	平成15年度国宝重要文化財等保存整備費補助金の額の確定（通知）。

#### 整理作業・報告書作成について

平成15年11月	平成16年度文化財関係国庫補助事業計画書提出。
平成16年4月	平成16年度国宝重要文化財等保存整備費補助金交付申請書提出。
平成16年6月16日	平成16年度国宝重要文化財等保存整備費補助金交付決定（通知）。
平成17年2月	大村遺跡第6次調査発掘調査報告書刊行。

## 第2節 調査体制

### (1) 調査団

調査団長	竹瀬公章（松本市教育長）
調査担当者	直井雅尚、栗田幸信、澤柳秀利、菊池直哉、中村慎吾
調査員	今村 克、西沢寿見、松尾明恵、宮嶋洋一、森 義直
協力者	荒井留美子、飯田三男、五十嵐周子、入山正男、川崎勝英、久保田澄子、河野清司、小松栄一、 笹井トキ子、澤柳 博、清水陽子、清水洋輔、白鳥文彦、鈴木幸子、曾根原隆男、高桑俊孝、 高橋登喜雄、竹内直美、竹平悦子、田中一雄、寺島 実、兎川國明、中上昇一、中川佳子、 中澤温子、中村恵子、中山自子、藤井道明、藤井弥三郎、布野行雄、布野和嘉夫、布山 洋、 洞澤文江、待井敏夫、松山あずさ、三澤栄子、道浦久美子、宮田美智子、三代沢二三恵、 三代沢宗俊、村山牧枝、望月佳代子、本木修次、百瀬二三子、八坂千佳、山崎照友、渡辺順子

### (2) 事務局

松本市教育委員会教育部文化課（～平成16年6月30日）  
文化財保護課（平成16年7月1日～）  
有賀一誠（課長～平成16年3月31日）、池田英俊（同 平成16年4月1日～）  
熊谷康治（課長補佐）、田口博敏（同～平成16年3月31日）、  
川上百合子（文化財担当係長 平成16年4月1日～）、直井雅尚（主査）、  
久保田 剛（主任～平成16年3月31日）、小山高志（主事 平成16年4月1日～）、  
櫻井 了（同）、渡邊陽子（嘱託）、太田万喜子（同～平成16年8月31日）

## 第1節 大村遺跡の地形・地質

## 1 地形・地質の概観

昭和40年度以降女鳥羽川に関係のある市内の発掘報告書には毎回記しているのですが今回は要点のみを記す。

- (1) 今から数十万年前の洪積世中期に起きた造盆地運動の一環として松本盆地も誕生した。即ち断層による構造性の盆地である。
- (2) 今から数万年前の洪積世の末になって、松本の旧市街地付近が局部的に沈下を始め、城山側が傾動しながら隆起し現在に至っている。
- (3) その結果、女鳥羽川は大口沢方面に西流していたものが、次第に城山方面へ、そして更に東へ流路を変え稲倉付近を扇頂として南に広がる扇状地を形成し、更に東から流入する薄川により入山辺地区の西端付近を扇頂として西に広がる扇状地を形成しつつ湯川付近で女鳥羽川扇状地と接し複合扇状地を形成している。

## 2 女鳥羽川扇状地形について

- (1) 扇状地の常として、中央部の岡田町～護国神社にかけて高くなっている。
- (2) 西側には三段の段丘があり、平安時代の中頃まで女鳥羽川が流れており、凹地形がみられる。その左岸に当たる岡田町寄りには、点々と残丘が存在する。
- (3) 平安後期頃の大洪水により、上流の和田・桜田付近に川自身が運んできた土砂が一気に堆積し自然堤防となり、流路が扇状地の東端に変わり現在に至っている。(岡田町の平安時代後期の住居址の上に、この時の洪水による黒色粘土が厚く堆積している。)

## 3 発掘地点の地形・地質について

今回の発掘地点は大村地籍の女鳥羽川左岸で、東山の山麓近くの標高630～634mの間にあり、南に向かって緩く傾斜している。この地籍は昭和40年と61年に調査のため開けたトレンチと一部重なる部分もある。この付近一帯は度重なる調査にもかかわらず遺跡や遺構が断片的で、その上永続性に乏しく不明な点が多かったが、その原因はこの付近の立地条件によるものであることが次第に判明してきた。前述した如く平安後期になって岡田町の東に流路を変えた女鳥羽川は、稲倉～上浅間西側の原地籍とそれより下流では状況が異なり、上流では細かく蛇行し、下流では原地籍付近を起点(2次扇頂)として、現流路の西へ約400m、東へ約500m(本発掘地点も入る)の間に流路が首振りをしている。しかも、この大村は後述する松本湖の東北隅に当たり、地盤が沈下するため女鳥羽川の主流が離れたときには、東部山地から運ばれた第三紀層の風化粘土による沼地ができ、ヨシやオギ、ガマなどの湿原となり漆黒色粘土層が堆積する。従って主流が近くを流れているときは[砂礫土]、離れると[シルト質]、遠くになると[腐植の多い漆黒色粘土]と変化し、流路の首振りにより繰り返している。このようにこの付近の住民は堤防が備わるまで長年月、出水率の大きな女鳥羽川の流路の首振りと地盤沈下による低湿地化に振り回されてきたが、それにもかかわらず種々の遺構が存在するのは、地理的にみて好都合の地であったためと推定される。

(注) 松本湖について

洪積世の末旧市街地が沈下し、城山側が隆起したことは前述したが、この地盤変動は一時的なものではなく、六九第4次報告書に記した如く六九付近は年平均1.6～1.7mmの割合で堆積しており、更に平成16年11月の東町の発掘では今までの最高の年平均2.3mmの速さで堆積している。逆にいえばその速さで沈下しつづけていることになり、その結果生じた沼沢地を松本湖または松本湖沼と仮称している。(松本盆地中心の新村～穂高付近の堆積速度は年平均1mmである。)

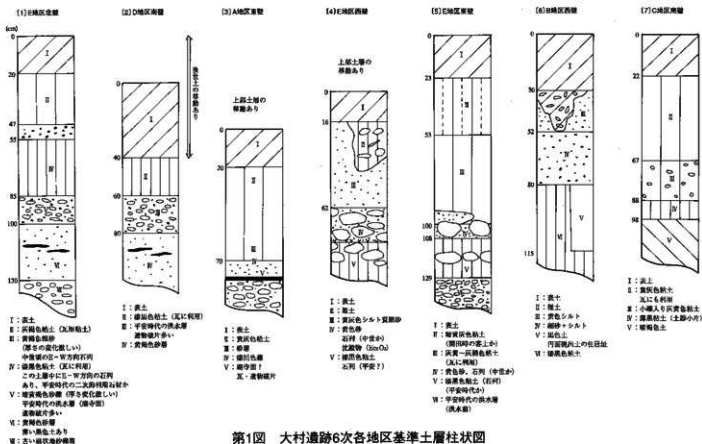
#### 4 土層について

土層は大きくみて3ブロックに分かれ、① A地区の東端～E地区～D地区（柱状図1～5）、② B地区～C地区（柱状図6～7）、③ A地区西側、となる。

この大村地区は上述した如く洪水や地盤沈下に伴う沼沢地の外に、開田時の土層の移動、瓦に適した粘土層があるため随所で採土、不要な瓦や礫などの埋立て等変化の多いところである。したがって比較的原形を保っていると思われるE地区の土層柱状図〔1〕を基準とする。A地区の東端の一部とE、D地区は平安の洪水槽をまともには被り、上流（北側）から時代の異なる遺物の破片が多く混入している。この洪水後沼地化し漆黒色土が堆積、この漆黒色土は昭和の発掘でも広く覆っていることが判明しており、平安の洪水後広く湿地帯となっていたことがわかる。このE地区の沼地に列状の石がある。その後中世頃沼地に砂の流入があり漆黒色土中の列状石の真上に東～西の石列を作っている。時代は下の列状石は平安後期頃、上の石列は中世のものとみられる。石列の目的については、この石列の北側は漆黒色土層が厚く洪水も北から来るために、南側の何かを守るための、一種の土手のようなものかと思われる。B、C地区は平安の洪水層はみられず、平安・奈良時代の住居跡の保存は良好であるが、土層の上部は人工的出入りが激しい。A地区は水路西側にあるN～S方向の石列は新しく、江戸時代とみられるが、この石列を境にして西側から漆黒色土帯が迫っており、東側の何かを守るための石列のようにも思える。

#### 5 まとめ

昭和40年度以後の度重なる発掘を通して全般をみたとき、平安時代までは住居跡や遺跡などが多いが、平安時代以降急に少なくなる傾向がある。これは女鳥羽川の流路と深く関係しているように思われる。おそらく平安時代の中頃までは伊深の上流、和田・桜田付近で分流し主流は岡田町の西側を、支流は岡田町の東側を流れていたものが平安後期～末の大洪水による自然堤防で本流は塞ぎ止められ全て東流するようになり、大村地区を始め女鳥羽川流域はしばしば洪水槽を被るようになったのが住居跡が少なくなった原因と考える。



第1図 大村遺跡6次各地区基準土層柱状図

## 第2節 歴史的環境

大村遺跡は、現在の行政区画では松本市大字大村、浅間温泉にかけて存在する遺跡である。

縄文時代には、すぐ西に隣接する柳田遺跡が中期～後晩期の著名な遺跡として知られ、特に昭和54年に行われた分布確認調査では、釣手土器の他多量の土器を伴って住居址が確認されている。

弥生時代については、南東に隣接する大村古屋敷遺跡において、後期の住居址が17軒確認され、集落が営まれており、遺物も多い。しかしこの周辺ではその他にみられず、遺跡数は少ない。

古墳時代には、大村遺跡の東側、浅間温泉から里山辺御母家にかけての尾根上にくつか古墳が造られている。そのうち浅間温泉にある桜ヶ丘古墳からは昭和30～31年の調査で金箔を施した金銅製天冠が出土しており、現在県宝に指定されている。また調査区のすぐ東に隣接する妙義山古墳群からは、同年の調査で玉類、刀類を伴って石室が確認されており、古墳時代中期の築造と考えられている。

奈良・平安時代になると、この地域を語る上で無視できない存在として信濃国府と大村廃寺がある。現在まで、奈良時代末或いは平安時代初期に小県郡から移転したとされる国府については時期・位置ともに諸説ある。位置については惣社、大村といったこの周辺もその推定地の一つであるが、昭和57～61年の5次にわたる推定信濃国府確認調査ではその位置を捉えられず、未だその実体は不明である。近年大村遺跡の南西、大輔原遺跡において鈿帯、円面硯が住居址内から出土、また北西の柳田遺跡では大形掘立柱建物の検出などが相次いでいる。大村廃寺については今回の調査と大きく関わっている。後述するが、この周辺では以前から古瓦が出土することが知られ、周囲の小字名と合わせてこの付近に古代寺院（大村廃寺）が存在したとの指摘があり、昭和20年代には掘立柱建物址とみられる柱痕の調査や、昭和40年には学術調査も実施されている。しかしこれらはトレンチ調査であるため寺院に関する有力な遺構確認はされていない。その後も市営球場、市営住宅などに先立つ調査の結果、住居に伴い多くの古瓦が出土しているが、やはり古代の寺院・官衙に関わる直接的な遺構の発見には至っていない。

中世になると、この周辺でも調査例が少ないことから不明な点も多い。鎌倉時代の文書資料では嘉暦4年(1329)の「諏訪社上社造営目録」など、諏訪神社関係の史料に大村郷の名がみられる。戦国時代の文書にも記載があることから、諏訪社との関連の深さが窺われる。今回の調査において、中世とみられる多数のピットの他、いくつかの遺構が検出され、また少ないながら中世の遺物も出土していることから、これが文書に表れた大村郷と関連するのかもしれない。

近世以降、この辺りは周辺の浅間村、横田村、惣社村等とともに松本藩領岡田組に属した。周囲には女鳥羽川の湯水に備えて多くの宿池が築造された。この周辺では雁金池、女鳥羽池、横田池、真観寺池が築かれるが、現在では女鳥羽池以外は埋め立てられて消滅している。また調査区の南に隣接して大村郷倉跡がある。

近代になり、昭和6年に浅間競馬場が、県営運動場南側隣接地に造成され、その際に周辺の水田なども削平されたといわれる。競馬は春秋年2回開催されたが、それほど盛んではなかったようで、本郷村誌にも昭和8年以降の記事がないため不明である。程なく閉鎖されてしまったようで、その後再び農地に戻され、現在の景観になったと思われる。

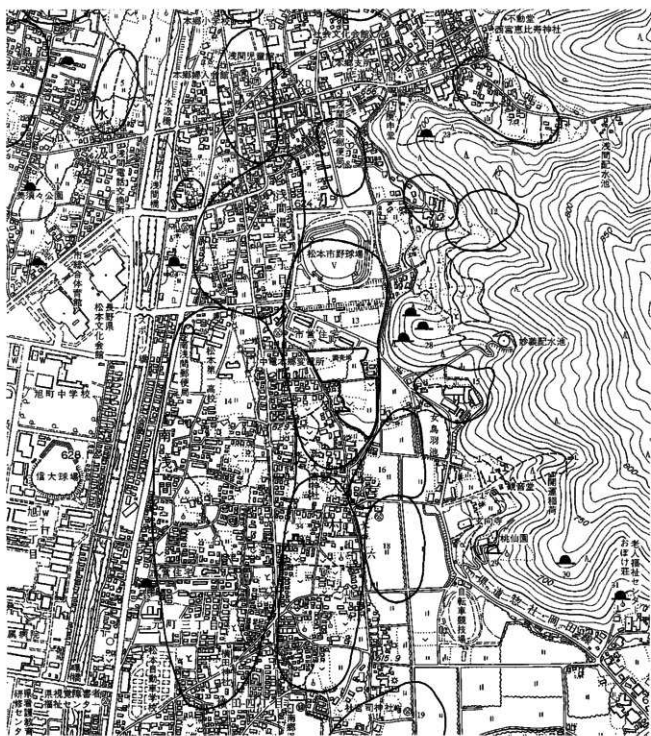
### 参考文献

「松本市史 第二巻 歴史編1-」 松本市1993

「松本市史 第四巻 旧市町村編1-」 松本市1993

「本郷村誌」本郷村誌編纂会 1983

「東筑摩郡松本市塩尻市誌 第二巻 歴史上」東筑摩郡松本市塩尻市郷土資料編纂会 1973



- 1: 杵坂遺跡、2: 本郷上高田遺跡、3: 鳥居前遺跡、4: 松岡七日市場遺跡、5: 水汲西原遺跡、  
 6: 本郷高田遺跡、7: 大音寺遺跡、8: 新湯南裏遺跡、9: 芝田遺跡、10: 柳田遺跡、11: 真観寺遺跡、  
 12: 飯治河遺跡、13: 大村遺跡(I~Vは前回までの調査地)、14: 大輔原遺跡、15: 大村新切古窯址、  
 16: 大村古屋敷遺跡、17: 大村立石遺跡、18: 人村前田遺跡、19: 大村塚田遺跡、20: 水汲5号古墳、  
 21: 水汲4号古墳、22: 水汲1号古墳、23: 桜ヶ丘古墳、24: 大屋敷1号古墳、25: 大屋敷2号古墳、  
 26: 妙義山2号古墳、27: 妙義山1号古墳、28: 妙義山3号古墳、29: 桃仙園古墳、30: 御母家2号古墳、  
 31: 御母家1号古墳、32: 国司塚古墳、33: 浅間館跡、34: 大村館跡

第2図 遺跡の位置と周辺遺跡

## 第3節 過去の調査

今回で大村遺跡の調査は6回目となるが、大輔原遺跡など、かつて大村遺跡として調査が行われ、遺跡範囲の再確認などにより変更されたものもあるため、ここでは大村遺跡及び周辺遺跡の過去の調査について簡単に整理してみた。

### 第1次調査以前

前述の古瓦出土等から、この地に廃寺が存在したとする指摘があり、昭和25年、境の本地藩の水田から偶然発見された建物址の柱痕の調査が行われている。詳細な調査地は知ることができないが、当時を知る人の話によれば、現在の県道惣社岡田線と市道出川浅間線の交差点付近であるという。その際にも土器などが出土しているようだが、詳細は不明である。昭和40～41年には、新産業都市指定に伴って周辺の埋蔵文化財緊急分布調査が行われ、今回調査区のD地区にあたる部分でもトレンチ調査が行われ、瓦などが出土しているようであるが、廃寺に関わる具体的な遺構確認はされていない。

### 第1・2次調査

昭和61～62年に実施した。市営庭球場およびそのクラブハウス建設に伴うもので、1・2次合わせて堅穴住居址が3軒、掘立柱建物址4棟等が検出され、土器・陶磁器の他古瓦・鈔帯といった特殊遺物が出土している。しかし寺院に関する遺構は確認されなかった。

### 第3・4次調査

昭和63～平成元年に実施した。市営住宅建設に伴うもので、両調査合わせて堅穴住居址が46軒、掘立柱建物址が1棟という大きな成果を得た。また古瓦も多く出土している。

### 第5次調査

平成元年に実施した。市営球場改築に伴うもので、堅穴住居址2軒などを確認したが、遺構密度は低く、大村遺跡の北限ではないかと考えている。

### 柳田遺跡の調査

昭和54年の県営住宅建設に伴う1次調査では、グリッド調査ながら縄文時代中期～後晩期の住居址3軒が確認され、ほぼ完形の釣手土器等多量の遺物が出土した。平成10年の消防施設建設に伴う調査では、方形柱穴の大形掘立柱建物址が確認された。

### 大村立石遺跡の調査

平成元年の民間アパート建設に伴うもので、小規模調査ながら縄文時代の堅穴住居址を確認している。

### 大村塚田遺跡の調査

平成2年のほ場整備に伴うもので、縄文時代中期後葉を中心とする住居址47軒を検出し、有孔鈔付土器を含め、整理用コンテナ90箱という多量の土器が出土している。

### 大村古屋敷・前田遺跡の調査

両遺跡とも平成3年に行われたほ場整備に伴う調査である。前田遺跡は、遺構密度は低い。古屋敷遺跡は、弥生時代～中世の遺構が密集して検出された。上層が中世、下層が弥生～平安時代で、特に弥生時代の住居址は多く、比較的大規模な集落が存在していたようである。ここでは古瓦が出土している。

### 大輔原遺跡の調査

教員住宅建設に伴う第2次調査では、狭大な面積ながら奈良時代の良好な住居址が確認されている。松本第一高校改築に伴う4・8・9次調査では、遺構密度が非常に高く、円面硯、鈔帯を出土する住居址がある。



第1表 大村遺跡周辺の過去の調査

遺跡名	調査 回数	調査 年次	発掘原因	調査主体	面積	検出遺構	出土遺構	時代	備考 (報告書No.)	
大村 (13)		1950 (昭25)	柱表の調査	人形湯建 康廣式二部		竪立柱礎物趾1	柱礎			
		1951 (昭26)	出土瓦の調査	石田茂作			古瓦			
		1965 (昭40)	新産都市指定地 区風土文化財緊急 発掘調査	藤原輝		暗渠排水	古代土器・陶器、古瓦(平・丸・軒丸)、鉄貨		トレンテ調査	
		1966 (昭41)	大村藩寺のための 字附調査	内藤正範			古代土器・陶器、古瓦(平・丸・軒丸)、自然遺物		トレンテ調査	
	1	1986 (昭61)	御球場拡張造成	松本市 教育委員会	1,582	竪穴住居趾1、竪穴伏遺構1 竪立柱礎物趾1、柱列3、溝趾3	古代土器・陶器、古瓦(平・丸)、加工木材、鈔書		平安時代	
	2	1987 (昭62)	御球場クラブハウ ス建築	松本市 教育委員会	1646	竪穴住居趾2、土坑3	古代土器・陶器、銅製品		平安時代	
	3	1988 (昭63)	市営住宅建設	松本市 教育委員会	2,000	竪穴住居趾23、竪穴伏遺構2 土坑18、ピット7、溝趾1	古代土器・陶器、古瓦(平・丸)、鉄貨		平安時代	概観1989年
	4	1989 (平元)	市営住宅建設	松本市 教育委員会	6,000	竪穴住居趾60、竪立柱礎物趾1、 土坑50、溝趾10	古代土器・陶磁器、石器、鉄器、古瓦(平・軒丸)、散骨		奈良・平安時代	
	5	1989 (平元)	市営球場改築	松本市 教育委員会	3,600	竪穴住居趾2、土坑1、流路4	古代土器・陶器、石器		平安時代	大村遺跡の北 部か
		1	1979 (昭54)	市営住宅建設	松本市 教育委員会	5,200	竪穴住居趾3、集石3	縄文土器、石器		縄文時代中期- 後、視跡
柳田 (10)	2	1990 (平2)	民間アパート 建設	松本市 教育委員会	250	竪穴住居趾1、竪立柱礎物趾1、 竪穴伏遺構1、ピット20	縄文土器、石器、古代土器・ 陶器		縄文時代、奈良 時代	
	3	1996 (平10)	消防施設建設	松本市 教育委員会	200	竪立柱礎物趾1、土坑8	古代土器		奈良時代	
	1	1989 (平元)	民間アパート 建設	松本市 教育委員会	50	竪穴住居趾2、ピット2	縄文土器、石器、古代土器		縄文時代	
大村塚田 (19)	1	1991 (平3)	ほ場整備	松本市 教育委員会	2,556	竪穴住居趾47、土坑20、配石1	縄文土器、弥生土器、石器		縄文時代中期、 弥生時代後期	報告書№86
大村 古屋敷 (16)	1	1991 (平3)	ほ場整備	松本市 教育委員会	1,630	竪穴住居趾67、竪立柱礎物趾1、 基趾4、土坑105、ピット525	縄文土器、弥生土器、古代土 器・陶磁器、石器、古瓦(平)、 金属器		弥生時代前期、 古墳時代中-後 期、奈良・平安 時代	報告書№103
大村塚田 (18)	1	1991 (平3)	ほ場整備	松本市 教育委員会	280	竪穴住居趾3	古代土器・陶磁器		古墳時代末-奈 良・平安時代	報告書№103
大穂原 (14)	1	1986 (昭61)	学術調査 (グリッド調査)	松本市 教育委員会	750	竪穴住居趾5、ピット12	縄文土器、古代土器・陶磁器		古墳時代末-奈 良時代、平安時 代	推定信濃国府 V 報告書№36
	2	1989 (平元)	教員住宅建設	松本市 教育委員会	970	竪穴住居趾1、土坑20	古代土器・陶磁器、円形礎		奈良時代	
	3	1992 (平4)	市営住宅建設	松本市 教育委員会	887	竪穴住居趾1、土坑1、ピット3、 溝趾2	縄文土器、古代土器・陶器		縄文時代、平安 時代	
	4	1993 (平5)	高校体育館建設	松本市 教育委員会	500	竪穴住居趾12、竪立柱礎物趾 10、土坑29、ピット21、溝趾3	古代土器・陶器、鉄器、円形礎		古墳時代末-奈 良・平安時代	
	5	1994 (平6)	市営住宅建設	松本市 教育委員会	2,535	竪穴住居趾3、竪立柱礎物趾3、 土坑4、ピット46、溝趾2	古代土器		奈良・平安時 代、中世	
	6	1995 (平7)	民間アパート 建設	松本市 教育委員会	550	竪穴住居趾7、竪立柱礎物趾1、 土坑2、竪穴伏遺構3、溝趾1	古代土器、鉄器		平安時代	
	7	1996 (平8)	福祉施設建設	松本市 教育委員会	2,535	竪穴住居趾2、土坑3、ピット 79、溝趾1	縄文土器、石器、古代土器・ 陶器		平安時代	
	8	1997 (平9)	高校校舎改築	松本市 教育委員会	662	竪穴住居趾14、竪立柱礎物趾1、 土坑3、ピット79、溝趾1	古代土器・陶器、円形礎、銅 製品(鈔書)		奈良・平安時代	案内書№146
	9	1998 (平10)	高校校舎改築	松本市 教育委員会	200	竪穴住居趾23、土坑29、ピット 39、溝趾1	古代土器		平安時代	報告書№146

注1 大村一帯の遺跡名と調査名については、平成4年の大村塚田遺跡報告書において整理がされた。上の表はそれを補足したものである。

注2 遺跡名の( )内の数字は、第2図の遺跡番号に対応する。

参考文献

『松本市大村遺跡群柳田遺跡分布確認調査報告書』長野県企業局 松本市教育委員会 1979.12

『本郷村誌』本郷村誌編纂会 1983.5

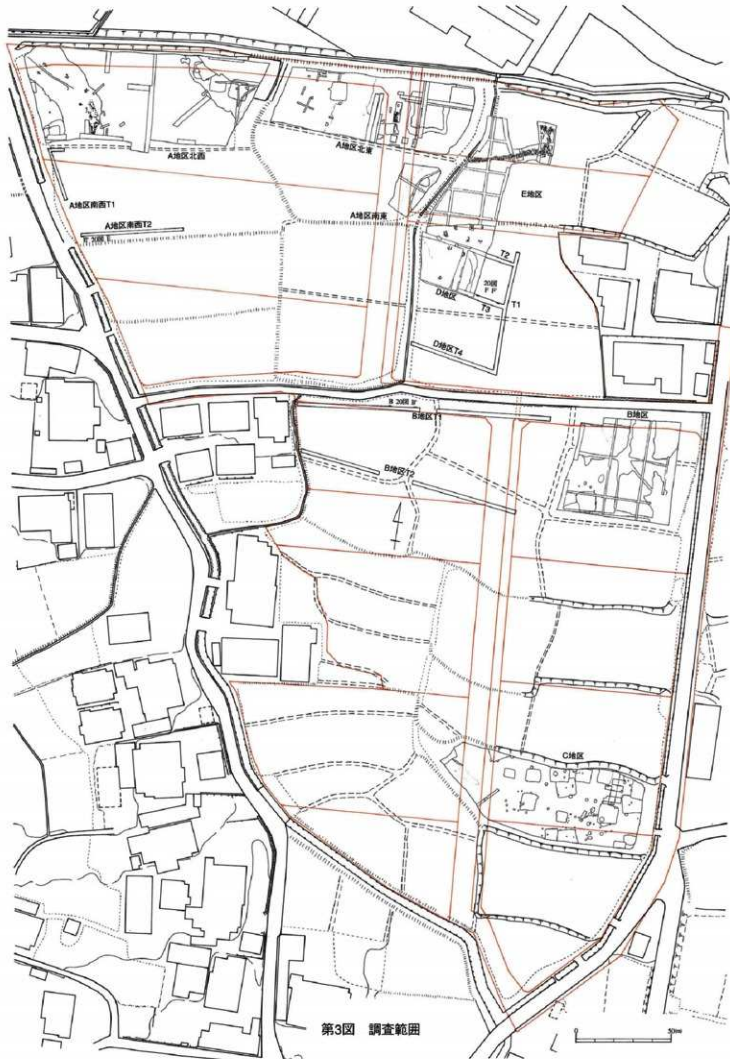
『推定信濃国府 第五次調査報告書』松本市文化財調査報告書№56 松本市教育委員会 1987.3

『大村遺跡 古瓦を出土する平安時代集落址の発掘調査概報』松本市教育委員会 1989.6

『松本市大村塚田遺跡 緊急発掘調査報告書』松本市文化財調査報告書№96 松本市教育委員会 1992.3

『松本市大村古屋敷遺跡 前田遺跡 緊急発掘調査報告書』松本市文化財調査報告書№103 1993.3

『長野県松本市大穂原遺跡 松本第一高等学校校舎改築に伴う緊急発掘調査報告書』松本市文化財調査報告書№146 松本市教育委員会 2000.3



第3図 調査範囲

## 第1節 調査の概要

### 1 調査地

今回の調査地は松本市大字大村5番地1他、農村振興総合整備統合補助事業大村工区は場整備予定地で、現況は水田・畑地である。大村遺跡は前述の通り昭和61年以来現在まで5次の調査が行われ、今回が6次調査となる。調査対象はほ場整備範囲27,600㎡であるが、事前の試掘調査により遺構・遺物を確認した部分を中心に約13,500㎡の発掘調査（面的調査4,693.2㎡、トレンチ対象面積約8,800㎡）を実施した。

### 2 調査方法

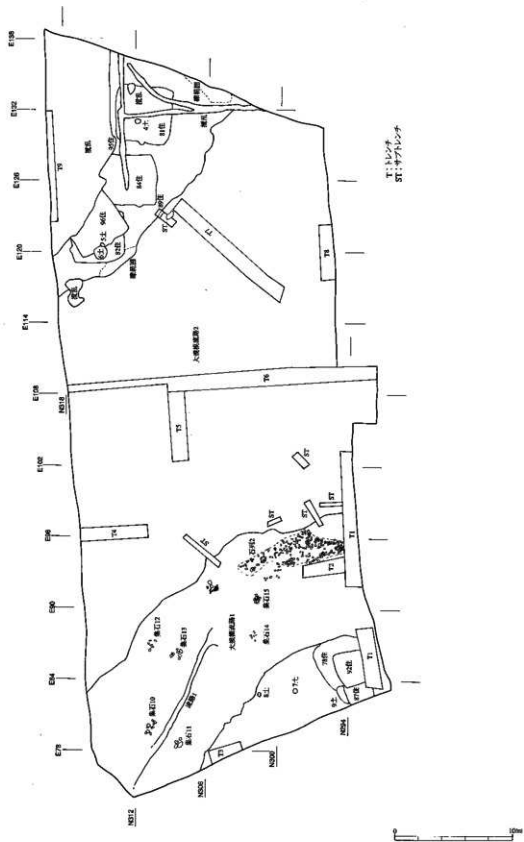
今回の調査では、調査区を現況水田の形状などにより便宜的にA～Eの5地区とした。開発区域北部のA地区は4,890㎡のうち北東、北西、南東の計2,335.9㎡を面的調査、南西はトレンチ調査とした。開発区域中央部のB地区は4,640㎡のうち東側715.9㎡を面的調査、西側3924.1㎡はトレンチ調査とした。開発区域南部のC地区は906.7㎡の面的調査を行った。D地区はB地区の北側1,940㎡で、トレンチ調査のみの予定であったが、瓦が多量に出土したため、そのうち300.4㎡について面的調査を行った。E地区は瓦の出土したA、D地区の間にあたり、1,130㎡のうち430.7㎡を面的に調査した。なお第3図では面的調査実施部分のみをA～E地区と表示している。面的調査の方法は重機により耕作土、基盤土を除去し、検出以後の作業は人力で行った。方位については横田1丁目6番所在の本屋敷三等三角点を基準として、トラバース測量により開発区域内にある測量基準点の座標を測定した。各地区遺構配置図中のN, S, E, Wは方位を表し、数字は基準点からの距離を示している。遺構番号は住居址のみ第5次調査の番号を継承し、その他の遺構については1から付している。

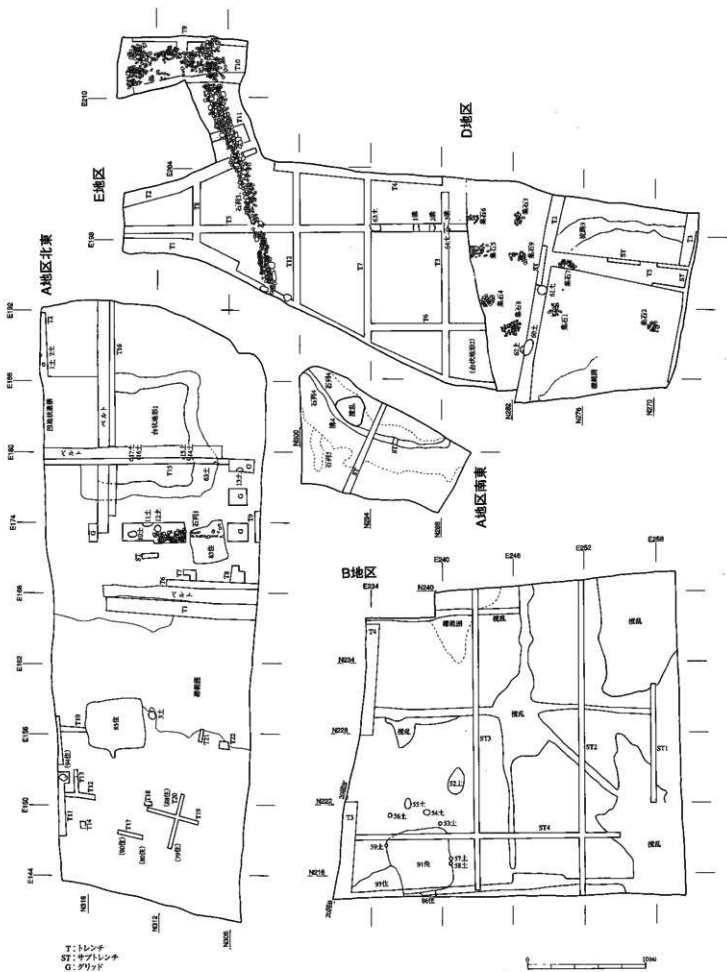
### 3 遺構

竪穴住居址36軒、土坑62基、ピット155個、竪穴状遺構1基、集石遺構15ヶ所、溝址4条、流路址5条（うち2条は大六川の旧流路とみられる大規模流路址）、台状地形（人為的に土を盛り上げた硬化面）2ヶ所、凹地状遺構（緩やかな段を持つ掘り込み）1ヶ所、石列5本、焼土範囲9ヶ所を検出した。住居址は古墳時代から奈良・平安時代に属するものがみられる。土坑については用途不明のものがほとんどで、中世に属するものもみられる。ピットは中世の建物址を構成するものが多く考えられるが、その構成について判断できるものはない。集石遺構は、一部が建物址のグリ石である可能性がある。石列は土留め、水路等の用途が考えられる。台状地形、凹地状遺構はともに中世に属するとみられるが用途は不明である。流路は大六川に関連するものとみられる。溝は何らかの区画溝、水路とみられる。

### 4 遺物

縄文時代から奈良・平安時代、中世にかけての遺物が出土している。縄文時代の土器・石器は遺構に伴うものではないが、近接する柳田遺跡との関連が考えられる。古墳時代の遺物は土師器杯・高杯等の食膳具、甕等の煮炊具がみられる。奈良・平安時代の遺物は土師器、黒色土器、須恵器、灰軸陶器の杯・椀・高盤といった食膳具、土師器甕・羽釜等の煮炊具、須恵器甕・壺等の貯蔵具がみられる。また青磁・白磁といった輸入陶磁器もみられる。文字資料としては片面硯が2点出土している。特記すべきものとして、A・D地区を中心に布目瓦が小片を合わせると1000点以上出土しており、軒丸・軒平瓦の他鷲尾の一部とみられるものも出土している。中世の遺物は瀬美産蓮弁文壺、古瀬戸産碗といった陶器等がみられる。金属器は中・近世銭貨の他釘などが若干出土している。石器では打製石斧、石匙、砥石、紡繰車等がみられる。

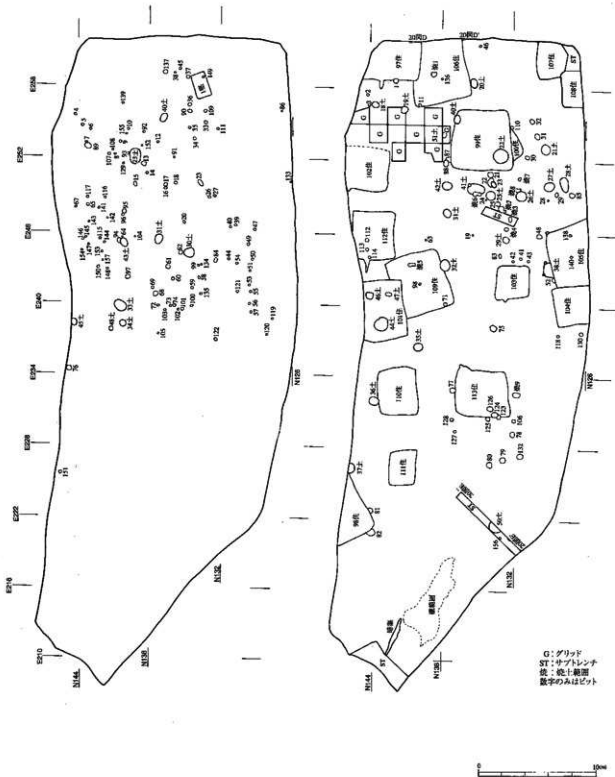




第5図 A地区北東・南東・B, D, E地区遺構配置図

第1面

第2面



第6図 C地区遺構配置図(1,2面) S=1:320

## 第2節 遺構

ここでは、本調査において検出した遺構について述べていく。なお、検出位置の記述について、A地区は現況水田の形状により北西、北東、南東、南西と分かれていることから（南西はトレンチのみ）、その中での位置を記している。その他の地区については、各地区の中で位置の記述をしている。

### 1 竪穴住居址（第7～12図、第2表）

今回の調査では36軒の住居址を確認している。しかし、そのうち第79、80、88、90、94号住居址は、遺物の確認或いはトレンチによる確認で、遺構として捉えられていないため、本来は欠番扱いすべきのものであろうと思われるが、まとまった形で時期を決定しうる遺物を出土しているため、実体の伴わない住居址として文章による記述をしている。なお遺構番号については、調査の手順上必ずしも調査区順（A地区→E地区）とはなっていないことをここに記しておく。

#### 第78号住居址（第7図）

A地区北西の西部で検出した。他遺構との切り合い関係は92住に切られる。また、大六川の旧流路とみられる大規模流路址2に一部破壊されている。87住と同様トレンチ1の断面により確認されたが、土色から平面での切り合い関係を明らかにすることは困難であり、調査の過程で本址を切る92住の存在が明らかになった。ピットは7個確認したがいずれも柱穴と確認できない。うちP<sub>1</sub>は貯蔵穴とみられる大形のピットで、内部からは甕等が出土している。カマドは東壁北寄りにある石組粘土カマドで、天井部こそ残存しないが火床部はよく被熱しており、良好な状態で検出された。内部及び周囲からの遺物も多い。煙道は大規模流路址2に破壊されている。床面は暗褐色粘質土でやや硬い。壁はよく残存し、ほぼ垂直に立ち上がる。遺物は多く、図化し得るものだけで25点を数える。カマドを中心に甕、小型甕等の煮炊具が主体を占める。食膳具は須恵器杯がみられる。本址の時期は、遺物から判断して7世紀後半の古墳時代後期に属すると考えるが、羽釜等も出土していることから、本址と後述する92住を切る古代11～12期・10世紀後半～11世紀前半に属する遺構が存在していた可能性がある。

#### 第79号住居址

A地区北東の西部において、遺物および礫の多く集中する範囲を確認したため、トレンチ19、20を設定して調査したが遺構の実体を確認することはできなかった。遺物は図化し得るものが6点で、須恵器杯、灰釉陶器碗等の食膳具、煮炊具として土師器甕等がみられる。時期については古代9～13期・10～11世紀の平安時代後半に属すると考える。この範囲に遺構があったと思われるため、実体不明の住居址とした。

#### 第80号住居址

A地区北東の西部において、遺物の多く集中する範囲を確認した。しかし遺構の実体を確認することはできなかった。遺物は図化し得るものが4点と少ないが、ほぼ完形の黒色土器皿や残存度の高い黒色土器杯、土師器小型甕がみられることからこの範囲に遺構があったことは確かだと思われるため、実体不明の住居址とした。時期は、遺物から判断して古代7期・9世紀後半の平安時代前期に属すると考える。

#### 第81号住居址（第7図）

A地区北西の東部で検出した。他遺構との切り合い関係は4土に切られる。一部攪乱及び暗渠により破壊されている。ピットは15個確認し、そのうちP<sub>1</sub>、P<sub>2</sub>、P<sub>3</sub>、P<sub>4</sub>が主柱穴であると考えられる。カマドは西壁中央で確認した石組粘土カマドで軸の一部が残る。火床部はよく被熱しており、煙道も立ち上がり部分が残存する。壁はよく残存し、ほぼ垂直に立ち上がる。床面は黄褐色砂質土で硬く締まっている。その他の施設としては南壁及び東壁際の一部に周溝がみられる。遺物としては、土師器、黒色土器の杯・碗、灰釉陶器碗等の食膳具、土師器の甕・小型甕といった煮炊具がみられる。特殊品として、カマド脇から軒平瓦片が出土した。時期の判断に

ついて、遺物からみると大きくは8世紀代のもので、中心とみられる9世紀後半のものに分かれ、さらに中世の遺物が混入しているようである。本址の検出時、その上面において住居の床面と考えられる範囲不明瞭な硬化面を確認しているが、遺構の实体をつかむことができなかった。これらの時期の異なる遺物のあり方は、それらに伴う遺物が混在していた可能性がある。本址の時期は、遺物の分布から判断して古代8期、9世紀後半の平安時代前期と考える。

#### 第82号住居址（第9図）

A地区北西の東部で検出した。他遺構との切り合い関係は96住、6土に切られる。ピット、カマドは確認できなかった。床面は茶褐色粘質土でやや硬い。壁はあまり残存しないが、ほぼ垂直に立ち上がる。遺物はそれほど多くないが、土師器、須恵器の杯、黒色土器碗といった食膳具の他、煮炊具として土師器甕がみられる。本址の時期は、遺物から判断して古代7～8期、9世紀後半の平安時代前期に属すると考える。

#### 第83号住居址（第9図）

A地区北東の東部で検出した。他遺構との切り合い関係は石列1を切る。ピット、カマドは確認できなかった。東壁南寄りに突出部があり、大形の石はあるが焼土はなく、カマドと考えることは難しい。床面は暗茶褐色粘質土であり硬くない。壁はよく残存し、ほぼ垂直に立ち上がる。遺物としては、土師器、黒色土器の杯・碗、灰軸陶器の碗といった食膳具が主体を占め、煮炊具、貯蔵具はほとんどみられない。本址の時期は、遺物から判断して古代14～15期、11世紀後半の平安時代後期に属すると考える。

#### 第84号住居址（第8図）

A地区北西の東部で検出した。北側の一部は擾乱により残存しない。また暗渠により一部破壊されている。他遺構との切り合い関係はない。ピットは確認できない。カマドは西壁中央南寄り確認された石組粘土カマドで、一部袖が滅失しているが火床部は残存する。煙道は削平されており残存しない。床面は小礫混じりの暗茶褐色で硬い。壁はあまり残存せず、立ち上がりもやや緩やかである。遺物としては食膳具が多く須恵器杯・杯蓋、土師器杯・碗、黒色土器杯・碗、灰軸陶器碗等がみられる。煮炊具は土師器甕・小型甕等がみられ、円化し得るものだけで37点と多い。本址の時期は、遺物から判断して古代8期、9世紀後半の平安時代前期に属すると考える。

#### 第85号住居址（第9図）

A地区北東の西部で検出した。広い範囲で遺物を確認したことから複数の切り合い関係が存在した可能性はある。ピットは4個確認したがいずれも柱穴と判断できない。カマドは西壁中央で確認された石組粘土カマドで、火床部、煙道ともによく残存する。床は小礫混じりの灰茶～茶褐色土で硬い。壁はよく残存し、ほぼ垂直に立ち上がる。遺物としては古墳時代後期の土師器杯・高杯等と平安時代前期の黒色土器杯・碗がみられる。本址の時期は、遺物から判断して古代7～8期・9世紀代の平安時代前期に属すると考えるが、古墳時代の遺構を切っている可能性がある。

#### 第86号住居址（第8図）

B地区南西部で検出した。他遺構との切り合い関係は91住に切られ、大半は南側調査区外である。91住の調査中、その南側に黒色土の範囲を検出し、床面とみられるやや硬い面を確認したため住居址とした。ピットは1個確認したが、柱穴と判断できない。プランも不明瞭で遺物も少なく、詳細は不明である。

#### 第87号住居址（第7図）

A地区北西の西部、トレンチ1の断面により確認された。土色から切り合い関係を明らかにすることは困難であった。92住に切られ、西側の一部が調査区外にかかる。ピットは10個確認したがいずれも柱穴と確認できない。カマドは確認できなかった。床面は茶褐色砂質土であり硬くない。壁はよく残存しほぼ垂直に立ち上がる。遺物としては黒色土器杯、須恵器杯等の食膳具、煮炊具は土師器の小型甕、貯蔵具は須恵器甕がみられる。本址の時期は、遺物から判断して古代7～8期・9世紀後半の平安時代初頭に属すると考える。



#### 第88号住居址

A地区北東の西部において、遺物・礫の多く集中する範囲を確認した。79住と同様トレンチ19、20を設定して調査したが遺構の実体を確認することはできなかった。遺物は少ないが、土師器杯、黒色土器杯、土師器小型壺D、灰釉陶器碗がみられる。この範囲に遺構があったと思われるため、実体不明の住居址とした。時期については、遺物から判断して古代9期以降の平安時代中期以降と考える。

#### 第89号住居址（第9図）

A地区北西の東部で検出した。大規模流路址2上面に不自然な大礫があるため、その確認を目的としてトレンチを設定したところ、多量の土器が出土し、また床面とみられる硬化面及び壁を確認した。トレンチのみのため全容は不明である。この確認トレンチのすぐ南西のA地区北西トレンチ7内からは若干の出土遺物はあるものの床面の続きは確認されなため、西側は大規模流路址2に切られるとみられる。遺物としては、食膳具では土師器碗・耳皿、須恵器杯、灰釉陶器碗等が、煮炊具では土師器小型壺がみられた。本址の時期は遺物から判断して古代14期・11世紀後半の平安時代後期と考える。

#### 第90号住居址

A地区北東の西部において、遺物の多く集中する範囲を確認した。トレンチ19により調査したが遺構は確認できなかった。遺物も図化し得るものは土師器碗、灰釉陶器碗等3点と少ないが、この範囲に古代9期・10世紀前半の平安時代後期に属する遺構が存在したとみられるため、実体不明の住居址とした。

#### 第91号住居址（第8図）

B地区南西部で検出した。他遺構との切り合い関係は86住を切り、93住他いくつかの土坑に切られる。当初はこの周辺全体に広がる暗褐色土範囲の土層確認のため設定したトレンチにより確認された。ピットは11個確認し、そのうちP<sub>2</sub>、P<sub>4</sub>、P<sub>5</sub>、P<sub>6</sub>が主柱穴であると考えられる。またカマド横には貯蔵穴とみられるP<sub>1</sub>があり、内部からは遺物が多く出土した。カマドは西壁中央で確認した石組粘土カマドで、火床部は残存、煙道も93住に貼られながら部分的に残存する。壁はよく残存しほぼ垂直に立ち上がる。北辺にはテラス状の段が造られている。床面は黄褐色土でやや硬く貼り床になっている。貼り床を除去すると、暗茶褐色土の地山面となり、一面に不整形三角形～不整形の黄褐色土塊がみられたが、一定の方向であることや断面形から、これらは掘り下げた際の、粗い掘り方の工具痕ではないかと考える。北側のテラス状の段も、その粗掘り後に土を盛って造ったことが、土層及び除去後の下の工具痕より判明した。遺物としては、須恵器の杯・高盤といった食膳具の他、土師器壺・小型壺等の煮炊具、貯蔵具がみられ、図化し得たものだけで31点を数える。特殊なものとして円面硯が1点出土した。本址の時期は、遺物から判断して古代1～2期・8世紀の奈良時代に属すると考える。

#### 第92号住居址（第7図）

A地区北西の西部で検出した。本址は78住と同様、当初設定したトレンチ1の断面により確認されたが、土色から平面での切り合い関係を明らかにすることは困難であり、調査の過程で78住を切る本址の存在が明らかになった。ピットは7個確認したが、いずれも柱穴と判断できない。カマドは西壁中央とみられたもので、石組粘土カマドと考えられるが、87住との切り合いにより不明な点が多い。火床部はよく被熱している。覆土中にみられる礫は雑然としており、投げ込みなどによるものではないかと考える。床面は暗茶褐色粘質土であまり硬くない。遺物は多く、土師器杯、黒色土器杯・碗、灰釉陶器碗等がみられる。本址の時期は、遺物から判断して古代8期・9世紀後半の平安時代前期に属すると考える。

#### 第93号住居址（第8図）

B地区南西部で検出した。南側の大半は調査区外にかかる。他遺構との切り合い関係は91住を切る。当初本址の貼る91住との切り合い関係が不明瞭であったことから、91住の調査が先行してしまったため、構造について不明な点も残る。ピットは床面で2個、貼り床下から1個確認しているが、いずれも柱穴と判断できない。カマドは、東壁中央と思われる石組粘土カマドである。詳細については不明であるが、火床部はよく被熱している。床面は暗茶褐色粘質土で硬く、粗掘りした地山の礫層の上に貼り床を施したものである。床面の一部か

ら炭化材がみられ、また覆土中に焼土粒が含まれていることから、本址は焼失した住居址である可能性もある。遺物はそれほど多くなく、図化石得たものは須恵器甕1点のみである。本址の時期は、遺物から判断して古代5～8期・9世紀の平安時代前期に属すると考えられる。

#### 第94号住居址

A地区北東において遺物の多く集中する範囲および焼土範囲を確認した。トレンチ11、12、13を設定して調査したが遺構の実体を確認することはできなかった。遺物は図化石得たものはほとんどなく、土師器杯1点のみであるが、この範囲に古代8期以降の遺構が存在したと考えられるため、実体不明の住居址とした。

#### 第95号住居址（第9図）

A地区北西の東部で検出した。他遺構との切り合い関係は81、84住に切られる。暗渠、攪乱により残存部分は少ない。ピットは1個確認され、位置から柱穴の可能性がある。カマドは確認できない。床面は小礫混じりの茶褐色土で硬い。壁はよく残存し、ほぼ垂直に立ち上がる。遺物はそれほど多くないが、土師器杯・鉢・小型甕、黒色土器碗、須恵器杯・甕、灰釉陶器碗がみられる。本址の時期は、遺物から判断して古代9期・9世紀後半の平安時代前期に属すると考える。

#### 第96号住居址（第9図）

A地区北西の東部で検出した。他遺構との切り合い関係は82住を切り、5、6土に切られる。北東の一部は攪乱を受けている。ピットは確認できない。カマドは西壁中央の石組粘土カマドで、火床部もよく残存する。床面は礫混じりの茶褐色土で硬い。覆土中カマド周辺を中心に礫が多くみられるが、住居廃絶時に投げ込まれたものかもしれない。壁はよく残存しほぼ垂直に立ち上がる。遺物は図化石得たものだけで30点を数える。土師器、黒色土器、軟質須恵器、灰釉陶器の杯等の食膳具、煮炊具では土師器甕、貯蔵具では須恵器甕がみられる。本址の時期は、遺物から判断して古代8期・9世紀後半の平安時代前期に属すると考える。

#### 第97号住居址（第10図）

C地区東部で検出した。北東の一部は調査区外にかかる。他遺構との切り合い関係は106住を切り、P1に切られる。ピットは1個で、その位置から柱穴と考える。カマドは西壁中央の石組粘土カマドで、火床部もよく被熱し、残存状態も良好である。また煙道も一部残存する。床面は茶褐色粘質土であまり硬くない。一部に土色の違いがあるが、地山の違いのようである。壁はよく残存しほぼ垂直に立ち上がる。その他の施設としては南壁の一部に周溝がある。遺物はそれほど多くなく、カマド周辺から須恵器杯、土師器甕・小型甕がみられる。本址の時期は、遺物から判断して古代2～4期・8世紀の奈良時代に属すると考える。

#### 第98号住居址（第10図）

C地区西部で検出した。北側の大半は調査区外にかかる。他遺構との切り合い関係は37土、P81、P82を切る。ピットは2個確認され、そのうちP1からは柱痕が確認され、主柱穴とみられる。カマドは西壁中央と思われる位置で確認されたもので、石組粘土カマドとみられるが、軸石は削平されているため残存しない。床面は暗茶褐色砂質土で硬く、一部に炭化物範囲がある。壁も削平されたのみとみられ、ほとんど残存しないがほぼ垂直に立ち上がる。本址からの遺物は少なく、土師器杯、甕等が若干出土しており、また黒色土器や灰釉陶器も含まれることから、上面に新しい遺構が存在した可能性もある。本址の時期は、遺物などから判断して、古代1～2期・7世紀後半の古墳時代後期～奈良時代に属すると考える。

#### 第99号住居址（第10図）

C地区東部で検出した。他遺構との切り合い関係は100住を切り、22土、40土の他、P95などいくつかのピットに切られる。ピットは7個確認され、その位置からP1、P3、P4が主柱穴と考えられる。カマドは西壁中央で確認した石組粘土カマドで、火床部はよく被熱している。煙道は上面が削平されたため残存しない。床面は暗茶褐色砂質土でやや硬い。壁はよく残存し、ほぼ垂直に立ち上がる。遺物は土師器杯などの食膳具、煮炊具では土師器甕が出土している。本址の時期は、遺物などから判断して古代1～3期・7世紀末～8世紀初頭の古墳時代末～奈良時代初頭と考える。

#### 第100号住居址（第10図）

C地区東部で検出した。他遺構との切り合い関係は99住に切られる。床面は暗茶褐色粘質土でやや硬い。ピット、カマドは確認できない。遺物は滑石製紡錘車が1点出土した以外はほとんどみられない。本址の時期は、遺物が少ないため判然としないが、古墳時代後期に属すると考えられる。

#### 第101号住居址（第11図）

C地区東部で検出した。北側の一部が調査区外にかかる。他遺構との切り合い関係は、44土等の土坑に切られる。ピットは10個検出したがいずれも柱穴と判断できない。カマドは東壁南隅で確認した石組粘土カマドで、火床部、煙道ともよく残存する。床面は黄褐色砂質土で硬い。壁はほとんど残存せず、立ち上がりは明瞭ではない。遺物は少なく、土師器壺片等がわずかに出土している。本址の時期は、遺物等から判断して、古代1～2期・7世紀末～8世紀初めにかけての古墳時代後期～奈良時代前期に属すると考える。

#### 第102号住居址（第11図）

C地区東部で検出した。北側の一部が調査区外にかかる。他遺構との切り合い関係はない。ピットは5個確認したがいずれも柱穴と判断できない。カマドは西壁北寄りとみられる石組粘土カマドで、火床部、煙道ともよく残存する。床面は黄褐色砂質土で硬い。壁はほとんど残存せず、立ち上がりは明瞭ではない。東側は壁の確認ができず、床面範囲から判断した。遺物はカマドを中心に土師器壺・小型壺といった煮炊具が多く出土している。食膳具は須恵器杯がみられるが少ない。本址の時期は、遺物から判断して、古代1～3期・7世紀後半の古墳時代後期～奈良時代前期に属すると考える。

#### 第103号住居址（第11図）

C地区南部で検出した。他遺構との切り合い関係はP84に切られる。ピットは1個確認し、その位置から柱穴と考える。カマドは西壁北寄りで確認した石組粘土カマドで、火床部はよく残存し、煙道も一部残存する。床面は茶褐色粘質土で硬い。壁はよく残存し、ほぼ垂直に立ち上がる。遺物は小破片が多く、固化したものは須恵器高杯、灰釉陶器碗1点ずつのみである。本址の時期は、遺物から判断して古代11～15期・11世紀代の平安時代後期に属すると考えられる。また、本址の四隅外側にある4個のピット（P54、P121、P134、P165）も関連があるとみられる。

#### 第104号住居址（第10図）

C地区南部で検出した。南側の一部は調査区外にかかる。他遺構との切り合い関係は105住を切り、P118、119に切られる。ピットは2個確認したが、いずれも柱穴と判断しがたい。カマドは確認されない。床面は礫混じりの暗茶褐色で硬い。壁はよく残存し、ほぼ垂直に立ち上がる。遺物はあまり多くなく、土師器・須恵器高杯、土師器壺などが出土している。本址の時期は、遺物などから判断して7世紀末の古墳時代後期に属すると考えるが、羽釜もみられることから、上面に10世紀代の遺構が存在していた可能性もある。

#### 第105号住居址（第10図）

C地区南部で検出した。南側の一部は調査区外にかかる。他遺構との切り合い関係は104住、P48、138、140に切られる。ピットは6個確認され、その位置からP<sub>1</sub>、P<sub>2</sub>、P<sub>3</sub>が主柱穴と考えられる。P<sub>5</sub>は貯蔵穴とみられ、遺物が出土している。カマドは確認できない。床面は茶褐色粘質土でやや硬い。壁はよく残存し、ほぼ垂直に立ち上がる。遺物はそれほど多くないが、須恵器杯・高杯・鉢、土師器壺等が出土している。本址の時期は、遺物から判断して7世紀末の古墳時代後期に属すると考えられる。

#### 第106号住居址（第11図）

C地区東部で検出した。東側の一部が調査区外にかかる。他遺構との切り合い関係は97住、流路2、及びP11など数個のピットに切られる。ピットは1個確認した。カマドは確認できない。床面は黄褐色砂質土で硬い。壁はあまり残存せず、立ち上がりもやや緩やかである。遺物は少なく、土師器高杯等、若干の遺物がみられた。本址の時期は、遺物から判断して古墳時代後期に属すると考える。なお、本址中央部床面よりやや高い部分において焼土範囲1を確認しているが、本址検出時において、黒色土器Bの碗片なども出土していること

と合わせて、上面にそれらを伴う11世紀代の遺構が存在していた可能性がある。

#### 第107号住居址（第11回）

C地区南東部で検出した。南東側の一部は調査区外にかかる。他遺構との切り合い関係は108住に切られる。ピットは2個確認したがいずれも柱穴と判断できない。カマドは確認できない。床面は茶褐色粘質土でやや硬い。壁はよく残存し、垂直に立ち上がる。遺物はそれほど多くないが、須恵器杯・高杯・鉢、土師器小型甕等が出土している。本址の時期は、遺物などから判断して古代1～2期・7世紀末～8世紀初めの古墳時代後期～奈良時代前期に属すると考える。

#### 第108号住居址（第11回）

C地区南東部で検出した。南側の一部は調査区外にかかる。他遺構との切り合い関係は107住を切る。ピットは3個確認したがいずれも柱穴と判断できない。P<sub>2</sub>の周所から焼土範囲が確認されているが、用途は不明である。カマドは確認できない。床面は茶褐色粘質土でやや硬い。壁はよく残存し垂直に立ち上がる。遺物は土師器甕など若干出土がみられる、図化し得るものは須恵器杯1点のみである。本址の時期は、遺物から判断して古代1～2期・7世紀末～8世紀初頭の古墳時代後期～奈良時代前期に属すると考える。

#### 第109号住居址（第11回）

C地区北部で検出した。他遺構との切り合い関係は、101住、33土等の土坑・ピットに切られる。ピットは3個確認したがいずれも柱穴と判断できない。カマドは確認できない。床面は黄褐色砂質土で硬い。壁はよく残存し、ほぼ垂直に立ち上がる。遺物は非常に少なく土師器破片等若干出土したのみである。本址の時期は、遺物から判断して古代1～2期・7世紀末～8世紀初めにかけての古墳時代後期～奈良時代前期に属すると考える。なお、本址中央部の床面よりやや高い部分において焼土範囲5を確認しているが、本址に伴うものではなく、上面にそれを伴う遺構が存在したと考える。

#### 第110号住居址（第12回）

C地区西部で検出した。他遺構との切り合い関係はない。ピットは3個確認したが、いずれも柱穴と判断できない。カマドは西壁北隅にある石組粘土カマドであるが、袖はあまり残存しない。火床面はよく被熱しているが煙道は残存しない。床面は黄褐色粘質土で硬い。壁はあまり残存せず、やや緩やかに立ち上がる。遺物は比較的多く、土師器杯・盤といった食器、土師器甕・甑等煮炊具、須恵器甕などの貯蔵具がみられた。本址の時期は、遺物から判断して古代15期・11世紀末の平安時代後期に属すると考えるが、古墳時代の遺物も含まれているため、そうした時期の遺構を切っていた可能性もある。

#### 第111号住居址（第12回）

C地区西部で検出した。他遺構との切り合い関係はない。ピットは1個で、カマド脇の貯蔵穴とみられる。カマドは東壁北寄りの石組粘土カマドで、袖は残らないが袖の芯石は残存する。火床部はよく被熱するが、煙道は削平され残存しない。床面は黄褐色粘質土で硬い。壁は部分的に残存し、ほぼ垂直に立ち上がる。遺物は多く、土師器杯・碗等の食器、煮炊具では羽釜がみられた。貯蔵具は須恵器甕があるが、混入品であろう。本址の時期は、遺物から判断して古代14～15期・11世紀末の平安時代後期に属すると考える。

#### 第112号住居址（第12回）

C地区西部で検出した。北西の一部が調査区外にかかる。他遺構との切り合い関係は、P155等のピットに切られる。ピットは2個確認した。そのうちP<sub>1</sub>は貯蔵穴とみられ、遺物を出土する。P<sub>2</sub>は柱穴とみられる。カマドは西壁中央とみられる石組粘土カマドで、袖もよく残存する。火床面もよく被熱し、煙道も残存する。床面は黄褐色粘質土で非常に硬い。壁はよく残存し、垂直に立ち上がる。遺物は土師器甕、棒状の土製品がみられた。本址の時期は、遺物から判断して7世紀後半の古墳時代後期に属すると考える。

#### 第113号住居址（第12回）

C地区西部で検出した。他遺構との切り合い関係は、P77等のピットに切られる。ピットは7個確認され、そのうちP<sub>2</sub>、P<sub>4</sub>は柱穴の可能性もある。カマドは東壁北隅で確認した石組粘土カマドで、袖はほとんどないが

袖石は残存する。火床部はよく被熱し、煙道も一部残存する。床面は茶褐色粘質土で硬い。一部で焼土範囲、炭化材が確認されているため、焼失した住居址である可能性もある。壁はカマド周辺以外ではあまり残存せず、ほぼ垂直に立ち上がる。遺物は比較的多く、土師器杯・盤等の食膳具、貯蔵具では灰釉陶器短頸壺がある。本址の時期は、遺物から判断して古代13期・11世紀中頃の平安時代後期に属すると考える。

## 2 土坑（第13・14図、第3表）

今回の調査では62基の土坑を検出した。用途、時期の判明できるものは少ないが、いくつかからは遺物の出土もみられる。ここでは遺物を伴うもの、時期・用途について考えうるもの数基について述べていく。

### 第4号土坑

A地区北西の北東部で検出した。81住の掘り下げ中に確認したもので、81住を貼る。覆土中に焼土及び炭化物を含んでいるが、出土遺物はみられない。用途についても不明であるが、81住の検出中、その上面で住居址の床面状の硬化範囲を確認しており、それが上面の住居址だとすれば、そのカマドなどである可能性もあるが、遺物を伴わないため、81住より新しい時代の遺構であるとしきれない。

### 第17号土坑

A地区北東、台状地形構造確認のためのトレンチ15掘り下げ中に確認した。覆土は台状地形下層の暗褐色粘質土である。遺物としては白磁碗片が1点出土している。本址の時期については、後述する台状地形1の遺物と合わせて判断すると、古代末～中世になると考えられ、この周囲の14、15、16土も同様と考える。

### 第44号土坑（第14図）

C地区東部で検出した。101住の掘り下げ中に確認したもので、101住を貼る。全体的に焼土を含んでおり、底も被熱している。用途については不明であるが、覆土中の焼土や袖石とみられる隙もあることから、住居址のカマドであった可能性がある。後述の焼土範囲と同様、上面に遺構が存在したが、開田などにより削平されてしまったと考える。本址の時期は101住より新しい、奈良時代以降の遺構であると考える。

### 第60号土坑（第14図）

D地区北部で検出した。瓦・遺物を包含する暗灰色粘土を除去して表れた黄褐色砂質土の地山を掘り込み、他遺構との切り合い関係は62土を切る。覆土は小礫を含む暗褐色土で、遺物として須恵器杯の他、瓦も含まれる。本址の用途は明らかではない。時期については、遺物を包含する上層が後述する中世以前とみられる台状遺構からの続きであり、その堆積する以前であるため、詳細は不明ながら古代に属すると考える。

### 第62号土坑（第14図）

D地区東部で検出した。60土と同様、黄褐色砂質土の地山を掘り込む。60土に切られる。覆土は暗褐色土で、遺物として瓦を出土している。本址も、その用途を明らかにすることはできないが、60土と同様、時期については古代に属すると考える。

### 第63号土坑（第14図）

E地区南部で検出した。瓦・遺物を包含する暗灰色粘土は、E地区全体にも分布がみられ、本址もそれを除去したトレンチ内から確認された。砂礫混じりの灰色土に掘り込まれ、他遺構との切り合い関係はない。本址は柱穴であったとみられ、粘土により腐食を免れた木質が中心部に残存する。底部の扁平な礫は礎板とみられる。建物址を構成するものとみられるが、時間的制約から周辺の確認調査をしておらず、不明である。本址の時期は、中世以前と考えられる上層が堆積する以前であるため、詳細な時期は不明であるが古代に属すると考える。

## 3 ピット

今回の調査では155個のピットを検出した。いずれもC地区から検出されている。これらのピットは大きくは二つに分けられる。一つは住居址など遺構の上面から掘り込まれている、第6図において第1検出面として

扱ったもので、これらは中世に属すると考えられ、灰褐色土を覆土とするものと、もう一つは住居址などと同一面からの掘り込みとみられるものである。前者は規模も径20cm前後のものが大半で、これらは柱穴とみられることから中世の建物址等に伴うものと考えられるが、その構成については明瞭に捉えうるものはみられず不明である。P54、P121、P134、P165は、103住の四隅にあたることから、その関連が考えられる。後者は覆土が暗茶褐色を基調とするもので、規模もそれぞれ異なるため、用途などについては明らかにできない。また、遺物を含むものもあるがP26の黒雲母片岩製垂飾状石製品以外はいずれも土師器などの小片であり、時期等を判断することはできない。

#### 4 竪穴状遺構 (第15図)

C地区東部で検出した第1号竪穴状遺構のみである。黄褐色砂質土の地山を掘り込み、床面は平坦で硬い。内部にはピット等の施設はみられない。壁はよく残存し、垂直に立ち上がる。遺物は少ないが、内耳鍋片がみられるため、本址の時期は中世2期・室町時代に属すると考える。用途については不明である。

#### 5 集石遺構 (第15図、第7表)

A地区で6ヶ所、D地区で9ヶ所検出した。A地区のものは大規模流路址2の覆土である黄褐色砂質土を掘り込み、径5～20cmの礫がみられる。これらはいずれも、大六川が現在の流路に変わってから以降に作られたものである。D地区のものは茶褐色土の地山を掘り込み、径5～20cmの礫がみられる。周囲及び内部から瓦が多く出土するため、大形建物に関連すると考えられるものもある。

##### 集石1 (第15図)

D地区中央部で検出した。平面形は方形に近い不整形で、上面に5～30cm大の礫がある。トレンチ調査により、茶褐色土の地山に浅い皿形に掘り込まれるのが確認された。出土遺物は瓦の他、須恵器杯等が若干みられる。本址の用途は明確ではないが、形状から大形建物の基礎であった可能性がある。時期については古代に属すると考えるが、詳細については不明である。

##### 集石2 (第15図)

D地区南部で検出した。平面形は円形で、上面に5～30cm大の礫がある。本址は、盛り土保存がされるため、トレンチ掘り下げは行っていない。遺物は、周囲を含めて多くの瓦片がみられるが、特殊遺物として鴟尾の一部(D001)が出土している。本址の用途は明確ではないが、形状から大形建物の基礎であった可能性がある。時期については、瓦などの遺物から古代とみられるが、詳細な時期は不明である。

##### 集石3 (第15図)

D地区北東部で検出した。平面形は楕円形で、上面に5～30cm大の礫がある。トレンチ調査を行ったが、掘り方などの確認はできなかった。出土遺物は、周囲を含めて多量の瓦の他、須恵器杯等がみられる。本址の用途は明確ではないが、形状から大形建物の基礎であった可能性がある。時期については、遺物から判断して古代3～4期、8世紀の奈良時代に属すると考える。

##### 集石4 (第15図)

D地区北部で検出した。北側の一部はE地区の台状地形2の下部に入るため、調査区外である。平面形は不整形で、上面に5～30cm大の礫がある。トレンチ調査を行ったが、掘り方等の確認はできなかった。出土遺物は周囲を含めて多量の瓦がみられる。本址の用途は明確ではないが、形状から大形建物の基礎であった可能性がある。時期については、遺物から判断して、詳細な時期は不明ながら古代とみられる。

##### 集石5・6・8 (第15図)

集石5・8はD地区北部、6は北東部で検出した。平面形は円形或いは不整形で、上面に5～20cm大の礫がみられる。掘り方の確認はしていない。遺物は周囲を含めて多くの瓦がみられる。これらはその周囲の地山にも礫が多く含まれていることから、遺構というよりは地山の、礫の多い部分であるという可能性もある。

#### 集石7 (第15図)

D地区中央部で検出した。平面形は円形で、上面に5~30cm大の礫がある。トレンチ調査により、茶褐色土の地山に浅い皿形に掘り込まれるのが確認された。遺物は、周囲を含めて多量の瓦がみられ、特殊遺物として鴟尾の一部(D826)がみられる。本址の用途は明確ではないが、形状から大形建物の基礎であった可能性がある。時期については、遺物から判断して古代に属すると考えるが、詳細については不明である。

#### 集石9 (第15図)

D地区北東部で検出した。平面形は不整形である。トレンチ調査を行ったが、掘り方等の確認はできなかった。出土遺物は多量の瓦の他須恵器杯・甕の小片が若干みられる。本址の用途は明確ではないが、形状から大形建物の基礎であった可能性がある。時期については詳細な時期は不明ながら古代に属すると考える。

#### 集石10~14 (第15図)

A地区北西の西部で検出した。平面形は楕円形、不整形などである。いずれも大規模流路1の黄褐色砂質土を掘り込む。当初は遺構と考えなかったが、大規模流路1の覆土中は砂質土で、少なくとも上面では礫はみられないため、不自然なこれらの集石は人工的なものとする。これらからの出土遺物はほとんどないため時期については不明であり、いずれも大六川の流路変更以降のものであるが、古代以降としかいえない。

#### 集石15 (第15図)

A地区北西の西部で検出した。集石10~14と同様、いずれも大規模流路1の黄褐色砂質土を掘り込む。礎石立ち建物の礎石下グリ石状を呈するが、組み合わせとなる遺構が検出されないため、用途については不明である。本址からの出土遺物はみられず、時期については不明であり、いずれも大六川の流路変更以降のものであるが、古代以降としかいえない。

### 6 石列 (第16~18図、第4表)

#### 石列1 (第16図)

A地区北東の東部において、83住の床面精査中に確認しており、他遺構との切り合い関係は83住に切られる。確認された長さは884cmで、部分的に蓋石のある水路状を呈するが、83住の掘り込みにより一部破壊されている。北側の端は溝状となり、一つピットが掘り込まれる。南端は列が疎となり、石列の体をなさない。方向はN-2°-Wを示す。水路の内側幅は概ね25cm前後で、両側の石は屹立している。石組自体の掘り方は確認できなかったが、部分的に両側一列ではなく、外側にも裏込め的な石もみられる。底部は茶褐色粘質土で硬い。本址の掘り込まれた暗黄褐色砂質土面は、83住などの掘り込まれた暗灰褐色粘質土層を取り除いて確認された面である。用途については、当初後世の暗渠の可能性を考えたが、上面からの掘り込みはみられず、また83住に貼られるため、少なくとも中世以前の遺構であり、形状から水路と考えるのが妥当であろう。遺物としては土師器・須恵器杯がみられた。時期については、遺物及び土層から判断して古代に属すると考えるが、詳細については不明である。

#### 石列2 (第16図)

A地区北西の西部で検出した。第1号大規模流路址の東側、2条ある大規模流路址の中間部分の、鉄分の沈澱する硬化面の縁に沿って確認された。確認された長さはおよそ1160cmであるが、埋没している部分もあるため、全長は不明である。A地区北西トレンチ1の断面観察によれば、断面形は三角形を呈し、検出面に露出している部分はその頂部とみられる。基部の両側とも砂礫層である。本址は大六川流路の護岸的な役割をしているようにもみえるが、近世における大町市常盤の乳川石堤(江戸時代後期1817年)のような緻密な積み方ではなく、また平田本郷遺跡第3次調査において確認された護岸状遺構とは構造も異なるため、その用途については不明である。本址の時期は、大六川の旧流路が流れていた時期のものと考えられるが、遺物を伴わないため、平安時代以降であるとしかいえない。また、明らかな人工物(遺構)であるという確証もない。

### 石列3 (第17図)

E地区中央で検出した。当初はほぼ東西方向(N-75°-E)を指向し、検出した礫も人頭大以上のものも多いことから、寺院などに関連する遺構である可能性を考えた。平面形はL字型で、確認された規模は、東西方向に幅110~190cmで長さ2300cmであり、調査区東端で北に折れ、幅230~290cmで長さ880cmを測り、北端部でさらに広がるようであるが、調査範囲の関係上それ以上の確認はできない。使用されている礫は川原石で、大きさも10cm~人頭大とばらつきがある。並び方については法則性がなく不規則であるが、上面の標高は633.72m~633.85mでほぼ一定している。本址の両側(南北)は、暗灰色粘土が堆積しており、その下面が茶褐色砂礫層である。西端部分では、その砂礫層と本址はほぼ同一面で検出されているが、東に向かって下面の砂礫層は下がっていき、その上面の粘土の堆積は厚くなるため、本址の中央付近では完全に下面の砂礫層と垂離している。粘土中に浮いた体を示していることから、本址はこの粘土堆積後に造られたようである。トレンチの断面によっても掘り込みはみられず、粘土上面に載せただけという感を受ける。遺物は、礫間から出土したものは土師器・須恵器杯等が若干のみである。用途については湿地帯の土留めとも考えられるが不明である。時期については遺物から判断できず不明であるが、南側の粘土層がE区南端部において後述する台状地形2の黒褐色粘質土の上面にあたることから、詳細は不明ながら中世以降と考える。

### 石列4 (第18図)

A地区南東で検出した。北側の一部は擾乱を受ける。当初は後述する台状地形2の一部であると考えたが、それを切る弧状の溝状遺構(第4号溝址)両側の集石であることが判った。溝の幅は40~80cmで、石組の水路とみられる。右岸(西側)には50cm大の石が一段列で屹立し、その裏込め状を呈する形で幅140~180cmの石列がある。底部は石ではないが黒褐色粘質土で硬い。左岸(東側)は、右岸のような明瞭な石組ではなく、底面の黒褐色粘質土がそのまま壁となっており、その上に石列の礫が載った形となっている。溝の覆土は灰色砂層である。本址からの出土遺物はほとんどなく、若干の近世陶磁器片、瓦片がみられた他は、礫に混じって数点の布目瓦がみられたに留まる。時期については、遺物から判断して近世に下ると考える。また用途については、形状通り水路であると考えられる。このすぐ東に現況水路が存在することから、その古い段階のもので、水路を造る際に使われた礫であると考えられる。

### 石列5 (第18図)

A地区南東の北部で検出した。石列4西側の黒色粘質土上面で、石列4に切られる形で確認された。確認された長さは364cmで、幅は概ね100cm前後である。本址からの遺物の出土はみられない。用途・時期については不明であるが、E地区で確認した石列3の延長上にあり、また上面標高も633.65mと、石列3とほぼ同様であるため、同一のものである可能性がある。

## 7 焼土範囲

C地区において、住居址などに伴わない焼土の広がりを9ヶ所確認し、またこの他にも、焼土の散布している範囲が確認されている。これらの存在については二つの理由が考えられる。検出が非常に困難なため、遺構覆土中の焼土を確認した可能性と、中世以降に削平されたことにより、上面に存在した住居址などの遺構の焼土が残存した可能性が挙げられる。今回焼土範囲としたものは、7を除いていずれも内部に遺物を伴っており、カマドの火床面のみが残存したものとみられ、後者にあたると思われる。散見された焼土のある部分については前者、つまり住居址などの遺構が存在した可能性はあるが、その確認には至っていない。焼土範囲7からは内耳鍋片がみられ、中世の遺構に伴うものであるとみられる。

## 8 台状地形(第19図、第8表)

2ヶ所確認している。いずれも黒色土を硬く締めているが版築はみられない。一段高い台地状の地形であるが上面に礎石等がみられないため、名称を台状地形とした。2は、形状不明なため図化していない。



### 台状地形1 (第19図)

A地区北東の東部で検出した。重機により水田耕作土及び基盤土を除去した段階で、約7m四方の方形の黒色土硬化面範囲を確認した。またその上面から10cm～人頭大の礫がみられた。上層の土を取り除いて確認された本址の範囲は、上端で東西800～900cm、南北800～850cm、下端で東西1,000～1,100cm、南北1,100cmであり、平面形は方形の台状を呈する。上面はほぼ平坦であるが、水田開田により削平された可能性がある。上面の礫に、礎石等と考えられるものはない。比高は西側で約15～20cm、東側及び南側は10～15cm、北側は不明であるが5cm前後を測る。周囲から瓦が多く出土するため、寺院の基壇跡である可能性を考えた。構造確認のため東西方向、南北方向にトレンチを入れたところ、黒色粘質土内には若干の土質の差はあるものの、版築としての土層はみられない。南北方向のトレンチ16の下面からは数基の土坑を検出しており、本址はそれらを貼って造られたとみられる。黒色粘質土中の出土遺物は非常に少なく、土師器甕、須恵器杯等の小片がみられたにとどまるが、上面からは12世紀代の渥美産蓮弁文壺がみられた。本址の時期は遺物から判断して、詳細時期不明な中世と考えるのが自然である。用途については、形状は基壇状であるが版築がみられず、また礎石等も残存せず上面構造が明らかではないことから不明である。ただし、蓮弁文壺の存在から、仏教に関わる施設である可能性はある。

### 台状地形2

E地区南西部で検出した。南側はD地区との境で、水田の土手築造に伴って一部削られている。西側はA地区南東に続いているようであり、端部は不明である。上面はA地区南東において近世及び近代の水路により一部破壊されている。本址も、台状地形1と同様、上層の耕作土及び基盤土を除去したところ確認された硬化面で、上面に10～30cm大の礫がみられた。平面形は南側が水田法面として削られているため不明である。寺院の基壇跡等の可能性を考えて東西方向、南北方向にトレンチを入れたところ、黒色粘質土内には若干の土質の差はあるものの、いわゆる版築としての土層はみられない。出土遺物は瓦片、土師器甕小片等がみられるが量は少ない。本址の性格は、基壇の可能性はあるが、版築を施していないことと、平面形及び上面の構造が明らかでなく、礎石等も残存しないことから判然としない。時期については、上面から中世の青磁碗片が出土していること等から、台状地形1と同様、詳細な時期は不明ながら中世に属すると考える。

## 9 凹地状遺構 (第16図)

A地区北東の東部で検出した。他遺構との関係は台状地形1の下層にあたる。当初は前述の台状地形の下層を確認するため一部を掘り下げたところ、台状地形の黒色土下より、瓦を含む礫集中範囲が確認された。この礫集中範囲は雑然としていることから、これらの礫は投げ込み等と考えられる。当初は住居址と考えたが、礫を取り除いた形状が段を持つ幅広い溝状を呈する凹地であることから凹地状遺構1とした。用途については不明である。出土遺物は瓦類の他、土師器杯、須恵器杯・蓋、灰釉陶器皿がみられる。本址の時期は、遺物から判断して古代9期・10世紀前半の平安時代中期とみられるが、台状地形築造の時点で埋没したと考えられるため、台状地形1と同様、詳細な時期は不明ながら中世に属する可能性もある。

## 10 溝址・流路址 (第14図、第5・6表)

### 溝址 (第14図)

4条確認している。第1～3号溝址はいずれもE地区の、粘土層を取り除いた礫層上面での確認である。形状より溝と考えたが、トレンチ調査のみであるため断定はできない。3条並んだ形で、いずれも断面形は浅い皿形である。遺物は須恵器壺等若干の出土がみられた。時期については、粘土層の下であることと遺物から、詳細は不明ながら9世紀代以前の古代に属すると思われる。第4号溝址はA地区南東において確認された石組水路で、石列5、台状地形2を切る。出土遺物は近世陶磁器片、近世以降の瓦片がみられるため、近世に属するものと考えられる。A地区とD・E地区の間を流れる現況水路にはほぼ並行していることから、その古い段階のもの

のである可能性がある。

#### 流路址 (第14図)

第1号流路址はA地区北西、次述の大規模流路址1上面で確認した。断面形は浅い皿形である。大規模流路址1埋没後の一時的な流路址のようであるが詳細な時期は不明である。第2号流路址はC地区東壁の断面のみで確認した。調査区東側に現況水路(山田川)があることから、その旧流路と考えられるが平面的な確認はできない。遺物としては砥石等がみられるが時期についてそれらから判断することは難しい。第3号流路址はD地区中央部で検出したもので、ごく浅いものであることから、流路というより北側湿地帯からのオーバーフローとみられる。遺物として瓦が多量に出土する。時期については古代以降であるとしかたない。

#### 大規模流路址 (第4図)

A地区北西部の大半を占める形で確認された。基本的には一つの河川址と考えられるが、中州状部分を挟み大きく2条に分かれることから、西側のものを大規模流路址1、東側のものを大規模流路址2とした。覆土は基本的に黄褐色砂質土で、底部は礫層である。西側の大規模流路址1は、開発区域西側を流れる大六川の旧流路とみられ、上面にみられる集石遺構の存在から近世以前であると考ええる。右岸からは77住、92住などの住居址が確認され、現在の大村集落北側の台地と繋がっていたようである。左岸に鉄分の沈澱する硬い面があり、その範囲からは土師器・須恵器の他円面硯片もみられたが、遺構の存在は確認できない。しかしこの硬い面の縁に前述の石列2があることから、何らかの生活痕跡があった可能性はある。東側の大規模流路址2も、基本的には大六川の旧流路であると考えられるが、右岸にあたる硬い面との関係が不明瞭な点など、不明な部分も多い。左岸からは81住、82住など多くの住居址が検出されているが、89住のように、この流路によって破壊・埋没した住居址もあり、また遺物として須恵器杯・甕等がみられることから、時期的には11世紀後半の平安時代後期以降に形成されたものと考えられる。

第2表 住居址一覧表

( ) : 推定、〈 〉 : 残存

住居No	地区	平面形	屋 幅		主軸方向	カマド		ピット	時 期	備 考	
			長軸×短軸×高さ (cm)	床面積 (㎡)		位置	種類				
78	A北西	方形か	〈434〉×〈425〉×32	〈8.04〉	N・65°・E	東壁 北寄	石組 粘土	7	7C後 古墳後	大塚横流路1・92・87住に切られる	
79	A北東	—	—	—	—	—	—	—	10C後～11C前 平安後	遺物の存在から想定するが不明	
80	A北東	—	—	—	—	—	—	—	9C後 平安前	遺物の存在から想定するが不明	
81	A北西	方形	508×496×20	19.91	N・89°・W	西壁 中央	石組 粘土	15	9C後 平安前	4土に貼られる。中央部層黒により破壊。東側一部残存。周溝有。	
82	A北西	方形	452×424×12	〈17.49〉	N・3°・W	不明	—	—	9C後	96住・6土に切られる。	
83	A北東	方形	328×300×21	8.25	N・84°・E	東壁 南寄	—	—	11C後 平安後	石列を切る。東壁南寄の突出部がカマドの可能性有するが不明	
84	A北西	方形	〈484〉×456×26	〈16.74〉	N・91°・W	西壁 南寄	石組 粘土	—	9C後 平安前	北側埋込、中央部埋込により破壊	
85	A北東	方形	500×432×34	17.63	N・94°・W	西壁 中央	石組 粘土	4	9C 平安前	2時期の遺物の存在から切り合い関係あるとみられるが不明	
86	B	不明	〈146〉×〈82〉×9	〈0.54〉	不明	不明	不明	1	不明・8C以前	91住に切られる。南側調査区外	
87	A北西	方形か	248×〈176〉×27	〈3.33〉	N・25°・W	不明	不明	—	10	9C後 平安前	92住に切られる。西側調査区外
88	A北東	—	—	—	—	—	—	—	—	10C以降 平安中期以降	遺物の存在から想定するが不明
89	A北西	不明	不明	—	不明	不明	不明	—	—	11C後 平安後	大塚横流路2に切られる。トレンチにより壁、床面の一部を埋込
90	A北東	—	—	—	—	—	—	—	—	10C前 平安中	遺物の存在から想定するが不明
91	B	方形	526×504×57	21.17	N・100°・W	西壁 中央	石組 粘土	11	8C 奈良	86住を切る。93住・57・58・59土に切られる。炭 灰土敷有	
92	A北西	方形か	296×〈248〉×20	〈5.93〉	N・107°・W	西壁 中央	不明	8	8C後 平安前	87住を切る	
93	B	方形か	440×〈280〉×25	〈7.19〉	N・92°・E	東壁 中央	石組 粘土	2	9C 平安前	91住を切る。南側調査区外	
94	A北東	—	—	—	—	—	—	—	—	不明・平安	遺物の存在から想定するが不明
95	A北西	—	—	—	N・20°・E	不明	不明	1	9C後 平安前	81・84住に切られる。北側、中央部埋込を受ける	
96	A北西	方形か	400×〈424〉×19	〈11.78〉	N・122°・W	西壁 中央	石組 粘土	—	9C後 平安前	82住を切る。5・6土に切られる。北側埋込を受ける	
97	C	方形か	〈46〉×〈340〉×30	〈12.34〉	N・89°・W	西壁 中央	石組 粘土	—	8C 奈良	P1に切られる。北側調査区外	
98	C	方形か	〈524〉×〈360〉×12	〈8.3〉	N・117°・W	西壁 中央	石組 粘土	—	7C後 古墳後～奈良	37土・P81・82を切る。北側調査区外	
99	C	方形	530×506×25	22.03	N・91°・W	西壁 中央	石組 粘土	—	7C後～8C前 古墳後～奈良	100住を切る。22・40土・P12・33・34・35・ 90・91・95・109・111に切られる	
100	C	不明 方形か	〈270〉×〈124〉×19	〈1.46〉	N・26°・W	不明	不明	—	7C・古墳後か	99住・P10・111に切られる	
101	C	方形か	512×〈372〉×9	〈14.85〉	N・92°・E	東壁 南寄	石組 粘土	10	7C後～8C前 古墳後～奈良	44・45・46・47・48土に切られる。北側調査区外	
102	C	方形か	〈372〉×〈368〉×4	〈12.12〉	N・89°・W	西壁 北寄	石組 粘土	5	7C後 古墳後	東側埋込不明。北側調査区外	
103	C	方形	290×284×17	5.94	N・95°・W	西壁 北寄	石組 粘土	1	11C 平安後	P84に切られる。外側にある4個のピットの周溝有 か	
104	C	方形か	〈332〉×〈314〉×25	〈8.93〉	N・10°・W	不明	不明	3	7C後 古墳後	105住を切る。P116・119に切られる。南側調査 区外	
105	C	方形か	〈530〉×〈390〉×18	〈15.24〉	N・12°・W	不明	不明	6	7C後 古墳後	104住・P47・138・140に貼られる。南側調査区 外	
106	C	長方形か	〈570〉×490×20	〈21.05〉	N・11°・W	不明	不明	1	7C後 古墳後	97住・P11・139に切られる。P136・137・18土1 に貼られる。東側調査区外	
107	C	方形か	〈322〉×〈264〉×40	〈6.65〉	N・1°・W	不明	不明	2	7C後～8C前 古墳後～奈良	108住に切られる。東側調査区外。	
108	C	方形か	312×〈176〉×29	〈4.54〉	N・2°・W	不明	不明	3	7C後～8C前 古墳後～奈良	107住を切る。床面に粘土範囲有。南側調査区外	
109	C	方形か	518×452×7	〈21.46〉	N・17°・W	不明	不明	3	7C後～8C前 古墳後～奈良	101住・32・33土・P68・69・71・97・98・148・ 150・157・焼土5に切られる	
110	C	長方形	406×338×16	11.71	N・62°・W	西壁 北隅	石組 粘土	3	11C末 平安後	—	
111	C	長方形	304×236×21	5.46	N・90°・E	東壁 北寄	石組 粘土	1	11C末 平安後	—	
112	C	方形	404×376×15	〈12.93〉	N・87°・W	西壁 中央	石組 粘土	2	7C後 古墳後	P112・113・114・115・143・145・146・147に切 られる。P153・154に貼られる	
113	C	方形	472×396×17	15.85	N・90°・E	東壁 北隅	石組 粘土	7	11C中 平安後	P77・123・124・125・126に切られる	

第3表 土抗一覧表

( ):推定、( ):残存

No	地区	図	平面形	規模		遺物	時期	備考
				長	幅×短幅×深さ(m)			
1	A北東		円形	25×22×12				粘土層下層で確認
2	A北東		円形	30×(12)×10				粘土層下層で確認
3	A北東	13	楕円形	70×50×23		土師器小片		
4	A北西		円形	(58)×(65)×17			中世か	81住を隔る溝に作うものか、底部に粘土層
5	A北西	13	円形	36×32×11		土師器杯、黒色土器杯	平安時代	R2住、96住、6土を切る
6	A北西	13	円形	110×102×7				R2住、96住を切る、5土に切られる
7	A北西	13	円形	36×34×20		土師器杯A		
8	A北西	13	円形	30×28×15		土師器杯D		
9	A北西	13	長円形	154×(60)×8		遺棄磁器、土師器小片		
10	A北東	13	楕円形	72×46×40				78住を切る、77住に切られる、内部にビット2個有
11	A北東	13	楕円形	84×(24)×26				粘土層下層で確認
12	A北東	13	円形	60×52×24				粘土層下層で確認
13	A北東		円形	82×(34)×22				粘土層下層で確認
14	A北東		円形	38×(18)×23			中世か	台状地形下層で確認
15	A北東		円形	26×26×12			中世か	台状地形下層で確認
16	A北東		円形	26×24×18			中世か	台状地形下層で確認
17	A北東		円形	27×(23)×18		白磁碗	中世か	台状地形下層で確認
18	C	13	円形	56×50×28		土師器壺	古墳～奈良時代	
19	C	13	円形	62×54×17				
20	C	13	楕円形	66×50×29		土師器小片		
21	C	13	円形	80×74×35		土師器小片		
22	C	14	円形	126×120×7		土師器小片など		99住を切る
23	C	13	楕円形	132×88×29		遺棄磁器片など		
24	C	13	円形	84×68×32		土師器壺		
25	C	13	円形	84×74×27			古墳～奈良時代	P24に切られる
26	C	13	円形	86×78×19		空白磁輪花車	中世	
27	C	13	楕円形	88×72×25		土師器壺片など	平安時代	
28	C	13	楕円形	128×70×21		土師器壺A片など	古墳～奈良時代	
29	C	13	円形	54×52×28				
30	C	13	円形	88×76×22				
31	C	13	円形	82×66×10		土師器小片		
32	C	13	円形	96×78×18		土師器鉢、灰釉陶碗	平安時代末か	109住を切る
33	C	13	楕円形	106×82×7				内部にビット2個有
34	C	13	円形	62×52×16				
35	C	13	円形	74×68×28				
36	C	13	円形	80×70×30		土師器杯・壺片	平安時代	
37	C	13	円形	(64)×64×22				98住を切る
38	C	13	方形	120×(96)×14				105住、P50、P51、P52に切られる
39	久喜							
40	C	13	長円形	76×46×14		土師器小片		99住を切る
41	C	14	楕円形	144×92×8		土師器壺		P18に切られる
42	C	13	円形	68×56×27		土師器杯・壺片	平安時代	
43	C	13	円形	76×66×14				P94を切る
44	C	14	円形	126×110×11				101住を切る
45	C	14	円形	56×48×10				101住を切る
46	C	14	小壘形	64×56×28				101住を切る
47	C	14	楕円形	58×36×26				101住を切る
48	C	14	円形	38×36×26		土師器小片		101住を切る
49	久喜							
50	C	14	円形	108×(60)×22				谷状地形縁部トレンチ内で確認
51	C	14	円形	45×(34)×23		土師器小片		グリップ下から確認
52	B	14	楕円形	224×132×17		土師器杯など	古墳～奈良時代か	
53	B	14	円形	30×26×35		土師器高杯	古墳～奈良時代か	
54	B	14	楕円形	98×42×38		土師器壺A	古墳～奈良時代か	
55	B	14	楕円形	82×50×51				
56	B	14	円形	36×32×25				
57	B	14	円形	30×26×14				91住を切る
58	B	14	円形	28×24×21				91住を切る
59	B	14	円形	24×22×11				91住を切る
60	D	14	長円形	140×72×19		瓦片、遺棄器杯片	平安時代か	62土に切られる
61	D	14	円形	78×74×32			平安時代か	
62	D	14	楕円形	75×60×45		瓦片	平安時代か	60土を切る
63	E	14	方形	86×(98)×34			平安時代か	粘土層の下、柱とみられる木質遺存体有
64	E	14	円形	36×30×21			平安時代か	粘土層の下、3土に切られる

第4表 石列一覧表

( ):残存

No	地区	図	起点 近似点	終点 近似点	断面形	規模(m) NS、EWは方向を指示			方向	時期	備考
						長さ	幅	深さ			
1	A北東	16	N13.6 E17.46	N20.4.8 E17.3.9	溝状	75.2	112	14 ~28	N-2°-W	古代か	墓石のある石垣水路(幅24cm)とみられる
2	A北西	16	N306.0 E96.6	N253.4 E85.6	三角形	<1312>	88 ~252	50	N-13°-W	不明 (古代以降)	
3	E	17	N303.4 E150.2	N308.0 E21.40	逆扇形	東西 (2216)	東西 126~188	32~55	東西 N-75°-E	中世か	調査区東端でほぼ真北に北に5列開けられる
			N308.0 E21.40	N314.6 E21.0.0	逆扇形	南北 (854)	南北 280~230		南北 N-11°-W		
4	A南東	18	N299.6 E186.4	N296.0 E189.2	溝状	<1680>	260 ~280	18~34	N-27°-E	近世か	水路跡とみられる溝(溝4)の両側である。
5	A南東	18	N278.3 E181.4	N298.3 E177.8	逆扇形	<362>	104	-	N-88°-E	中世か	右列3の延長上にあたるとみられるが不明。

第5表 溝址一覧表

( ): 推定、( ): 残存

No	検出地区	区	基点 近似的点	終点 近似的点	断面形	規模(cm)			時期	備考
						長さ	幅	深さ		
01	E	14	-	-	扇形	<600	45	10	不明 平安か	トレンチ確認のための金管不明
02	E	14	-	-	扇形	<600	45	11	不明 平安か	トレンチ確認のための金管不明
03	E	14	-	-	扇形	<600	45	10	不明 平安か	トレンチ確認のための金管不明
04	A東	18	N299.2 E196.6	N287.0 E186.6	方形	<1440	60	22~30	近世か	両側の石組を石列4とした

第6表 流路址一覧表

( ): 推定、( ): 残存

No	検出地区	区	基点 近似的点	終点 近似的点	断面形	規模(cm) NS、EWは方向を表す			時期	備考
						長さ	幅	深さ		
01	A北西		N310.4 E178.0	N306.0 E187.0	扇形	970	40	6~9	近世か	大規模流路址1上面
02	C		-	-	不明	-	-	-	不明 中世か	調査区域で断面により確認
03	D		N278.6 E197.0	N267.8 E198.4	浅い扇形	<1160	90~170	5	古代か	オーバーフローとみられる
大01	A北西		-	-	不明	-	1000 前後	-	不明	11C以降 大六川の旧流路か
大02	A北西		-	-	不明	-	2500 前後	-	不明	11C以降 大六川の旧流路か

第7表 集石遺構一覧表

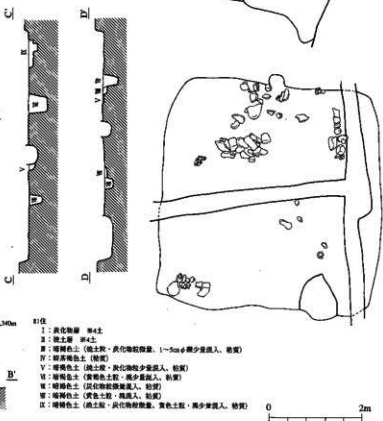
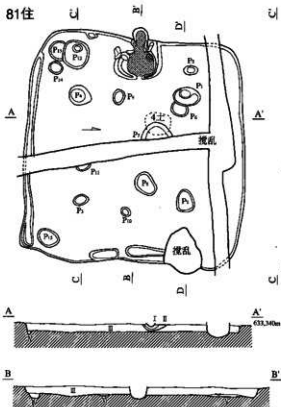
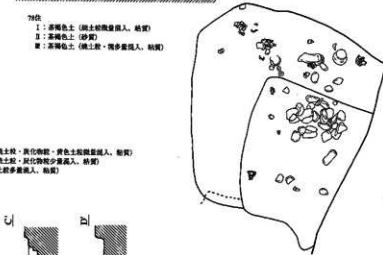
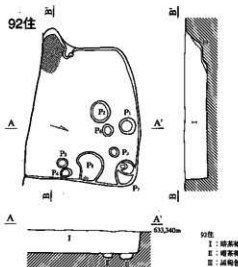
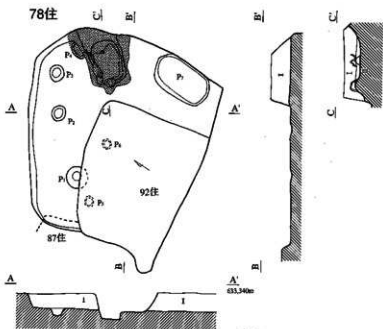
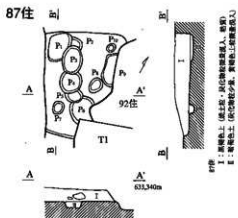
( ): 推定、( ): 残存

No	検出地区	区	平面形	断面形	規模(cm)			出土遺物	時期	備考	
					長軸	短軸	深さ				
01	D	15	不整形	扇形	152	130	26	周溝を含め瓦片多数 須恵器碎片 土師器碎片	平安か	建物基礎か	
02	D	15	円形	-	112	96	-	陶器 (D001) 周溝を含め瓦片多数	古代か	建物基礎か	
03	D	15	楕円形	-	120	95	-	周溝を含め瓦片多数 須恵器片、壺碎片	平安か	建物基礎か	
04	D	15	長円形	-	<200	124	-	周溝を含め瓦片多数	古代か	建物基礎か 北境調査区外 (未掘)	
05	D	15	円形	-	174	160	-	周溝を含め瓦片若干	古代か	地山礫の可能性	
06	D	15	不整形	-	80	64	-	周溝を含め瓦片若干	古代か	地山礫の可能性	
07	D	15	円形	扇形	160	152	16	陶器 (D036) 周溝を含め瓦片多数	古代か	建物基礎か	
08	D	15	不整形	-	244	156	-	周溝を含め瓦片若干	古代か	地山礫の可能性	
09	D	15	不整形	-	170	136	-	周溝を含め瓦片多数 須恵器片、壺片	平安か	建物基礎か	
10	A 北西	15	不整形	-	144	107	-	-	-	古代以降	
11	A 北西	15	不整形	-	100	62	-	-	-	古代以降	
12	A 北西	15	不整形	-	104	44	-	-	-	古代以降	
13	A 北西	15	不整形	-	110	104	-	-	-	古代以降	
14	A 北西	15	不整形	-	84	48	-	-	-	古代以降	
15	A 北西	15	楕円形	-	80	65	-	-	-	古代以降	建物基礎か

第8表 台状地形一覧表

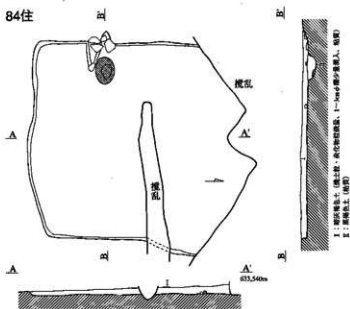
( ): 推定、( ): 残存

No	地区	区	規模(cm)						主軸方向 (南北)	備考
			上面主軸長 (平均)	上面幅 (平均)	下面主軸長 (平均)	下面幅 (平均)	比高 (平均)	比高 (最大)		
1	A 北東	19	825	850	1100	1050	13	20	N-0°	上面に人頭大礫あり、遺物として須恵器蓋片など 覆土中遺物: 瓦、土師器片、須恵器片、陶器片など 下層に凹地状遺構1、14、15、16、17土
2	E	-	340	<480	<700	<960	17	33	N-4°-W	上面に人頭大礫あり、遺物として青磁碎片など 覆土中遺物: 瓦、土師器片、須恵器片など

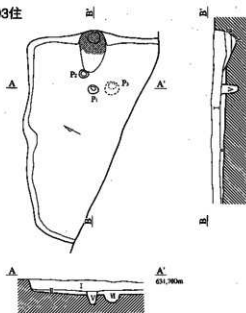


第7図 第78, 81, 87, 92号住居址

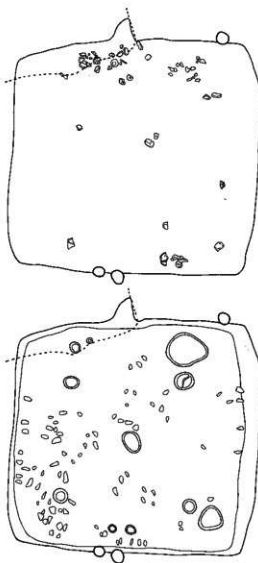
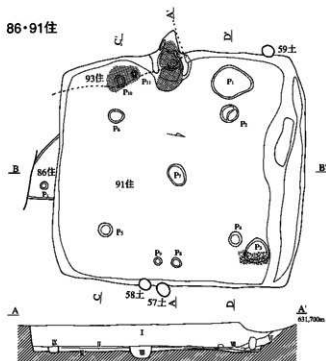
84住



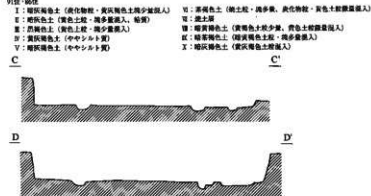
93住



86・91住



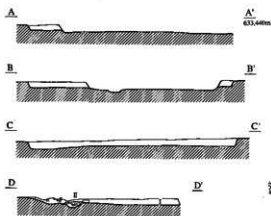
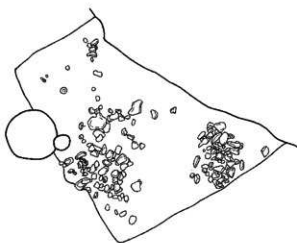
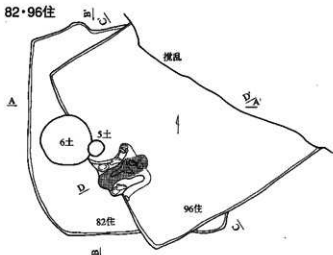
91住・86住



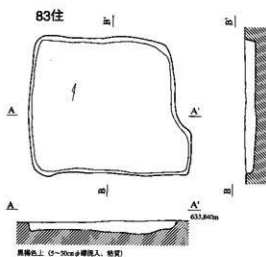
第8図 第84, 86, 91, 93号住居址

0 2m

82・96住

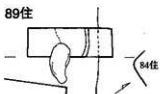


82住 1: 埋土層(土) (土) 土質、其中心部に少量の土、砂質  
2: 埋土層(土) (土) 土質、其中心部に少量の土、砂質  
3: 埋土層(土) (土) 土質、其中心部に少量の土、砂質  
4: 埋土層(土) (土) 土質、其中心部に少量の土、砂質



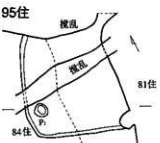
埋土層上 (0-30cm) 少量の土、砂質

89住



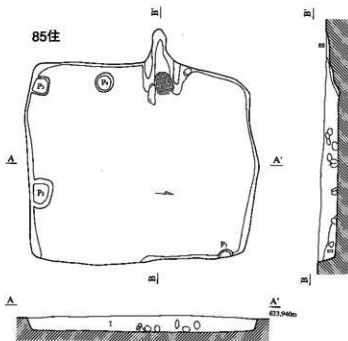
633.340m  
I: 埋土層(土) (砂質)  
II: 埋土層(土) (砂質) #96住  
III: 埋土層(土) (砂質) #96住  
IV: 埋土層(土) (0-30cm) 少量の土、砂質 #96住  
V: 埋土層(土)  
VI: 埋土層(土)

95住



埋土層(土) (土) 土質、其中心部に少量の土、砂質

85住



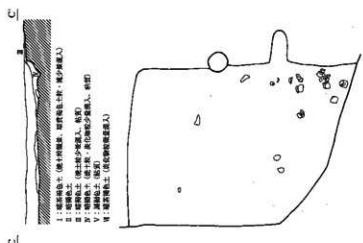
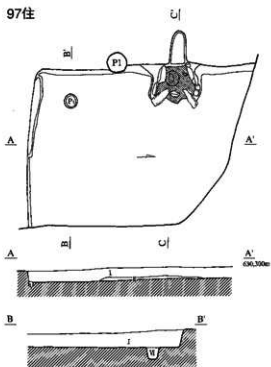
I: 埋土層(土) (灰石物少量混入、砂質)  
II: 埋土層(土) (灰石物少量混入、砂質)  
III: 埋土層(土) (土) 土質、其中心部に少量の土、砂質

0 2m

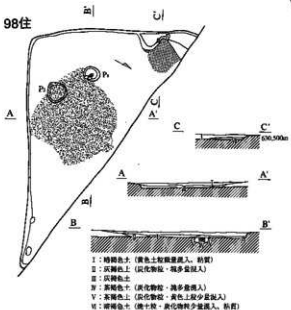
第9図 第82, 83, 85, 89, 95, 96号住居址



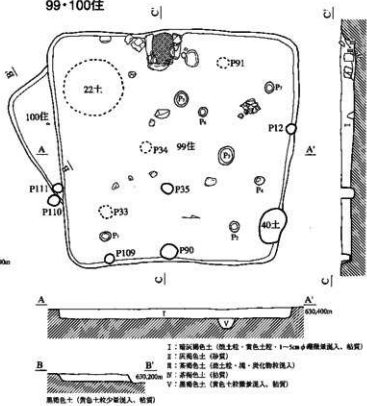
97住



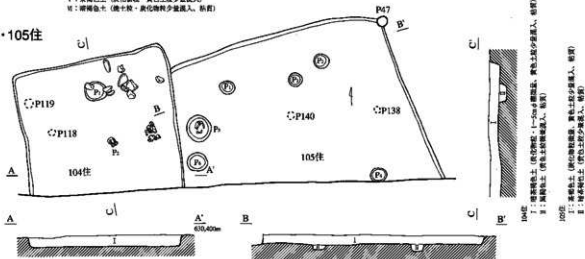
98住



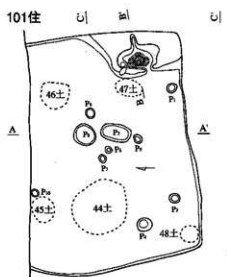
99-100住



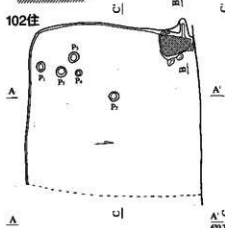
104・105住



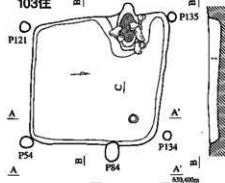
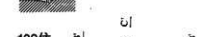
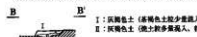
第10図 第97~100, 104, 105号住居址



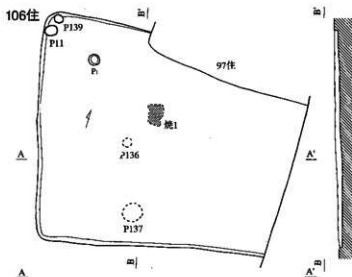
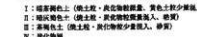
630,700m



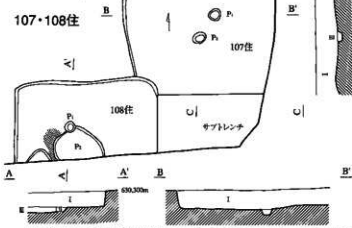
630,700m



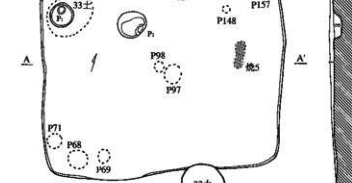
630,600m



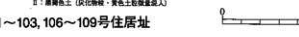
630,500m



630,300m



630,600m

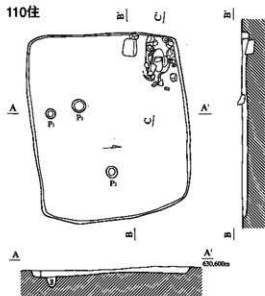


- I : 磁器質土 (焼土層・灰化層跡露出、黄色土較少量混入、粘質)
- II : 磁器質土 (焼土層・灰化層跡露出、黄色土較少量混入、粘質)
- III : 磁器質土 (粘質)
- IV : 磁器質土 (粘質)
- V : 磁器質土 (粘質)
- VI : 磁器質土 (粘質)
- VII : 磁器質土 (粘質)
- VIII : 磁器質土 (粘質)
- IX : 磁器質土 (粘質)
- X : 磁器質土 (粘質)
- XI : 磁器質土 (粘質)
- XII : 磁器質土 (粘質)
- XIII : 磁器質土 (粘質)
- XIV : 磁器質土 (粘質)
- XV : 磁器質土 (粘質)
- XVI : 磁器質土 (粘質)
- XVII : 磁器質土 (粘質)
- XVIII : 磁器質土 (粘質)
- XIX : 磁器質土 (粘質)
- XX : 磁器質土 (粘質)
- XXI : 磁器質土 (粘質)
- XXII : 磁器質土 (粘質)
- XXIII : 磁器質土 (粘質)
- XXIV : 磁器質土 (粘質)
- XXV : 磁器質土 (粘質)
- XXVI : 磁器質土 (粘質)
- XXVII : 磁器質土 (粘質)
- XXVIII : 磁器質土 (粘質)
- XXIX : 磁器質土 (粘質)
- XXX : 磁器質土 (粘質)

第11図 第101~103, 106~109号住居址

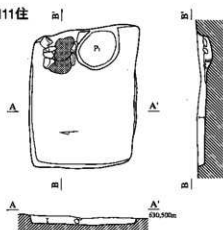


110住



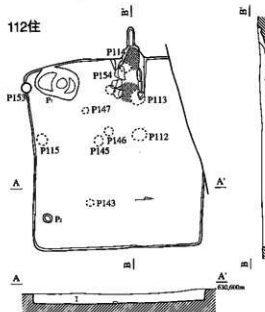
I : 暗灰褐色土 (灰化物較多, 赤褐色土粒少量混入, 粘質)  
 II : 暗灰褐色土 (灰土粒、灰化物較少量混入, 粘質)  
 III : 赤褐色土 (灰土粒、灰化物較少量混入, 粘質)

111住

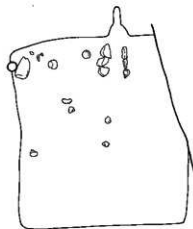
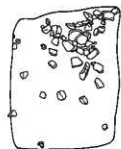


I : 灰褐色土 (灰化物較多, 赤褐色土粒少量混入, 粘質)  
 II : 赤褐色土 (灰土粒、灰化物較少量混入)

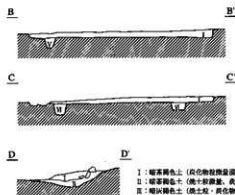
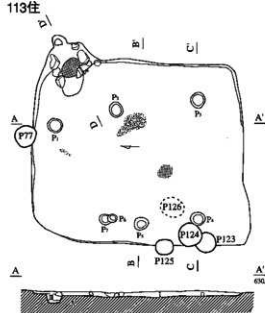
112住



I : 暗灰褐色土 (灰化物較多, 赤褐色土粒少量混入, 粘質)  
 II : 暗灰褐色土 (灰土粒、灰化物較少量混入, 赤褐色土粒少量混入)  
 III : 赤褐色土 (灰土粒少量混入)



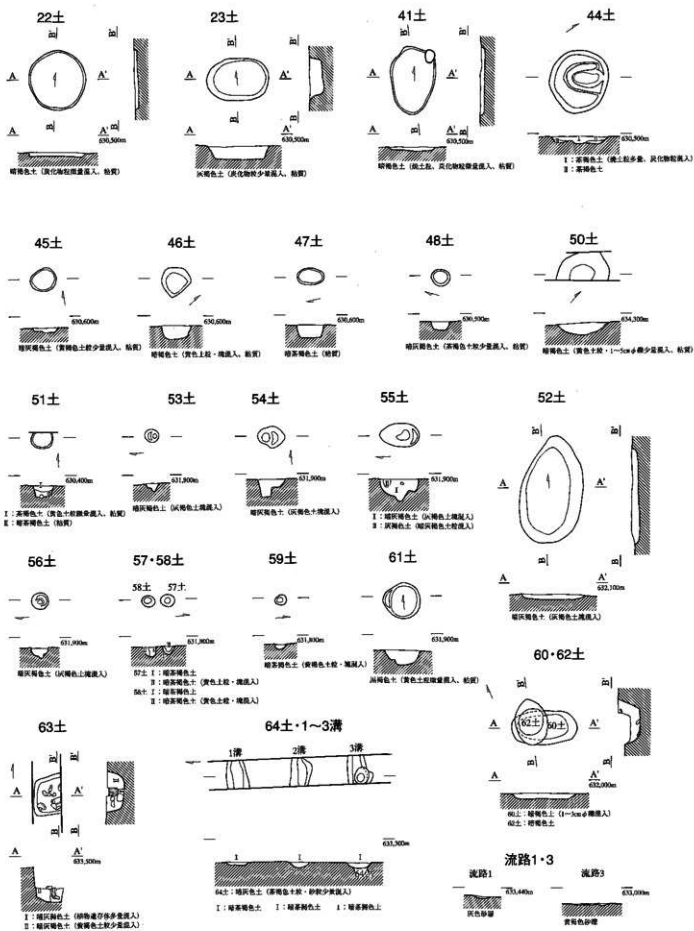
113住



I : 暗灰褐色土 (灰化物較多混入, 粘質)  
 II : 暗灰褐色土 (灰土粒較多, 灰化物較少量混入, 粘質)  
 III : 暗灰褐色土 (灰土粒、灰化物較少量混入, 粘質)  
 IV : 暗灰褐色土 (灰褐色土粒少量混入, 粘質)  
 V : 暗灰褐色土 (粘質)  
 VI : 暗灰褐色土 (灰化物較多, 赤褐色土粒少量混入, 粘質)

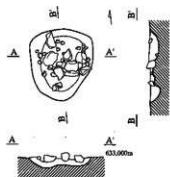
第12図 第110~113号住居址





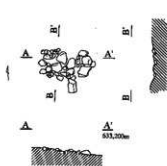
第14圖 土抗(2)・溝址・流路址

集石1

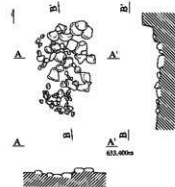


暗褐色土 (暗褐色土に黄色土粒混入) (粘質)

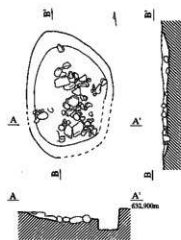
集石3



集石4

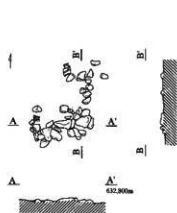


集石7

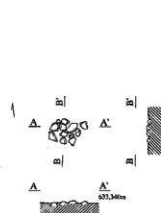


暗褐色土 (粘質)

集石9



集石15



集石2



集石5



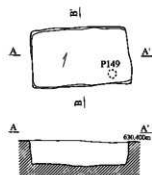
集石6



集石8



1 竪



集石10



集石11



集石12



集石13



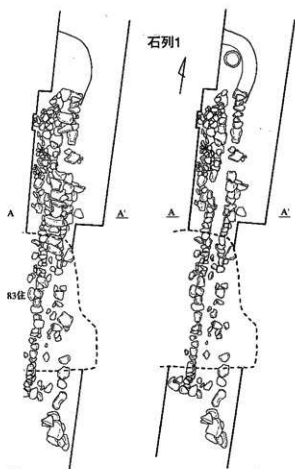
集石14



暗褐色土 (暗褐色土粒混入) (粘質)



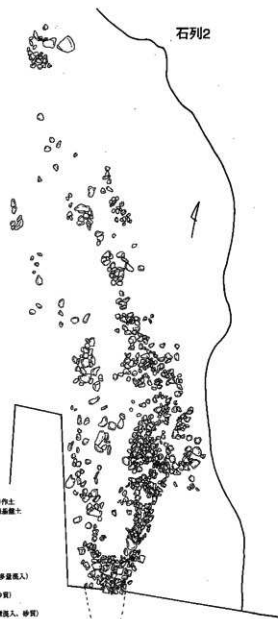
第15回 集石遺構・竪穴遺構



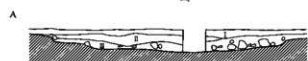
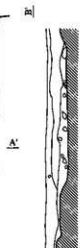
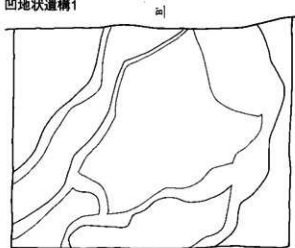
石列1  
I: 暗灰褐色土 (粘質)  
II: 暗褐色土 (粘質)



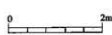
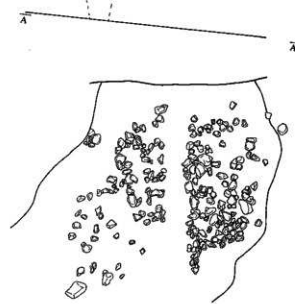
石列2  
I: 灰白色 (粘質) 赤土混雜作土  
II: 灰白色土 (粘質) 赤土混雜體土  
III: 暗褐色土 (粘質)  
IV: 灰褐色土 (砂質)  
V: 赤褐色土 (粘質)  
VI: 灰褐色土  
VII: 灰褐色砂質  
VIII: 暗褐色土 (粘質)  
IX: 灰色砂礫 (5~10cmφ 礫多量混入)  
X: 灰色砂礫  
XI: 灰褐色 (赤分混雜者, 砂質)  
XII: 灰褐色土 (砂質)  
XIII: 灰褐色土 (10~20cmφ 礫混入, 砂質)



凹地状遺構1

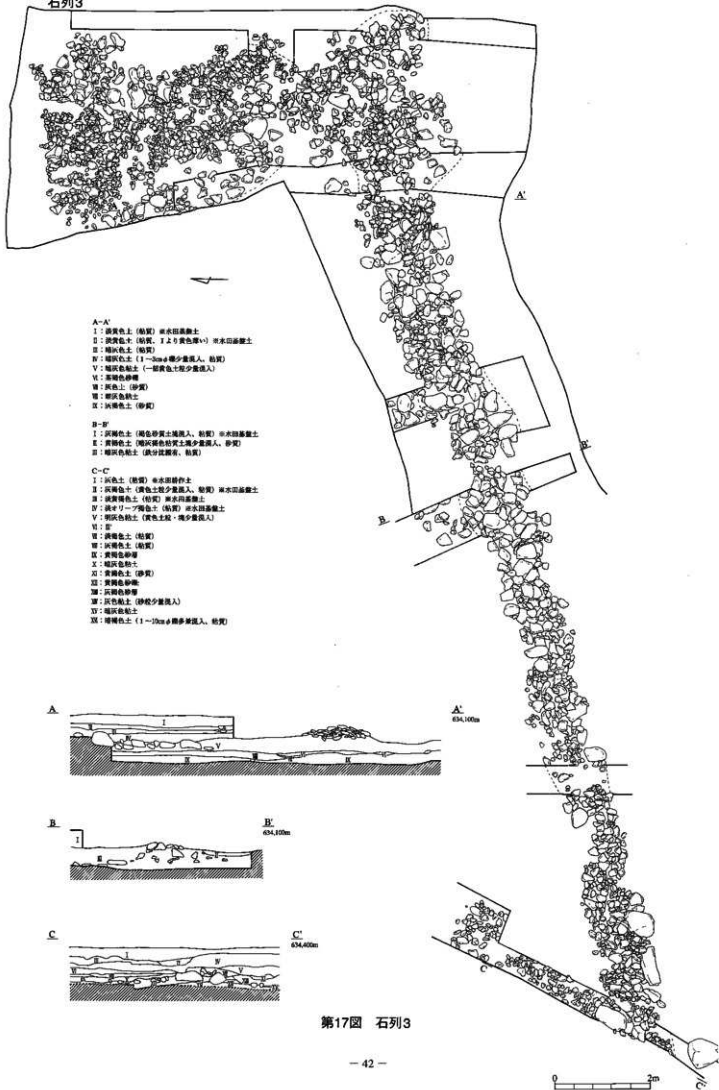


凹地状遺構  
I: 暗褐色土 (粘質)  
II: 灰褐色土  
III: 灰褐色土 (10~20cmφ 礫多量混入, 砂質)

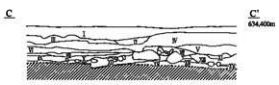
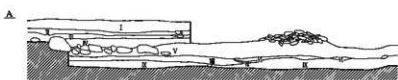


第16圖 石列1,2・凹地状遺構

石列3



- A-A'**
- I: 黄褐色土 (粘質) ※水田灌溉土
  - II: 灰褐色土 (粘質, Iより黄色層あり) ※水田灌溉土
  - III: 暗灰色土 (粘質)
  - IV: 暗灰色土 (1-3mm 礫少量混入, 粘質)
  - V: 暗灰色粘土 (一部黄色土塊少量混入)
  - VI: 灰褐色砂礫
  - VII: 灰褐色土 (砂質)
  - VIII: 暗灰色粘土 (粘質)
  - IX: 灰褐色土 (砂質)
- B-B'**
- I: 灰褐色土 (褐色砂質土塊混入, 粘質) ※水田灌溉土
  - II: 黄褐色土 (暗灰色土塊少量混入, 粘質) ※水田灌溉土
  - III: 黄褐色土 (粘質) ※水田灌溉土
  - IV: 黄褐色土 (粘質) ※水田灌溉土
  - V: 灰褐色粘土 (黄色土塊・塊少量混入)
  - VI: 砂
  - VII: 灰褐色土 (粘質)
  - VIII: 灰褐色土 (粘質)
  - IX: 黄褐色砂礫
  - X: 暗灰色粘土
  - XI: 黄褐色土 (砂質)
  - XII: 黄褐色砂礫
  - XIII: 灰褐色砂礫
  - XIV: 灰褐色土 (砂粒少量混入)
  - XV: 暗灰色粘土
  - XVI: 暗褐色土 (1-2mm 礫少量混入, 粘質)
- C-C'**
- I: 灰褐色土 (粘質) ※水田灌溉土
  - II: 黄褐色土 (黄色土塊少量混入, 粘質) ※水田灌溉土
  - III: 黄褐色土 (粘質) ※水田灌溉土
  - IV: 黄褐色土 (粘質) ※水田灌溉土
  - V: 暗灰色粘土 (黄色土塊・塊少量混入)
  - VI: 砂
  - VII: 灰褐色土 (粘質)
  - VIII: 灰褐色土 (粘質)
  - IX: 黄褐色砂礫
  - X: 暗灰色粘土
  - XI: 黄褐色土 (砂質)
  - XII: 黄褐色砂礫
  - XIII: 灰褐色砂礫
  - XIV: 灰褐色土 (砂粒少量混入)
  - XV: 暗灰色粘土
  - XVI: 暗褐色土 (1-2mm 礫少量混入, 粘質)

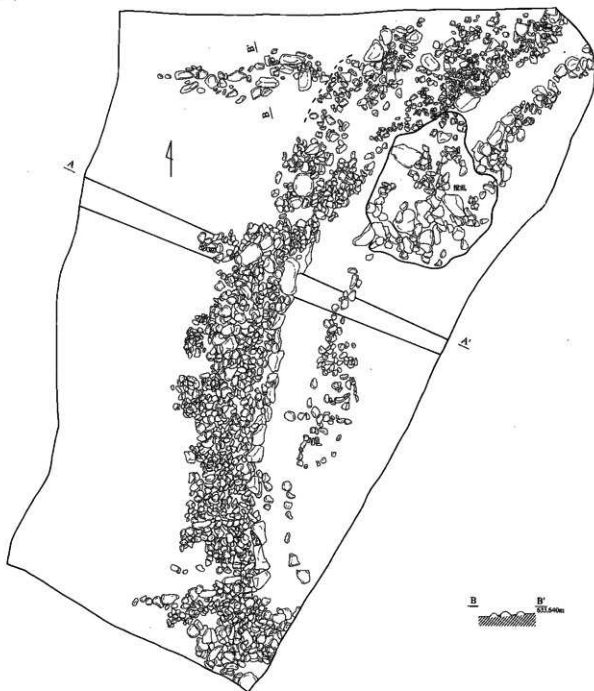


第17圖 石列3





石列4,5

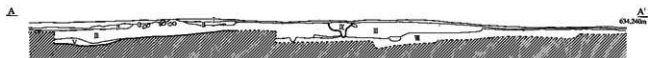
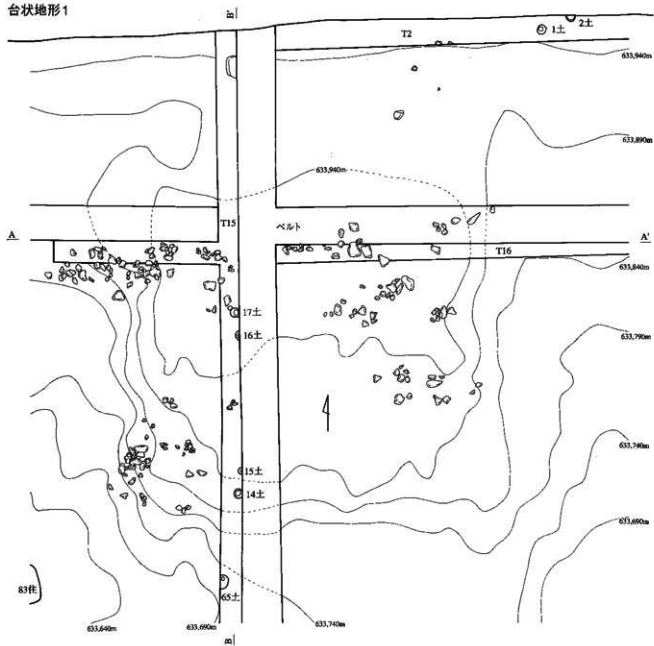


- I : 灰色砂礫 (1~5mφ 稀少量混入)
- II : 礫層
- III : 暗茶褐色土 (1~5mφ 稀少量混入、粘質)
- IV : 暗灰色土 (粘土質砂礫、粘質)
- V : 黄褐色土 (1~3mφ 稀少量混入、粘質)
- VI : 黄褐色土 (1~3mφ 稀少量混入、粘質)
- W : 黄褐色砂礫 (3~20mφ 稀少量混入)
- ※ : 灰色砂礫一層層



第18圖 石列4,5

台状地形1

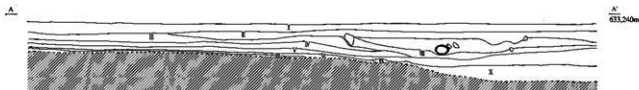


- I : 黄褐色土 (砂質)
- II : 黄次褐色土 (粘質)
- III : 黄褐色土 (粘質)
- IV : 黄褐色土 (粘質)
- V : 黄褐色土 (砂質)
- VI : 黄褐色土 (粘質)
- VII : 暗褐色硬層-砂層
- VIII : 黄褐色土 (粘質)
- IX : 黄土



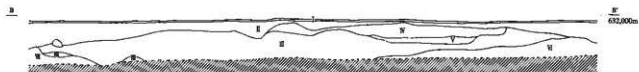
第19図 台状地形1

### A地区南西トレンチ2西端部南面



- I: 灰色土 (粘質) 砂水田耕作土
- II: 黄褐色土 (灰色土粒混入、粘質、夏より灰色強い) 砂水田黒腐土
- III: 黄褐色土 (灰色土粒、小礫混入)
- IV: 黄褐色土 (灰色土粒、小礫混入、夏より褐色強い)
- V: 暗灰土 (灰色土粒、小礫混入、黄分化層有、粘質)
- VI: 暗灰土 (灰色土粒、小礫少量混入、黄分化層有、粘質)
- VII: 暗灰褐色土 (灰化物質、小礫混入、黄分化層有、粘質)
- VIII: 灰褐色土 (褐色土粒混入)
- IX: 暗灰土 (小礫少量混入、黄分化層有、粘質)
- X: 灰褐色土 (褐色土粒少量混入、黄分化層有、粘質)

### B地区トレンチ1中央部北面



- I: 暗褐色土 (粘質) 砂水田黒腐土
- II: 暗灰褐色土 (小礫少量、砂粒混入)
- III: 暗灰褐色土 (1-40cm 砂粒少量混入、砂質)
- IV: 暗褐色土 (暗細礫少量混入、砂質)
- V: 暗褐色土 (シルト質、黄分化層有)
- VI: 暗灰褐色土 (シルト質、黄分化層有)
- VII: 暗灰褐色土 (1-15cm 砂粒少量混入、黒色強)
- VIII: 灰褐色土 (砂質)

### B地区トレンチ3北端部西面



- I: 黄灰褐色土 砂黒腐土
- II: 灰褐色土 (褐色土粒混入)
- III: 暗灰褐色土 (灰色土粒少量、黄分化層有)
- IV: 暗灰褐色土 (灰色土粒少量混入、粘質、夏より褐色強)
- V: 暗灰褐色土 (1-20cm 砂粒少量混入、褐色強)

### C地区東壁路路2部分



- I: 暗褐色土
- II: 灰褐色土 (高褐色土粒少量混入、砂質) 砂田
- III: 灰褐色土 砂田
- IV: 暗褐色土 (高褐色土粒少量混入、粘質)
- V: 暗灰褐色土 (灰色土粒少量混入、粘質) 砂田
- VI: 暗灰褐色土 (粘土粒少量、暗灰褐色土粒、砂粒少量混入) 砂田

### C地区谷状地形サブトレンチ東面



- I: 高褐色砂田 (1-15cm 砂粒少量混入)
- II: 黄褐色土 (砂質)
- III: 暗褐色土 (灰色土粒少量混入、粘質)
- IV: 暗褐色土 (灰色土粒、1-5cm 砂粒少量混入、粘質) 砂田

### D地区トレンチ3東半部北面



- I: 灰褐色土 砂耕作土
- II: 灰褐色土 (粘質、灰色強) 砂黒腐土
- III: 褐色土 (黄褐色土粒、暗細礫少量混入)
- IV: 灰褐色土 (褐色土粒混入、シルト質)
- V: 灰褐色土 (褐色土粒混入、砂質)
- VI: 暗灰褐色土 (暗細礫少量混入)
- VII: 暗灰褐色土 (褐色土粒、1-3cm 砂粒少量混入)
- VIII: 灰褐色土 (灰色土粒混入、粘質)



第20図 各地区土層

## 第3節 遺物

### 1 土器・陶磁器 (第21～30図、第5表)

今回の調査によって出土した遺物は、整理用テンバコ22箱を数え、古墳から奈良・平安時代、及び中世の多量の良好な資料を得ることができた。それらは、多くは住居址などの遺構内から出土している。しかし、遺構検出が困難な場合も多く、それにもかかわらず完形に近い状態で出土する遺物もみられている。そうしたものについてはその出土位置を記録する上で、単に検出面遺物としては扱わず、3次元座標を記録した上で地区検出面Noとしているが、ここでは、帰属すべき遺構がないため検出面遺物他として一括で取り扱っている。図化し得たものは、土器・陶磁器438点である。ここではそれらの様相について各地区ごと、地区内においては遺構別に述べていく。なお、遺物の分類については、縄文時代の遺物は文献1、古墳時代の遺物は文献2、古代の遺物は文献3、中世の遺物のうち瀬丹文壺等常滑、渥美産の陶磁器については文献4にそれぞれ掲げている。また遺物Noは、第6表に示したものである。

#### (1) 各地区ごとの様相

この大村遺跡の調査は、何度も述べているようにA、B、C、D、Eの5地区の調査に分かれ、更にA地区は北東、北西、南東、南西に分かれている。調査をしてみると、各地区の様相は別の遺跡といってもよいくらい様相が異なっている。ここでは、第9表の土器観察表の順に従い、各地区の様相を述べていく。

#### A 地区の様相 (No.1～303)

A地区では遺構として、竪穴住居址16軒、土坑17基、石列4条、溝址1条、流路3条、台状地形1ヶ所、凹地状遺構1ヶ所を検出した。また、検出困難な遺構も多く、検出面扱いとした遺物等も多い。また、この地区では縄文土器の出土も若干みられる。ここでは出土した土器について、それらの遺構ごとに述べていく。

##### 78住土器群

食膳具では土師器杯A 3点 (12、13、14)・黒色土器A杯A (16)・軟質須恵器杯A (21)・須恵器杯A 4点 (17、18、19、20)・蓋B (22) など、煮炊具では土師器甕A 4点 (7、8、9、10)・土師器甕F (11)・小型甕D 4点 (1、2、3、4)・羽釜 (24)、貯蔵具では須恵器甕 (23) がみられる。本址の時期決定については、カマド及びその脇のピット出土の甕類が古代1期前後の様相を呈していることから判断している。その他の須恵器杯・軟質須恵器などは古代8期前後の様相を呈し、本址を切る92住に属する可能性が高いが、羽釜は92住の時期より更に新しい古代11期以降とみられ、これらの住居址以外に遺構が存在した可能性を示している。

##### 79住土器群

図化したものは食膳具では黒色土器A杯A・碗が各1点 (27・28)、須恵器杯A・Bが各1点 (29・30)、灰陶陶器碗が2点 (31、32) みられ、煮炊具は土師器甕B・小型甕が各1点 (25・26) みられた。本址の時期決定については2点の遺掛け施釉の灰陶陶器碗が古代9～13期の様相を呈しているため、それに拠っている。

##### 80住土器群

図化したものは食膳具では黒色土器A杯Aが2点 (34、35)、皿Bが1点 (36) みられ、煮炊具は土師器小型甕Dが1点 (33) みられた。本址の時期決定は、完形の黒色土器A皿Bとその他の遺物が7～8期の中で取まるため、それに拠っている。

##### 81住土器群

図化したものは食膳具では土師器杯A 2点 (45・46)・碗1点 (44)、黒色土器A杯A 4点 (48、49、50、54)、須恵器杯A 3点 (52、53、54)、杯B (55)、蓋B (51)、煮炊具では土師器甕が甕B 3点 (37、41、42) など、小型甕2点 (39・40)、貯蔵具では陶器壺類 (56) である。本址の時期決定については、比較的数のまとまった黒色土器杯A及び土師器甕Bにより古代7～8期としている。しかし古代1～3期とみられる須恵器杯、土師器甕や、13期以降とみられる器高の低い土師器杯A、中世の渥美・常滑産とみられる陶器壺類が出土してい

ることから、本址に関して時期的前後関係のある遺構の存在が考えられる。

#### 82住土器群

食膳具では土師器杯A 2点 (61、62)、須恵器杯A 1点 (65)、杯蓋B 1点 (64) がみられ、煮炊具では土師器甕が2点 (59、60) みられた。本址の時期決定については、土師器杯Aもみられるが、須恵器杯Aもみられ、また甕Bとみられる甕の底径が8.4cmであることなどから、古代7～8期と判断している。

#### 83住土器群

図化したものは食膳具では土師器杯A 3点 (72、73、74)、椀 (75)、皿A (71)、黒色土器A杯A 2点 (68、69)、椀 (70)、灰釉陶器椀 2点 (76、77) 等、煮炊具では土師器小型甕D (66) である。本址の時期決定については、土師器のうち古代14期以降にみられる皿A・小型化した器高18cmの杯Aと、灰釉陶器椀の共伴により古代14～15期と判断している。古代5～8期の黒色土器椀などは混入品と考える。

#### 84住土器群

図化したものは食膳具では土師器杯A 5点 (84、85、86、87、88)、椀 5点 (89、90、91、92、93)、黒色土器A杯A 3点 (96、97、98)、椀 (99)、須恵器杯B 2点 (101、102)、杯蓋B (100)、灰釉陶器椀が5点 (108、109、110、112、113)、皿 2点 (107、111) 等がみられ、煮炊具は土師器甕B 2点 (80、82)、小型甕D 3点 (78、81、83)、貯蔵具では須恵器甕A 2点 (104、105)、甕D (106)、短頸壺 (103) と、遺物は非常に多い。本址の時期決定については、土師器杯A・椀と黒色土器杯A・椀との共伴関係及び煮炊具として土師器甕Bが出土していることから、古代8期前後と判断した。灰釉陶器椀・皿は、漬掛け施釉される大原2号窯式に比定されるもので、古代9期前後の様相を呈することから、本址を切る遺構の存在が考えられる。

#### 85住土器群

図化したものは食膳具では土師器杯 3点 (115、116、117)・高杯 (118)、黒色土器A杯A 6点 (127、128、129、130、131、132)・椀 5点 (133、134、135、136、137)、煮炊具では甕が2点 (124、125)、瓶 (126) 等、貯蔵具は須恵器壺類 2点 (138、139) みられる。本址の時期決定については、比較的量の多い、古代7～8期の様相を呈している黒色土器A杯A・椀に拠っている。煮炊具は、甕Aなど全て古い様相 (古代1～3期以前) を示しているため、混入の可能性があるが、比較的大きな破片であり、該期の遺構が存在していたのかもしれない。また土製品では櫛羽口 (140) があり、一部被熱していることから、A地区北東部で何点か鉄滓がみられることと合わせて、周辺での鍛冶遺構の存在が考えられる。

#### 87住土器群

図化したものは食膳具では黒色土器A杯A (150)、須恵器杯A 2点 (147、148)、杯B (149)、蓋B 3点 (144、145、146) がみられ、煮炊具では小型甕 (151) がみられる。本址の時期決定については、土師器、黒色土器A杯Aの時期が7～8期で、須恵器甕の時期も収まるため、それに拠った。また本址からは土製品櫛羽口が2点 (152、153) みられ、鍛冶遺構の存在が考えられる。また、本址には混入品であるが縄文時代中期中葉の深鉢把手とみられる小破片 (141) がある。

#### 88住土器群

図化したものはないが、土師器杯・小型甕D、黒色土器A杯A、灰釉陶器椀等がみられる。本址の時期決定については、漬掛け施釉される灰釉陶器の存在から、古代9期以降の遺構が存在したと考える。

#### 89住土器群

図化したものは食膳具では土師器耳皿 (156)、椀 (157)、黒色土器A椀 2点 (158、159) 須恵器杯A (160)、杯B (161)、灰釉陶器椀 (162) がみられ、煮炊具では土師器円筒形土器 (154)、小型甕D (155) がみられた。本址の時期決定については、覆土下層出土の耳皿が古代14期とみられるため、それに拠った。須恵器杯などは、上層の大規模流路2によって堆積した土中であるため、判断はし難い。

#### 90住土器群

図化したものは土師器杯A (163)、灰釉陶器椀 (164) のみである。本址の時期決定については、大原2号

窯式に比定される灰釉陶器の時期から古代9期と判断した。

#### 92住土器群

図化したものは、食膳具では土師器杯A 4点 (167、168、169、170)、須恵器杯A 2点 (182、183)、黒色土器A杯Aが7点 (171、172、173、174、175、176、177)、椀2点 (179、180)、灰釉陶器椀 (186) がみられた。煮炊具では小型甕D 2点 (165、166) がみられた。貯蔵具では須恵器短頸甕 (181) がみられた。本址の時期決定については、土師器杯A、黒色土器杯Aの共存関係から、古代8期前後と判断した。

#### 94住土器群

図化したものは土師器杯A (187) のみである。底径6.8cmと推定されるが、土師器杯Aは古代8～15期にみられるもので、本址の時期も古代8～15期に収まるとしか判断できなかった。

#### 95住土器群

図化したものは食膳具では土師器杯Aが2点 (192、193)、盤A (194)、黒色土器A椀 (191)、灰釉陶器椀3点 (196、197、198)、煮炊具では土師器小型甕Dが3点 (188、189、190) である。本址の時期決定については、3点みられた灰釉陶器椀が、古代9期に比定される大原2号窯式であることと、小型甕の時期が5～9期に収まることから9期前後と判断した。

#### 96住土器群

図化したものは、食膳具では土師器杯Aが6点 (214、215、216、217、218、219)、須恵器杯A (225)、軟質須恵器杯 (224)、黒色土器A杯Aが7点 (199、200、201、202、204、205、206)、灰釉陶器椀が2点 (226、228) 等がみられ、煮炊具では土師器甕Bが3点 (208、209、212)、小型甕Dが3点 (210、211、213)、貯蔵具では灰釉陶器小瓶 (222) 等がみられた。本址の時期決定については、食膳具に土師器杯A、黒色土器A杯Aが共存し、また軟質須恵器杯がみられることから古代8期前後と判断した。土師器甕Bも、該期に収まるものである。須恵器杯等は混入品かもしれない。また灰釉陶器椀を含む遺構が存在した可能性もある。

#### 土坑出土の土器

A地区では、遺物を含む土坑は少ないが、3点図化している。7土の土師器杯A (229) は、平安時代に広範的に用いられるもので、時期の特定は難しい。8土の須恵器杯D (230) は、古代1～3期に伴うもので、近接する78住と近い時代のものである。17土の白磁碗 (231) は、内面見込み部に柵目紋が施されるもので、中世1期の遺物である。

#### 凹地状遺構出土土器

図化したものは、土師器杯A (232)、黒色土器A杯A (233)、須恵器杯A 6点 (236、237、238、239、240、241)、蓋B 2点 (234、235)、灰釉陶器皿 (243)、須恵器壺類 (242) がみられる。これらには時期差があり、最も新しい243は遺掛け施釉される大原2号窯式に比定されるもので、古代9期とみられる。

#### 石列の土器

石列1で図化したものは、土師器杯A 2点 (244、245)、須恵器杯A (246) であるが、土師器杯は、平安時代後半において主な食膳具の一つであり、時期については大きな幅があるといえる。石列4で図化したものは山茶碗 (247)、山皿 (248)、青磁碗 (249) で、いわゆる山茶碗類は、東海系黒釉陶器に含まれるもので、中世の遺構から出土することが知られる。青磁碗とともに、中世以降の遺構であることを示している。

#### トレンチ・サブトレンチ・グリッド・検出面の土器

検出面で採取した遺物は非常に多く、遺構確認のためトレンチ、サブトレンチを数多く設定した。また、遺構を確認しえず、且つ器形として残存部分の大きいなどの特殊な状態での遺物は、前述の通り検出面Noという扱いで取り上げている。図化したものは食膳具では須恵器杯A・B、蓋B、土師器杯A・椀・盤B、黒色土器A杯A・椀、灰釉陶器椀、山茶碗、白磁碗がみられ、煮炊具では土師器甕、貯蔵具では須恵器甕類、壺類、特殊品として須恵器円面碗、陶器蓮弁文壺など、古代から中世にかけての生活具が混在している。これらは、洪水などにより運ばれたものや、確認し得なかった遺構の遺物であろうと思われる。縄文土器もみられ、トレンチ

出土の265、検出面の251の2点で、いずれも深鉢とみられる。251は検出時にまとまった形で発見されたもので、中期中葉に属するとみられる。口縁部が一部残存し、胴部には縄文が施される。265は時期不明な深鉢の底部で、網代痕がみられる。

#### ウ B地区の様相 (304~337)

B地区では、3軒の竪穴住居と8基の土坑を検出した。検出段階での遺物は他地区と比べて少ないが、サブトレンチ調査の結果確認した91住は、遺物の多い奈良時代の良好な住居址であった。ここでは、それらを中心に述べていく。

##### 86住土器群

ほとんどが小破片であり、本址の時期決定しうる遺物はみられない。土師器の器種不明な小片等が若干出土しているのみである。

##### 91住土器群

図化したものは食膳具では須恵器杯A 4点 (328、329、330、331)、椀 (332)、蓋B 4点 (323、324、325、326)、高盤2点 (321、322) 等で、煮炊具は土師器甕A 7点 (304、305、308、309、312、313、314)、甕B 3点 (306、318、319)、小型甕A 3点 (311、315、317) 等である。本址の時期決定については、底部をヘラ切り調整される須恵器杯A、高盤の存在、1~3期に存在する甕Aの出土等の理由により、古代1~2期と判断した。なお、本址からは文字資料として円面硯 (333) がみられるが、それについては後述する。その他に古墳時代中期の土師器高杯 (327)、後期の土師器杯 (328) がみられるが混入と考える。

##### 93住土器群

図化したものは貯蔵具須恵器甕B (335) のみである。本址の時期決定については、須恵器甕Bが5~8期の範囲に収まるとみられ、それに拠った。

##### 土坑出土の土器

B地区の土坑では、52、53、54土から遺物が出土している。図化したものは52土出土の土師器高杯 (336) と54土出土の土師器甕 (337) である。いずれも古墳時代後期~奈良時代の様相を呈するもので、近接する91住の遺物とよく似た様相を呈している。

##### 検出面・トレンチ・サブトレンチ・グリッドの土器

検出面全体としても遺物は少なく、またトレンチ調査図化したものはないが、土師器杯・高杯・甕類・壺類とみられる小破片が確認されているのにとどまる。

#### エ C地区の様相 (338~420)

C地区では、遺構として住居址17軒、竪穴状遺構1基、土坑32基、ピット155個、焼土範囲9ヶ所、流路1条を確認している。焼土範囲としたものなど、遺構の存在を想定させるが詳細の不明なものなど、後述する検出面遺物の多い所以を表している。

##### 97住土器群

図化したものは食膳具では須恵器杯A (342)、煮炊具では土師器甕B 3点 (338、339、341)、小型甕D (340) である。出土位置のほとんどがカマド及びその周辺である。本址の時期決定については、342の底部がヘラ切り後ナデという古代2~4期という様相を持ち、共存する小型甕Dが4期以降降れることから、古代4期とした。

##### 98住土器群

図化したものは食膳具土師器杯D 2点 (343、344) である。本址の時期決定については、これらの非口クロ調整の杯Dが古代1~2期にみられることから、それに拠った。

##### 99住土器群

図化したものは食膳具土師器杯D 2点 (348、349)、杯F (350)、煮炊具は甕A 2点 (346、347)、甕B (345) である。本址の時期決定については、土師器杯D、甕Aとも古代1~3期にみられ、また甕Bが表れているこ

とから、古代1～3期と判断した。

#### 100住土器群

図化したものはないが、土師器甕Aとみられる小片など若干の出土がみられる。本址の時期決定については、土師器甕Aが、主に古代1～3期においてみられるため、それに拠った。

#### 101住土器群

図化したものはないが、食膳具としては土師器杯、煮炊具としては土師器甕がみられる。本址の時期決定について、遺物はいずれも小片が多く、詳細については不明であるが、口縁の厚い杯類と、輪積み痕のみられる甕類の組み合わせから、古墳時代後期～奈良時代前期の様相を呈していることから、それに拠った。

#### 102住土器群

図化したものは食膳具では須恵器杯D(360)のみである。他は煮炊具で、土師器甕A(354、355、356、357、358)、小型甕A3点(351、352、353)等がみられる。本址の時期決定については、甕Aが古代1～3期の主要煮炊具であり、また甕Aと同技法で底部に木葉圧痕を持つ小型甕Aがみられるため、それに拠った。

#### 103住土器群

図化したものは食膳具で灰釉陶器碗(361)のみである。本址の時期決定については、361が丸石2号窯式とみられ、これは古代11～15期に比定されていることから、それに拠った。

#### 104住土器群

図化したものは食膳具では土師器高杯(363)、須恵器高杯(362)がみられ、煮炊具では土師器甕2点(364、365)、土師器羽釜(366)がみられる。本址の時期決定については、土師器甕が古墳時代後期の様相を呈することから、それに拠った。なお、366の羽釜も比較的大きな破片で存在することから、本址を切る10世紀代の遺構の存在も考えられる。

#### 105住土器群

図化したものは食膳具では須恵器高杯(369)、摺鉢(371)杯(370)がみられ、煮炊具では土師器甕2点(367、368)がみられた。本址の時期決定については、特に輪積み痕が明瞭で内外面ナデ調整される土師器甕が古墳時代後期の様相を呈することから、それに拠った。

#### 106住土器群

図化したものは食膳具の土師器杯或いは高杯とみられる372が1点のみである。本址の時期決定については、372が、磨耗により調整が不明ながら、古墳時代後期の様相を呈することから、それに拠った。

#### 107住土器群

図化したものは食膳具では須恵器杯2点(375、376)高杯(377)、蓋A(374)、鉢(378)で、煮炊具では土師器甕B(373)がみられた。本址の時期決定については、特にかえりを持つ蓋Aが古墳時代後期の様相を呈することから、それに拠った。

#### 108住土器群

図化したものは須恵器杯(379)1点のみである。本址の時期決定については、379の底部が回転ヘラ切り調整されることから、古墳時代から奈良時代前期の様相を呈することから、それに拠った。

#### 109住土器群

遺物は少なく、図化したものはないが、土師器甕小片が若干みられた。本址の時期決定については、甕片は内側に輪積み痕を明瞭に残すもので、ナデ調整される古墳時代後期の様相を呈するもので、それに拠った。

#### 110住土器群

図化したものは、食膳具では土師器杯6点(385、386、387、388、389、390)等、煮炊具では土師器甕3点(382、383、384)、甕(381)、貯蔵具では土師器壺(384)がみられた。本址の時期決定については、ロクロ調整される土師器杯Aのうち、小型化の進んだ古代15期にみられるものであることから、それに拠った。また土師器杯のうち385、386、387はロクロ調整ではなく手持ちヘラ削り調整される古墳時代後期の様相を呈するた



め、古墳時代の遺構が存在した可能性がある。

#### 111住土器群

図化したものは、食膳具では土師器杯A 2点 (393、394)、椀 (396)、皿 (395)、黒色土器椀 (397)、灰釉陶器椀3点 (398、399、400) で、煮炊具では土師器羽釜 (392) がみられる。本址の時期決定については、古代14～15期にかけて小型化が顕著となる土師器杯Aの存在などから、それに拠った。

#### 112住土器群

図化したものは全て煮炊具で、土師器甕3点 (403、404、405)、小型甕2点 (401、402) である。本址の時期決定については、これらの甕、小型甕が内外面に粘土紐の輪積み痕を明瞭に残し、また底部に木葉痕を有するもの (405) などの古墳時代後期の様相がみられることから、それに拠った。

#### 113住土器群

図化したものは、食膳具では土師器盤B 2点 (406、407)、貯蔵具では灰釉陶器短頸壺 (408) である。本址の時期決定については、土師器盤Bが古代11期以降にみられる器形であることから、それに拠った。

#### 土坑・ピット・流路出土の土器

遺物を出土した土坑は17基、ピットは29個あるが、図化したものは24土 (409)、26土 (410)、32土 (411、412)、P68 (413)、P117 (414)、流路2 (415) である。409は底部に植物圧痕のある土師器甕で古墳時代後期に属するとみられる。410は青白磁の輪花碗の小破片であることから、26土は中世に属すると考える。32土からは411と412がみられ、411は古墳時代後期の様相を持つ鉢であるが、412が漬掛け施釉の灰釉陶器碗であることから、古代9期以降とみられる。ピット内からの413、414はいずれも古墳時代後期の甕とみられ、特に414は内面に輪積み痕が残りナデ調整される特徴的なものである。

#### 検出面確認の土器

図化し得なかった土器・陶磁器は非常に多い。それらには食膳具として土師器杯A・椀、黒色土器A杯A・椀、須恵器杯A・杯B、煮炊具として土師器甕、貯蔵具として須恵器甕類・壺類、合わせて整理用コンテナ2箱を数える。図化したものは土師器甕3点 (418、419、420) で、特に419は口縁の3/4を除いて底部まで残存するもので、古墳時代後期に属するものであるが、帰属すべき遺構を確認できなかった。その他の甕も、輪積み痕を残すなど、古墳時代～奈良時代の様相を呈するものが多い。その他の土師器、須恵器、灰釉陶器の類は、古墳時代から平安時代末までの様相を持つものが幅広くみられ、それらを伴う遺構が、検出されたもの以外にも存在したことが窺われる。

#### オ D地区の様相 (421～429)

この地区では土坑3基、集石遺構が9ヶ所を検出した。また南部の遺物集中範囲があり、多量の遺物が出土している。その他に、次項で述べるが、この地区では北半部を中心に土器・陶磁器の他に多量の布目瓦が出土している。

#### 土坑に伴う土器

60土から須恵器の小片が若干出土しているのみである。時期決定については、古代の広範な時期の中であり、詳細を知ることは困難である。

#### 集石遺構に伴う土器

図化したものは集石7出土の須恵器杯A (421) のみである。その他に図化していないものは、集石1では須恵器杯A他若干、集石3では須恵器甕類・壺類が若干、集石7では421他須恵器杯Aが若干、集石9では須恵器杯・甕類が若干と、いずれも多い出土ではない。これらの時期決定については、古代の広範な時期の中であり、詳細を知ることは困難である。

#### 検出面・トレンチ確認の土器・陶磁器

検出面での遺物量は多い。縄文時代後期とみられる土器の他、みられたものは食膳具では須恵器杯A・B、土師器杯A・椀、黒色土器杯、灰釉陶器椀がみられ、煮炊具では土師器甕類、貯蔵具では須恵器甕類・壺類、

陶器壺類と、時期・種別ともに多岐にわたる。これらは瓦とほぼ同一面からの出土であり、一番新しい陶器壺類が中世の遺物であることから、D地区の周辺は中世以降に影響を受けていると思われる。

#### カ E地区の様相 (430~438)

この地区全体は粘土で覆われており、南西の一部に台状地形2、中央部を東西に石列3がある。トレンチ下から土坑2基、溝3条を確認している。この地区の遺物は、二つに南側の台状地形2周辺と、粘土下層確認のため掘り下げたグリッド・トレンチからの遺物に大別される。

##### 台状地形に伴う土器・陶磁器 (検出面)

図化したものは、陶器碗(437)・壺(438)、青磁碗(435)・瓶(436)、である。陶器類は古瀬戸・常滑産とみられ、中世の遺物であることから、台状地形2の時期決定についてはそれに拠った。またその周囲についても中世に影響を受けたと考えられる。

##### 溝に伴う土器

土器は1点のみで、須恵器杯蓋B(430)がみられる。須恵器蓋Bは、須恵器杯Bに伴うもので、古代1~7期の主要な食膳具であることから、それに拠った。

##### 石列に伴う土器・陶磁器

石列3でみられた土師器杯A(431)、須恵器杯B(432)の2点を図化している。それ以外では灰軸陶器壺類の小片がみられる。本社の時期決定については、灰軸陶器壺類は古代9期以降にみられるため、それも参考としている。

##### グリッド・トレンチ・検出面確認の土器

縄文土器では中期の深鉢・有孔鈿付土器とみられる小破片がみられた。古代以降のものは須恵器杯B・甕類、土師器杯、黒色土器碗、灰軸陶器碗・段皿等、古代の食膳具・煮炊具ともにみられたが、その他に古瀬戸の陶器碗もみられたことから、中世2期までの遺物が含まれている。

#### (2) 時期別の様相

ここでは、各地区での様相をもとに、前述の土器形式によって判断した時期ごとの遺構の在り方をみていく。

##### ア 縄文時代の様相

縄文時代の遺構はないが、遺物はみられる。確認されたものはいずれもA地区のもので、検出面の251、トレンチの265、87住混入の141を図化しているが、251のように、まとまった形での出土もみられることから、比較的近在での遺構の存在が考えられる。今回の調査範囲内に該期の遺構はないが、後述する石器とともに、北東の柳田遺跡の遺物との検討が必要である。

##### イ 古墳時代後期の様相

A地区では78、85住、8土、B地区では52、54土、C地区では98、100、101、104、105、106、107、108、109、110、112住、P68、117が該当する。A地区の85住は、混入の可能性もあるため不確定な点もあるが、78住は大規模流路等に切られながらも、良好な遺物を出土する住居址であり、西側の大村集落の下にもその続きが存在するものと考えられる。C地区では多くの住居址が該当する。奈良時代にかけて連続する遺構もあり、それらを含めて、西側の谷状地形に落ち込んでいく方面を除いて、集落が広がっていたことが想像される。

##### ウ 奈良時代の様相

A地区では81住から該期の遺物がみられるが、混入の可能性があるため不確定である。B地区の91住は円面硯の他須恵器高盤・碗等を出土したもので、その他の土師器壺等一括の良好な資料を得ることができた住居址である。遺物からある程度高い階層の住居址であると考えられる。C地区では97、99、102住が該当するが、これら以外にも、古墳時代の住居址のうち奈良時代までの連続が考えられるものもあり、古墳時代後期から奈良時代前期にかけて、有力な集落が営まれていたことが推定できる。

##### エ 平安時代前期の様相

A地区では81、82、84、85、87、92、96住が該当する。これらのうち81、82、84、87、96住はA地区北西の

北東部分で切り合い関係となっている。大六川がここを流れるのはもう少し後であることから、平安時代前期の段階では安定した高台であったと思われる。B地区では93住が該当するが、西側ではトレンチ調査の結果遺構の存在はあまり考えられず、南側にその広がりがあると思われる。C地区の103、110、111、113住でも該期の遺物がみられる。いずれも後代の遺構からの混入品であるか、該期の遺構が上面に存在したか、両方の可能性がある。

#### オ 平安時代中期の様相

A地区では78、80、84、88、90、95住、凹1において該期の遺物がみられた。しかしいずれの住居址もその時期のものではなく、混入或いは80、88、90、94住のように、遺構の判別のできないものである。該期の遺構が存在したことは確実であろうが、その位置など具体的な根拠が乏しい一帯である。

#### カ 平安時代後期の様相

A地区では78、79、81、83、89住において該期の土器が出土しており、83住が該当すると考えられる。その他の住居址の遺物は、混入品と見られ、該期の遺構が存在していた可能性を示している。89住は大規模流路2に切られる住居址で、全体を確認していないため確証はないが、大六川の氾濫とも言うべきこの流路に断ち切られているようである。この流路の時期決定の根拠ともなる住居址である。C地区では110、111、113住が該期の住居址である。小型化していく土師器杯A・皿等を出土している。

#### キ 中世の様相

A地区では17上、石列4、石列5、C地区では1壘、26土、E地区では台状地形2が該当する。これらからみられた遺物は青磁・白磁・青白磁といった輸入陶磁器、古瀬戸、常滑等の陶器、在地産の内耳鍋である。いわゆるかわらけの類はみられない。出土地区別はA地区が最も多い。青磁では龍泉窯碗とみられる小片(298)もみられる。白磁では玉縁口縁の碗(297)、内面見込み部に梅目文のある碗(231)があり、中世1期のもものとみられる。検出面では山茶碗が2点(299、300)出土している。両方とも底部の破片でありまた台状地形1の上面検出面からは特殊なものとして瀝美産の蓮弁文壺(302)が出土している。これは経塚等に用いられるもので、瀝美半島古窯独特のデザインといわれる。C地区の1壘からは、図化していないが内耳鍋片1点がみられ、中世2期まで下がる可能性がある。26土からは小片ではあるが青白磁輪花皿(410)が出土している。流路2からは、見込み部に使用痕、朱墨痕のある青磁碗(415)が出土している。E地区では、青磁で龍泉窯瓶或いは鉢とみられるもの(436)、同安窯碗の小片(435)が出土している。

#### (3) 文字関係資料

円面硯が2点出土している。294はA地区北西の、大規模流路1と2の間の中洲状部分からの出土で、遺構に伴うものではない。硯面と脚部の一部が残存するのみの小片である。硯面のうち陸部はほとんど残っておらず、海部の一部のみで、使用痕は不明瞭である。脚部には縦方向の沈線が刻まれているが、単位などについては不明である。口径は10.4cmと推定されるが、器高は不明である。333はB地区91住出土のもので、脚部の半分近くを欠損し、また歪みもあるが全体形の判るもので、口径11.3cm、底径19.4cm、器高5.4cmを測る。硯面は海部の半分が欠損しているが、陸部は完存し、使用痕が認められる。脚部には長方形の透かし彫りが24単位施されているとみられる。

#### (4) まとめ

今回の調査では、古墳時代～奈良・平安時代を中心に多くの遺物の出土がみられたが、A地区を中心に縄文時代の遺物もみられ、北西に隣接する柳田遺跡と関連があると思われる。またこの地区は9世紀後半の平安時代前期の遺物を出土する住居址が中心となっている。B地区の91住は、奈良時代の一括資料として良好に保たれ、円面硯を伴った出土は、その階層についても示唆を与えてくれている。C地区では遺構外からも多量の土器・陶磁器がみられた。整理期間の関係上全てを図化し得ることはできなかったが、遺物の多さは、それだけ濃密な遺構分布を示し、古墳時代後期から奈良時代前期を中心とし、中世に至るまで集落が長く営まれたことを示している。D・E地区では瓦に伴って出土し、瓦の存在した時期に関して示唆するものであると考える。

中世の遺物もそれほど多くはないが出土がみられたため、中世遺構の存在を示唆する資料を得ることができたといえる。特に蓮弁文壺は全国的にも出土例は少なく、経塚等の仏教関連遺構からの出土が知られていることから、そうした中世の仏教施設が近在に存在したことを示している。円面硯等の特殊遺物は、次項で述べる瓦とともにこの遺跡の特殊性を示すものであるといえる。

註1 社団法人長野県史刊行会1988「長野県史 考古資料編 全一卷（四）遺構・遺物」

註2 松本市教育委員会1994「松本市 出川南遺跡Ⅳ 平田里古墳群 一緊急発掘調査報告書一」

註3 長野県埋蔵文化財センター 1990「中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書4」松本市内その1 総論編

註4 平凡社1989「日本陶磁体系7 常滑 渥美 越前 珠洲」

第9表 土器観察表

No.	区	家群番号	出土地点	種類	群像	発見状況		位置 (1)内位置			色相		底面・調整・形態の特徴等
						発見数	数量	口徑	底径	高さ	外底	内底	
1	A区	79件03	79件No.6	土師器	小型壺口	1/3	完	12.6	6.7	6.0	黒地	黒地-緑地	ロクロナデ 内:口縁付近に赤み付 外:赤み目 底面:回転糸切り 口縁:ヨコナデ
2	A区	79件02	79件No.1	土師器	小型壺口	1/6	完	6.0			黒地	黒地	ロクロナデ 内:赤み付 口縁:ヨコナデ
3	A区	79件01	79件No.4	土師器	小型壺口		完	6.2			黒地	黒地	ロクロナデ 外:一部赤み付
4	A区	79件30	79件No.11	土師器	小型壺口		2/3	6.0			黒地	黒地	ロクロナデ 底面:回転糸切り
5	A区	79件17	79件No.22(裏面)	土師器	壺		完	5.9			淡緑	淡緑-黒	口内:ナデ 底面:黒地
6	A区	79件04	79件No.3	土師器	壺	1/10	(06.0)				淡緑	淡緑	内:ナデ 口縁:ヨコナデ
7	A区	79件14	79件No.2	土師器	壺	1/4	(17.0)				黒	黒	内:ナデ 口縁:ヨコナデ
8	A区	79件05	79件No.22(裏面)	土師器	壺	2/2	(19.0)				淡緑-黒	淡緑	内:ナデ 口縁:ヨコナデ
9	A区	79件15	79件No.17	土師器	壺	1/3	(17.0)				淡緑	淡緑	内:ナデ 口縁:ヨコナデ
10	A区	79件16	79件No.16	土師器	壺	1/2	完	21.6	9.4	23.8	淡緑	淡緑	内:工具ナデ 口縁:ヨコナデ 底面:ナデ
11	A区	79件09	79件No.11(裏面)	土師器	壺		1/2	22.0			淡緑	淡緑	内:工具ナデ 口縁:ヨコナデ 底面:ナデ
12	A区	79件18	79件No.12	土師器	壺		2/2	6.5			淡緑	淡緑	内:工具ナデ 口縁:ヨコナデ
13	A区	79件19	79件No.2	土師器	壺		1/2	6.5			黒	黒	ロクロナデ 底面:黒地-不明
14	A区	79件21	79件No.10	土師器	壺		1/3	6.4			黒	黒	ロクロナデ 内:ターム状付物 底面:回転糸切り
15	A区	79件24	79件No.7	土師器	壺	1/8	(13.0)				黒	黒	ロクロナデ 内面:ミザ(単位不明)後黒色処理 口縁:ヨコナデ
16	A区	79件22	79件No.8	土師器	壺	1/4	(5.0)				黒	黒	ロクロナデ 内面:ミザ(単位不明)後黒色処理、黒メケ 底面:回転糸切り
17	A区	79件08	79件No.1	土師器	壺	1/4	(7.0)				淡灰	淡灰	ロクロナデ 内:火打ナデ 底面:回転糸切り
18	A区	79件09	79件No.2	土師器	壺	1/6	(6.0)				淡灰	淡灰	ロクロナデ 底面:回転糸切り
19	A区	79件10	79件No.1	土師器	壺	1/4	(6.0)				淡灰	淡灰	ロクロナデ 内:火打ナデ、後黒地 底面:回転糸切り
20	A区	79件11	79件No.2	土師器	壺	1/3	(6.0)				淡灰	淡灰	ロクロナデ 内面:回転糸切り
21	A区	79件13	79件No.24(カマド)	土師器	壺	2/4	完	13.1	6.2	3.6	灰白-淡緑	灰白	ロクロナデ 底面:回転糸切り 口縁:ヨコナデ
22	A区	79件25	79件No.7	土師器	壺	1/10	(6.0)				淡灰	淡灰	ロクロナデ 口縁:ヨコナデ
23	A区	79件12	79件No.2	土師器	壺	1/16	(24.0)				淡灰	淡灰	ロクロナデ 口縁:ヨコナデ
24	A区	79件07	79件No.1	土師器	壺	1/4	(20.0)				淡緑	淡緑	内:工具ナデ 外:ハケ目 口縁:ヨコナデ 調整:削製
25	A区	79件04	79件No.7	土師器	壺	1/8	(10.0)				淡緑	淡緑	ロクロナデ 内:工具ナデ 外:ハケ目 口縁:ヨコナデ 調整:削製
26	A区	79件06	79件No.7	土師器	小型壺口	1/8	(6.0)				淡緑	淡緑-黒	ロクロナデ 底面:回転糸切り
27	A区	79件05	79件No.7	土師器	壺	4/5	(4.0)				黒	黒	ロクロナデ 内:ミザ(単位不明)後黒色処理 底面:回転糸切り
28	A区	79件07	79件No.7	土師器	壺	1/3	(6.0)				黒	黒	ロクロナデ 内:ミザ(単位不明)後黒色処理 外:付合後ナデ
29	A区	79件05	79件No.7	土師器	壺	1/8	(7.0)				淡灰	淡灰	ロクロナデ 底面:回転糸切り
30	A区	79件03	79件No.7	土師器	壺	1/5	(10.0)				淡灰	淡灰	ロクロナデ 外:底面へクワリ 付合後ナデ
31	A区	79件01	79件No.7	土師器	壺	1/3	6.7				淡灰	淡灰	ロクロナデ 内:足込み使用 外:付合後ナデ 底面:回転糸切り 調整:磨削付 穴
32	A区	79件02	79件No.7	土師器	壺	1/3	5.5				淡灰	淡灰	ロクロナデ 外:回転糸切り付 付合後ナデ 調整:磨削付 穴
33	A区	80件04	80件No.7	土師器	小型壺口	2/2	完	20.1	8.9	13.4	淡緑	淡緑	内:上赤み付、下赤み付ナデ 外:赤み付、下赤み付付合後ナデ 底面:回転糸切り 口縁:ヨコナデ
34	A区	80件01	80件No.7	土師器	壺	1/8	(14.0)				淡緑	淡緑	ロクロナデ 内:ミザ(単位不明)後黒色処理 口縁:ヨコナデ
35	A区	80件02	80件No.7	土師器	壺	1/2	完	13.9	3.3	4.1	淡緑-黒	淡緑	ロクロナデ 内:ミザ(単位不明)後黒色処理 口縁:ヨコナデ 底面:回転糸切り
36	A区	80件03	80件No.3	土師器	壺	2/2	完	14.7	6.8	3.0	淡緑	淡緑	ロクロナデ 内:ミザ(単位不明)後黒色処理 外:付合後ナデ 口縁:ヨコナデ
37	A区	81件03	81件No.7	土師器	壺	1/4	(24.0)				淡緑	淡緑	ロクロナデ 外:ハケ目(削製) 口縁:ヨコナデ
38	A区	81件04	81件No.4	土師器	小型壺口	1/2	(10.0)				淡緑	淡緑	内:ナデ(削製) 外:削製(削製) 口縁:ヨコナデ
39	A区	81件06	81件No.2	土師器	小型壺口	1/2	1/2	(11.0)	6.5	9.0	淡緑	淡緑	内:工具ナデ 調整:ナデ 口縁:底面に緑小
40	A区	81件15	81件No.4	土師器	小型壺口	1/6	(7.0)				淡緑-黒	淡緑	内:輪縁のみ、底面に黒、工具ナデ 外:ナデ、ハケ目 口縁:ヨコナデ
41	A区	81件08	81件No.4	土師器	小型壺口	1/6	(7.0)				淡緑	淡緑	内:調整用、調整:工具ナデ 外:ハケ目 口縁:ヨコナデ
42	A区	81件07	81件No.7	土師器	壺	1/3	(17.0)				淡緑	淡緑	内:上赤み付、調整用 外:ハケ目、削り付 底面:ナデ
43	A区	81件05	81件No.7	土師器	壺	1/3	(10.0)				淡緑	淡緑	内:工具ナデ 外:ナデ 底面:ナデ
44	A区	81件16	81件No.7	土師器	壺	1/2	(7.0)				淡緑	淡緑-黒	ロクロナデ 外:付合後ナデ 底面:回転糸切り
45	A区	81件09	81件No.7	土師器	壺	1/4	(5.0)				淡緑	淡緑	ロクロナデ 底面:回転糸切り
46	A区	81件21	81件No.1	土師器	壺		14.4	5.9	3.1		淡緑-黒	淡緑	ロクロナデ 底面:回転糸切り 口縁:ヨコナデ
47	A区	81件17	81件No.7	土師器	壺	1/2	(11.0)	4.7	3.6		淡緑	淡緑	ロクロナデ 内:ミザ(単位不明)後黒色処理 底面:回転糸切り 口縁:ヨコナデ
48	A区	81件15	81件No.7	土師器	壺	2/5	(6.0)				淡緑	淡緑	ロクロナデ 内:ミザ(単位不明)後黒色処理 底面:回転糸切り
49	A区	81件16	81件No.7	土師器	壺	完	5.1				淡緑	淡緑	ロクロナデ 内:ミザ(単位不明)後黒色処理 底面:回転糸切り
50	A区	81件14	81件No.7	土師器	壺	3/5	6.1				淡緑	淡緑	ロクロナデ 内:ミザ(単位不明)後黒色処理 底面:回転糸切り(磨削)
51	A区	81件09	81件No.7	土師器	壺	1/12	(18.0)				淡灰	淡灰	ロクロナデ 口縁:ヨコナデ
52	A区	81件01	81件No.1	土師器	壺	7/8	完	14.8	6.0	4.6	淡灰-黒	淡灰	ロクロナデ 底面:ハケ目後-黒工具ナデ 口縁:ヨコナデ
53	A区	81件11	81件No.7	土師器	壺	1/8	1/4	(11.0)	14.5	3.4	淡白-淡緑	淡白	ロクロナデ 底面:黒地 口縁:ヨコナデ 調整用

No.	区	実測番号	基土地点	種別	設備	残存数			設置(内は復元数)			色調		整形・調整・取替の特記等
						口徑	深部	口徑	深部	普通	外層	内層		
54	AK	84作-13	84住NEフタ上	埋設管	FR		1/3		5/9	埋設	埋設			ロクロナデ 底部: 両転承切り
55	AK	84住10	84住SWフタ上	埋設管	FR			1/3	(14)	埋設	埋設			ロクロナデ 内: 両転承切り 口縁: ヨコナデ
56	AK	84住22	84住NEフタ上	陶器	FR		1/8		(17)	埋設	灰			ロクロナデ 外: 回転ヘタ型のカ、組り出し溝付 内外: 自然降付、見込小及び底部に付着物あり 取替・調整
57	AK	84住19	84住SWフタ上	灰陶管	FR		1/8		(15)	埋設	埋設			ロクロナデ 口縁: ヨコナデ 蓋部: 調整付 大取2
58	AK	84住20	84住NEフタ上	灰陶管	FR		1/8		5/9	埋設	埋設			ロクロナデ 外: 付高台後ナデ 蓋部: 調整付 大取2
59	AK	84住01	84住SWフタ上	土埋管	FR				(10)	埋	埋			ナデ
60	AK	84住04	84住フタ上	土埋管	FR		1/2		5/9	埋	埋			内: ナデ 外: 閉り、スス付着 底部: ナデ
61	AK	84住03	84住No.6	土埋管	FR		1/4	(15)	7/9	4.1	埋	埋		ロクロナデ 底部: 両転承切り 口縁: ヨコナデ
62	AK	84住02	84住SWフタ上	土埋管	FR		2/3		(7)	埋	埋			ロクロナデ 底部: 両転承切り
63	AK	84住05	84住フタ上	黒色土器A	FR		1/4		(7)	埋	黒			ロクロナデ 内: ミヅキ(保位不明)黒色色処理 外: 付高台後ナデ 底部: 両転承切り
64	AK	84住07	84住SWフタ上	埋設管	FR		1/10		(15)	埋	黒			ロクロナデ 口縁: ヨコナデ
65	AK	84住06	84住カマド	埋設管	FR		1/8		(13)	埋	黒			ロクロナデ 口縁: ヨコナデ
66	AK	84住10	84住SWフタ上	土埋管	FR		1/3		(5)	埋	埋			ロクロナデ 底部: 両転承切り
67	AK	84住03	84住No.3	黒色土器A	FR		1/4		(12)	5.9	埋	黒		ロクロナデ ミヅキ(保位不明)黒色色処理 口縁: ヨコナデ
68	AK	84住07	84住NEフタ上	黒色土器A	FR		1/4		5/9	埋	黒			ロクロナデ 内: ミヅキ(保位不明)黒色色処理 底部: 両転承切り
69	AK	84住08	84住フタ上	黒色土器A	FR		1/4		(4)	埋	黒			ロクロナデ 内: ミヅキ(保位不明)黒色色処理 両転承切り
70	AK	84住06	84住NEフタ上	黒色土器A	FR		1/8		5/9	埋	黒			ロクロナデ 内: ミヅキ(保位不明)黒色色処理 底部: 両転承切り
71	AK	84住05	84住NEフタ上	土埋管	FR		1/8		(10)	4.0	1.6	埋	埋	ロクロナデ 底部: 両転承切り 口縁: ヨコナデ
72	AK	84住09	84住NWフタ上	土埋管	FR		1/8		(10)	5.9	1.8	埋	埋	ロクロナデ 底部: 蓋部不明 口縁: ヨコナデ
73	AK	84住04	84住NEフタ上	土埋管	FR		1/2		(5)	埋	埋			ロクロナデ 底部: 両転承切り
74	AK	84住01	84住No.1	土埋管	FR		1/4		(5)	埋	埋			ロクロナデ 底部: 両転承切り
75	AK	84住08	84住No.3	土埋管	FR				7.0	埋	埋			ロクロナデ 外: 付高台後ナデ 底部: 両転承切り
76	AK	84住11	84住NWフタ上	灰陶管	FR		2/3		(7)	埋	埋			ロクロナデ 外: 付高台後ナデ 底部: 両転承切り 蓋部: 調整付 丸石
77	AK	84住12	84住フタ上	灰陶管	FR		1/2		5/9	埋	埋			ロクロナデ 外: 付高台後ナデ 底部: 両転承切り 蓋部: 調整付 丸石
78	AK	84住22	84住SEフタ上	土埋管	FR		2/3		(5)	埋	埋			内外: 正流ナデ黒色色処理 底部: 工具ナデ付
79	AK	84住10	84住No.7	土埋管	FR				(17)	5.9				口縁: ヨコナデ
80	AK	84住11	84住SWフタ上	土埋管	FR		1/8		(17)	5.9				ロクロナデ 内: 口縁付正キキ 外: ハタメ 口縁: ヨコナデ
81	AK	84住12	84住SEフタ上	土埋管	FR		1/8		(10)	埋	埋			ロクロナデ 内: キキメ 口縁: ヨコナデ
82	AK	84住14	84住No.6	土埋管	FR		1/8		(13)	埋	埋			ロクロナデ 外: ハタメ 蓋部: ナデ
83	AK	84住15	84住Wフタ上	土埋管	FR		1/4		5/9	埋	埋			ロクロナデ 底部: 両転承切り
84	AK	84住05	84住No.2	土埋管	FR		1/8		(12)	5.6	4.1	埋	埋	ロクロナデ 底部: 両転承切り 口縁: ヨコナデ
85	AK	84住01	84住底面	土埋管	FR		1/2		(5)	埋	埋			ロクロナデ 底部: 両転承切り
86	AK	84住02	84住No.9	土埋管	FR				6.1	埋	埋			ロクロナデ 底部: 両転承切り
87	AK	84住05	84住NWフタ上	土埋管	FR				5.4	埋	埋			ロクロナデ 底部: 両転承切り
88	AK	84住04	84住SWフタ上	土埋管	FR		1/8		5/9	埋	埋			ロクロナデ 底部: 両転承切り
89	AK	84住07	84住フタ上	土埋管	FR		1/3		5/9	埋	埋			ロクロナデ 外: 付高台後ナデ 底部: 両転承切り
90	AK	84住08	84住フタ上	土埋管	FR		1/2		5.2	埋	埋			ロクロナデ 外: 付高台後ナデ 底部: 両転承切り
91	AK	84住09	84住N-セルト	土埋管	FR		2/3		5.0	埋	埋			ロクロナデ 外: 付高台後ナデ 底部: 両転承切り
92	AK	84住06	84住No.4	土埋管	FR				5.9	埋	埋			ロクロナデ 外: 付高台後ナデ 底部: 両転承切り
93	AK	84住13	84住フタ上	土埋管	FR				5.8	埋	埋			ロクロナデ 外: 付高台後ナデ 底部: 両転承切り
94	AK	84住16	84住No.5	黒色土器A	FR		1/3		(14)	埋	黒			ロクロナデ 内: ミヅキ(保位不明)黒色色処理 口縁: ヨコナデ
95	AK	84住17	不明	黒色土器A	FR		1/4		(10)	埋	黒			ロクロナデ 内: ミヅキ(保位不明)黒色色処理 底部: 両転承切り
96	AK	84住18	84住N-セルト	黒色土器A	FR		1/2		(5)	埋	黒			ロクロナデ 内: ミヅキ(保位不明)黒色色処理 底部: 両転承切り
97	AK	84住19	84住Wフタ上	黒色土器A	FR		1/2		5/9	埋	黒			ロクロナデ 内: ミヅキ(保位不明)黒色色処理 底部: 両転承切り
98	AK	84住20	84住N-セルト	黒色土器A	FR		1/2		(4)	埋	黒			ロクロナデ 内: ミヅキ(保位不明)黒色色処理 底部: 両転承切り
99	AK	84住21	84住Wフタ上	黒色土器A	FR		2/3		5/9	埋	黒			ロクロナデ 内: ミヅキ(保位不明)黒色色処理 外: 付高台後ナデ 蓋部: 両転承切り
100	AK	84住20	84住フタ上	埋設管	FR				1/4	埋	埋			ロクロナデ 外: 付高台後ナデ 底部: 両転承切り
101	AK	84住24	84住フタ上	埋設管	FR				1/8	埋	埋			ロクロナデ 外: 付高台後ナデ 底部: 両転承切り
102	AK	84住22	84住フタ上	埋設管	FR		1/3		(10)	埋	埋			ロクロナデ 外: 付高台後ナデ 付高台後ナデ
103	AK	84住25	84住NWフタ上	埋設管	FR		1/4		4.0	埋	埋			ロクロナデ 外: 回転ヘタ型のカ 付高台後ナデ
104	AK	84住28	84住No.3	埋設管	FR		1/8		(27)	埋	埋			ロクロナデ 口縁: ヨコナデ
105	AK	84住27	84住Wフタ上	埋設管	FR		1/20		(33)	埋	埋			ロクロナデ 口縁: ヨコナデ
106	AK	84住29	84住SWフタ上	埋設管	FR					埋	埋			内: 蓋付 外: フタキメ 突部調整付後ナデ
107	AK	84住26	84住N-セルト	灰陶管	FR		1/5		(19)	埋	埋			ロクロナデ 口縁: ヨコナデ 蓋部: 調整付 丸石
108	AK	84住31	84住SWフタ上	灰陶管	FR		1/3		5/9	埋	埋			ロクロナデ 外: 付高台後ナデ 底部: 両転承切り カ 蓋部: 調整付 丸石

No.	区	実測番号	出土地点	種類	器種	残存率			注量(内径復元)		色澤		産地・調製・形態の特徴等	
						口径	底径	口縁	底縁	胎面	外面	内面		
109	AK	84E-30	84作NWフタ	灰胎陶器	甕		1/3		65.0		灰	灰	ロクロナデ 外:付高台後ナデ 底縁:回転糸切り 胎縁:遺跡付 大塚2	
110	AE	84E-33	84住フタ	灰胎陶器	甕		1/4		68.0		灰	灰	ロクロナデ 内:黒ね飯色肌 外:ヘク磨り 付高台後ナデ 胎縁:不明 大塚2	
111	AE	84E-37	84住フタ	灰胎陶器	甕	1/6	1/4	13.6	66.0	3.0	淡灰	淡灰	ロクロナデ 外:黒ね飯色肌 付高台後ナデ 口縁:ロコナデ 底縁:回転糸切り 胎縁:遺跡付 大塚2	
112	AE	84E-36	84住フタ	灰胎陶器	甕	1/4		13.6			淡灰	淡灰	ロクロナデ 口縁:ロコナデ 胎縁:不明 大塚2	
113	AE	84E-32	84住フタ	灰胎陶器	甕		1/4		46.0		灰	灰	ロクロナデ 内:黒ね飯色肌 外:付高台後ナデ 底縁:回転糸切り 胎縁:不明 大塚2	
114	AE	84E-34	84住NWフタ	二条鉢	灰胎陶		1/6		11.0		淡灰	灰	ロクロナデ 外:付高台後ナデ 底縁:回転糸切り	
115	AK	85E-01	85作N14	土師器	杯	1/5	1/2	12.8	11.3	4.8	焼	一筋黒灰	内:ミガキ(放射状) 外:ミガキ 底縁:放射状磨り 口縁:ロコナデ	
116	AE	85E-02	85住SWフタ	土師器	杯	1/5	1/3	13.0	10.0	5.3	焼	一筋黒灰	内:ミガキ 外:ミガキ 底縁:放射状磨り 口縁:ロコナデ	
117	AE	85E-03	85住SWフタ	土師器	杯		一筋		11.8		焼	焼	内:ミガキ 外:ミガキ 口縁:ロコナデ	
118	AK	85E-04	85住SWフタ	土師器	高杯						焼	焼	内:磨り糸(放射状)、胎縁黒肌 外:磨り不明	
119	AE	85E-21	85住NEフタ	須恵器	罎	1/8			11.0		焼	焼	ロクロナデ 口縁:ロコナデ	
120	AE	85E-05	85住No.8	土師器	罎		1/4		16.2		焼	焼	内:ハク目(放射状) 外:磨り不明 口縁:ロコナデ	
121	AE	85E-18	85住フタ	土師器	罎		1/4		16.0		焼	焼	内径:工夫ナデ 口縁:ロコナデ	
122	AK	85E-17	85作No.7	土師器	罎						焼	焼	内:磨り不明、胎縁灰色、工夫ナデ 外:工夫ナデ	
123	AE	85E-20	85住No.13	土師器	須恵器						焼	焼	内径:胎縁黒肌、工夫ナデ	
124	AK	85E-19	85作NEフタ	土師器	罎		1/6		10.2		淡焼	淡焼	内径:胎縁黒肌、工夫ナデ 外:下平磨り 底縁:不明	
125	AE	85E-25	85住No.5	土師器	罎A	1/6		12.5			焼	焼	内:胎縁黒肌、ナデ 外:工夫ナデ(磨り無し)、スス付磨り 口縁:ロコナデ	
126	AK	85E-26	85住No.12	土師器	罎						焼	焼	内:工夫ナデ(磨り) 外:ナデ後ミガキ(磨、磨滅) 把手部:取り付	
127	AE	85E-06	85住No.1	黒色土器A	杯A	3/8	完	12.4	5.7	4.0	淡焼	黒	ロクロナデ 内:ミガキ(磨り不明)胎縁黒色肌 底縁:回転糸切り 口縁:ロコナデ	
128	AK	85E-07	85住No.6	黒色土器A	杯A	3/8	完	12.1	4.7	4.3	淡焼	一筋黒灰	ロクロナデ 内:ミガキ(磨り不明)胎縁黒色肌 底縁:回転糸切り	
129	AE	85E-08	85住No.9	黒色土器A	杯A	一筋	完	12.4	5.2	3.6	焼	一筋黒灰	ロクロナデ 内:ミガキ(磨り不明)胎縁黒色肌 底縁:回転糸切り、口縁:ロコナデ	
130	AE	85E-09	85住NEフタ	黒色土器A	杯A		完		5.9		焼	焼	ロクロナデ 内:ミガキ(磨り不明)胎縁黒色肌 底縁:回転糸切り	
131	AE	85E-10	85住フタ	黒色土器A	杯A		2/3	5.1			淡焼	黒	ロクロナデ 内:ミガキ(磨り不明)胎縁黒色肌 底縁:胎縁黒色肌	
132	AE	85E-16	85住NEフタ	黒色土器A	杯A		3/3	6.0			淡焼	一筋	ロクロナデ 内:ミガキ(磨り不明)胎縁黒色肌 底縁:胎縁黒色肌	
133	AE	85E-11	85住No.3	黒色土器A	杯		完		6.6		淡焼	黒	ロクロナデ 内:ミガキ(磨り不明)胎縁黒色肌 外:付高台後ナデ 底縁:回転糸切り	
134	AE	85E-12	85住No.10	黒色土器A	杯		完		6.5		淡焼	黒	ロクロナデ 内:ミガキ(磨り不明)胎縁黒色肌 外:付高台後ナデ 胎縁:回転糸切り	
135	AE	85E-13	85住NEフタ	黒色土器A	杯		1/4	8.0			淡焼	黒	ロクロナデ 内:ミガキ(磨り不明)胎縁黒色肌 外:付高台後ナデ 胎縁:回転糸切り	
136	AK	85E-14	85住フタ	黒色土器A	杯		1/4	6.0			焼	一筋黒	ロクロナデ 内:ミガキ(磨り不明)胎縁黒色肌 外:付高台後ナデ 底縁:胎縁黒色肌	
137	AE	85E-15	85住NEフタ	黒色土器A	杯		1/4	6.0			淡焼	黒	ロクロナデ 内:ミガキ(磨り不明)胎縁黒色肌 外:付高台後ナデ 底縁:胎縁黒色肌	
138	AK	85E-22	85住SWフタ	須恵器	壺						焼	焼	ロクロナデ 外:付高台後ナデ 胎縁:胎縁黒色肌	
139	AE	85E-23	85住NEフタ	須恵器	壺		1/10	13.8			淡焼	淡焼	ロクロナデ 外:ヘク磨り、付高台後ナデ	
140	AE	85E-24	85住NEフタ	土師器	酒門						淡焼	淡焼	外:胎縁、一筋黒	
141	AK	87E-12	87住F6	縄文土器	深鉢、短小フ						焼	焼		
142	AE	87E-08	87住フタ土器	須恵器	罎AorD	1/16		10.4			灰	淡灰	ロクロナデ 口縁:ロコナデ	
143	AK	87E-09	87住No.2B	須恵器	罎AorD	1/8		10.7			焼	焼	外:ミガキ(磨り)ロクロナデ 内:ロクロナデ(アサ黒土ナデ用される) 口縁:ロコナデ 7住と遺構関係	
144	AE	87E-05	87住No.2	須恵器	罎B		1/2	14.4			焼	焼	ロクロナデ 外:ミガキ(磨り)	
145	AK	87E-06	87住フタ土器	須恵器	罎		1/2	16.0			焼	一筋	ロクロナデ 口縁:ロコナデ	
146	AK	87E-07	87住フタ土器	須恵器	罎B		1/20	16.4			焼	焼	ロクロナデ 口縁:ロコナデ	
147	AE	87E-04	87住No.1	須恵器	杯A		1/8	13.6			焼	一筋	ロクロナデ 口縁:ロコナデ	
148	AK	87E-03	87住F1	須恵器	杯A		1/4	16.0			焼	焼	ロクロナデ 底縁:胎縁黒色肌 内外:火打ナデ	
149	AE	87E-13	87住No.1	須恵器	杯B		1/8	10.0			焼	焼	ロクロナデ	
150	AE	87E-02	87住フタ	黒色土器A	杯A	1/6	完	12.5	6.4	5.2	淡焼	黒	ロクロナデ 内面:ミガキ(磨り)胎縁黒色肌 口縁:ロコナデ 底縁:胎縁黒色肌	
151	AE	87E-01	87住No.2	土師器	小罎D小	1/20		16.4			焼	焼		
152	AE	87E-10	87住NEフタ	土師器	罎口	1/2					焼	焼	胎縁灰色 一筋黒	
153	AK	87E-11	87住No.1	土師器	罎口	1/2					焼	焼	胎縁一筋 一筋黒	
154	AE	89E-06	89作フタ土上層	土師器	小型罎D				1/2	48.0	淡焼	淡焼	内径:胎縁黒肌 内:磨りナデ 外:ハク目	
155	AE	89E-05	89住フタ土下層	土師器	小型罎D					3.0	3.8	淡焼	淡焼	胎縁黒肌 外:ミガキ(磨り) 胎縁:胎縁黒色肌
156	AE	89E-04	89住フタ土上層	土師器	罎	1/2					淡焼	淡焼	胎縁黒肌 口縁:ロコナデ 底縁:胎縁黒色肌	
157	AK	89E-01	89住フタ土上層	土師器	罎		3/4				淡焼	淡焼	ロクロナデ 外:付高台後ナデ 胎縁:胎縁不明	
158	AK	89E-02	89住フタ土上層	黒色土器A	杯						淡焼	黒	ロクロナデ 内:ミガキ(放射状) 胎縁黒色肌 外:付高台後ナデ 胎縁:胎縁黒色肌	
159	AK	89E-02	89住フタ土上層	黒色土器A	杯		一筋		6.5		淡焼	淡焼	ロクロナデ 内:ミガキ(放射状) 胎縁黒色肌 外:付高台後ナデ 胎縁:胎縁黒色肌	
160	AE	89E-08	89住フタ土上層	須恵器	杯B		1/4	17.0			焼	焼	ロクロナデ 内径:火打ナデ 胎縁:胎縁黒色肌	
161	AE	89E-09	89住フタ土上層	須恵器	杯A		1/6	48.0			焼	焼	ロクロナデ 外:付高台後ナデ	
162	AE	89E-07	89住フタ土下層	土師器	杯		1/3	16.0			灰	灰	ロクロナデ 外:胎縁ヘク磨り 付高台後ナデ 胎縁:遺跡付 大塚2	
163	AK	90E-01	90作NS1-1レンナ	灰胎陶器	甕	1/5		14.2			淡焼	一筋	ロクロナデ 口縁:胎縁黒肌	

No	区	測量番号	出土地点	種別	状態	残存率			法量(内径×元高)		色調		形状・彫刻の特徴等	
						口徑	底径	口縁	底縁	取附	外縁	内面		
164	A区	9925-02	9025Wフク土	瓦輪陶器	輪		1/10	6(5)		深灰	深灰	口縁・内面	内：瓦片みに使用痕・赤褐色 外：磨けかけ残り、付高台後ナテ 底縁：回転糸切り 輪飾：濃赤け 大塚2	
166	A区	9925-06	9025No.2	土師器	小豆形D	1/4	1/3	6(6)	6(5)	67	黒	黒	口縁・内面	口縁：回転糸切り 外：ヨコナテ
166	A区	9925-06	9025P2	土師器	小豆形D	1/5		6(12)			暗褐色	黒	口縁・内面	内：口縁付カキ目 外：カキ目 口縁：ヨコナテ
167	A区	9925-04	78住Sフク土	土師器	杯A	1/5		6(6)			黒	黒	口縁：ヨコナテ	
168	A区	9925-01	78住No.23	土師器	杯A	一部欠	完	12.8	4.7	4.0	黒	黒	口縁：ヨコナテ 底縁：回転糸切り	
169	A区	9925-03	9025No.6	土師器	杯A		一部欠	6.0			淡褐色	淡褐色	口縁・内面	底縁：回転糸切りカ(濃赤)
170	A区	9925-02	78住No.5	土師器	杯A		完	5.1			黒	黒	口縁・内面	底縁：回転糸切り
171	A区	9925-09	9025No.10	黒色土師A	杯A	1/4	完	16(8)	7.4	3.3	深灰	黒	口縁・内面	内：ミガキ(放射状・横) 後黒色処理 底縁：回転糸切り 口縁：ヨコナテ
172	A区	9925-11	9025No.20	黒色土師A	杯A	1/2	完	16(6)	6.6	3.2	淡褐色	黒	口縁・内面	内：ミガキ(保形不明)後黒色処理 底縁：回転糸切り 口縁：ヨコナテ
173	A区	9925-08	9025No.4	黒色土師A	杯A	2/3	完	13(6)	5.2	3.5	淡褐色	黒	口縁・内面	内：ミガキ(放射状・横) 後黒色処理 底縁：回転糸切り 口縁：ヨコナテ
174	A区	9925-10	9025No.17	黒色土師A	杯A	3/5	完	13(5)	5.6	3.6	淡褐色	黒	口縁・内面	内：ミガキ(保形不明)後黒色処理 底縁：回転糸切り 口縁：ヨコナテ
175	A区	9925-07	78住No.6	黒色土師A	杯A	1/4	完	5.8	4.8		黒	黒	口縁・内面	内：ミガキ(放射状) 後黒色処理 底縁：回転糸切り
176	A区	9925-13	9025P7	黒色土師A	杯A	1/2		6(5)			淡褐色	黒	口縁・内面	内：ミガキ(保形不明)後黒色処理 口縁：ヨコナテ
177	A区	9925-12	9025No.9	黒色土師A	杯A	1/6		6(5)			暗褐色	黒	口縁・内面	内：ミガキ(放射状・横) 後黒色処理 口縁：ヨコナテ
178	A区	9925-14	9025No.12	黒色土師A	杯A	1/8		6(5)			淡褐色	黒	口縁・内面	内：ミガキ(放射状・横) 後黒色処理 口縁：ヨコナテ
179	A区	9925-15	78住No.18	黒色土師A	杯		1/3	6.1			淡褐色	黒	口縁・内面	内：ミガキ(放射状) 後黒色処理 外：付高台後ナテ 底縁：回転糸切りカ
180	A区	9925-16	9025No.3	黒色土師A	杯	1/12	完	14(7)	6.9	4.1	暗褐色	黒	口縁・内面	内：ミガキ(放射状・横) 後黒色処理 外：付高台後ナテ 底縁：回転糸切り 口縁：ヨコナテ
181	A区	9925-19	9025No.1	黒色土師A	加蓋形	1/3	完	6(3)	6.2	12.4	暗灰	灰	口縁・内面	底縁：回転糸切り 口縁：ヨコナテ
182	A区	9925-17	78住No.17	黒色土師A	杯A	1/2		6(5)			灰	灰	口縁・内面	内外：火打さき痕 底縁：回転糸切り
183	A区	9925-18	9025No.21	黒色土師A	杯A	1/2		6(6)			暗褐色	黒	口縁・内面	底縁：回転糸切り
184	A区	9925-20	78住Sフク土	瓦輪陶器	皿形輪	1/10		13(1)			灰	灰	口縁・内面	口縁：ヨコナテ 輪飾：磨きかけカ 先ヶ丘
185	A区	9925-21	78住前面	瓦輪陶器	皿形輪	1/8		14(4)			灰	灰	口縁・内面	口縁：ヨコナテ 輪飾：磨きかけカ 大塚2
186	A区	9925-22	78住後面	瓦輪陶器	輪		1/5	6(5)			灰	灰	口縁・内面	内：裏加蓋き痕 外：付高台後ナテ 底縁：回転糸切り 輪飾：濃赤け 大塚2
187	A区	9925-01	9025Wフク土	土師器	杯A		1/8	6(6)			暗褐色	黒	口縁・内面	底縁：回転糸切り
188	A区	9925-04	9025Wフク土	土師器	小豆形D	1/3		6(5)			暗褐色	黒	口縁・内面	外：カキ目 口縁：ヨコナテ
189	A区	9925-11	9025Wフク土	土師器	小豆形D			6(6)			暗褐色	黒	口縁・内面	外：カキ目 底縁：不明
190	A区	9925-06	9025No.1	土師器	一部欠	4/5	3/7	6(4)			暗褐色	黒	口縁・内面	内：一部工具ナテカ 外：カキ目 底縁：回転糸切り後ナテ
191	A区	9925-03	9025No.3	黒色土師A	杯	4/5	7/3	7(3)			淡褐色	黒	口縁・内面	内：ミガキ(保形不明)後黒色処理 外：付高台後ナテ 底縁：回転糸切り
192	A区	9925-01	9025Wフク土	土師器	杯A	1/4		6(5)			淡褐色	淡褐色	口縁・内面	底縁：回転糸切り
193	A区	9925-02	9025Wフク土	土師器	杯A	2/3		6(3)			淡褐色	黒	口縁・内面	底縁：回転糸切りカ(濃赤)
194	A区	9925-06	9025Wフク土	土師器	壺A	1/6		6(6)			暗褐色	黒	口縁・内面	口縁：ヨコナテ 内裏及び外周口縁付スス付
195	A区	9925-10	9025Wフク土	土師器	壺形小	1/5		6(5)			淡灰	淡灰	口縁・内面	外：下手へナテ 底縁：不明
196	A区	9925-08	9025No.3	瓦輪陶器	輪	3/8		13(8)			淡灰	淡灰	口縁・内面	外：下手へナテ 口縁：ヨコナテ 輪飾：濃赤け 大塚2
197	A区	9925-07	9025Wフク土	瓦輪陶器	輪	1/4		15(6)			灰	淡灰	口縁・内面	口縁：ヨコナテ 輪飾：濃赤け 大塚2
198	A区	9925-17	9025Wフク土	瓦輪陶器	輪		1/4	6(7)			淡灰	淡灰	口縁・内面	外：付高台後ナテ 底縁：回転糸切りカ 大塚2
199	A区	9925-11	9025No.17	黒色土師A	杯A	1/4	1/6	13(3)	6(6)	6(5)	淡褐色	黒	口縁・内面	内：ミガキ(保形不明)後黒色処理 底縁：回転糸切り 口縁：ヨコナテ
200	A区	9925-18	8025No.1	黒色土師A	杯A	1/3	完	12(8)	5.5	3.8	黒	黒	口縁・内面	内：ミガキ(保形不明)後黒色処理 底縁：回転糸切り 口縁：ヨコナテ
201	A区	9925-18	9025No.2	黒色土師A	杯A	1/3	完	12(2)	5.4	4.1	黒	黒	口縁・内面	内：ミガキ(保形不明)後黒色処理 底縁：回転糸切り 口縁：ヨコナテ
202	A区	9925-13	9025No.4	黒色土師A	杯A	1/4	1/4	12(2)	6(6)	4.6	淡褐色	黒	口縁・内面	内：ミガキ(保形不明)後黒色処理 口縁：ヨコナテ 底縁：回転糸切り
203	A区	9925-19	9025Wフク土	黒色土師A	杯A	1/4		15(3)			黒	黒	口縁・内面	内：ミガキ(保形不明)後黒色処理 口縁：ヨコナテ
204	A区	9925-15	9025Wフク土	黒色土師A	杯A	1/4	1/3	14(2)	7.0	4.1	黒	黒	口縁・内面	内：ミガキ(保形不明)後黒色処理 底縁：回転糸切り 口縁：ヨコナテ
205	A区	9925-21	9025No.8	黒色土師A	杯A		完	7.6			黒	黒	口縁・内面	内：ミガキ(放射状・横)後黒色処理 底縁：回転糸切り
206	A区	9925-20	9025No.7	黒色土師A	杯A		完	6.6			黒	黒	口縁・内面	内：ミガキ(保形不明)後黒色処理 底縁：回転糸切り
207	A区	9925-22	8025Wフク土	黒色土師A	杯		1/3	6(4)			黒	黒	口縁・内面	内：ミガキ(保形不明)後黒色処理 外：付高台後ナテ 底縁：回転糸切り
208	A区	9925-06	9025No.5	土師器	変形	1/5		6(5)			暗褐色	黒	口縁・内面	内：口縁付カキ目 口縁：ヨコナテ
209	A区	9925-03	8025No.8	土師器	小豆形D	1/6	1/4		11(1)		暗褐色	黒	口縁・内面	内：全面付カキ目 外：ハケ目、下手へナテヘナテ 底縁：ナテ
210	A区	9925-07	9025No.12	土師器	小豆形D	1/6		6(6)			暗褐色	黒	口縁・内面	口縁：ヨコナテ
211	A区	9925-08	9025No.13	土師器	小豆形D	1/4		10(6)			暗褐色	黒	口縁・内面	内：カキ目 外：カキ目(濃赤) 口縁：ヨコナテ
212	A区	9925-05	9025No.5	土師器	変形小	1/3		6(6)			暗褐色	黒	口縁・内面	外：下手へナテヘナテ 底縁：回転糸切り
213	A区	9925-02	8025No.1	土師器	小豆形Dカ		1/2	6(5)			暗褐色	黒	口縁・内面	底縁：不明
214	A区	9925-04	8025No.1	土師器	杯A	完	完	13.1	5.7	4.4	淡褐色	黒	口縁・内面	内外：スス付 底縁：回転糸切り 口縁：ヨコナテ
215	A区	9925-09	9025Wフク土	土師器	杯A	1/6		6(7)			暗褐色	黒	口縁・内面	口縁：ヨコナテ
216	A区	9925-10	9025No.11	土師器	杯A	1/4	1/3	14(8)	7(8)	3.4	淡褐色	淡褐色	口縁・内面	底縁：回転糸切り 口縁：ヨコナテ
217	A区	9925-01	82住Wフク土	土師器	杯A		完	6.4			暗褐色	黒	口縁・内面	底縁：回転糸切り
218	A区	9925-14	9025Wフク土	土師器	杯A	1/3		6(6)			暗褐色	黒	口縁・内面	底縁：回転糸切り



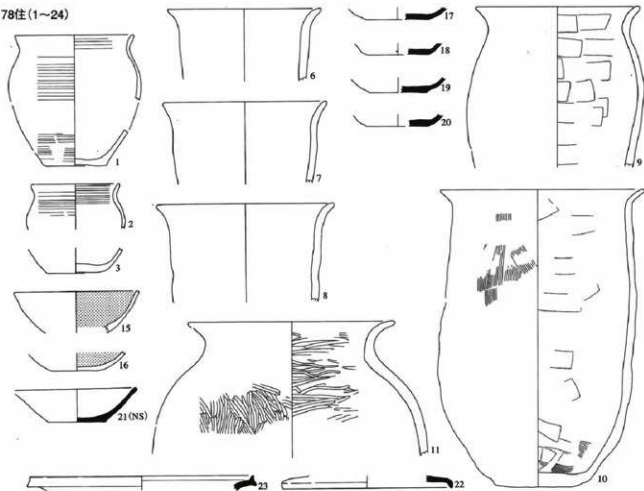
No.	区	実地番号	出土地点	種類	母種	残存度			造量(1日以内完了)			色類		造形・調色・彫刻の特徴等			
						口縁	底面	口縁	底面	底面	外壁	内面					
218	AE	96E-12	82号No.15	土壁	新A										白	焼	ロクロナデ 底面: 縦糸糸切りか(磨滅)
220	AE	96E-11	96E7No.14	土壁	新A	1/6	1/2	(13.6)	6.8							焼	ロクロナデ 口縁: ヨコナデ
221	AE	96E-27	96E7No.14	灰土	新A											白	ロクロナデ 残部: 貼り付け 灰帯: 貼り付け後ナデ
222	AE	96E-26	96E7No.14	灰土	新A											灰	ロクロナデ 外: 下層へウ工具痕跡、付高台後ナデ
223	AE	96E-25	96E7No.14	灰土	新A	1/10		(11.8)	5.6							灰	ロクロナデ 口縁: ヨコナデ
224	AE	96E-24	96E7No.3	灰土	新A	1/10		(11.8)	5.6							灰	ロクロナデ 底面: 縦糸糸切り   口縁: ヨコナデ
225	AE	96E-23	82E5No.7	灰土	新A	1/6		(11.8)	5.6							灰	ロクロナデ 底面: 縦糸糸切り
226	AE	96E-22	82E5No.9	灰土	新A	1/6	1/2	(16.6)	7.2	6.3						灰	ロクロナデ 内: 窪み跡も残。使用痕 外: 回転へウ回り、付高台後ナデ 底面: 回転へウ割り 口縁: ヨコナデ 施釉: 濃緑け 大塚2
227	AE	96E-20	82E5No.7	灰土	新A											灰	ロクロナデ 口縁: ヨコナデ
228	AE	96E-28	82E5No.10	灰土	新A											灰	ロクロナデ 内: 窪み跡も残。使用痕 外: 回転へウ回り、付高台後ナデ 底面: へウ割り 施釉: 濃緑け 大塚2か
229	AE	T-71	上7	土壁	新A	1/10		(14.6)								灰	内: 窪み跡も残。使用痕 外: 回転へウ回り、付高台後ナデ 底面: へウ割り 施釉: 濃緑け 大塚2か
230	AE	T-81	上8	土壁	新A	1/10		(14.6)								灰	内: 窪み跡も残。使用痕 外: 回転へウ回り、付高台後ナデ 底面: へウ割り 施釉: 濃緑け 大塚2か
231	AE	T-17	上17	土壁	新A											灰	内: ミガキ(窪み不明)施釉も残。使用痕: 縦糸糸切り
232	AE	3D-01	四地5Wツク土	土壁	新A	1/10		(14.6)								灰	ロクロナデ ツマミ部: 貼り付け後ナデ
233	AE	3D-02	四地5Wツク土	土壁	新A	1/10		(14.6)								灰	ロクロナデ 口縁: ヨコナデ
234	AE	3D-03	四地5Wツク土	土壁	新A	1/10		(14.6)								灰	ロクロナデ 口縁: ヨコナデ
235	AE	3D-04	四地5Wツク土	土壁	新A	1/10		(14.6)								灰	ロクロナデ 口縁: ヨコナデ
236	AE	3D-05	四地5Wツク土	土壁	新A	1/10		(14.6)								灰	ロクロナデ 口縁: ヨコナデ
237	AE	3D-06	四地5Wツク土	土壁	新A	1/10		(14.6)								灰	ロクロナデ 口縁: ヨコナデ
238	AE	3D-07	四地5Wツク土	土壁	新A	1/10		(14.6)								灰	ロクロナデ 口縁: ヨコナデ
239	AE	3D-08	四地5Wツク土	土壁	新A	1/10		(14.6)								灰	ロクロナデ 口縁: ヨコナデ
240	AE	3D-09	四地5Wツク土	土壁	新A	1/10		(14.6)								灰	ロクロナデ 口縁: ヨコナデ
241	AE	3D-10	四地5Wツク土	土壁	新A	1/10		(14.6)								灰	ロクロナデ 口縁: ヨコナデ
242	AE	3D-11	四地5Wツク土	土壁	新A	1/10		(14.6)								灰	ロクロナデ 口縁: ヨコナデ
243	AE	3D-12	四地5Wツク土	土壁	新A	1/10		(14.6)								灰	ロクロナデ 口縁: ヨコナデ
244	AE	3D-13	四地5Wツク土	土壁	新A	1/10		(14.6)								灰	ロクロナデ 口縁: ヨコナデ
245	AE	3D-14	四地5Wツク土	土壁	新A	1/10		(14.6)								灰	ロクロナデ 口縁: ヨコナデ
246	AE	3D-15	四地5Wツク土	土壁	新A	1/10		(14.6)								灰	ロクロナデ 口縁: ヨコナデ
247	AE	3D-16	四地5Wツク土	土壁	新A	1/10		(14.6)								灰	ロクロナデ 口縁: ヨコナデ
248	AE	3D-17	四地5Wツク土	土壁	新A	1/10		(14.6)								灰	ロクロナデ 口縁: ヨコナデ
249	AE	3D-18	四地5Wツク土	土壁	新A	1/10		(14.6)								灰	ロクロナデ 口縁: ヨコナデ
250	AE	3D-19	四地5Wツク土	土壁	新A	1/10		(14.6)								灰	ロクロナデ 口縁: ヨコナデ
251	AE	3D-20	四地5Wツク土	土壁	新A	1/10		(14.6)								灰	ロクロナデ 口縁: ヨコナデ
252	AE	3D-21	四地5Wツク土	土壁	新A	1/10		(14.6)								灰	ロクロナデ 口縁: ヨコナデ
253	AE	3D-22	四地5Wツク土	土壁	新A	1/10		(14.6)								灰	ロクロナデ 口縁: ヨコナデ
254	AE	3D-23	四地5Wツク土	土壁	新A	1/10		(14.6)								灰	ロクロナデ 口縁: ヨコナデ
255	AE	3D-24	四地5Wツク土	土壁	新A	1/10		(14.6)								灰	ロクロナデ 口縁: ヨコナデ
256	AE	3D-25	四地5Wツク土	土壁	新A	1/10		(14.6)								灰	ロクロナデ 口縁: ヨコナデ
257	AE	3D-26	四地5Wツク土	土壁	新A	1/10		(14.6)								灰	ロクロナデ 口縁: ヨコナデ
258	AE	3D-27	四地5Wツク土	土壁	新A	1/10		(14.6)								灰	ロクロナデ 口縁: ヨコナデ
259	AE	3D-28	四地5Wツク土	土壁	新A	1/10		(14.6)								灰	ロクロナデ 口縁: ヨコナデ
260	AE	3D-29	四地5Wツク土	土壁	新A	1/10		(14.6)								灰	ロクロナデ 口縁: ヨコナデ
261	AE	3D-30	四地5Wツク土	土壁	新A	1/10		(14.6)								灰	ロクロナデ 口縁: ヨコナデ
262	AE	3D-31	四地5Wツク土	土壁	新A	1/10		(14.6)								灰	ロクロナデ 口縁: ヨコナデ
263	AE	3D-32	四地5Wツク土	土壁	新A	1/10		(14.6)								灰	ロクロナデ 口縁: ヨコナデ
264	AE	3D-33	四地5Wツク土	土壁	新A	1/10		(14.6)								灰	ロクロナデ 口縁: ヨコナデ
265	AE	3D-34	四地5Wツク土	土壁	新A	1/10		(14.6)								灰	ロクロナデ 口縁: ヨコナデ
266	AE	3D-35	四地5Wツク土	土壁	新A	1/10		(14.6)								灰	ロクロナデ 口縁: ヨコナデ
267	AE	3D-36	四地5Wツク土	土壁	新A	1/10		(14.6)								灰	ロクロナデ 口縁: ヨコナデ
268	AE	3D-37	四地5Wツク土	土壁	新A	1/10		(14.6)								灰	ロクロナデ 口縁: ヨコナデ
269	AE	3D-38	四地5Wツク土	土壁	新A	1/10		(14.6)								灰	ロクロナデ 口縁: ヨコナデ
270	AE	3D-39	四地5Wツク土	土壁	新A	1/10		(14.6)								灰	ロクロナデ 口縁: ヨコナデ
271	AE	3D-40	四地5Wツク土	土壁	新A	1/10		(14.6)								灰	ロクロナデ 口縁: ヨコナデ
272	AE	3D-41	四地5Wツク土	土壁	新A	1/10		(14.6)								灰	ロクロナデ 口縁: ヨコナデ
273	AE	3D-42	四地5Wツク土	土壁	新A	1/10		(14.6)								灰	ロクロナデ 口縁: ヨコナデ
274	AE	3D-43	四地5Wツク土	土壁	新A	1/10		(14.6)								灰	ロクロナデ 口縁: ヨコナデ
275	AE	3D-44	四地5Wツク土	土壁	新A	1/10		(14.6)								灰	ロクロナデ 口縁: ヨコナデ
276	AE	3D-45	四地5Wツク土	土壁	新A	1/10		(14.6)								灰	ロクロナデ 口縁: ヨコナデ
277	AE	3D-46	四地5Wツク土	土壁	新A	1/10		(14.6)								灰	ロクロナデ 口縁: ヨコナデ
278	AE	3D-47	四地5Wツク土	土壁	新A	1/10		(14.6)								灰	ロクロナデ 口縁: ヨコナデ
279	AE	3D-48	四地5Wツク土	土壁	新A	1/10		(14.6)								灰	ロクロナデ 口縁: ヨコナデ
280	AE	3D-49	四地5Wツク土	土壁	新A	1/10		(14.6)								灰	ロクロナデ 口縁: ヨコナデ
281	AE	3D-50	四地5Wツク土	土壁	新A	1/10		(14.6)								灰	ロクロナデ 口縁: ヨコナデ
282	AE	3D-51	四地5Wツク土	土壁	新A	1/10		(14.6)								灰	ロクロナデ 口縁: ヨコナデ
283	AE	3D-52	四地5Wツク土	土壁	新A	1/10		(14.6)								灰	ロクロナデ 口縁: ヨコナデ
284	AE	3D-53	四地5Wツク土	土壁	新A	1/10		(14.6)								灰	ロクロナデ 口縁: ヨコナデ
285	AE	3D-54	四地5Wツク土	土壁	新A	1/10		(14.6)								灰	ロクロナデ 口縁: ヨコナデ
286	AE	3D-55	四地5Wツク土	土壁	新A	1/10		(14.6)								灰	ロクロナデ 口縁: ヨコナデ
287	AE	3D-56	四地5Wツク土	土壁	新A	1/10		(14.6)								灰	ロクロナデ 口縁: ヨコナデ
288	AE	3D-57	四地5Wツク土	土壁	新A	1/10		(14.6)								灰	ロクロナデ 口縁: ヨコナデ
289	AE	3D-58	四地5Wツク土	土壁	新A	1/10		(14.6)								灰	ロクロナデ 口縁: ヨコナデ
290	AE	3D-59	四地5Wツク土	土壁	新A	1/10		(14.6)								灰	ロクロナデ 口縁: ヨコナデ
291	AE	3D-60	四地5Wツク土	土壁	新A	1/10		(14.6)								灰	ロクロナデ 口縁: ヨコナデ
292	AE	3D-61	四地5Wツク土	土壁	新A	1/10		(14.6)								灰	ロクロナデ 口縁: ヨコナデ
293	AE	3D-62	四地5Wツク土	土壁	新A	1/10		(14.6)								灰	ロクロナデ 口縁: ヨコナデ
294	AE	3D-63	四地5Wツク土	土壁	新A	1/10		(14.6)								灰	ロクロナデ 口縁: ヨコナデ
295	AE	3D-64	四地5Wツク土	土壁	新A	1/10		(14.6)								灰	ロクロナデ 口縁: ヨコナデ
296	AE	3D-65	四地5Wツク土	土壁	新A	1/10		(14.6)								灰	ロクロナデ 口縁: ヨコナデ
297	AE	3D-66	四地5Wツク土	土壁	新A	1/10		(14.6)								灰	ロクロナデ 口縁: ヨコナデ
298	AE	3D-67	四地5Wツク土	土壁	新A	1/10		(14.6)								灰	ロクロナデ 口縁: ヨコナデ
299	AE	3D-68	四地5Wツク土	土壁	新A												

No	区	実施番号	海上地点	種別	器種	検査状況			検査(計)回数		検査		船形・船種・形番の特異等
						口様	底層	口様	底層	外部	内部		
274	A区	T-08	トレンチ6NW	検査器	ホA		1/8	08	08	既	既	ロクロナダ 底層:自動決切り	
275	A区	T-30	トレンチ14NR	検査器	ホA	1/8		(11)船		既	既	ロクロナダ 外:機部 口様:ヨコナダ	
276	A区	T-11	トレンチ25W	検査器	ホB	1/4		08	08	既	既	ロクロナダ 外:付高台後ナダ 底層:自動決切り	
277	A区	T-14	トレンチ32E	検査器	重機		1/4	08	08	既	既	ロクロナダ 外:自動決切り 付高台後ナダ 底層:自動決切り	
278	A区	T-15	トレンチ28E	検査器	重機		1/6	07	07	既	既	ロクロナダ 内:見込ム取付機 外:付高台後ナダ 底層:自動決切り 丸石2	
279	A区	T-15	トレンチ28E	検査器	重機		1/8	08	08	既	既	ロクロナダ 内:見込ム取付機 外:付高台後ナダ 底層:自動決切り 丸石2	
280	A区	ST-01	サブレレ25W	検査器	ホB	1/4		08	08	既	既	ロクロナダ 内:下員ナダ 底層:ナダ	
281	A区	ST-02	サブレレ3NW	検査器	重機		1/6	(10)船		既	既	ロクロナダ 外:ハクメナ	
282	A区	ST-03	サブレレ1NW	検査器	重機	1/4		08	08	既	既	ロクロナダ 内:ミガキ(単位不明)機部色処理 外:付高台後ナダ 底層:自動決切り	
283	A区	ST-08	サブレレ3NW	検査器	重機	1/4		(14)船		既	既	ロクロナダ 外:自動決切り 内:ヨコナダ	
284	A区	ST-05	サブレレ3NW	検査器	ホA	一部欠	1/8	(13)船	07	42	既	既	ロクロナダ 内:火打すき機 見込ム使用機 底層:自動決切り L機:ヨコナダ
285	A区	ST-06	サブレレ1NW	検査器	ホA	1/4	1/3	(13)船	07	39	既	既	ロクロナダ 内内:火打すき機 底層:自動決切り 口様:ヨコナダ
286	A区	ST-04	サブレレNE	検査器	ホA		1/2	08	08	既	既	ロクロナダ 底層:自動決切り	
287	A区	ST-07	サブレレ1NW	検査器	ホB		1/3	07	07	既	既	ロクロナダ 外:付高台後ナダ 内:自動決切り	
288	A区	ST-09	サブレレ1NW	検査器	ホB		1/2	08	08	既	既	ロクロナダ 内:一部自動決切り 外:底層:自動決切り 壳体にボウ	
289	A区	RC-03	検査器No.78	検査器	ホA	1/4	3/6	(13)船	58	39	既	既	ロクロナダ 内:ミガキ(単位不明)機部色処理 底層:自動決切り 口様:ヨコナダ
290	A区	RC-01	検査器No.101	検査器	ホA	2/9	3/6	(13)船	58	45	既	既	ロクロナダ 内:ミガキ(単位不明)機部色処理 底層:自動決切り 口様:ヨコナダ
291	A区	RC-01	検査器No.84	検査器	ホA		1/2	08	08	既	既	ロクロナダ 内:ミガキ(単位不明)機部色処理 底層:自動決切り	
292	A区	RC-02	検査器No.32	検査器	ホA		1/2	08	08	既	既	ロクロナダ 内:ミガキ(単位不明)機部色処理 底層:自動決切り	
293	A区	RC-05	検査器No.101	検査器	重機		1/4	08	08	既	既	ロクロナダ 外:付高台後ナダ	
294	A区	RC-07	検査器No.22	検査器	口様機		1/6	(04)船		既	既	口様:取り付け後ヨコナダ 見込ム:ロクロナダ 使用機あり 外:ロクロナダ機体機 底層:ロクロナダ	
295	A区	RC-15	検査器No.7	検査器	不明		1/3	07	07	既	既	ロクロナダ 内:ミガキ(単位不明)機部色処理 取り付け 単位不明 口様:ヨコナダ 本体下部に破損部あり	
296	A区	RC-11	検査器No.8	検査器	白磁	機	1/10	(14)船		既	既	ロクロナダ 口様:ヨコナダ 機部:灰白色	
297	A区	RC-12	検査器No.8	検査器	白磁	機	1/8	(14)船		既	既	ロクロナダ L機:ヨコナダ 機部:灰白色 玉砕口様	
298	A区	RC-08	検査器No.31	検査器	白磁	機				既	既	ロクロナダ 内:沈機 外:取り 機部:緑色機 外:スズ 龍巻機	
299	A区	RC-13	検査器No.28	検査器	白磁	機	1/3	08	08	既	既	ロクロナダ 内:見込ム使用機 外:付高台後ナダ、モーター機部の圧縮 底層:自動決切り	
300	A区	RC-14	検査器No.1	検査器	白磁	機	1/3	08	08	既	既	ロクロナダ 外:付高台後ナダ、モーター機部の圧縮 底層:自動決切り	
301	A区	RC-05	検査器No.1	検査器	検査機	1/8		(06)船		既	既	ロクロナダ 内:見込ム(単位不明)機部色処理 外:取り 口様:ヨコナダ	
302	A区	RC-10	検査器No.4	検査器	重機					既	既	ロクロナダ 内:機部色処理 外:落天窓、自然熱帯緑色付機 龍巻機	
303	A区	RC-09	検査器No.9	検査器	白磁	機	1/3	07	07	既	既	外:取り 機部:緑色機 外:一部黒色	
304	B区	91位-02	91位ベルトS	土師器	兼A	1/16		(26)船		既	既	機部:黒色機 機部:黒色機 内内:工員ナダ 口様:ヨコナダ	
305	B区	91位-03	91位SP7ク上	土師器	兼A		5/6	09	09	既	既	機部:黒色機 機部:黒色機 内内:工員ナダ 底層:本機部	
306	B区	91位-06	91位NW7ク上	土師器	兼B		1/3	07	07	既	既	機部:黒色機 機部:黒色機 内内:工員ナダ 外:ハクメ 底層:本機部	
307	B区	91位-08	N219 E207	土師器	兼A		1/3	08	08	既	既	機部:黒色機 機部:黒色機 内内:工員ナダ 底層:ナダ	
308	B区	91位-11	N216 E207	土師器	兼A		1/4	08	08	既	既	機部:黒色機 機部:黒色機 内内:工員ナダ 外:ナダ 底層:本機部	
309	B区	91位-04	91位No.2	土師器	兼A		1/2	07	07	既	既	機部:黒色機 機部:黒色機 内内:工員ナダ 内:機部色処理 底層:ナダ	
310	B区	91位-07	91位P1	土師器	兼A		1/4	08	08	既	既	機部:黒色機 機部:黒色機 内内:工員ナダ 底層:工員ナダ	
311	B区	91位-10	91位P1	土師器	兼A		1/4	08	08	既	既	機部:黒色機 機部:黒色機 内内:工員ナダ 底層:工員ナダ	
312	B区	91位-15	91位No.15	土師器	兼A		1/6	08	08	既	既	機部:黒色機 機部:黒色機 内内:工員ナダ 外:機部色処理 口様:ヨコナダ	
313	B区	91位-13	91位P1	土師器	兼A		1/6	(27)船		既	既	機部:黒色機 機部:黒色機 内内:工員ナダ 内:機部色処理 口様:ヨコナダ	
314	B区	91位-14	91位No.1	土師器	兼A		1/2	(22)船		既	既	機部:黒色機 機部:黒色機 内内:工員ナダ L機:ヨコナダ	
315	B区	91位-09	91位P1	土師器	兼A		1/6	(12)船		既	既	機部:黒色機 機部:黒色機 内内:工員ナダ L機:ヨコナダ	
316	B区	91位-01	N219 E210	土師器	兼A		1/6	(14)船		既	既	機部:黒色機 機部:黒色機 内内:ナダ 口様:ヨコナダ	
317	B区	91位-16	91位ホマDS	土師器	兼A		3/4	06	04	33	33	既	機部:黒色機 機部:黒色機 内内:工員ナダ 内:機部色処理、スス付機 口様:ヨコナダ
318	B区	91位-30	91位P1	土師器	兼B		1/6	(27)船		既	既	機部:黒色機 機部:黒色機 内内:工員ナダ 内:機部色処理 外:ハクメ 口様:ヨコナダ	
319	B区	91位-31	91位P1	土師器	兼B		1/6	(27)船		既	既	機部:黒色機 機部:黒色機 内内:工員ナダ 内:機部色処理 外:ハクメ 底層:本機部	
320	B区	91位-12	N216 E204	土師器	兼A		1/12	08	08	既	既	機部:黒色機 機部:黒色機 内内:ミガキ(単位不明)機部色処理 外:底層不明	
321	B区	91位-20	91位非標準ク上	土師器	兼B		1/2	3/4	30	13	72	既	機部:黒色機 機部:黒色機 内内:工員ナダ 内:自動決切り、付高台後ナダ L機:ヨコナダ
322	B区	91位-28	91位非標準ク上	土師器	兼B		1/2	(04)船		既	既	機部:黒色機 機部:黒色機 内内:工員ナダ 内:機部色処理 外:底層不明	
323	B区	91位-29	91位非標準ク上	土師器	兼B		1/8	08	08	既	既	機部:黒色機 機部:黒色機 内内:工員ナダ 外:機部色処理 口様:ヨコナダ	
324	B区	91位-04	91位No.29	土師器	兼B		1/2	(13)船		26	26	既	機部:黒色機 機部:黒色機 内内:工員ナダ 内:機部色処理 口様:ヨコナダ
325	B区	91位-23	N216 E210	土師器	兼B		1/10	(15)船		34	34	既	機部:黒色機 機部:黒色機 内内:工員ナダ 内:機部色処理 口様:ヨコナダ
326	B区	91位-25	91位ク上	土師器	兼B		1/4	(15)船		既	既	機部:黒色機 機部:黒色機 内内:工員ナダ L機:ヨコナダ	
327	B区	91位-26	91位No.11	土師器	兼B		1/2	(15)船		既	既	機部:黒色機 機部:黒色機 内内:工員ナダ 外:機部色処理、黒色機付付付付機 口様:ヨコナダ	
328	B区	91位-17	91位No.21	土師器	兼A		7/8	5/6	60	39	既	既	機部:黒色機 機部:黒色機 内内:工員ナダ 外:機部色処理、黒色機付付付付機 口様:ヨコナダ

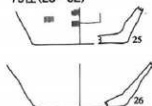
No.	区	実測番号	土地地点	種別	特種	残存度			注量(内は復元度)			色調		建形・調査・形装の特徴等
						口幅	高部	口幅	高部	高	外置	内置		
329	B区	91年-18	91年No.3	児童遊園	床A	3/4	窓欠	14.1	7.0	4.9	灰沢	灰沢	ロクロナダ 底面:ヘタ切り段工員ナダ	
330	B区	91年-19	91年No.7ナ土	児童遊園	床A	3/6		13.6			暗灰	灰	ロクロナダ 口縁:ロクロナダ	
331	B区	91年-20	91年No.16	児童遊園	床A	3/4	窓	15.8	4.6	4.6	灰~暗灰	暗灰	ロクロナダ 底面:ヘタ切り段ヘタ切り、ヘタ切り 口縁:ロクロナダ	
332	B区	91年-21	91年No.39	児童遊園	床A	1/4	1/2	(14.6)	(5.6)	8.1	灰	灰	ロクロナダ 外:沈滞、下平ヘタ切り 底面:ヘタ切り段工員ナダ 口縁:ロクロナダ	
333	B区	91年-27	91年No.28	児童遊園	内山境	窓	1/2	11.3	(19.4)	9.4	灰~黒灰	灰	ロクロナダ 側面:廻り付付 口縁:黒漆塗;ロクロナダ スカシ:ヘタ段工員によるくねり(固定24単位) 表裏面:使用済	
334	B区	91年-05	91年No.7ナ土	土師器	高杯	窓	1/2			6.6	淡緑	黒	内:ナダ;外:ミヅキ(濃緑色) 器部:割漆	
335	B区	93年-01	93年No.1	児童遊園	雑草						白灰	白灰	内:漆喰不明;外:タチキモ、両色(濃緑)	
336	B区	土35-01	土17ナ土	土師器	高杯	窓		(20.4)			黒	暗緑	内外:ミヅキ(濃緑色) 口縁:ロクロナダ	
337	B区	土34-01	土37ナ土	土師器	高杯	窓		(19.8)			黒	暗緑	内外:ミヅキ(濃緑色) 口縁:ロクロナダ	
338	CE区	97年-04	97年No.7	土師器	高杯	窓		(24.9)			黒	暗	内:ロクロナダ 外:ハタ目 口縁:ロクロナダ	
339	CE区	97年-05	97年No.9	土師器	高杯	窓		(23.9)			淡緑~暗緑	淡緑~暗緑	ロクロナダ、内:一部土師器ナダ 外:ハタ目 口縁:ロクロナダ	
340	CE区	97年-02	97年No.1	土師器	小型高杯	窓	1/3	15.8	8.4	10.7	暗~暗緑	暗	ロクロナダ 内:一部黒灰、灰:土師器 底面:固定転切り 口縁:ロクロナダ	
341	CE区	97年-03	97年No.9	土師器	高杯	一部		6.6			暗~暗緑	淡緑	内外:ハタ目 外:下塗;内:黒漆;ナダ	
342	CE区	97年-01	97年No.3	児童遊園	床A	3/4	3/6	13.3	6.7	4.8	灰~淡灰	灰	ロクロナダ 底面:ヘタ切り段ナダ 口縁:ロクロナダ	
343	CE区	98年-01	98年No.7ナ土	土師器	高杯	窓		(11.6)			暗緑	暗緑	内:ミヅキ(濃緑) 外~底面:暗灰 口縁:ロクロナダ	
344	CE区	98年-02	98年No.7ナ土	土師器	高杯	窓	1/8	1/8	(10.2)	(7.0)	暗~暗緑	暗~暗緑	内:ミヅキ(濃緑) 外~底面:暗灰(濃緑) 口縁:ロクロナダ	
345	CE区	99年-01	99年No.3	土師器	高杯	窓	1/3	1/3	(19.9)		暗~暗緑	暗~暗緑	ロクロナダ 内:黒漆のみ、ハタ目後工員ナダ 外:黒漆のみ、ハタ目、一部黒灰 下塗:下持ちヘタ切りカ 口縁:ロクロナダ	
346	CE区	99年-07	99年No.1	土師器	高杯	窓		1.2		20.0	暗~暗緑	暗	内外:黒漆のみ、工員ナダ、外:下塗;下持ちヘタ切り 口縁:ロクロナダ	
347	CE区	99年-05	99年No.7ナ土	土師器	高杯	窓		1/16		(11.4)	暗緑	淡緑~暗緑	内:暗ナダ 外~底面:漆喰不明	
348	CE区	99年-01	99年No.7ナ土	土師器	高杯	窓	1/3	12.7	(13.2)	12.6	4.6	暗~暗緑	淡緑~淡灰緑	内:ミヅキ(濃緑) 外:下塗;ハタ目 底面:手持ちヘタ切り 口縁:ロクロナダ
349	CE区	99年-02	99年No.7ナ土	土師器	高杯	窓	1/4	(13.2)			暗~暗緑	暗	内:ミヅキ(濃緑色) 外:下塗、一部黒灰、手持ちヘタ切り 口縁:ロクロナダ	
350	CE区	99年-03	99年No.7ナ土	土師器	高杯	窓	1/5	(17.3)			暗~黒	暗	内:ミヅキ(濃緑色) 外:下塗、一部黒灰、手持ちヘタ切り(濃緑) 口縁:ロクロナダ	
351	CE区	102年-08	102年No.1	土師器	小型高杯	窓		(12.1)			黒、黒灰	黒、黒灰	内:土師器後ミヅキ(濃緑)黒色黒灰 外:工員ナダ(濃緑) 口縁:ロクロナダ	
352	CE区	102年-04	102年No.1	土師器	小型高杯	窓	2/5	(12.9)			暗緑~暗緑	黒漆	内:工員ナダ、ミヅキ(濃緑色) 外:ナダ 口縁:ロクロナダ	
353	CE区	102年-07	102年No.2	土師器	小型高杯	窓	3/4		6.3		暗緑	暗緑~黒漆	内:工員ナダ 外:ナダ(濃緑) 底面:ナダ	
354	CE区	102年-09	102年No.7	土師器	高杯	窓		(16.4)			淡緑、一部黒灰	暗~暗緑	内、外:黒漆のみ、工員ナダ 口縁:ロクロナダ	
355	CE区	102年-11	102年No.5	土師器	高杯	窓	1/6	窓	(18.9)	5.9	60.8	暗~暗緑	暗~暗緑	内外:黒漆のみ、工員ナダ 底面:木炭灰、ナダ 口縁:ロクロナダ
356	CE区	102年-08	102年No.5	土師器	高杯	窓	1/4	(24.1)			淡緑	淡緑	内:黒漆のみ、工員ナダ 外:工員ナダ(濃緑) 口縁:ロクロナダ	
357	CE区	102年-06	102年No.5	土師器	高杯	窓		(24.4)			暗緑~濃緑	暗	内外:ナダ(濃緑) 口縁:ロクロナダ	
358	CE区	102年-10	102年No.3	土師器	高杯	窓	1/3	1/3	24.7	24.7	24.7	暗、黒灰	暗~暗緑	内外:黒漆のみ、工員ナダ 口縁:ロクロナダ 底面:木炭灰、ナダ
359	CE区	102年-09	102年No.7	土師器	高杯	窓		(22.3)			淡緑	淡緑~淡灰緑	内外:ナダ 外:ハタ目(濃緑) 口縁:ロクロナダ	
360	CE区	103年-01	103年No.7ナ土	土師器	高杯	窓	1/5	(10.3)			淡緑	淡緑	ロクロナダ 外:黒漆(ハタ目) 口縁:ロクロナダ	
361	CE区	103年-01	103年No.7ナ土	土師器	高杯	窓	1/2	(7.0)			淡灰	淡灰	ロクロナダ 外:白灰(濃緑) 底面:固定転切り、丸石	
362	CE区	104年-04	104年No.7ナ土	児童遊園	床A	窓					灰	灰	ロクロナダ 側面:土師、土師、下塗に準じ、中央に沈滞	
363	CE区	104年-02	104年No.7ナ土	土師器	高杯	窓					暗緑	黒	内:ミヅキ(濃緑色) 外:工員ナダ後ミヅキ 側面:内面黒色、暗緑;ロクロナダ	
364	CE区	104年-01	104年No.7ナ土	土師器	高杯	窓	1/4		5.6		暗緑	暗緑	内:工員ナダ 外:ナダ、窓(ハタ目) 底面:ナダ	
365	CE区	104年-05	104年No.1	土師器	高杯	窓	1/3	1/2	(18.1)	(9.0)	34.7	淡緑~暗緑	淡緑~暗緑	内外:黒漆のみ、工員ナダ 外面:スチ付巻 底面:木炭灰 口縁:ロクロナダ
366	CE区	104年-03	104年No.5	土師器	高杯	窓	1/3		20		黒灰	黒灰	内:工員ナダ、ハタ目 外:工員ナダ、僅かにハタ目 底面:火漆 口縁:ロクロナダ	
367	CE区	105年-05	105年No.1	土師器	高杯	窓	1/3	18.1	(7.3)	30.2	暗~暗緑	暗	内外:黒漆のみ、工員ナダ 外:下塗~底面(暗) 口縁:ロクロナダ	
368	CE区	106年-04	106年No.7ナ土	土師器	高杯	窓		1/12	(15.0)		淡暗緑	暗緑	内:工員ナダ 口縁:ロクロナダ	
369	CE区	106年-01	106年No.1	児童遊園	高杯	窓					灰灰~暗灰	灰灰	ロクロナダ 外:材部(下塗)のみ 側面:漆喰カ	
370	CE区	106年-03	106年No.7ナ土	児童遊園	高杯	窓					暗灰	暗灰	ロクロナダ、口縁:ロクロナダ	
371	CE区	106年-02	106年No.7ナ土	児童遊園	高杯	窓		1/6		(10.6)	灰	灰	ロクロナダ 内:欠損不明 底面:手持ちヘタ切り	
372	CE区	106年-01	106年No.7ナ土	土師器	高杯	窓	1/8	(14.6)			暗緑~暗緑	暗	内面:漆喰不明	
373	CE区	107年-06	107年No.7ナ土	土師器	高杯	窓	1/6	(14.6)			暗緑	暗緑	内:ナダ、口縁付(ハタ目) 外:ハタ目 口縁:ロクロナダ	
374	CE区	107年-04	107年No.7ナ土	児童遊園	床A	窓		(10.4)			灰	暗灰	ロクロナダ 口縁:ロクロナダ	
375	CE区	107年-01	107年No.7ナ土	児童遊園	床	窓		1/6	(12.6)		青灰	青灰	ロクロナダ 口縁:ロクロナダ	
376	CE区	107年-02	107年No.7ナ土	児童遊園	床	窓	1/10	(13.0)			灰	灰白	ロクロナダ 口縁:ロクロナダ 窓:付カ	
377	CE区	107年-05	107年No.7ナ土	児童遊園	高杯	窓					灰白	灰白	ロクロナダ、黒漆(濃緑)	
378	CE区	107年-03	107年No.7ナ土	児童遊園	高杯	窓					灰白	灰白	ロクロナダ 内:口縁付(沈滞)カ	
379	CE区	108年-01	108年No.1	児童遊園	高杯	窓			8.4		黒	暗	ロクロナダ 底面:ヘタ切り(僅かにハタ目)	
380	CE区	110年-08	110年No.7ナ土	土師器	高杯	窓	1/8	(15.0)			暗緑~暗緑	暗緑~暗緑	内:工員ナダ 外:ハタ目 口縁:ロクロナダ	
381	CE区	110年-09	110年No.7ナ土	土師器	高杯	窓		1/3	(10.0)		黒	黒	内:工員ナダカ 外:工員ナダ 下塗:暗	
382	CE区	110年-05	110年No.7ナ土	土師器	高杯	窓	1/2	(7.0)			暗	暗	内外:底面:工員ナダ	
383	CE区	110年-04	110年No.7ナ土	土師器	高杯	窓	1/4	(7.0)			暗緑	暗	内外:工員ナダ	

No.	区	実測番号	出土地点	種類	標高	残存度			色調			形状・調整・彫刻の特徴等		
						口径	底径	口縁	底面	縁部	外面		内面	
384	CR	110E-05	110Eフタ上	土師器	杯			1/4	緑色	黒	黒	内：ナテ・下具ナテ(黄緑) 外：ナテ(黄緑)		
385	CR	110E-01	110Eフタ上	土師器	杯	1/10			(13)	3.5	薄緑～緑	内：ミギギ小(黄緑、不明)後部色地削 外：ミギギ(黄緑) 底面：黄緑不明		
386	CR	110F-05	110FNo.1	土師器	杯						黒	内：ミギギ小(黄緑、不明)後部色地削 外：上半部黄緑 下半：手持ちヘラ削り(黄緑)		
387	CR	110E-05	110Eフタ上	土師器	杯						黄緑	内：ミギギ小(黄緑、不明)後部色地削 外：ミギギ(黄緑) 下半：手持ちヘラ削り(黄緑)		
388	CR	110E-10	110ENo.2	土師器	杯A	1/5	2/3	緑色	4.7	2.1	黄緑	内：ミギギ小(黄緑、不明)後部色地削 外：ミギギ(黄緑) 下半：手持ちヘラ削り(黄緑)		
389	CR	110E-11	110Eキヤマ	土師器	杯A	1/3		茶	(18)	6.6	4.6	黄緑	内：ミギギ小(黄緑、不明)後部色地削 外：ミギギ(黄緑) 下半：手持ちヘラ削り(黄緑)	
390	CR	110E-11	110ENo.1	土師器	杯A	1/4			(14.7)			黄緑	内：ミギギ小(黄緑、不明)後部色地削 外：ミギギ(黄緑) 下半：手持ちヘラ削り(黄緑)	
391	CR	110E-07	110ENo.1	土師器	杯小	1/4	1/4	(23.3)	(14.4)	6.0		黄～黒	内：ナテ(黄緑、不明)後部色地削 外：ミギギ(黄緑) 下半：手持ちヘラ削り(黄緑)	
392	CR	111F-09	111FNo.7	土師器	甕	1/16			(27.0)			黄緑	内：ナテ(黄緑、不明)後部色地削 外：ミギギ(黄緑) 下半：手持ちヘラ削り(黄緑)	
393	CR	111E-01	111Eキヤマ	土師器	杯A	1/8	1/2	(16.0)	(5.0)	2.5	黄赤黄	黄赤黄	内：ナテ(黄緑、不明)後部色地削 外：ミギギ(黄緑) 下半：手持ちヘラ削り(黄緑)	
394	CR	111F-01	111FNo.1	土師器	杯A	1/3			(6.0)	6.1	2.4	黄緑	内：ナテ(黄緑、不明)後部色地削 外：ミギギ(黄緑) 下半：手持ちヘラ削り(黄緑)	
395	CR	111E-04	111ENo.2	土師器	甕	1/6			(26.0)			黄緑	内：ナテ(黄緑、不明)後部色地削 外：ミギギ(黄緑) 下半：手持ちヘラ削り(黄緑)	
396	CR	111E-08	111Eキヤマ	土師器	甕	2/8			(15.6)			黄緑	内：ナテ(黄緑、不明)後部色地削 外：ミギギ(黄緑) 下半：手持ちヘラ削り(黄緑)	
397	CR	111F-03	111FNo.5	黒色土器A	甕	寛	3/4	9.3	5.1	4.1	黄赤	黄赤	内：ミギギ(黄緑)後部色地削 外：ミギギ(黄緑) 下半：手持ちヘラ削り(黄緑)	
398	CR	111E-06	111Eフタ上	灰黒陶器	甕	1/8			(25.4)			灰白	内：ナテ(黄緑、不明)後部色地削 外：ミギギ(黄緑) 下半：手持ちヘラ削り(黄緑)	
399	CR	111E-07	111Eフタ上	灰黒陶器	甕	1/2			(14.0)			灰白	内：ナテ(黄緑、不明)後部色地削 外：ミギギ(黄緑) 下半：手持ちヘラ削り(黄緑)	
400	CR	111E-08	111ENo.6	灰黒陶器	甕	1/2						灰白	内：ナテ(黄緑、不明)後部色地削 外：ミギギ(黄緑) 下半：手持ちヘラ削り(黄緑)	
401	CR	112E-01	112ENo.3	土師器	小甕	1/2			(7.3)			黄	内：ナテ(黄緑、不明)後部色地削 外：ミギギ(黄緑) 下半：手持ちヘラ削り(黄緑)	
402	CR	112E-02	112ENo.4	土師器	小甕	一般残			(12.0)	19.5	14.6	黄～緑	黄	内：ナテ(黄緑、不明)後部色地削 外：ミギギ(黄緑) 下半：手持ちヘラ削り(黄緑)
403	CR	112E-01	112Eキヤマ	土師器	甕	1/3			(7.0)			黄	内：ナテ(黄緑、不明)後部色地削 外：ミギギ(黄緑) 下半：手持ちヘラ削り(黄緑)	
404	CR	112E-04	112ENo.1	土師器	甕	寛		16.2	8.8	34.0		黄～緑	黄	内：ナテ(黄緑、不明)後部色地削 外：ミギギ(黄緑) 下半：手持ちヘラ削り(黄緑)
405	CR	112E-05	112ENo.6	土師器	甕	部欠		20.3	6.9	38.4		黄～緑	黄	内：ナテ(黄緑、不明)後部色地削 外：ミギギ(黄緑) 下半：手持ちヘラ削り(黄緑)
406	CR	113E-01	113Eフタ上	土師器	甕B	1/4	1/4	(6.0)	6.0	2.9		黄	内：ナテ(黄緑、不明)後部色地削 外：ミギギ(黄緑) 下半：手持ちヘラ削り(黄緑)	
407	CR	113E-05	113ENo.3	土師器	甕B	1/4	1/4	(6.0)	6.5	3.4		黄	内：ナテ(黄緑、不明)後部色地削 外：ミギギ(黄緑) 下半：手持ちヘラ削り(黄緑)	
408	CR	113E-05	113ENo.3	灰黒陶器	甕	1/2			(12.5)			黄	内：ナテ(黄緑、不明)後部色地削 外：ミギギ(黄緑) 下半：手持ちヘラ削り(黄緑)	
409	CR	124E-01	*124フタ上	土師器	甕					6.8		黄	内：ミギギ(黄緑)後部色地削 外：ミギギ(黄緑) 下半：手持ちヘラ削り(黄緑)	
410	CR	124E-01	*124フタ上	青白陶器	甕	1/6						青白	内：ミギギ(黄緑)後部色地削 外：ミギギ(黄緑) 下半：手持ちヘラ削り(黄緑)	
411	CR	124E-01	*124フタ上	青白陶器	甕	1/6				(11.9)		青白	内：ミギギ(黄緑)後部色地削 外：ミギギ(黄緑) 下半：手持ちヘラ削り(黄緑)	
412	CR	124E-02	*124フタ上	灰黒陶器	甕	1/4			(7.0)			黄	内：ミギギ(黄緑)後部色地削 外：ミギギ(黄緑) 下半：手持ちヘラ削り(黄緑)	
413	CR	F16E-01	F16Eフタ上	土師器	甕			2/3		66.0		黄	内：ミギギ(黄緑)後部色地削 外：ミギギ(黄緑) 下半：手持ちヘラ削り(黄緑)	
414	CR	F17E-01	F17フタ上	土師器	甕	1/6			(22.0)			黄	内：ミギギ(黄緑)後部色地削 外：ミギギ(黄緑) 下半：手持ちヘラ削り(黄緑)	
415	CR	124E-101	124Eフタ上	青磁	甕			1/2		(4.3)		黄緑	内：ミギギ(黄緑)後部色地削 外：ミギギ(黄緑) 下半：手持ちヘラ削り(黄緑)	
416	CR	G-01	N120 E228	黄赤陶	甕	1/4			(33.2)			黄赤	内：ミギギ(黄緑)後部色地削 外：ミギギ(黄緑) 下半：手持ちヘラ削り(黄緑)	
417	CR	G-02	N120 E291	黄赤陶	甕	1/12			(33.0)			黄赤	内：ミギギ(黄緑)後部色地削 外：ミギギ(黄緑) 下半：手持ちヘラ削り(黄緑)	
418	CR	検-01	検出No.11	土師器	甕					6.2		黄	内：ミギギ(黄緑)後部色地削 外：ミギギ(黄緑) 下半：手持ちヘラ削り(黄緑)	
419	CR	検-03	検出No.9	土師器	甕	1/4			(15.0)	34.0		黄～黒	黄	内：ミギギ(黄緑)後部色地削 外：ミギギ(黄緑) 下半：手持ちヘラ削り(黄緑)
420	CR	検-02	検出No.2	土師器	甕	1/8			(26.0)			黄	内：ミギギ(黄緑)後部色地削 外：ミギギ(黄緑) 下半：手持ちヘラ削り(黄緑)	
421	DR	検-01	検出No.1	赤土器	杯A	一般残		1/3	(11.4)	(7.3)	2.9	黄～緑	黄～緑	内：ナテ(黄緑、不明)後部色地削 外：ミギギ(黄緑) 下半：手持ちヘラ削り(黄緑)
422	DR	検-02	検出No.2	赤土器	小甕	一般残			(8.0)			黄	内：ナテ(黄緑、不明)後部色地削 外：ミギギ(黄緑) 下半：手持ちヘラ削り(黄緑)	
423	DR	検-01	検出No.1	赤土器	杯A	1/8	3/8	1/4	(14.0)	6.0		黄	内：ナテ(黄緑、不明)後部色地削 外：ミギギ(黄緑) 下半：手持ちヘラ削り(黄緑)	
424	DR	T-01	トレンチ2	黄赤陶	甕	1/6			(12.0)			黄	内：ナテ(黄緑、不明)後部色地削 外：ミギギ(黄緑) 下半：手持ちヘラ削り(黄緑)	
425	DR	T-02	トレンチ5	黄赤陶	杯A	1/8			(2.5)	5.8	3.8	黄赤	内：ナテ(黄緑、不明)後部色地削 外：ミギギ(黄緑) 下半：手持ちヘラ削り(黄緑)	
426	DR	検-01	検出No.1	土師器	甕B	3/4			(7.0)			黄	内：ナテ(黄緑、不明)後部色地削 外：ミギギ(黄緑) 下半：手持ちヘラ削り(黄緑)	
427	DR	検-02	検出No.2	土師器	杯小	1/8			(21.4)			黄	内：ナテ(黄緑、不明)後部色地削 外：ミギギ(黄緑) 下半：手持ちヘラ削り(黄緑)	
428	DR	検-04	検出No.4	黄赤陶	杯A	1/6			7.2			黄	内：ナテ(黄緑、不明)後部色地削 外：ミギギ(黄緑) 下半：手持ちヘラ削り(黄緑)	
429	DR	検-03	検出No.3	黄赤陶	杯A	1/10	1/5	(14.0)	(11.4)	4.2		黄	内：ナテ(黄緑、不明)後部色地削 外：ミギギ(黄緑) 下半：手持ちヘラ削り(黄緑)	
430	DR	検-01	検出No.2	黄赤陶	甕B	1/4			(14.0)			黄	内：ナテ(黄緑、不明)後部色地削 外：ミギギ(黄緑) 下半：手持ちヘラ削り(黄緑)	
431	DR	石16-01	石割	土師器	杯A	1/3	1/4	(14.0)	64.0	3.9		黄	内：ナテ(黄緑、不明)後部色地削 外：ミギギ(黄緑) 下半：手持ちヘラ削り(黄緑)	
432	DR	石16-02	石割	黄赤陶	甕B	1/5	2/2	(15.0)	60.0	7.2		黄	内：ナテ(黄緑、不明)後部色地削 外：ミギギ(黄緑) 下半：手持ちヘラ削り(黄緑)	
433	DR	G-01	N130 E130	黄赤陶	甕B	1/12	1/2	(15.6)	(6.0)	6.6		黄～緑	黄～緑	内：ナテ(黄緑、不明)後部色地削 外：ミギギ(黄緑) 下半：手持ちヘラ削り(黄緑)
434	DR	G-02	N135 E130	黄赤陶	甕	一般残			(28.3)			黄～緑	黄～緑	内：ナテ(黄緑、不明)後部色地削 外：ミギギ(黄緑) 下半：手持ちヘラ削り(黄緑)
435	DR	検-02	検出No.2	黄赤陶	甕	1/8			(11.0)			黄	内：ナテ(黄緑、不明)後部色地削 外：ミギギ(黄緑) 下半：手持ちヘラ削り(黄緑)	
436	DR	検-03	検出No.3	黄赤陶	甕	1/12			(15.4)			黄	内：ナテ(黄緑、不明)後部色地削 外：ミギギ(黄緑) 下半：手持ちヘラ削り(黄緑)	
437	DR	検-01	検出No.1	黄赤陶	甕	1/9			(14.3)			黄	内：ナテ(黄緑、不明)後部色地削 外：ミギギ(黄緑) 下半：手持ちヘラ削り(黄緑)	
438	DR	検-04	検出No.2	黄赤陶	甕			1/3		(5.2)		黄	内：ナテ(黄緑、不明)後部色地削 外：ミギギ(黄緑) 下半：手持ちヘラ削り(黄緑)	

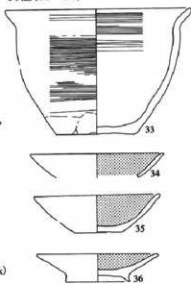
78住(1~24)



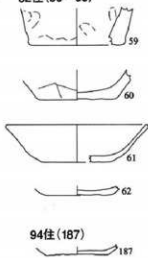
79住(25~32)



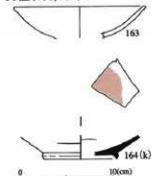
80住(33~36)



82住(59~65)

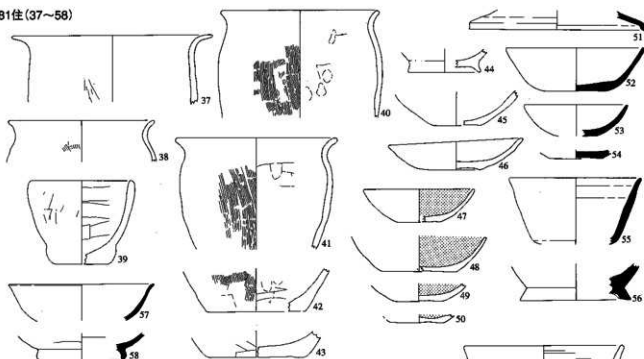


90住(163, 164)

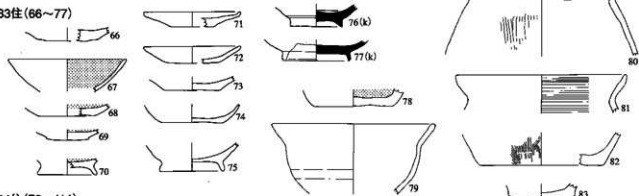


第21図 土器・陶磁器(A地区1)

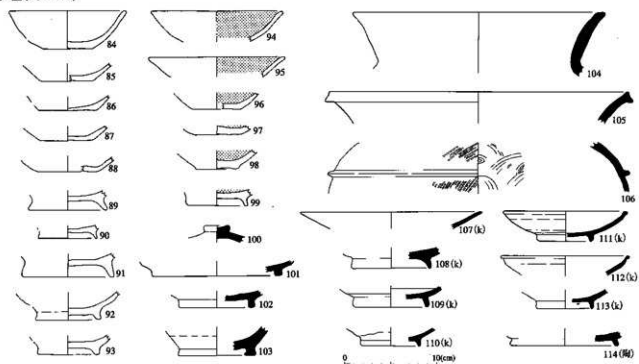
81住(37~58)



83住(66~77)

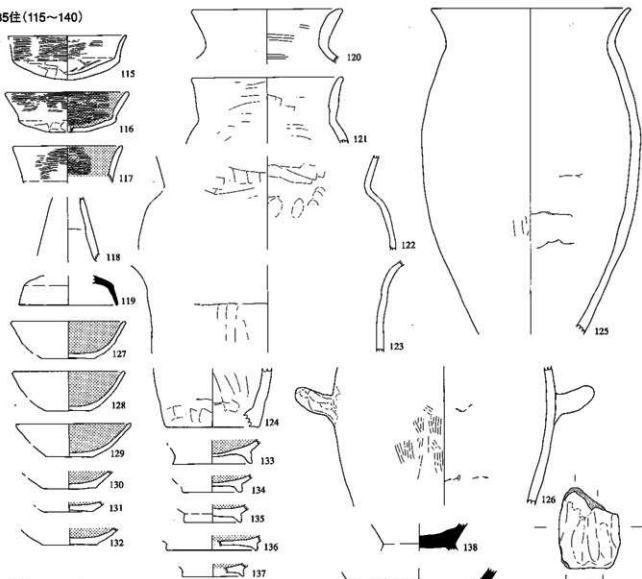


84住(78~114)

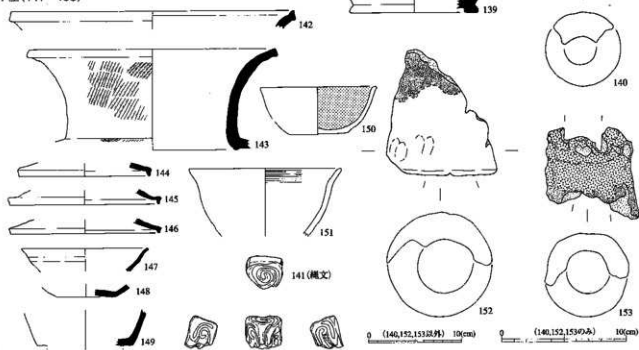


第22図 土器・陶磁器(A地区2)

85住(115~140)

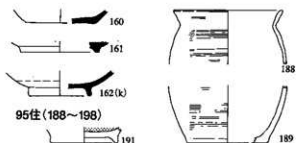
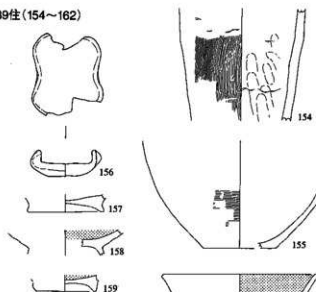


87住(141~153)

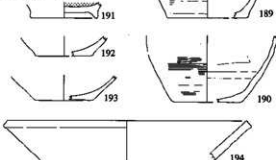


第23図 土器・陶磁器(A地区3)

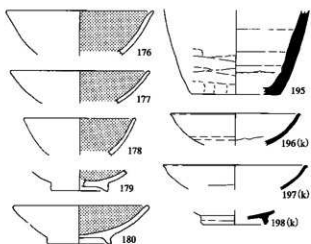
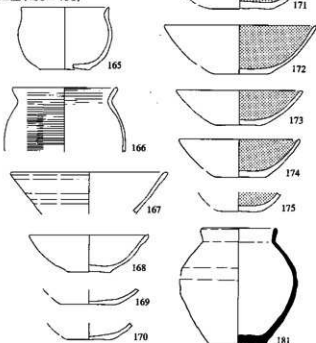
89住 (154~162)



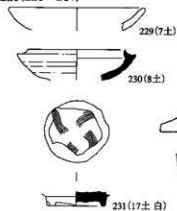
95住 (188~198)



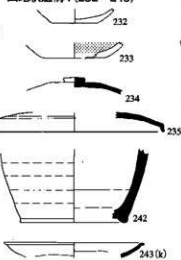
92住 (165~186)



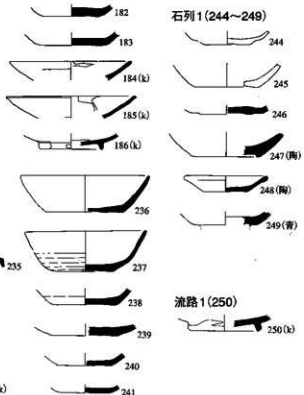
土坑 (229~231)



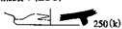
凹地状遺構 1 (232~243)



石列 1 (244~249)



流路 1 (250)

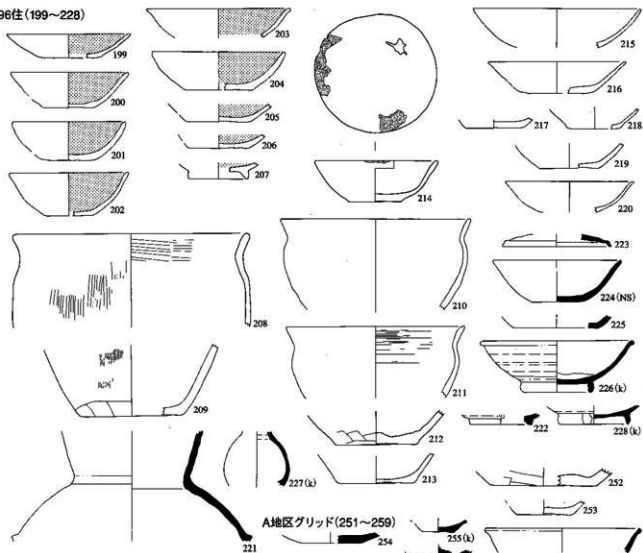


0 10(cm)

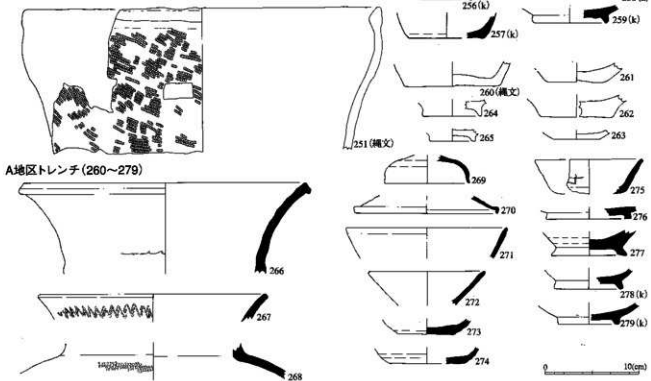
第24图 土器・陶磁器 (A地区4)



96住(199~228)



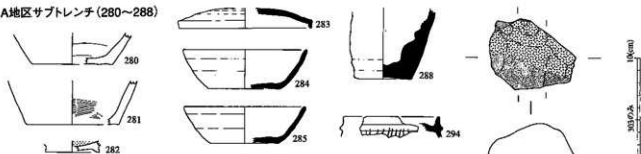
A地区グリッド(251~259)



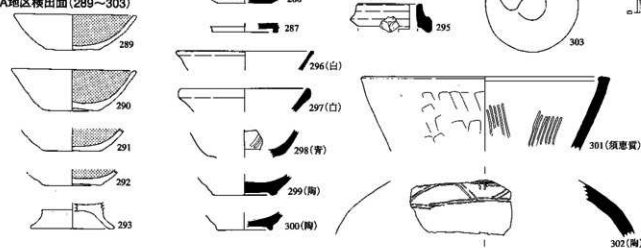
A地区トレンチ(260~279)

第25図 土器・陶磁器(A地区5)

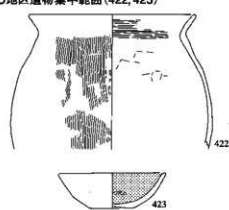
A地区サブトレンチ (280~288)



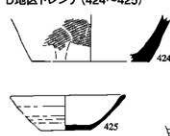
A地区検出面 (289~303)



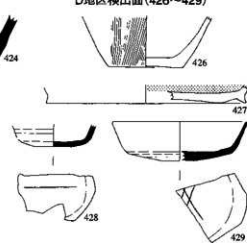
D地区遺物集中範囲 (422, 423)



D地区トレンチ (424~425)



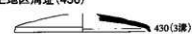
D地区検出面 (426~429)



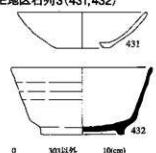
D地区集石遺構 (421)



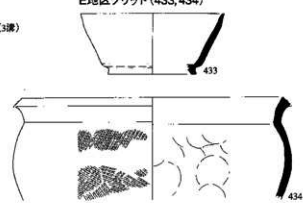
E地区溝址 (430)



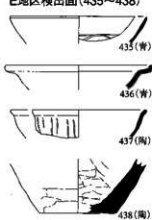
E地区石列3 (431, 432)



E地区グリッド (433, 434)

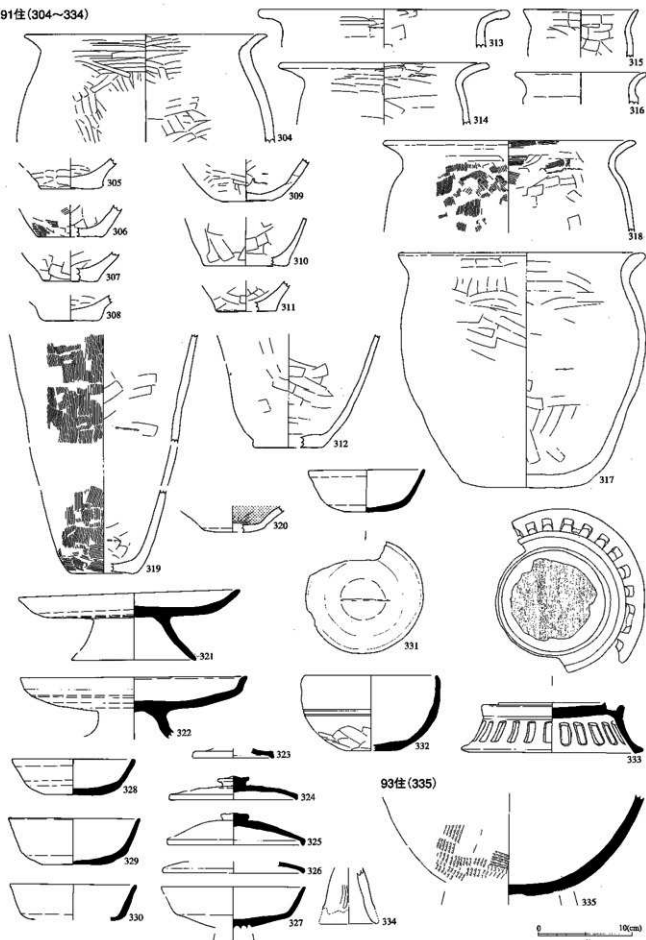


E地区検出面 (435~438)



第26図 土器・陶磁器(A地区6, D, E地区)

91住(304~334)



第27图 土器・陶磁器(B地区1)

B地区土坑(336,337)

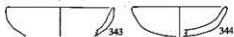


336(52土)



337(54土)

98住(343,344)

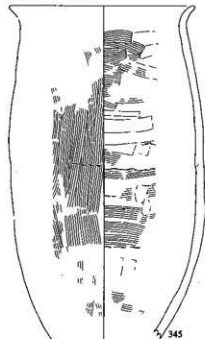


343



344

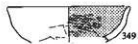
99住(345~350)



345



347



349



350

102住(351~360)



351



352

97住(338~342)



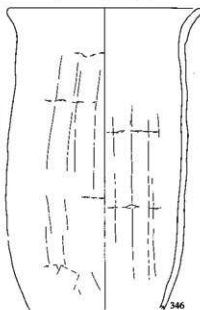
342



340



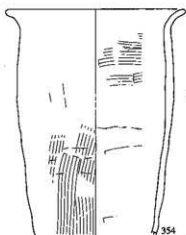
341



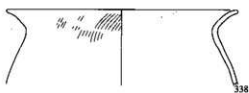
346



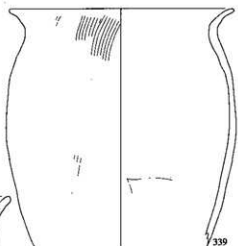
348



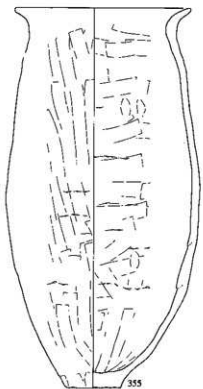
354



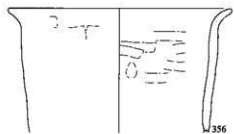
338



339



355



356

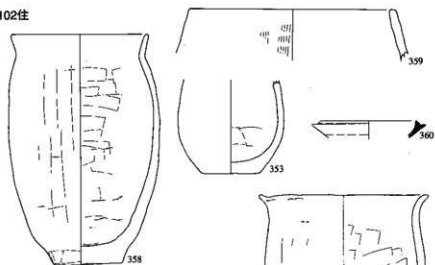


357

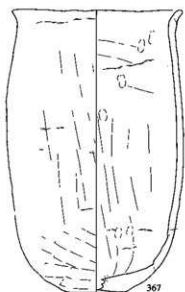
0 10(cm)

第28图 土器·陶磁器(B地区2,C地区1)

102住



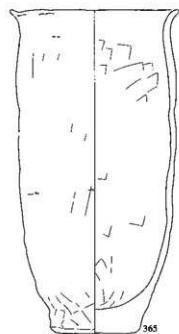
105住(367~371)



103住(361)



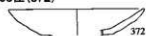
104住(362~366)



108住(379)



106住(372)

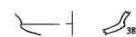
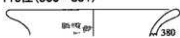


107住(373~378)



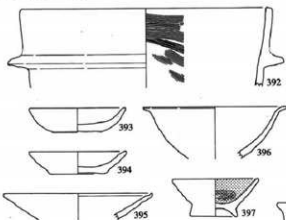
0 10(cm)

110住(380~391)

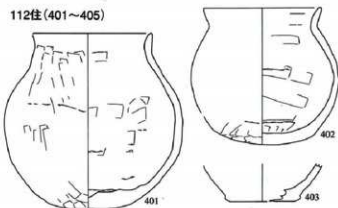


第29図 土器・陶磁器(C地区2)

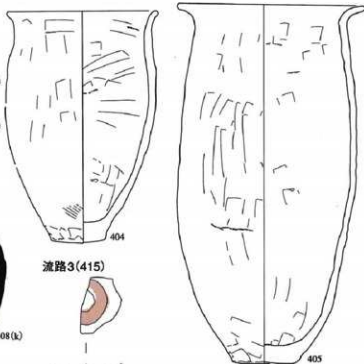
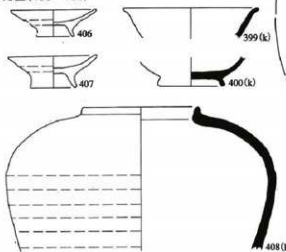
111住(392~400)



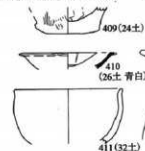
112住(401~405)



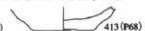
113住(406~408)



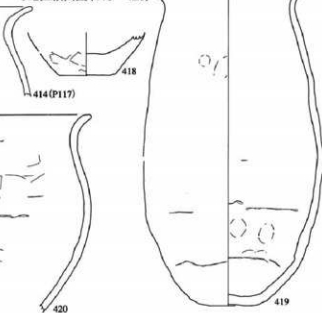
C地区土抗(409~412)



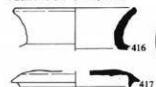
C地区ビット(413,414)



C地区検出面(418~420)



地区グリッド(416,417)



0 10(cm)

第30図 土器・陶磁器(C地区3)

## 2 古瓦

今回の調査で出土した古瓦には、(1)鷗尾、(2)軒丸瓦、(3)軒平瓦、(4)隅平瓦、(5)丸瓦、(6)平瓦、(7)不明瓦質製品があり、総数は1,258点を数え、総重量は、206kg以上ある。全てが破片で、完形品はない。発掘現場においては、古瓦を確認した時点で、調査地区毎に1から順番に番号を付け、出土地点を記録している。今回の報告にあたっては、新たに番号を付け直さず、そのまま調査地区と番号との組み合わせ(例えば、A地区で6番目に出土した破片はA006)で報告していく。このため、出土を確認した時点で、土器等を古瓦として誤認したため、欠番が生じたり、複数の瓦片に1つの番号を付けて、後に枝番(例えば、A001\_1とA001\_2)を付けた資料もある。また、古瓦片を土器等と誤認し、出土地点が記録できなかったものも若干ある。異なる地点から出土し、整理作業時に接合した破片については、破片毎の番号とは別に、接合破片全体の番号(接合した破片のうち、最も数の小さい番号の前に接合番号を意味するRを冠した、例えばD001とD825が接合した場合RD001)もつけた。個々のデータは、計測が可能な1,377点について、鷗尾片、不明瓦製品を除き出土古瓦一覧表、軒丸瓦一覧表、軒平瓦一覧表に掲載した。出土古瓦一覧表については、接合資料についても、破片毎に掲載し、別に接合資料一覧表も作成した。なお、ほとんどの破片が遺物包含層と検出面からの出土であるため、古瓦出土状況図(第31～33図)を作成し、出土地点を図示した。

### (1) 鷗尾 (図版34, 35)

3点の破片が出土している。3点とも胎土は白色・黒色の微～砂粒と石英砂粒が混入し、色調は灰白色(2.5YR7/1)である。3点は大きさ、胎土、形状等から、1対の鷗尾の破片と考えられる。うちRD001(D001・D825)、D826の2点は、大棟から妻側を見た場合の左側面破片で、縦帯が1条の突帯のみで表現される。鱗部は内外面ともに段型はなく、外面のみに縦帯際から鱗部端にかけて直に沈線を引くのみである。胴部は残存部分が少ないためはっきりしないが、おそらく素文と考えられる。全体の大きさは、形状等から、高さ90cm前後であろう。

2 (RD001) は基底部を含む破片で、鱗部・胴部・腹部が残り、高さは52cm程を測る。縦帯は腹部接合部と鱗部端の間の鱗部寄り、基底部下端から12cm上を始点に貼り付けられ、幅2.5～3.2cm、高さ1.5～1.8cmを測る。断面形は胴部側に稜線が寄る三角形を呈する。

基底部下端面には、幅3.4～3.6cmを測り、ケズリ痕が残る。腹部接合部には半円形の削り形がわずかに残存し、ケズリ痕と布目痕が認められる。

鱗部には幅0.6cm程のヘラ状工具による押し引きで表現された4条の沈線がある。沈線の間隔は、縦帯貼り付け部分で、基底部から1～2条目間が13cm、2～3条目間が15cm、3～4条目間で13cmを測る。平行に引かれた沈線は、それぞれ75°程の傾きがある。端面は断面四角形を呈し、角を丸く削り落としてある。このため稜線ははっきりしないが、幅は3.0cm程を測る。端面の大部分はナデ調整がされるが、一部に平行叩き目を加える。タタキ調整は意図的に行われていると思われる。

胴部は内外面ともに無文で、外面は縦帯取付部～腹部接合部にかけては、外面ケズリ後ナデ、僅かに残存する腹部接合部の頭部側は布目痕、内面にはナデがされる。厚さは縦帯取付部～腹部接合部で2.0～3.5cm、腹部接合部の頭部側で1.3～2.5cmを測る。全体的に見ると基底部が厚く、上方に向かうにつれて、薄くなっている。腹部接合部では約50°の傾きで外に折れ、大棟側から見ると、腹部と鱗部はここから奥に向かってラッパ状に広がる形になる。

腹部はごく僅かに胴部との接合部分際が残存し、厚さは1.5～3.0cmを測る。外面には平行叩き目、内面にはナデ痕がある。

1 (D826) は、推定高21cmの破片で、縦帯は腹部接合部と鱗部端の間、胴部側に貼り付けられ、弧を描く。幅は2.0～2.5cm、高さ1.4～1.7cmを測る。断面は三角形を呈し、稜線はほぼ中央にある。

鱗部は、厚さ2.0～2.7cmを測る。端面はケズリ痕が残る。丸みをおびて稜線はなく、厚さは2.0～2.7cmを測

る。外面には3条の沈線があり、底部側から1条目は75°、2条目は約90°、3条目は約110°程の角度で引かれる。この角度の変化と形状から、屈曲が強くなる後部頂部際の破片と考えられる。本資料と2が同一個体であるならば、鱗部の形状等から、本資料の1条目と2の4条目は、同一沈線の両端である可能性が高い。

胴部は厚さ2.0~2.7cmで、頂部側に向かって薄くなる。2は腹部接合部で折れて外反していたのに対し、僅かに弧を描く程度である。

腹部は接合部で2.5cmを測る。外面はケズリ後ナデ、内面はナデ痕が残る。

D621は9×7cm、厚さ1.8~2.3cmを測る小破片で、固化できなかった。端面が一部残存しているが、どの部分の破片なのかは分からない。片面には突帯端部状の貼り付け部分が認められる。調整については、突帯状の貼付面にナデ痕、反対側には平行叩き目痕が見える。

## (2) 軒丸瓦 (第36図・第13表)

瓦当が確認できる破片が14点出土している。2種類の文様があり、①四葉複弁蓮花文が6 (D012)、7 (D623)、8 (D013)、D041の4点、②六葉素弁蓮花文が、3 (A036)、4 (A136)、5 (E111)の3点である。その他の7点は残存部分が少なく、文様がはっきりしないが、内3点 (D742、E215、D706)は胎土や形状から①四葉複弁蓮花文、1点 (D537)は②六葉素弁蓮花文の可能性はある。

### ① 四葉複弁蓮花文軒丸瓦

胎土には白色微砂粒、石英砂粒が混入し、焼成は普通。瓦当泥を用いて作られ、瓦当面は内区のみで構成される。素文の周縁は中高の直立縁である。瓦当裏面は、裏面中央部が窪み、端に向かって厚くなる。中房の断面は台形を呈し、蓮子は1+9個を配し周環はない。影り込みの深い花卉は、弁端が周縁で途切れ、子葉が内区外端まで伸びている。丸瓦部との接合方法は、瓦当裏側を影り込むことなく、それぞれの上端を描いて貼り合わせ、補強用の粘土を足している。周縁は丸瓦接合部で幅が広く、下方に向かって徐々に狭くなる。

### ② 六葉素弁蓮花文軒丸瓦

胎土には白色微粒、石英砂粒が混入している。焼成が若干あまいためか、①の四葉複弁蓮花文軒丸瓦に比べ、やや風化し、瓦当面は磨滅している。瓦当泥を用いて作られており、瓦当面は内区のみで構成される。周縁は直立縁裏側にも直立状の縁が付く特徴的な形態を呈する。高縁周縁は素文で、その幅は瓦当面の大きさに比べ狭い。瓦当裏面は、中央部が薄く、端部に向かって徐々に厚くなる。中房の断面は台形を呈し、蓮子は1+6個を配し、周環はない。花卉は中房端から伸びている。丸瓦部が残存する破片はない。

## (3) 軒平瓦 (第37図・第12表)

瓦当が確認できる破片が13点出土している。全て瓦当泥を用いない押印文で、内区、外区の区分がない。基本的には類似する施文文様だが、押印の配置等に相違点が認められるため、4種に分類した。1種は、10 (D627\_2)の1点、2種も9 (A001\_2)の1点、3種は11 (D476)、D769の2点、4種は12 (A094)の1点である。残存部分が少なく、文様がはっきりしないものが8点あるが、内6点 (A013、D785、D570、E006、A091、E216)は1種または2種のいずれか、2点 (A033・D083)は3種または4種のいずれかと思われる。

1種は、瓦当面上端から下端にかけて、断面円形の棒状工具側面を垂直方向に間隔をあけて押し当て、連続する区画をつくり、その中間に同工具の先端を突き刺すことによってできる円形の窪みを縦に2個並べて配している。2種は1種と似るが、区画内に円形の窪みが縦横2列あり、窪みは計4個ある。3種は1・2種より細い工具を瓦当面上端から下端にかけて角度をつけて押し引いて、連続した三角形もしくは台形の区画をつくり、円形の窪みを1つ配している。円形の窪みは、棒状工具先端部分を突き刺して回転させ、広げ



ている。4種は、3種に似るが、端の区画に円形の窪みが認められない点で区別した。

#### (4) 隅平瓦 (第37図・第10表)

13 (D484)、14 (D628)、RD657 (D657・D660) の3点が出土した。何れも破片で、全形は不明だが、焼成以前に片側の上部から側面にかけて斜めに切り取られている。幅が平瓦の半分程度しかない点に疑問が残るが、形状から隅平瓦と推定した。隅平瓦を使用する建物は、寄棟屋根もしくは入母屋屋根に類する構造に限定される。

13と14は両端が残存し、幅は13が11.1cm、14が12.5cmを測る。胎土には、白色・黒色微～細粒、石英砂粒が混入している。側面形状は斜めに切り取られている右側で分類1、左側は分類7である。RD657は右側面と上部のみ残存し、幅、長さとも不明、側面形状は分類7である。

#### (5) 丸瓦 (第39図・第10表)

計353点が出土した。この内3点の拓影及び断面図を掲載している。全形を推定できる破片はない。両端の残存する破片は3点あり、残存部分での幅は、20 (RE059) が12.2cm、D402が10.7cm、A067が同じく10.7cmを測る。凹面の調整痕が判る破片は245点あり、内236点が布目痕、8点がナデ痕、1点 (D098) にはケズリ状の強いハケメ (後一部にナデ) 調整痕が認められる。凸面の調整痕が判る破片は209点あり、ナデが151点、平行叩き目が31点、縄目18点、格子目が5点ある。その他に平行叩き目後ナデが3点 (D315、D575、D586)、縄目後ナデが1点 (D358) あるが、意図的に行なわれたものかは、はっきりしない。側面の調整分類は、125点の内、ケズリ痕が123点を占め、布目後ケズリ (D016)、ナデ (E041) が各1点ある。端面の調整は、48点の内、ケズリ痕が47点を占め、平行タキ目が1点 (A124\_7) ある。側面および端面の形状は、平瓦とも同一の分類で行った。多様な形状があるため側面は10形式、端面は6形式に分類し、第12表出土古瓦側面・端面の形状分類にそれぞれの占める割合を掲載した。

#### (6) 平瓦 (第38、39図・第10表)

計952点が出土した。この内4点の拓影及び断面図を掲載している。全形を推定できる破片19 (RD493) が1点のみある。長さは37.6cm、幅は上部部際で19.8cmを測る。その他に幅を推定できる破片が2点あり、18 (RE201) は28.0cm、17 (D733) は21.7cmを測る。凹面の調整痕が判る破片は790点あり、内762点が布目痕、10点がナデ痕、16点が布目後ナデ、2点 (D286、D635) が、布目後平行叩き目である。凸面の調整痕が判る破片は747点あり、ナデが281点、縄目221点、平行叩き目が159点、格子目が64点ある。その他に格子目後ナデ21点、平行叩き目後ナデが1点 (D430) があるが、意図的に行なわれたものかは、はっきりしない。側面の調整分類は、329点の内、ケズリ痕が315点を占め、その他、布目後ケズリ痕7点、布目後ナデ痕4点 (E071、E089、E168、E190)、布目2点 (E033、E108)、ケズリ後平行叩き目1点 (A078) がある。端面の調整分類は、48点の内、ケズリ痕が47点を占め、平行叩き目1点 (D430) がある。

#### (7) 不明瓦質製品 (第37図)

15 (E164) は、約12×8cmを測る道具瓦の破片と思われるが、種類はわからない。胎土に白色・黒色微～粗粒、石英砂粒が混入している。色調は凹面10YR 6/1 (褐灰)、凸面5B 5/1 (青灰) を呈する。厚さは2.7cm程、隆帯状の貼付け部分は剥離のため不明だが、残存部厚で3.6cmを測る。凹面には、布目痕が残り、端部際には指ナデ、ケズリ痕が見える。凸面には隆帯が2本残るが、大部分が剥離していて、高さや断面形は不明である。側面が僅かに残存するが、へらケズリ調整がされ、側面形態は、分類3である。

第10表 古瓦一覽表

標記 番号	地区名	住居ID	瓦葺 code	瓦葺長 (cm)		色			葺 形状	葺 形状	葺			備 考
				葺長	葺幅	瓦葺 色	瓦葺 色	瓦葺 色			葺 形状	葺 形状	葺 形状	
A 001-1				51	19	N	S	N						
A 001-2				152	24	N	S	N						
A 002-1				51	19	N	S	N						
A 010				51	18	N	S	N						
A 005-1				52	24	N	S	N						
A 005-2				152	24	N	S	N						
A 006				53	15	N	S	N						
A 007-1				59	27	N	S	N						
A 008				59	27	N	S	N						
A 009				59	27	N	S	N						
A 010-1				59	27	N	S	N						
A 010-2				59	27	N	S	N						
A 011				59	27	N	S	N						
A 012-1				55	16	N	S	N						
A 012-2				102	24	N	S	N						
A 014				61	16	N	S	N						
A 015-1				60	18	N	S	N						
A 015-2				80	14	N	S	N						
A 017				71	24	N	S	N						
A 018				46	25	N	S	N						
A 019-1				57	27	N	S	N						
A 020				55	22	N	S	N						
A 021				67	15	N	S	N						
A 022				51	22	N	S	N						
A 023				51	24	N	S	N						
A 024				68	14	N	S	N						
A 025				82	19	N	S	N						
A 026				61	18	N	S	N						
A 027-1				28	18	N	S	N						
A 027-2				157	25	N	S	N						
A 028				53	25	N	S	N						
A 029-1				107	24	N	S	N						
A 029-2				53	22	N	S	N						
A 030				58	20	N	S	N						
A 032				57	24	N	S	N						
A 034				42	23	N	S	N						
A 036														
A 038														
A 039				78	31	N	S	N						
A 040				80	16	N	S	N						
A 042				72	21	N	S	N						
A 043				42	11	N	S	N						
A 044				43	11	N	S	N						
A 045				51	25	N	S	N						
A 046				86	19	N	S	N						
A 047				44	18	N	S	N						
A 048				54	19	N	S	N						
A 049				81	25	N	S	N						
A 050				57	24	N	S	N						
A 051				79	19	N	S	N						
A 052				79	19	N	S	N						
A 053				79	19	N	S	N						
A 054				79	19	N	S	N						
A 055				79	19	N	S	N						
A 056				79	19	N	S	N						
A 057				79	19	N	S	N						
A 058				79	19	N	S	N						
A 059				79	19	N	S	N						
A 060				79	19	N	S	N						
A 061				79	19	N	S	N						
A 062				79	19	N	S	N						
A 063				79	19	N	S	N						
A 064				79	19	N	S	N						
A 065				79	19	N	S	N						
A 066				79	19	N	S	N						
A 067				79	19	N	S	N						
A 068				79	19	N	S	N						
A 069				79	19	N	S	N						
A 070				79	19	N	S	N						

標記 番号	地区名	住居ID	瓦葺 code	瓦葺長 (cm)		色			葺 形状	葺 形状	葺			備 考
				葺長	葺幅	瓦葺 色	瓦葺 色	瓦葺 色			葺 形状	葺 形状	葺 形状	
A 071-1				81	22	N	S	N						
A 071-2				157	25	N	S	N						
A 073				82	27	N	S	N						
A 074				62	17	N	S	N						
A 075				101	21	N	S	N						
A 076				96	20	N	S	N						
A 077-1				82	30	N	S	N						
A 077-2				103	26	N	S	N						
A 079				110	23	N	S	N						
A 080				84	24	N	S	N						
A 081				114	25	N	S	N						
A 082				80	33	N	S	N						
A 083				102	31	N	S	N						
A 084				85	24	N	S	N						
A 085				80	29	N	S	N						
A 086				141	22	N	S	N						
A 087				86	11	N	S	N						
A 088				77	27	N	S	N						
A 089				65	22	N	S	N						
A 090				146	26	N	S	N						
A 091						N	S	N						
A 092				40	11	N	S	N						
A 093				56	26	N	S	N						
A 094				88	17	N	S	N						
A 095				77	20	N	S	N						
A 096				100	18	N	S	N						
A 097				130	29	N	S	N						
A 098				102	24	N	S	N						
A 099				82	19	N	S	N						
A 100				115	24	N	S	N						
A 101				60	12	N	S	N						
A 102				107	25	N	S	N						
A 103				87	30	N	S	N						
A 104				107	24	N	S	N						
A 105				36	17	N	S	N						
A 106				53	24	N	S	N						
A 107				44	17	N	S	N						
A 108-1				60	18	N	S	N						
A 108-2														
A 109				72	23	N	S	N						
A 110				80	24	N	S	N						
A 111				48	13	N	S	N						
A 112-1				42	17	N	S	N						
A 112-2				82	21	N	S	N						
A 113-1				24	17	N	S	N						
A 113-2				80	18	N	S	N						
A 114				85	14	N	S	N						
A 115				28	13	N	S	N						
A 116				60	18	N	S	N						
A 117-1														
A 117-2				49	21	N	S	N						
A 117-3				60	18	N	S	N						
A 118-1														
A 118-2				37	19	N	S	N						
A 119														
A 120				40	22	N	S	N						
A 121				66	23	N	S	N						
A 122				82	24	N	S	N						
A 123-1				15	17	N	S	N						
A 123-2				46	14	N	S	N						
A 124				15	15	N	S	N						
A 125-1				87	15	N	S	N						
A 125-2				35	16	N	S	N						
A 125-3														
A 125-4														
A 125-5				22	20	N	S	N						
A 125-6				87	14	N	S	N						
A 126				47	20	N	S	N						
A 127				41	13	N	S	N						
A 128				27	26	N	S	N						
A 129				50	18	N	S	N						
A 130				17	16	N	S	N						
A 131				4	15	N	S	N						
A 132-1				62	17	N	S	N						
A 132-2				50	13	N	S	N						







観測番号	地区名	自治体ID	瓦葺別 code	法線(cm)				屋根 形状	屋根 傾斜	屋根 面積	屋根 延床	備 考
				敷瓦数	軒瓦数	瓦 色	瓦 葺					
D 445	1	58	12	10YR	8.2	10YR	8.2	1	1	2		
D 446	1	54	16	5Y	6.2	5Y	6.2	1	1	1		
D 445.1	1	50	09	5Y	6.1	5Y	6.1	8	1	2	1	
D 445.2	1	52	20	3Y	6.1	10YR	6.1	1	1	1		
D 445.1	1	52	19	5YR	6.1	5YR	6.1	3	1	1	1	
D 445.3	1	44	18	N	6.0	7.5YR	6.0	4	1	2	1	
D 447	1	53	20	10YR	7.2	10YR	7.2	1	0	4	1	
D 448	2	40	11	5Y	6.1	5Y	6.1	1	0	1	1	
D 449	1	50	18	10YR	8.1	10YR	8.1	4	0	2		
D 450	1	58	19	10YR	8.1	N	5.0	5	1	2	1	
D 451	1	53	13	N	6.0	N	6.0	9	1	1	1	
D 452	1	37	18	5YR	6.4	5YR	6.4	1	3			
D 453	2	56	10	5YR	6.1	N	6.0	5	1	1	1	
D 454	1	51	19	5YR	6.4	5YR	6.4	4	1	1	1	
D 455	2	39	14	N	5.0	N	5.0	4	1	1	1	
D 456	1	50	10	5Y	6.1	10YR	6.1	9	1	1	1	
D 457	1	49	14	N	6.0	N	6.0	9	1	1	1	
D 458	1	49	32	10YR	8.2	10YR	8.2	1	0	0		
D 459	2	42	14	10YR	8.1	10YR	8.2	1	1	0		
D 460	1	50	34	N	6.0	N	6.0	6	1	8	1	
D 461	1	54	18	7.5Y	7.1	10YR	8.1	1	5	2	1	
D 462	1	52	17	10YR	8.1	10YR	8.1	1	8	0		
D 464	1	46	15	10YR	8.1	10YR	8.1	1	1	0		
D 465	1	50	50	10YR	8.2	10YR	8.2	5	1	1	1	
D 466	1	57	18	10YR	8.4	10YR	8.2	5	1	2	1	
D 467	1	54	17	10YR	8.1	10YR	8.1	1	1	1		
D 469	4	40	18	3Y	6.1	3Y	6.1	4	1	0	2	
D 470	1	57	18	10YR	8.1	10YR	8.1	4	1	0	2	
D 471	1	55	16	10YR	8.1	10YR	8.1	6	1	0	2	
D 472	1	43	52	10YR	8.2	5.5Y	8.2	7	1	1	1	
D 473	1	53	19	10YR	8.4	10YR	8.2	1	0	0		
D 474	1	57	34	5Y	6.1	5Y	6.1	8	4	1	1	
D 475	1	58	13	10YR	8.1	10YR	8.2	1	0	0		
D 476	2	45	20	5Y	6.1	5Y	6.2	1	0	0		
D 477	1	50	22	5.5Y	6.2	5Y	6.2	5	1	2	1	
D 478	2	44	18	3Y	7.1	3Y	7.1	1	1	0		
D 479	2	47	19	10YR	8.2	10YR	8.4	1	1	1	1	
D 480	1	53	17	N	6.0	7.5Y	6.1	1	1	1	1	
D 481	1	44	20	N	6.0	N	6.0	1	1	1	1	
D 482	1	44	13	10YR	8.2	10YR	8.4	3	1	1	1	
D 483	2	46	14	5Y	6.1	10YR	7.2	7	0	0	2	
D 484	6	41	18	N	6.0	N	6.0	4	1	2	1	
D 485	1	54	25	5Y	6.2	5Y	6.2	1	1	1	1	
D 486	1	63	22	10YR	8.4	10YR	8.4	1	1	1	1	
D 487	1	54	22	5YR	6.1	10YR	8.2	1	1	0		
D 488	1	45	13	5Y	6.1	7.5Y	6.1	7	1	0	1	
D 489	1	50	24	5YR	6.2	5YR	6.2	1	0	4		
D 490	1	40	31	5Y	6.1	3Y	7.1	1	0	0		
D 491	1	40	33	5Y	6.1	5Y	6.1	1	0	0		
D 492	1	77	22	5YR	6.2	5YR	6.1	1	0	4		
D 493	1	49	22	10YR	7.2	5Y	6.1	1	1	2	1	
D 494	1	49	27	5Y	6.1	5Y	6.1	1	1	1	1	
D 495	1	47	18	N	6.0	N	5.0	4	1	5	1	
D 496	1	55	16	10YR	8.2	10YR	8.4	1	1	2	1	
D 498	2	57	16	10Y	6.1	10YR	8.2	1	1	2	1	
D 499	2	57	24	5Y	6.4	5Y	6.4	1	0	4	1	
D 500	2	51	25YR	5.4	7.5YR	6.6	6.6	9	1	1	1	
D 501	1	58	19	10YR	7.2	10YR	7.2	1	1	1		
D 502	1	50	17	7.5Y	6.1	10YR	7.2	4	1	1	1	
D 503	1	50	13	10YR	8.2	10YR	8.4	1	1	1	1	
D 504	1	50	09	10YR	8.1	5YR	6.4	5	1	3	1	
D 505	1	50	17	10YR	8.1	10YR	8.1	1	1	1	1	
D 506	1	50	11	10YR	8.1	10YR	8.1	2	1	1	1	
D 507	1	50	11	10YR	8.1	10YR	8.1	1	1	1	1	
D 508	1	50	11	10YR	8.1	10YR	8.1	1	1	1	1	
D 509	2	41	14	5Y	6.2	6.2	6.2	1	1	0		
D 510	2	30	13	10YR	8.2	10YR	8.2	5	1	0	2	
D 511	1	51	21	7.5Y	6.1	7.5Y	7.1	5	1	2	1	
D 512	1	43	16	10YR	8.1	10YR	8.1	5	1	2	1	
D 513	2	48	11	7.5YR	6.2	7.5YR	6.2	0	2			
D 514	1	50	18	10YR	8.2	10YR	8.2	4	1	1	1	
D 515	1	41	20	5YR	6.2	10YR	8.2	1	1	1	1	
D 516	1	43	11	5YR	7.4	5YR	7.4	1	1	1	1	
D 517	1	41	11	5YR	6.2	5YR	6.2	1	1	1	1	
D 518	2	46	13	10YR	8.2	6.0Y	8.2	7	0	0	2	

観測番号	地区名	自治体ID	瓦葺別 code	法線(cm)				屋根 形状	屋根 傾斜	屋根 面積	屋根 延床	備 考
				敷瓦数	軒瓦数	瓦 色	瓦 葺					
D 519	1	71	16	5.5Y	6.2	5.5Y	6.2	1	0	0		
D 520	1	53	20	10YR	8.1	10YR	8.2	1	0	0		
D 521	1	41	13	N	6.0	10YR	8.1	4	1	1	1	
D 522	1	72	23	10YR	7.1	10YR	7.1	4	1	1	1	
D 523	1	68	24	10YR	8.1	10YR	8.2	6	0	4	1	
D 524	2	45	17	5YR	6.2	7.5YR	6.2	5	1	1	1	
D 525	1	65	20	7.5YR	6.1	7.5YR	6.2	1	1	2		
D 526	3	73	14	N	6.0	N	6.1	1	0	2	1	
D 527	2	35	16	7.5YR	7.1	10YR	8.2	5	1	2		
D 528	2	37	17	7.5YR	8.2	10YR	8.2	5	1	0	3	
D 529	2	65	18	7.5YR	6.2	10YR	8.2	1	0	0		
D 530	1	78	24	10YR	7.2	10YR	7.2	3	1	1	1	
D 531	2	36	13	10YR	8.1	10YR	8.1	1	0	0		
D 532	1	74	20	10YR	8.1	N	6.0	4	1	2		
D 533	2	38	20	10YR	8.2	10YR	8.1	1	0	0		
D 534	2	32	12	10YR	8.1	5Y	6.2	1	0	0		
D 535	1	53	20	10YR	7.1	10YR	8.1	4	1	1	1	
D 536	1	59	20	7.5YR	6.1	7.5YR	6.1	4	5	4	1	
D 537	2	55	20	N	6.0	N	6.0	1	1	0	2	
D 538	1	44	17	10YR	8.1	10YR	8.1	1	1	1	1	
D 538.2	0	67	16	10YR	8.1	10YR	8.1	1	1	1		
D 539	2	37	13	5Y	7.1	5Y	7.1	1	1	1		
D 540	2	66	15	5.5Y	6.2	10YR	8.2	7	0	0	1	
D 541	1	64	17	10YR	8.1	10YR	7.1	4	1	1	1	
D 542	1	106	16	10YR	7.2	10YR	7.2	1	1	2	1	
D 543	1	36	17	5Y	6.1	5Y	6.2	1	0	0		
D 544	2	41	20	10YR	8.2	10YR	8.2	1	0	4		
D 545	1	76	18	10YR	6.1	N	6.0	1	1	2	1	
D 546	2	45	16	10YR	8.2	10YR	8.2	3	1	2	1	
D 547	2	50	15	N	6.0	N	6.0	1	1	4	1	
D 548	2	71	15	10YR	4.1	N	6.0	1	1	2	1	
D 549	2	64	18	10YR	7.1	10YR	7.1	6	1	1	1	
D 550	2	51	14	10YR	6.1	10YR	7.1	6	1	2	1	
D 551	1	63	21	10YR	6.1	N	6.0	1	1	1	1	
D 552	1	57	14	10YR	8.2	10YR	8.2	1	0	0		
D 553	2	43	14	10YR	7.2	10YR	8.1	1	0	1		
D 554	2	25	11	7.5YR	7.1	10YR	8.1	1	1	2	1	
D 555	2	41	13	10YR	8.1	10YR	8.1	1	1	1	1	
D 556	1	49	21	10YR	6.2	10YR	6.1	3	1	2	1	
D 557	1	53	26	10YR	8.1	10YR	7.1	1	1	0	2	
D 558	1	50	40	7.5YR	7.1	7.5YR	6.1	1	1	1	1	
D 559	1	28	13	N	6.0	10YR	8.1	6	1	1	1	
D 560	1	73	26	7.5YR	7.2	10YR	7.1	1	1	2	1	
D 561	1	44	20	10YR	8.2	10YR	8.2	1	1	1	1	
D 561	1	70	18	10YR	8.2	10YR	8.2	3	1	2	1	
D 562	1	62	12	10YR	8.2	10YR	8.1	5	1	2	1	
D 563	2	62	24	10YR	8.4	10YR	8.1	1	1	1	1	
D 564	1	81	22	10YR	6.1	10YR	7.1	6	1	5	4	
D 565	1	81	13	5YR	6.1	5YR	7.1	1	0	0		
D 566	2	54	12	5YR	6.1	5YR	6.1	1	0	0		
D 567	2	70	14	N	6.0	10Y	8.1	5	1	1	1	
D 568	1	72	24	N	6.0	N	6.0	1	1	1	1	
D 569	1	72	14	7.5YR	7.1	10YR	8.1	5	1	2	1	
D 570	3	51	18	10YR	8.1	10YR	7.2	7	1	0	2	
D 571	1	71	22	10YR	8.2	10YR	8.1	1	0	0		
D 572	1	71	22	10YR	8.2	10YR	8.1	1	0	0		
D 573	4	65	22	7.5YR	8.2	7.5YR	8.1	2	1	4	1	
D 574	1	85	13	7.5YR	7.2	7.5YR						

緯度	経度	測点ID	元標高 Code	位置(m)		高				測深	測深	測深	測深	備考
				概水深	概水深	明視	明視	凸形	凸形					
D 486	1	42	24	22.0	6.3	10.0	6.2	5	1	0	2			
D 487	1	42	22	20.0	6.3	10.0	6.2	7	0	4	2			
D 488	1	114	20	23.0	7.2	23.0	6.3	5	0	6	2			
D 489	1	34	13	19.0	6.2	10.0	6.1	4	1	0	2			
D 490	1	19	17	19.0	6.2	10.0	6.1	4	1	0	2			
D 491	1	113	20	10.0	6.1	10.0	7.2	6	1	1	5	1		
D 492	1	62	19	10.0	6.1	10.0	6.2	5	1	1	5	1		
D 493	1	47	19	10.0	7.1	10.0	6.1	4	1	1	1	1		
D 494	1	37	13	10.0	7.1	10.0	7.1	1	1	2				
D 495	1	30	10	10.0	6.1	N	6.0	2	1	3	1			
D 496	1	47	19	10.0	6.2	10.0	7.2	2	1	0	1	1		
D 497	1	46	18	10.0	6.0	N	6.0	1	1	5	1			
D 498	1	56	18	10.0	6.2	10.0	7.2	2	1	4	1			
D 499	1	46	18	10.0	6.3	10.0	7.5	2	1	4	1			
D 500	1	70	19	10.0	7.2	10.0	6.2	1	0	1	2			
D 501	1	41	15	7.0	7.1	7.0	7.1	7	1	0	2			
D 502	1	54	13	10.0	6.2	10.0	6.3	5	1	2	1			
D 503	1	36	21	10.0	7.2	10.0	7.2	1	1	1	1			
D 504	1	66	14	10.0	6.7	10.0	6.7	7	1	2	1	1		
D 505	1	28	14	N	6.0	N	7.0	1	1	2				
D 506	1	32	16	N	6.2	10.0	6.2	8	0	2	1			
D 507	1	10	17	10.0	7.1	N	7.1	1	0	1	1			
D 508	1	53	17	5.7	7.1	5.7	7.1	8	1	0	1			
D 509	1	101	29	10.0	6.2	10.0	6.2	1	0	4	1			
D 510	1	68	24	10.0	6.3	10.0	6.2	6	4	1	2	1		
D 511	1	23	24.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1	0	1	1			
D 512	1	122	21	10.0	6.1	10.0	6.1	6	1	2	2			
D 513	1	63	4	12.0	1.7	12.0	1.7	1	1	2	1	1		
D 514	1	66	11	10.0	6.2	10.0	6.2	1	1	2	1	1		
D 515	1	71	10	10.0	6.2	10.0	7.1	1	1	2	1	1		
D 516	1	40	30	10.0	6.2	10.0	6.2	4	1	4	1			
D 517	1	132	21	10.0	6.1	10.0	6.1	1	1	1	1	1		
D 518	1	132	17	12.0	1.7	12.0	1.7	1	1	2	1	1		
D 519	1	66	11	10.0	6.2	10.0	6.2	1	1	2	1	1		
D 520	1	71	10	10.0	6.2	10.0	7.1	1	1	2	1	1		
D 521	1	40	30	10.0	6.2	10.0	6.2	4	1	4	1			
D 522	1	132	21	10.0	6.1	10.0	6.1	1	1	1	1	1		
D 523	1	63	4	12.0	1.7	12.0	1.7	1	1	2	1	1		
D 524	1	66	11	10.0	6.2	10.0	6.2	1	1	2	1	1		
D 525	1	71	10	10.0	6.2	10.0	7.1	1	1	2	1	1		
D 526	1	40	30	10.0	6.2	10.0	6.2	4	1	4	1			
D 527	1	132	21	10.0	6.1	10.0	6.1	1	1	1	1	1		
D 528	1	63	4	12.0	1.7	12.0	1.7	1	1	2	1	1		
D 529	1	40	30	10.0	6.2	10.0	6.2	4	1	4	1			
D 530	1	132	17	12.0	1.7	12.0	1.7	1	1	2	1	1		
D 531	1	66	11	10.0	6.2	10.0	6.2	1	1	2	1	1		
D 532	1	71	10	10.0	6.2	10.0	7.1	1	1	2	1	1		
D 533	1	40	30	10.0	6.2	10.0	6.2	4	1	4	1			
D 534	1	132	21	10.0	6.1	10.0	6.1	1	1	1	1	1		
D 535	1	63	4	12.0	1.7	12.0	1.7	1	1	2	1	1		
D 536	1	40	30	10.0	6.2	10.0	6.2	4	1	4	1			
D 537	1	132	21	10.0	6.1	10.0	6.1	1	1	1	1	1		
D 538	1	63	4	12.0	1.7	12.0	1.7	1	1	2	1	1		
D 539	1	40	30	10.0	6.2	10.0	6.2	4	1	4	1			
D 540	1	132	17	12.0	1.7	12.0	1.7	1	1	2	1	1		
D 541	1	66	11	10.0	6.2	10.0	6.2	1	1	2	1	1		
D 542	1	47	19	N	6.0	N	6.0	4	1	4	1			
D 543	1	82	18	N	5.0	N	5.0	4	1	8	1			
D 544	1	41	18	10.0	6.2	10.0	6.2	1	1	2	1	1		
D 545	1	51	17	N	6.0	N	6.0	1	1	2	1			
D 546	1	50	13	10.0	7.2	10.0	7.2	1	1	0				
D 547	1	44	10	10.0	7.2	10.0	7.2	1	1	0				
D 548	1	51	17	5.7	7.1	5.7	7.1	1	1	0	2			
D 549	1	64	15	7.0	7.1	7.0	7.1	1	0	0				
D 550	1	18	18	7.1	7.1	7.0	7.1	1	0	0				
D 551	1	66	17	N	5.0	7.1	7.1	2	1	5	1			
D 552	1	33	19	10.0	6.1	N	6.0	1	1	4	1			
D 553	1	61	15	6.0	6.0	N	6.0	4	1	0	1			
D 554	1	28	15	10.0	6.2	10.0	6.2	1	1	0	1			
D 555	1	29	31	N	6.0	N	7.0	1	1	2				
D 556	1	17	17	10.0	6.1	10.0	6.1	1	1	0	1			
D 557	1	65	10	10.0	6.2	10.0	6.2	1	0	0	2			
D 558	1	60	20	N	6.0	N	6.0	1	1	5				
D 559	1	61	19	10.0	6.2	10.0	6.2	1	1	0	0			
D 560	1	67	22	10.0	6.2	10.0	6.2	1	1	0	0			
D 561	1	36	22	7.0	7.2	7.0	7.2	7	1	0				
D 562	1	64	15	7.0	7.1	7.0	7.1	1	1	0				
D 563	1	41	15	N	6.0	7.1	7.1	1	1	0				
D 564	1	26	27	N	7.0	N	7.0	1	1	2	1			
D 565	1	67	22	10.0	6.2	10.0	6.2	1	1	0	0			
D 566	1	64	29	10.0	6.2	10.0	6.2	5	4	1	0	1		

高低時の集積あり

高低時の集積あり

二測

三測

緯度	経度	測点ID	元標高 Code	位置(m)		高				測深	測深	測深	測深	備考	
				概水深	概水深	明視	明視	凸形	凸形						測深
D 666	1	76	20	10.0	6.1	10.0	6.1	1	1	2	1				
D 667	1	62	19	10.0	6.2	10.0	6.2	1	1	1	1				
D 668	1	35	14	10.0	6.2	10.0	6.1	1	1	1	1				
D 669	1	82	18	10.0	6.2	10.0	6.2	1	1	1	1				
D 670	1														
D 671	1	60	25	10.0	7.2	10.0	6.2	1	1	2	1				
D 672	1	104	24	10.0	6.2	10.0	6.2	1	1	1	1				
D 673	1	104	19	10.0	6.2	10.0	6.1	7	1	1	4	1			
D 674	1	60	25	10.0	7.1	10.0	6.2	1	1	0	4	1			
D 675	1	96	27	N	6.0	N	6.0	4	1	0	4	1			
D 676	1	62	19	10.0	6.2	10.0	6.2	1	1	0	2				
D 677	1	312	24	10.0	6.2	10.0	6.2	1	1	2	1				
D 678	1	62	19	10.0	6.2	10.0	6.2	1	1	0	2				
D 679	1	62	19	10.0	6.2	10.0	6.2	1	1	0	2				
D 680	1	62	19	10.0	6.2	10.0	6.2	1	1	0	2				
D 681	1	62	19	10.0	6.2	10.0	6.2	1	1	0	2				
D 682	1	36	14	10.0	6.2	10.0	6.2	1	1	2	1				
D 683	1	60	21	10.0	6.2	10.0	6.2	1	1	2	1				
D 684	1	162	23	10.0	6.2	10.0	6.2	1	1	5	0				
D 685	1	76	22	N	7.0	10.0	6.1	0	0	0	0				
D 686	1	108	21	N	6.0	6.0	6.0	8	1	1	2	1			
D 687	1	118	16	N	6.0	6.0	6.0	5	1	1	2	1			
D 688	1	52	14	10.0	6.2	10.0	6.2	1	1	1	1				
D 689	1	47	22	10.0	6.2	10.0	6.2	1	1	1	1				
D 690	1	46	15	10.0	6.2	10.0	6.2	1	1	1	1				
D 691	1	48	19	10.0	6.2	10.0	6.1	6	1	1	2	1			
D 692	1	52	14	N	6.0	N	6.0	1	1	1	1				
D 693	1	30	18	10.0	7.2	10.0	6.1	4	1	1	4	2			
D 694	1	28	18	N	7.1	10.0	7.1	1	1	1	1				
D 695	1	82	18	N	6.0	N	6.0	1	1	1	1				
D 696	1	82	18	N	6.0	N	6.0	1	1	1	1				
D 697	1	36	11	10.0	6.1	10.0	6.1	1	1	0					
D 698	1	45	17	10.0	6.2	10.0	6.2	1	1	1	1	</			

標号	地区名	自治ID	名称	高程(m)	色				傾斜	傾斜	形				備
					最大	色	色	色			凸	凹	凸	凹	
D 740		2	72	21	ZYX	5/3	ZYX	5/3		1	0				
D 741		1	32	15	ZYX	6/2	ZYX	6/2		1	0			2	
D 742		1	32	18	ZYX	7/1	ZYX	6/2		1	2				
D 743		2	37	10	ZYX	6/1	ZYX	6/2		1	2				
D 744		1	36	15	ZYX	7/1	ZYX	6/2		1	2				
D 745		1	32	18	N	6/0	ZYX	6/1		2	1	0			
D 746		1	36	15	N	6/0	ZYX	6/1		1	2				
D 747		1	35	14	N	6/0	N	6/0		4	1	2			
D 748		1	32	20	ZYX	6/2	ZYX	7/2		1	2				
D 749		1	37	10	ZYX	6/2	ZYX	6/2		1	2				
D 750		1	7	20	ZYX	6/1	ZYX	6/2		1	2				
D 751		2	34	14	ZYX	7/1	ZYX	6/1		5	1	2			
D 752		1	36	15	ZYX	7/1	ZYX	6/2		1	2				
D 753		1	7	20	ZYX	7/1	ZYX	6/1		1	2				
D 754		1	43	20	ZYX	6/1	ZYX	6/1		1	1	0			
D 755		1	43	18	ZYX	6/2	ZYX	7/1		1	1	0			
D 756		1	7	20	ZYX	7/1	ZYX	6/1		1	2				
D 757		1	42	23	ZYX	6/2	ZYX	6/2		4	1	2			
D 758		1	36	15	N	ZYX	6/1	6/1		1	1	2			
D 759		1	74	14	ZYX	6/2	ZYX	6/2		1	1	2			
D 760		1	34	24	N	6/0	N	6/0		1	1	2			
D 761		1	32	14	ZYX	7/1	ZYX	6/1		6	1	2			
D 762		1	38	14	ZYX	7/1	ZYX	6/1		1	1	2			
D 763		1	38	14	ZYX	7/1	ZYX	6/1		1	1	2			
D 764		1	38	14	ZYX	6/2	ZYX	7/1		1	1	2			
D 765		1	38	14	ZYX	6/2	ZYX	7/1		1	1	2			
D 766		1	38	14	ZYX	6/2	ZYX	7/1		1	1	2			
D 767		1	38	14	ZYX	6/2	ZYX	7/1		1	1	2			
D 768		1	42	14	ZYX	6/1	ZYX	6/2		1	1	2			
D 769		1	38	14	ZYX	6/2	ZYX	7/1		1	1	2			
D 770		1	38	14	ZYX	6/2	ZYX	7/1		1	1	2			
D 771		1	38	14	ZYX	6/2	ZYX	7/1		1	1	2			
D 772		1	38	14	ZYX	6/2	ZYX	7/1		1	1	2			
D 773		1	38	14	ZYX	6/2	ZYX	7/1		1	1	2			
D 774		1	38	14	ZYX	6/2	ZYX	7/1		1	1	2			
D 775		1	38	14	ZYX	6/2	ZYX	7/1		1	1	2			
D 776		1	38	14	ZYX	6/2	ZYX	7/1		1	1	2			
D 777		1	38	14	ZYX	6/2	ZYX	7/1		1	1	2			
D 778		1	38	14	ZYX	6/2	ZYX	7/1		1	1	2			
D 779		1	38	14	ZYX	6/2	ZYX	7/1		1	1	2			
D 780		1	38	14	ZYX	6/2	ZYX	7/1		1	1	2			
D 781		1	38	14	ZYX	6/2	ZYX	7/1		1	1	2			
D 782		1	38	14	ZYX	6/2	ZYX	7/1		1	1	2			
D 783		1	38	14	ZYX	6/2	ZYX	7/1		1	1	2			
D 784		1	38	14	ZYX	6/2	ZYX	7/1		1	1	2			
D 785		1	38	14	ZYX	6/2	ZYX	7/1		1	1	2			
D 786		1	38	14	ZYX	6/2	ZYX	7/1		1	1	2			
D 787		1	38	14	ZYX	6/2	ZYX	7/1		1	1	2			
D 788		1	38	14	ZYX	6/2	ZYX	7/1		1	1	2			
D 789		1	38	14	ZYX	6/2	ZYX	7/1		1	1	2			
D 790		1	38	14	ZYX	6/2	ZYX	7/1		1	1	2			
D 791		1	38	14	ZYX	6/2	ZYX	7/1		1	1	2			
D 792		1	38	14	ZYX	6/2	ZYX	7/1		1	1	2			
D 793		1	38	14	ZYX	6/2	ZYX	7/1		1	1	2			
D 794		1	38	14	ZYX	6/2	ZYX	7/1		1	1	2			
D 795		1	38	14	ZYX	6/2	ZYX	7/1		1	1	2			
D 796		1	38	14	ZYX	6/2	ZYX	7/1		1	1	2			
D 797		1	38	14	ZYX	6/2	ZYX	7/1		1	1	2			
D 798		1	38	14	ZYX	6/2	ZYX	7/1		1	1	2			
D 799		1	38	14	ZYX	6/2	ZYX	7/1		1	1	2			
D 800		1	38	14	ZYX	6/2	ZYX	7/1		1	1	2			

標号	地区名	自治ID	名称	高程(m)	色				傾斜	傾斜	形				備
					最大	色	色	色			凸	凹	凸	凹	
D 794.8		2	30	14	ZYX	6/1	ZYX	6/2		7	0	1			
D 794.9		1	45	13	ZYX	6/2	ZYX	6/2		4	1	1			
D 794.10		3	39	18	ZYX	6/1	ZYX	6/1		0	0	0			
D 794.11		1	37	16	ZYX	6/2	ZYX	6/2		1	1	1			
D 795.1		2	36	19	ZYX	6/1	ZYX	6/1		0	0	0			
D 795.2		1	35	12	N	6/0	ZYX	7/1		1	0	0			
D 795.3		2	47	11	ZYX	7/1	ZYX	6/1		1	1	1			
D 795.4		2	39	10	ZYX	7/1	ZYX	7/1		1	0	0			
D 795.5		2	30	14	ZYX	7/1	ZYX	6/1		1	2	2			
D 795.6		1	37	13	ZYX	6/1	ZYX	6/1		1	1	1			
D 795.7		2	19	11	ZYX	7/2	ZYX	7/2		5	1	0			
D 795.8		1	16	20	ZYX	6/2	ZYX	6/2		4	0	0			
D 795.9		1	14	17	ZYX	7/1	ZYX	7/1		1	1	1			
D 795.10		1	20	16	ZYX	7/1	ZYX	7/1		4	0	1			
D 795.11		1	21	18	ZYX	7/1	ZYX	7/1		1	1	1			
D 795.12		1	30	14	ZYX	6/1	ZYX	6/1		1	1	1			
D 795.13		2	33	21	ZYX	6/2	ZYX	6/2		1	1	1			
D 795.14		2	34	10	ZYX	6/2	ZYX	7/2		7	1	0			
D 795.15		1	31	14	ZYX	6/2	ZYX	7/2		1	1	1			
D 795.16		2	23	12	ZYX	7/1	ZYX	7/1		4	1	1			
D 795.17		2	31	14	ZYX	7/1	ZYX	7/1		1	1	1			
D 795.18		1	39	21	N	7/0	ZYX	6/1		1	2	2			
D 795.19		1	39	21	N	7/0	ZYX	6/1		1	1	0			
D 795.20		1	39	21	N	7/0	ZYX	6/1		1	1	0			
D 795.21		1	39	21	N	7/0	ZYX	6/1		1	1	0			
D 795.22		1	39	21	N	7/0	ZYX	6/1		1	1	0			
D 795.23		1	39	21	N	7/0	ZYX	6/1		1	1	0			
D 795.24		1	39	21	N	7/0	ZYX	6/1		1	1	0			
D 795.25		1	39	21	N	7/0	ZYX	6/1		1	1	0			
D 795.26		1	39	21	N	7/0	ZYX	6/1		1	1	0			
D 795.27		1	39	21	N	7/0	ZYX	6/1		1	1	0			
D 795.28		1	39	21	N	7/0	ZYX	6/1		1	1	0			
D 795.29		1	39	21	N	7/0	ZYX	6/1		1	1	0			
D 795.30		1	39	21	N	7/0	ZYX	6/1		1	1	0			
D 795.31		1	39	21	N	7/0	ZYX	6/1		1	1	0			
D 795.32		1	39	21	N	7/0	ZYX	6/1		1	1	0			
D 795.33		1	39	21	N	7/0	ZYX	6/1		1	1	0			
D 795.34		1	39	21	N	7/0	ZYX	6/1		1	1	0			
D 795.35		1	39	21	N	7/0	ZYX	6/1		1	1	0			
D 795.36		1	39	21	N	7/0	ZYX	6/1		1	1	0			
D 795.37		1	39	21	N	7/0	ZYX	6/1		1	1	0			
D 795.38		1	39	21	N	7/0	ZYX	6/1		1	1	0			
D 795.39		1	39	21	N	7/0	ZYX	6/1		1	1	0			
D 795.40		1	39	21	N	7/0	ZYX	6/1		1	1	0			
D 795.41		1	39	21	N	7/0	ZYX	6/1		1	1	0			
D 795.42		1	39	21	N	7/0	ZYX	6/1		1	1	0			
D 795.43		1	39	21	N	7/0	ZYX	6/1		1	1	0			
D 795.44		1	39	21	N	7/0	ZYX	6/1		1	1	0			
D 795.45		1	39	21	N	7/0	ZYX	6/1		1	1	0			
D 795.46		1	39	21	N	7/0	ZYX	6/1		1	1	0			
D 795.47		1	39	21	N	7/0	ZYX	6/1		1	1	0			
D 795.48		1	39	21	N	7/0	ZYX	6/1		1	1	0			
D 795.49		1	39	21	N	7/0	ZYX	6/1		1	1	0			
D 795.50		1	39	21	N	7/0	ZYX	6/1		1	1	0			





緯度	経度	日高ID	瓦種別 code	色 澤				傾斜 形状	傾 斜				備 考	
				赤色 最大値	赤色 最小値	青色 最大値	青色 最小値		傾斜 割合	凸部 割合	傾斜 割合	傾斜 割合		
E 144	2	87	30	F2FR	8/1	F2FR	8/1	7	1	1	1	1		
E 145	2	64	14	F1FR	7/1	F1FR	8/1	7	1	1	1	1		
E 146	2	37	13	F2FR	8/1	F2FR	8/1	0	0	0	0	0		
E 147	2	25	10	F2FR	8/1	F2FR	8/1	0	0	0	0	0		
E 148	2	32	15	F2FR	8/1	F2FR	8/1	7	1	1	1	1		
E 150	1	83	51	N	5/0	N	5/0	1	1	1	1	1	階段壁に突き出箇所	
E 151	1	88	24	F2FR	8/1	F2FR	8/1	7	1	1	1	1		
E 152	1	110	15	F2FR	8/1	F2FR	8/1	7	1	1	1	1		
E 153	1	106	16	F2FR	8/1	F2FR	8/1	1	1	1	1	1		
E 154	1	52	18	F2FR	8/1	F2FR	8/1	1	0	4	2	2		
E 156	1	84	4	F2FR	8/1	F2FR	8/1	1	1	1	1	1		
E 157	1	88	10	N	5/0	N	5/0	4	1	1	1	1		
E 157	1	83	24	N	5/0	N	5/0	4	1	1	1	1		
E 158	1	60	10	F2FR	7/1	F2FR	8/1	1	1	1	1	1		
E 159	1	63	20	F2FR	8/1	F2FR	8/1	1	1	1	1	1		
E 160	2	24	13	N	5/0	N	5/0	1	1	1	1	1		
E 161	2	34	4	F2FR	8/1	F2FR	8/1	1	1	1	1	1		
E 162	0	71	17	F2FR	8/2	F2FR	8/1	1	1	1	1	1		
E 163	0	84	14	F2FR	8/1	F2FR	8/1	1	1	1	1	1	凸部に敷板	
E 164	0	83	13	F2FR	8/2	F2FR	8/1	7	2	2	1	1		
E 165	2	81	17	N	5/1	F2FR	8/1	5	1	1	1	1		
E 167	2	52	20	F2FR	8/2	F2FR	8/1	1	1	1	1	1		
E 168	2	13	21	F2FR	8/1	F2FR	8/1	5	1	1	1	1		
E 169	2	100	81	F2FR	8/1	F2FR	8/1	4	1	1	1	1		
E 170	1	70	23	F2FR	8/1	F2FR	8/1	4	1	1	1	1		
E 171	1	84	18	F2FR	8/1	F2FR	8/1	5	1	1	1	1		
E 172	1	83	17	F2FR	8/1	F2FR	8/1	1	1	1	1	1		
E 173	1	103	21	F2FR	8/1	F2FR	8/1	1	1	0	1	1		
E 174	0	71	17	F2FR	8/2	F2FR	8/1	1	1	1	1	1		
E 175	2	81	16	F2FR	7/1	F2FR	7/1	1	1	0	2	1		
E 176	1	87	22	N	5/0	N	5/0	2	1	1	1	1	1	階段に花縁あり
E 177	1	61	15	F2FR	8/2	F2FR	8/2	6	1	1	1	1	1	
E 178	1	63	15	F2FR	8/1	F2FR	8/1	4	0	1	1	1	1	
E 179	1	101	23	F2FR	8/1	F2FR	8/2	2	1	1	2	1	1	
E 180	1	72	15	N	6/0	N	6/0	1	1	2	1	1	1	
E 181	1	34	10	SV	6/1	F2FR	7/2	1	1	1	1	1	1	
E 182	1	53	23	F2FR	6/1	F2FR	7/1	1	1	1	1	1	1	
E 183	1	31	16	F2FR	8/2	F2FR	8/2	4	1	1	1	1	1	
E 184	1	62	16	F2FR	8/2	F2FR	8/2	4	0	1	1	1	1	
E 185	1	65	20	F2FR	8/1	F2FR	8/2	3	1	0	1	1	1	
E 187	1	21	20	F2FR	8/2	F2FR	8/2	1	1	0	1	1	1	
E 188	1	72	8	F2FR	8/1	F2FR	8/1	1	1	1	1	1	1	
E 189	1	86	23	F2FR	6/1	F2FR	6/1	6	1	1	1	1	1	
E 190	1	17	15	F2FR	8/1	F2FR	8/1	5	1	1	1	1	1	
E 191	1	56	17	N	5/1	F2FR	7/1	1	1	1	1	1	1	
E 192	1	104	23	N	6/0	N	6/0	1	1	1	1	1	1	
E 193	1	86	24	F2FR	8/2	F2FR	8/2	4	1	1	1	1	1	
E 194	1	85	23	F2FR	8/1	F2FR	8/1	4	1	1	1	1	1	
E 195	2	85	18	F2FR	8/1	F2FR	8/1	5	1	1	1	1	1	
E 196	2	85	15	F2FR	7/2	F2FR	7/2	1	0	2	1	1	1	
E 198	1	36	31	F2FR	7/2	F2FR	7/2	1	1	2	1	1	1	階段車輪貫通穴
E 199	1	47	14	F2FR	8/2	F2FR	8/2	1	1	2	1	1	1	
E 200	1	17	14	F2FR	6/4	SV	7/6	1	1	1	1	1	1	
E 201	1	108	21	N	5/0	N	5/0	4	1	1	2	1	1	
E 202	1	83	26	F2FR	8/1	F2FR	8/1	7	1	0	4	1	1	
E 203	1	85	20	F2FR	8/1	F2FR	8/1	7	4	0	2	2	2	
E 204	1	88	18	F2FR	8/1	F2FR	8/1	7	1	0	1	1	1	
E 205	2	62	14	F2FR	8/5	F2FR	8/2	1	1	0	2	1	1	
E 206	2	28	20	F2FR	7/1	F2FR	8/1	5	0	1	0	1	1	
E 207	0	88	13	F2FR	8/1	F2FR	8/1	1	1	1	1	1	1	
E 208	0	44	15	F2FR	7/2	F2FR	7/1	1	1	1	1	1	1	
E 210	1	65	22	F2FR	8/2	F2FR	8/2	4	1	0	2	2	2	
E 211	1	88	18	F2FR	8/2	F2FR	8/2	1	1	1	0	2	2	
E 212	1	49	20	N	6/0	N	6/0	1	1	1	0	1	1	
E 213	1	38	22	F2FR	8/2	F2FR	8/2	2	0	0	2	2	2	
E 214	1	65	24	F2FR	8/2	F2FR	8/2	1	1	2	1	1	1	
E 215	4	87	7/1	SV	6/1	SV	6/1	1	1	1	1	1	1	
E 216	2	134	37	F2FR	6/1	F2FR	6/1	1	1	1	1	1	1	
E 217	2	15	10	F2FR	8/1	F2FR	8/1	1	1	1	1	1	1	
E 218	2	40	20	F2FR	8/2	F2FR	8/2	5	1	1	1	1	1	
E 219	2	65	20	F2FR	8/1	F2FR	8/2	1	1	1	1	1	1	
E 220	2	114	28	F2FR	8/1	F2FR	8/1	1	1	1	1	1	1	
E 221	2	18	23	F2FR	8/2	F2FR	8/2	2	1	0	0	0	0	

緯度	経度	日高ID	瓦種別 code	色 澤				傾斜 形状	傾 斜				備 考	
				赤色 最大値	赤色 最小値	青色 最大値	青色 最小値		傾斜 割合	凸部 割合	傾斜 割合	傾斜 割合		
E 222	1	66	17	F2FR	7/1	F2FR	8/1	7	1	1	1	1	1	
E 223	1	55	13	F2FR	8/1	F2FR	8/1	7	1	1	1	1	1	
E 224	2	4	12	F2FR	6/1	F2FR	6/1	1	1	1	1	1	1	階段に敷板あり
E 225	1	30	20	F2FR	7/1	F2FR	8/1	6	1	1	1	1	1	
E 226	1	34	19	F2FR	7/2	F2FR	7/2	1	1	1	1	1	1	
E 227	1	34	20	F2FR	8/1	F2FR	8/1	1	0	5	1	1	1	
E 228	1	44	15	F2FR	7/2	F2FR	8/2	3	1	1	1	1	1	
E 229	2	15	11	F2FR	8/1	F2FR	8/1	4	1	1	1	1	1	
E 231	2	46	16	F2FR	7/2	F2FR	8/1	1	1	1	1	1	1	
E 232	2	37	16	F2FR	7/1	F2FR	8/2	1	1	1	1	1	1	
E 233	2	84	6	F2FR	7/1	F2FR	8/2	1	1	1	1	1	1	
E 234	1	45	17	N	5/0	N	5/0	4	1	1	1	1	1	
E 235	2	62	12	F2FR	8/4	F2FR	8/4	0	0	0	0	0	0	
E 236	0	79	0	SV	6/1	SV	6/1	1	1	1	1	1	1	
E 237	2	60	11	F2FR	8/2	F2FR	8/2	7	0	0	2	2	2	
E 238	2	91	16	F2FR	8/2	F2FR	8/2	1	1	1	1	1	1	
E 239	2	87	84	F2FR	8/2	F2FR	8/2	4	1	1	1	1	1	
E 240	2	66	19	F2FR	7/2	F2FR	8/1	5	0	0	2	2	2	
E 241	2	67	20	F2FR	8/2	F2FR	8/2	6	1	0	1	1	1	
E 242	2	69	18	F2FR	8/2	F2FR	8/2	1	1	1	1	1	1	
E 243	2	25	14	F2FR	7/2	F2FR	8/2	1	1	1	1	1	1	
E 244	1	83	19	F2FR	8/2	F2FR	8/2	7	1	1	1	1	1	
E 245	2	70	14	N	6/0	F2FR	8/1	7	4	1	1	1	1	階段に積干目
E 246	2	85	09	F2FR	7/1	F2FR	7/1	7	1	1	1	1	1	
E 247	2	40	15	F2FR	7/1	F2FR	7/1	1	1	1	1	1	1	
E 248	2	20	14	F2FR	6/1	F2FR	6/1	0	1	1	1	1	1	
E 249	1	46	18	F2FR	7/2	F2FR	8/1	4	1	1	1	1	1	
E 250	2	27	10	F2FR	8/2	F2FR	8/2	3	1	1	1	1	1	
E 251	2	40	15	F2FR	8/2	F2FR	8/2	0	1	1	1	1	1	
E 252	1	16	21	F2FR	7/2	F2FR	8/2	1	1	1	1	1	1	
E 253	1	55	17	F2FR	8/4	F2FR	8/2	5	1	1	1	1	1	
E 254	1	36	19	F2FR	6/2	F2FR	7/2	5	1	1	1	1	1	
E 255	2	24	15	F2FR	8/2	F2FR	8/2	1	1	1	1	1	1	
E 256	2	58	17	F2FR	6/1	N	7/0	1	1	1	1	1	1	
E 257	1	57	27	F2FR	7/1	F2FR	7/1	4	1	1	1	1	1	
E 258	2	48	18	F2FR	8/2	F2FR	8/2	5	1	1	1	1	1	
E 259	2	78	27	N	5/0	N	5/0	4	1	1	1	1	1	
E 260	2	72	10	F2FR	5/2	SV	6/4	1	1	1	1	1	1	
E 261	1	89	26	F2FR	7/1	F2FR	7/1	1	1	1	1	1	1	
E 262	1	63	15	F2FR	8/2	F2FR	8/2	1	1	1	1	1	1	
E 263	1	66	21	SV	6/1	SV	6/1	4	1	1	1	1	1	
E 264	1	34	18	F2FR	4/2	SV	4/1	1	1	1	1	1	1	
E 265	1	82	26	N	6/0	N	6/0	1	1	1	1	1	1	
E 266	1	84	28	SV	6/4									

観覧番号	地区名	法政CD	瓦葺部Code	瓦葺部(cm)		色 調				観覧	観覧	観 望				備 考
				最大瓦	最小瓦	瓦葺部	瓦葺部	瓦葺部	瓦葺部			瓦葺部	瓦葺部	瓦葺部	瓦葺部	
E-286	2			33	14	101R	77	57R	67			1	2			
E-287	2			146	19	87R	47	87R	47			1	2			
E-288	2			70	50	7	69	7	60	7		1	4	1		
E-289	2			21	14	157R	97	157R	87			1	2			
E-290	2			69	69	173R	97	173R	87			1	2			
E-291	2			45	31	101R	67	101R	67			1	1	1	1	
E-292	2			10	10	8	80	8	80							
E-293	2			15	10	57	77	57	77							
E-294	2			38	10	101R	67	101R	77			1	2			
E-295	2			69	19	101R	87	101R	77	4		0	0	0		
E-296	2			70	0	0	80	8	80			1	2			
E-297	0											0	0			
E-298	0											2	1			
E-299	1			38	31	57	77	57	77	5		0	4	1		
E-300	1			49	10	101R	67	101R	67	6		0	4	1		
E-301	1			17	13	77R	87	77R	87			0	4			
E-302	2			31	13	101R	87	101R	87			0	0			
E-303	2			38	24	101R	87	101R	87	4		0	4	2		
E-304	2			51	23	101R	77	8	50			1	1			
E-305	0															
E-306	0															
E-307	0															
E-308	0															

第11表 凡例

瓦葺部Code	瓦葺部	円筒Code	調敷(出部)	凸部Code	調敷(凸部)	調敷Code	調敷(側面)	縁部Code	調敷(縁部)
0	小瓦	0	マメツ	0	調敷(凸部)	0	マメツ	1	テズリ
1	平瓦	1	瓦目	1	調敷(側面)	1	瓦目	2	マメツ
2	丸瓦	2	ナダ	2	ナダ	2	ナダ	3	テズリ後平形目目
3	軒平瓦	3	ハタリ	3	ハタリ	3	ハタリ	4	テズリ後平形目目
4	軒丸瓦	4	平形目目	4	平形目目	4	平形目目	5	テズリ後平形目目
5	調敷	5	右目後ナダ	5	右目後ナダ	5	右目後ナダ	6	右目後ナダ
6	調敷	6	右目後平形目目	6	右目後平形目目	6	右目後平形目目		
7	ハタリ	7	ハタリ	7	ハタリ	7	ハタリ		
8	小瓦	8	小瓦	8	小瓦	8	小瓦		

- 注1. 走りはA区、D区、E区の順  
 注2. 最大幅は残存部の長さ  
 注3. 最大幅は最も厚い部分の長さ、確定値については( )で表記  
 注4. 色相・明度・彩度は標準土色帖により分類

側面の調敷

調敷	平瓦	丸瓦	合計
テズリ	515	123	638
テズリ後平形目目	1	0	1
右目後ナダ	7	1	8
ナダ	0	1	1
右目後ナダ	4	0	4
右目	2	0	2
マメツ	69	46	115
合計	598	171	769

凸部の調敷

調敷	平瓦	丸瓦	合計
テズリ	183	47	230
平形目目	3	1	4
テズリ後平形目目	2	0	2
右目後ナダ	2	0	2
マメツ	45	18	63
合計	235	66	301

凹部の調敷

調敷	平瓦	丸瓦	合計
右目	762	296	1058
ナダ	10	8	18
右目後ナダ	16	0	16
右目後平形目目	2	0	2
右目後ナダ	0	1	1
マメツ	140	101	241
ハタリ	8	8	16
合計	938	351	1289

凸部の調敷

調敷	平瓦	丸瓦	合計
右目	221	18	239
ナダ	281	151	432
平形目目	139	31	170
右目	64	5	69
右目後ナダ	1	3	4
右目後ナダ	0	1	1
右目後ナダ	21	0	21
マメツ	160	151	311
ハタリ	10	10	20
合計	857	350	1207

第12表 軒平瓦観察表

観覧番号	番号	文種	調敷	瓦 葺 部										調敷	厚	調敷の形状							
				瓦葺部	瓦葺部	瓦葺部	瓦葺部	瓦葺部	瓦葺部	瓦葺部	瓦葺部	瓦葺部	瓦葺部				瓦葺部	瓦葺部	瓦葺部				
4	D113	同慶寺観音堂瓦	2/3	111	12-20	43-50	53-55	1+9	21-23	調敷	58-18	58-67	7307/6	7307/6	テズリ	ナダ	右目	平形目目	ナダ	テズリ	60	13	9
8	D114	同慶寺観音堂瓦	2/3	104-110	11-24	43-50	53-55	1+9	21-23	調敷	58-18	58-67	7307/6	7307/6	テズリ	ナダ	右目	平形目目	ナダ	テズリ	60	13	9
4	D115	同慶寺観音堂瓦	2/3	110-118	69-70	43-54	50-57	1+3	21-30	調敷	58-18	58-67	7307/6	7307/6	テズリ	ナダ	右目	平形目目	ナダ	テズリ	60	13	9
4	D116	同慶寺観音堂瓦	2/3	119	65-73	43-54	52-58	1+9	21-30	調敷	58-18	58-67	7307/6	7307/6	テズリ	ナダ	右目	平形目目	ナダ	テズリ	60	13	9
4	D117	同慶寺観音堂瓦	1/8	09-18	65-73	43-54	52-58	1+9	21-30	調敷	58-18	58-67	7307/6	7307/6	テズリ	ナダ	右目	平形目目	ナダ	テズリ	60	13	9
4	D118	同慶寺観音堂瓦	1/8	08-17	65-73	43-54	52-58	1+9	21-30	調敷	58-18	58-67	7307/6	7307/6	テズリ	ナダ	右目	平形目目	ナダ	テズリ	60	13	9
4	A126	大聖堂観音堂瓦	1/4	1020-1040	67-77	33	50-54	1+6	28-35	調敷	0	0	0	0	ナダ	ナダ	右目	平形目目	ナダ	マメツ			
5	A127	大聖堂観音堂瓦	1/4	1040	67-77	33	50-54	1+6	28-35	調敷	0	0	0	0	ナダ	ナダ	右目	平形目目	ナダ	マメツ			
5	A128	大聖堂観音堂瓦	1/4	1040	67-77	33	50-54	1+6	28-35	調敷	0	0	0	0	ナダ	ナダ	右目	平形目目	ナダ	マメツ			
5	A129	大聖堂観音堂瓦	1/8	08	68	68-74				調敷	0	0	0	0	ナダ	ナダ	右目	平形目目	ナダ	マメツ			
5	A130	大聖堂観音堂瓦	1/8	08	68	68-74				調敷	0	0	0	0	ナダ	ナダ	右目	平形目目	ナダ	マメツ			
A131	大聖堂	本瓦		140						調敷	0	0	0	0	ナダ	ナダ	右目	平形目目	ナダ	マメツ			
D109	本瓦									調敷	68-69	67	7307/6	7307/6	マメツ								

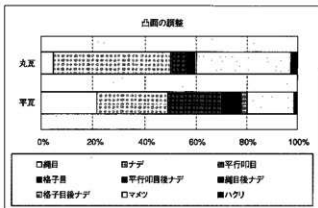
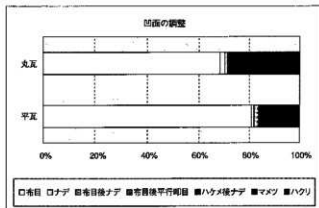
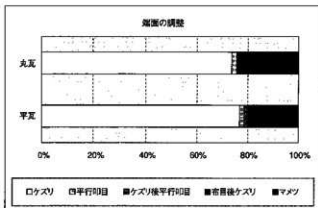
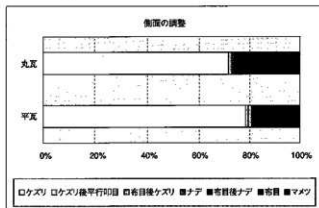
第13表 軒丸瓦観察表

観覧番号	番号	文種	調敷	瓦 葺 部										調敷	厚	調敷の形状									
				瓦葺部	瓦葺部	瓦葺部	瓦葺部	瓦葺部	瓦葺部	瓦葺部	瓦葺部	瓦葺部	瓦葺部				瓦葺部	瓦葺部	瓦葺部						
8	A661	観音堂(1)	2/3	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	
8	A662	観音堂(2)	2/3	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20
8	A663	観音堂(3)	2/3	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20
8	A664	観音堂(4)	2/3	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20
8	A665	観音堂(5)	2/3	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20
8	A666	観音堂(6)	2/3	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20
8	A667	観音堂(7)	2/3	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20
8	A668	観音堂(8)	2/3	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20
8	A669	観音堂(9)	2/3	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20
8	A670	観音堂(10)	2/3	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20
8	A671	観音堂(11)	2/3	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20
8	A672	観音堂(12)	2/3	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20
8	A673	観音堂(13)	2/3	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20
8	A674	観音堂(14)	2/3	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20
8	A675	観音堂(15)	2/3	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20
8	A676	観音堂(16)	2/3	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20	22-20
8	A677	観音堂(17)	2/3	22-20	22-20	22-20	22-20	2																	

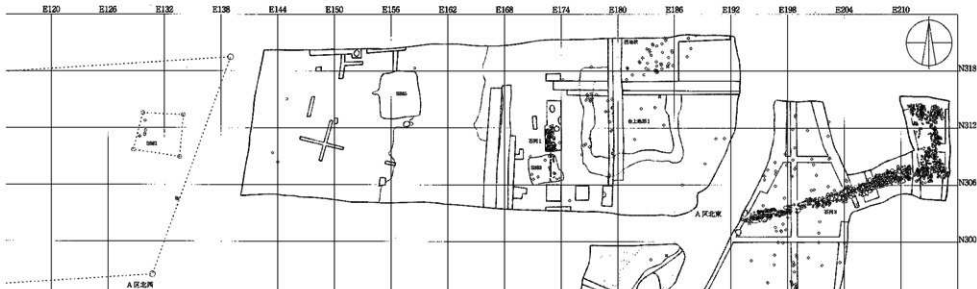
第14表 側面・端面の形状の分類

code	側面分類	平瓦	丸瓦	全体	code	端面分類	平瓦	丸瓦	全体
1		25.06%	1.68%	17.88%	1		83.68%	88.71%	84.77%
2		2.53%	0.00%	1.74%	2		9.21%	6.45%	8.61%
3		2.78%	0.00%	1.91%	3		1.26%	1.61%	1.32%
4		33.70%	3.35%	25.52%	4		4.60%	1.61%	3.97%
5		17.97%	37.99%	24.13%	5		0.84%	0.00%	0.66%
6		8.86%	1.63%	6.77%	6		0.42%	1.61%	0.66%
7		4.30%	53.07%	19.44%					
8		0.76%	0.56%	0.69%					
9		2.03%	0.00%	1.39%					
10		0.00%	1.68%	0.52%					

注 側面576点、端面302点分類、codeは丸一覧表の側面形状・端面形状に対応







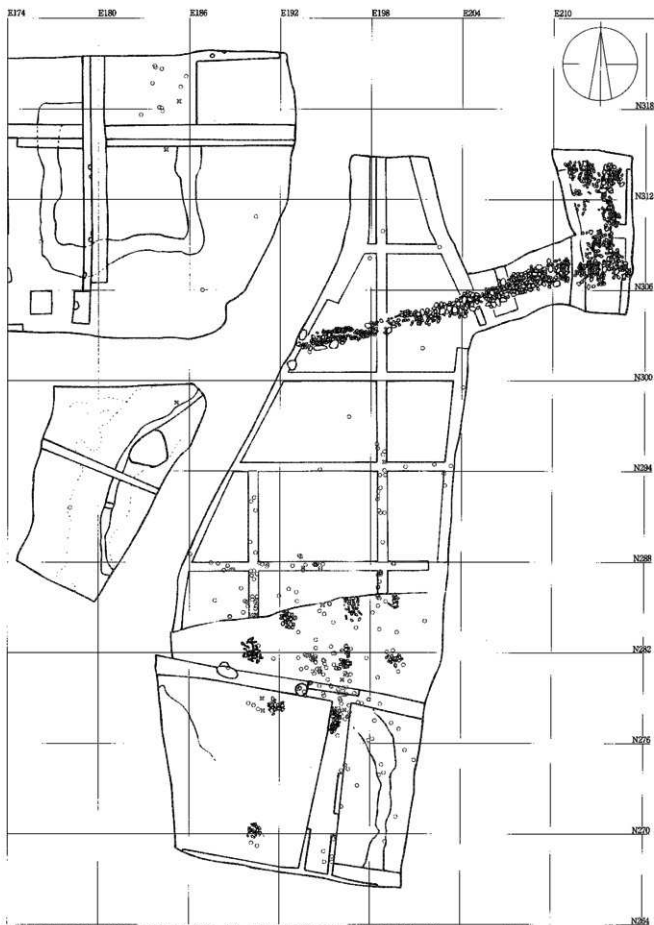
第16表 瓦主要諸元 (B・C区は瓦未出土のため対象外)

瓦取付体数	160	欠要素 (※ 瓦割あり瓦片不取)
欠要素	0.99%	欠要素体数 14
二次元形跡率	84.17%	二次元形跡率体数 1186
プロット形跡	79.70%	プロット形跡体数 1123
プロット不取率	20.30%	プロット不取体数 286
車庫率	80.65%	車庫体数 1365
平均単台体数	19.38%	単台体数 270
平均単台体数	5.3	単台体数 119
分寄率 (点/平米)	算出面積	総面積 (平米) 3070.6
瓦取付率 (点/平米)	未算出	瓦取付率算出体数 未算出
遺構率 (点/平米)	未算出	遺構率算出体数 (記録面区分) 234
瓦取付率	2.08%	瓦取付体数 29

第17表 個体別資料一覧項目コード

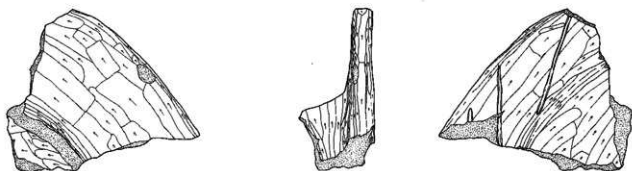
code	項目名称	code	項目名称	瓦割別コード	
01	地区	08	Y形種別	15	瓦割
02	ID	09	Y形種別	16	不明
03	出上り階数	10	(異) 17	二次元形跡	
04	出上り階数	11	(異) 18	二次元形跡	
05	層数	12	(異) 19	瓦割有項目	
06	二次元形跡	13	集合体種別	20	プロット形跡
07	瓦取付率	14	遺構	21	瓦取付率
08	遺構率	15	遺構	22	遺構率
09	遺構率	16	遺構	23	遺構率
10	遺構率	17	遺構	24	遺構率
11	遺構率	18	遺構	25	遺構率
12	遺構率	19	遺構	26	遺構率
13	遺構率	20	遺構	27	遺構率
14	遺構率	21	遺構	28	遺構率
15	遺構率	22	遺構	29	遺構率
16	遺構率	23	遺構	30	遺構率
17	遺構率	24	遺構	31	遺構率
18	遺構率	25	遺構	32	遺構率
19	遺構率	26	遺構	33	遺構率
20	遺構率	27	遺構	34	遺構率
21	遺構率	28	遺構	35	遺構率
22	遺構率	29	遺構	36	遺構率
23	遺構率	30	遺構	37	遺構率
24	遺構率	31	遺構	38	遺構率
25	遺構率	32	遺構	39	遺構率
26	遺構率	33	遺構	40	遺構率
27	遺構率	34	遺構	41	遺構率
28	遺構率	35	遺構	42	遺構率
29	遺構率	36	遺構	43	遺構率
30	遺構率	37	遺構	44	遺構率
31	遺構率	38	遺構	45	遺構率
32	遺構率	39	遺構	46	遺構率
33	遺構率	40	遺構	47	遺構率
34	遺構率	41	遺構	48	遺構率
35	遺構率	42	遺構	49	遺構率
36	遺構率	43	遺構	50	遺構率
37	遺構率	44	遺構	51	遺構率
38	遺構率	45	遺構	52	遺構率
39	遺構率	46	遺構	53	遺構率
40	遺構率	47	遺構	54	遺構率
41	遺構率	48	遺構	55	遺構率
42	遺構率	49	遺構	56	遺構率
43	遺構率	50	遺構	57	遺構率
44	遺構率	51	遺構	58	遺構率
45	遺構率	52	遺構	59	遺構率
46	遺構率	53	遺構	60	遺構率
47	遺構率	54	遺構	61	遺構率
48	遺構率	55	遺構	62	遺構率
49	遺構率	56	遺構	63	遺構率
50	遺構率	57	遺構	64	遺構率
51	遺構率	58	遺構	65	遺構率
52	遺構率	59	遺構	66	遺構率
53	遺構率	60	遺構	67	遺構率
54	遺構率	61	遺構	68	遺構率
55	遺構率	62	遺構	69	遺構率
56	遺構率	63	遺構	70	遺構率
57	遺構率	64	遺構	71	遺構率
58	遺構率	65	遺構	72	遺構率
59	遺構率	66	遺構	73	遺構率
60	遺構率	67	遺構	74	遺構率
61	遺構率	68	遺構	75	遺構率
62	遺構率	69	遺構	76	遺構率
63	遺構率	70	遺構	77	遺構率
64	遺構率	71	遺構	78	遺構率
65	遺構率	72	遺構	79	遺構率
66	遺構率	73	遺構	80	遺構率
67	遺構率	74	遺構	81	遺構率
68	遺構率	75	遺構	82	遺構率
69	遺構率	76	遺構	83	遺構率
70	遺構率	77	遺構	84	遺構率
71	遺構率	78	遺構	85	遺構率
72	遺構率	79	遺構	86	遺構率
73	遺構率	80	遺構	87	遺構率
74	遺構率	81	遺構	88	遺構率
75	遺構率	82	遺構	89	遺構率
76	遺構率	83	遺構	90	遺構率
77	遺構率	84	遺構	91	遺構率
78	遺構率	85	遺構	92	遺構率
79	遺構率	86	遺構	93	遺構率
80	遺構率	87	遺構	94	遺構率
81	遺構率	88	遺構	95	遺構率
82	遺構率	89	遺構	96	遺構率
83	遺構率	90	遺構	97	遺構率
84	遺構率	91	遺構	98	遺構率
85	遺構率	92	遺構	99	遺構率
86	遺構率	93	遺構	100	遺構率
87	遺構率	94	遺構	101	遺構率
88	遺構率	95	遺構	102	遺構率
89	遺構率	96	遺構	103	遺構率
90	遺構率	97	遺構	104	遺構率
91	遺構率	98	遺構	105	遺構率
92	遺構率	99	遺構	106	遺構率
93	遺構率	100	遺構	107	遺構率
94	遺構率	101	遺構	108	遺構率
95	遺構率	102	遺構	109	遺構率
96	遺構率	103	遺構	110	遺構率
97	遺構率	104	遺構	111	遺構率
98	遺構率	105	遺構	112	遺構率
99	遺構率	106	遺構	113	遺構率
100	遺構率	107	遺構	114	遺構率
101	遺構率	108	遺構	115	遺構率
102	遺構率	109	遺構	116	遺構率
103	遺構率	110	遺構	117	遺構率
104	遺構率	111	遺構	118	遺構率
105	遺構率	112	遺構	119	遺構率
106	遺構率	113	遺構	120	遺構率
107	遺構率	114	遺構	121	遺構率
108	遺構率	115	遺構	122	遺構率
109	遺構率	116	遺構	123	遺構率
110	遺構率	117	遺構	124	遺構率
111	遺構率	118	遺構	125	遺構率
112	遺構率	119	遺構	126	遺構率
113	遺構率	120	遺構	127	遺構率
114	遺構率	121	遺構	128	遺構率
115	遺構率	122	遺構	129	遺構率
116	遺構率	123	遺構	130	遺構率
117	遺構率	124	遺構	131	遺構率
118	遺構率	125	遺構	132	遺構率
119	遺構率	126	遺構	133	遺構率
120	遺構率	127	遺構	134	遺構率
121	遺構率	128	遺構	135	遺構率
122	遺構率	129	遺構	136	遺構率
123	遺構率	130	遺構	137	遺構率
124	遺構率	131	遺構	138	遺構率
125	遺構率	132	遺構	139	遺構率
126	遺構率	133	遺構	140	遺構率
127	遺構率	134	遺構	141	遺構率
128	遺構率	135	遺構	142	遺構率
129	遺構率	136	遺構	143	遺構率
130	遺構率	137	遺構	144	遺構率
131	遺構率	138	遺構	145	遺構率
132	遺構率	139	遺構	146	遺構率
133	遺構率	140	遺構	147	遺構率
134	遺構率	141	遺構	148	遺構率
135	遺構率	142	遺構	149	遺構率
136	遺構率	143	遺構	150	遺構率
137	遺構率	144	遺構	151	遺構率
138	遺構率	145	遺構	152	遺構率
139	遺構率	146	遺構	153	遺構率
140	遺構率	147	遺構	154	遺構率
141	遺構率	148	遺構	155	遺構率
142	遺構率	149	遺構	156	遺構率
143	遺構率	150	遺構	157	遺構率
144	遺構率	151	遺構	158	遺構率
145	遺構率	152	遺構	159	遺構率
146	遺構率	153	遺構	160	遺構率
147	遺構率	154	遺構	161	遺構率
148	遺構率	155	遺構	162	遺構率
149	遺構率	156	遺構	163	遺構率
150	遺構率	157	遺構	164	遺構率
151	遺構率	158	遺構	165	遺構率
152	遺構率	159	遺構	166	遺構率
153	遺構率	160	遺構	167	遺構率
154	遺構率	161	遺構	168	遺構率
155	遺構率	162	遺構	169	遺構率
156	遺構率	163	遺構	170	遺構率
157	遺構率	164	遺構	171	遺構率
158	遺構率	165	遺構	172	遺構率
159	遺構率	166	遺構	173	遺構率
160	遺構率	167	遺構	174	遺構率
161	遺構率	168	遺構	175	遺構率
162	遺構率	169	遺構	176	遺構率
163	遺構率	170	遺構	177	遺構率
164	遺構率	171	遺構	178	遺構率
165	遺構率	172	遺構	179	遺構率
166	遺構率	173	遺構	180	遺構率
167	遺構率	174	遺構	181	遺構率
168	遺構率	175	遺構	182	遺構率
169	遺構率	176	遺構	183	遺構率
170	遺構率	177	遺構	184	遺構率
171	遺構率	178	遺構	185	遺構率
172	遺構率	179	遺構	186	遺構率
173	遺構率	180	遺構	187	遺構率
174	遺構率	181	遺構	188	遺構率
175	遺構率	182	遺構	189	遺構率
176	遺構率	183	遺構	190	遺構率
177	遺構率	184	遺構	191	遺構率
178	遺構率	185	遺構	192	遺構率
179	遺構率	186	遺構	193	遺構率
180	遺構率	187	遺構	194	遺構率
181	遺構率	188	遺構	195	遺構率
182	遺構率	189	遺構	196	遺構率
183	遺構率	190	遺構	197	遺構率
184	遺構率	191	遺構	198	遺構率
185	遺構率	192	遺構	199	遺構率
186	遺構率	193	遺構	200	遺構率
187	遺構率	194	遺構	201	遺構率
188	遺構率	195	遺構	202	遺構率
189	遺構率	196	遺構	203	遺構率
190	遺構率	197	遺構	204	遺構率
191	遺構率	198	遺構	205	遺構率
192	遺構率	199	遺構	206	遺構率
193	遺構率	200	遺構	207	遺構率
194	遺構率	201	遺構	208	遺構率
195	遺構率	202	遺構	209	遺構率
196	遺構率	203	遺構	21	



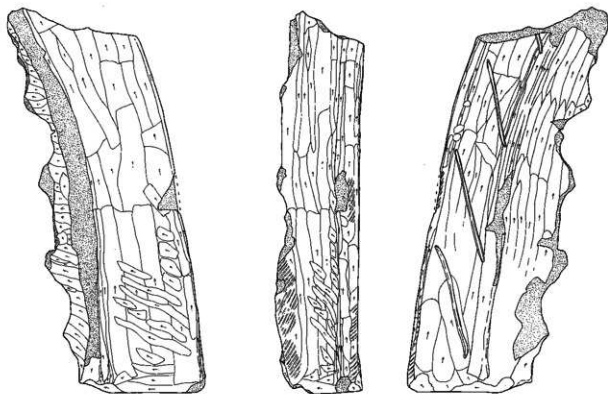


瓦種	瓦種コード	瓦種	瓦種コード	瓦種	瓦種コード	瓦種	瓦種コード
A	200	A	201	A	202	A	203
A	204	A	205	A	206	A	207
A	208	A	209	A	210	A	211
A	212	A	213	A	214	A	215
A	216	A	217	A	218	A	219
A	220	A	221	A	222	A	223
A	224	A	225	A	226	A	227
A	228	A	229	A	230	A	231
A	232	A	233	A	234	A	235
A	236	A	237	A	238	A	239
A	240	A	241	A	242	A	243
A	244	A	245	A	246	A	247
A	248	A	249	A	250	A	251
A	252	A	253	A	254	A	255
A	256	A	257	A	258	A	259
A	260	A	261	A	262	A	263
A	264	A	265	A	266	A	267
A	268	A	269	A	270	A	271
A	272	A	273	A	274	A	275
A	276	A	277	A	278	A	279
A	280	A	281	A	282	A	283
A	284	A	285	A	286	A	287
A	288	A	289	A	290	A	291
A	292	A	293	A	294	A	295
A	296	A	297	A	298	A	299
A	300	A	301	A	302	A	303
A	304	A	305	A	306	A	307
A	308	A	309	A	310	A	311
A	312	A	313	A	314	A	315
A	316	A	317	A	318	A	319
A	320	A	321	A	322	A	323
A	324	A	325	A	326	A	327
A	328	A	329	A	330	A	331
A	332	A	333	A	334	A	335
A	336	A	337	A	338	A	339
A	340	A	341	A	342	A	343
A	344	A	345	A	346	A	347
A	348	A	349	A	350	A	351
A	352	A	353	A	354	A	355
A	356	A	357	A	358	A	359
A	360	A	361	A	362	A	363
A	364	A	365	A	366	A	367
A	368	A	369	A	370	A	371
A	372	A	373	A	374	A	375
A	376	A	377	A	378	A	379
A	380	A	381	A	382	A	383
A	384	A	385	A	386	A	387
A	388	A	389	A	390	A	391
A	392	A	393	A	394	A	395
A	396	A	397	A	398	A	399
A	400	A	401	A	402	A	403
A	404	A	405	A	406	A	407
A	408	A	409	A	410	A	411
A	412	A	413	A	414	A	415
A	416	A	417	A	418	A	419
A	420	A	421	A	422	A	423
A	424	A	425	A	426	A	427
A	428	A	429	A	430	A	431
A	432	A	433	A	434	A	435
A	436	A	437	A	438	A	439
A	440	A	441	A	442	A	443
A	444	A	445	A	446	A	447
A	448	A	449	A	450	A	451
A	452	A	453	A	454	A	455
A	456	A	457	A	458	A	459
A	460	A	461	A	462	A	463
A	464	A	465	A	466	A	467
A	468	A	469	A	470	A	471
A	472	A	473	A	474	A	475
A	476	A	477	A	478	A	479
A	480	A	481	A	482	A	483
A	484	A	485	A	486	A	487
A	488	A	489	A	490	A	491
A	492	A	493	A	494	A	495
A	496	A	497	A	498	A	499
A	500	A	501	A	502	A	503
A	504	A	505	A	506	A	507
A	508	A	509	A	510	A	511
A	512	A	513	A	514	A	515
A	516	A	517	A	518	A	519
A	520	A	521	A	522	A	523
A	524	A	525	A	526	A	527
A	528	A	529	A	530	A	531
A	532	A	533	A	534	A	535
A	536	A	537	A	538	A	539
A	540	A	541	A	542	A	543
A	544	A	545	A	546	A	547
A	548	A	549	A	550	A	551
A	552	A	553	A	554	A	555
A	556	A	557	A	558	A	559
A	560	A	561	A	562	A	563
A	564	A	565	A	566	A	567
A	568	A	569	A	570	A	571
A	572	A	573	A	574	A	575
A	576	A	577	A	578	A	579
A	580	A	581	A	582	A	583
A	584	A	585	A	586	A	587
A	588	A	589	A	590	A	591
A	592	A	593	A	594	A	595
A	596	A	597	A	598	A	599
A	600	A	601	A	602	A	603
A	604	A	605	A	606	A	607
A	608	A	609	A	610	A	611
A	612	A	613	A	614	A	615
A	616	A	617	A	618	A	619
A	620	A	621	A	622	A	623
A	624	A	625	A	626	A	627
A	628	A	629	A	630	A	631
A	632	A	633	A	634	A	635
A	636	A	637	A	638	A	639
A	640	A	641	A	642	A	643
A	644	A	645	A	646	A	647
A	648	A	649	A	650	A	651
A	652	A	653	A	654	A	655
A	656	A	657	A	658	A	659
A	660	A	661	A	662	A	663
A	664	A	665	A	666	A	667
A	668	A	669	A	670	A	671
A	672	A	673	A	674	A	675
A	676	A	677	A	678	A	679
A	680	A	681	A	682	A	683
A	684	A	685	A	686	A	687
A	688	A	689	A	690	A	691
A	692	A	693	A	694	A	695
A	696	A	697	A	698	A	699
A	700	A	701	A	702	A	703
A	704	A	705	A	706	A	707
A	708	A	709	A	710	A	711
A	712	A	713	A	714	A	715
A	716	A	717	A	718	A	719
A	720	A	721	A	722	A	723
A	724	A	725	A	726	A	727
A	728	A	729	A	730	A	731
A	732	A	733	A	734	A	735
A	736	A	737	A	738	A	739
A	740	A	741	A	742	A	743
A	744	A	745	A	746	A	747
A	748	A	749	A	750	A	751
A	752	A	753	A	754	A	755
A	756	A	757	A	758	A	759
A	760	A	761	A	762	A	763
A	764	A	765	A	766	A	767
A	768	A	769	A	770	A	771
A	772	A	773	A	774	A	775
A	776	A	777	A	778	A	779
A	780	A	781	A	782	A	783
A	784	A	785	A	786	A	787
A	788	A	789	A	790	A	791
A	792	A	793	A	794	A	795
A	796	A	797	A	798	A	799
A	800	A	801	A	802	A	803
A	804	A	805	A	806	A	807
A	808	A	809	A	810	A	811
A	812	A	813	A	814	A	815
A	816	A	817	A	818	A	819
A	820	A	821	A	822	A	823
A	824	A	825	A	826	A	827
A	828	A	829	A	830	A	831
A	832	A	833	A	834	A	835
A	836	A	837	A	838	A	839
A	840	A	841	A	842	A	843
A	844	A	845	A	846	A	847
A	848	A	849	A	850	A	851
A	852	A	853	A	854	A	855
A	856	A	857	A	858	A	859
A	860	A	861	A	862	A	863
A	864	A	865	A	866	A	867
A	868	A	869	A	870	A	871
A	872	A	873	A	874	A	875
A	876	A	877	A	878	A	879
A	880	A	881	A	882	A	883
A	884	A	885	A	886	A	887
A	888	A	889	A	890	A	891
A	892	A	893	A	894	A	895
A	896	A	897	A	898	A	899
A	900	A	901	A	902	A	903
A	904	A	905	A	906	A	907
A	908	A	909	A	910	A	911
A	912	A	913	A	914	A	915
A	916	A	917	A	918	A	919
A	920	A	921	A			





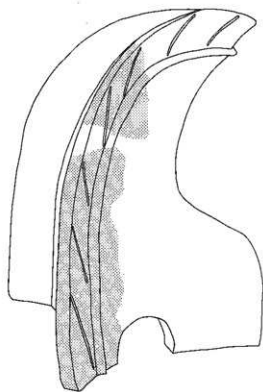
1: D826



2: RD001 (D001·D825)

0 10(cm)

第34圖 古瓦美測圖(1) 鴉尾



第35图 翫尾模式图



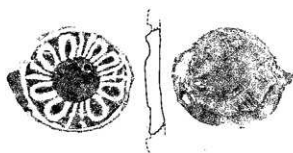
3:A036



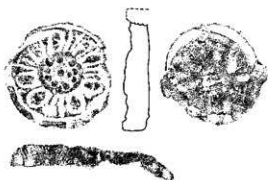
4:A136



5:E111



6:D012



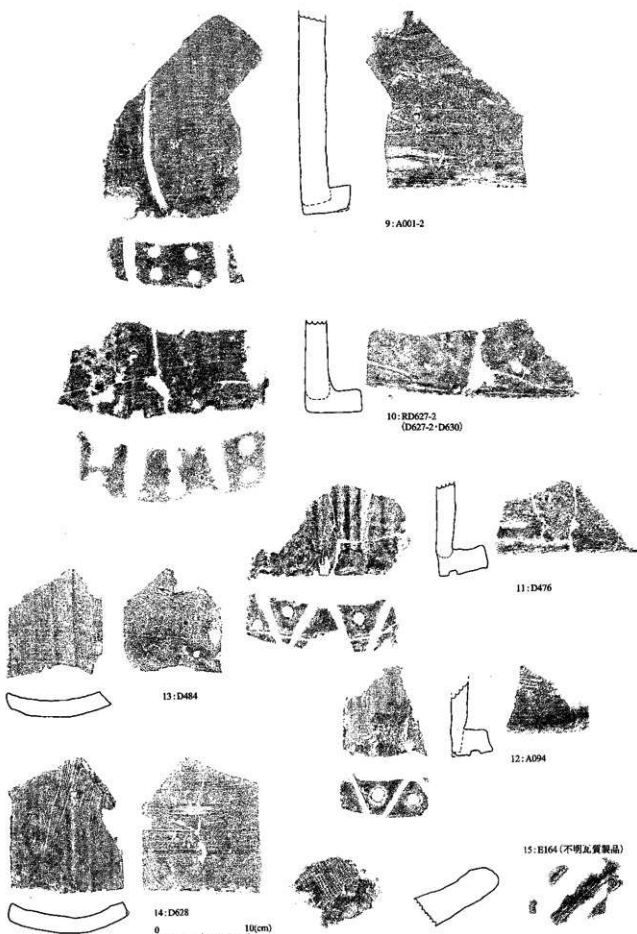
7:D623



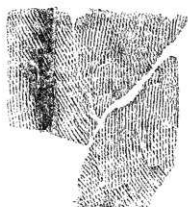
8:D013

0 10(cm)

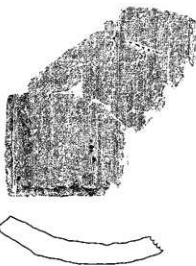
第36图 古瓦实测图(2) 軒丸瓦



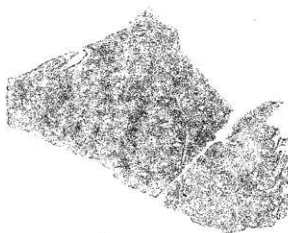
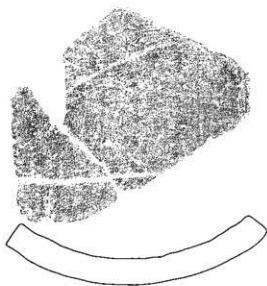
第37圖 古瓦実測図(3) 軒平瓦・隅平瓦・不明品



16: RA071 (A071-A076-A104)



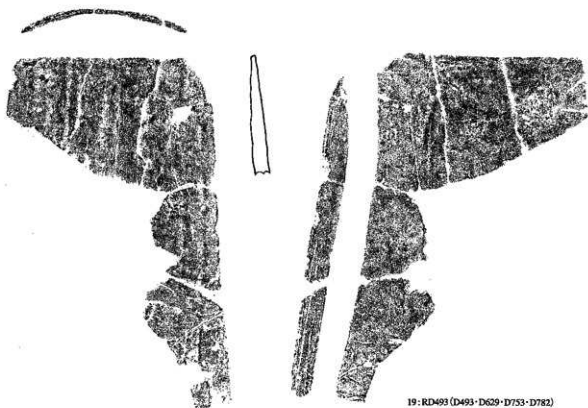
17: D733



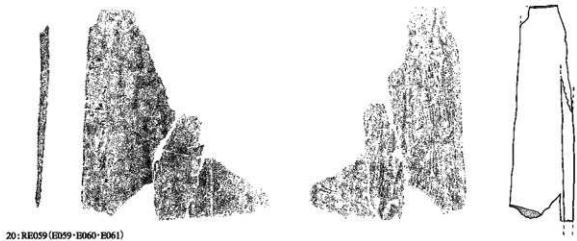
18: RE201 (E201-E259)

0 10(cm)

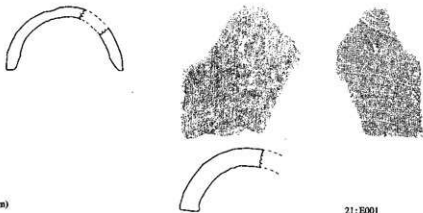
第38图 古瓦美测图(4) 平瓦



19: RD493 (D493・D629・D753・D782)



20: RE059 (E059・E060・E061)

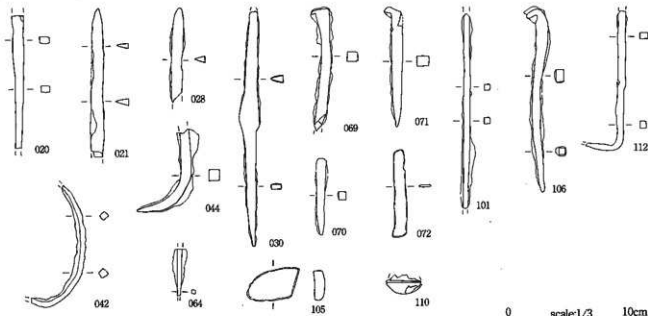


21: E001

第39圖 古瓦実測図(5) 平瓦・丸瓦



ID	地区	出土遺跡	出土遺跡2	3D	又或原形	主要種類	金銀	銅	鉄	最大径(mm)	最大厚(mm)	重量(g)	長/幅	幅/厚比	形状注	形状	形状説明	参考情報	実測	寸量		
040	A	No097		△	175,200	307,240	F	BP	961	71.4	28.7	232.8	1.3	25.1322	楕状	溝		No	No	No		
062	A	No097		△	175,200	307,240	F	BP	46.8	33.1	10.6	105	1.4	31.1431	楕状	溝		No	No	No		
063	A	No097		△	175,200	307,240	F	BP	17.8	18.8	8.4	18	1.1	20.1120	楕状	溝		No	No	No		
063	A	No097		△	175,200	307,240	F	BP	15.3	14.1	8.4	15	1.1	17.1117	楕状	溝		No	No	No		
064	A	No098		△	175,200	307,790	F	P	28.1	11.5	7.6	49	3.2	15.3315	楕状	不明		Yes	No	No		
065	A	No098		△	175,200	307,790	F	BP	39.4	92.8	48.9	452.9	1.1	1.9	1.91.9	楕状	溝		No	No	No	
067	A	No099		△	175,200	307,775	F	BP	30.9	29.6	12.2	72	1.0	24.1024	楕状	溝		No	No	No		
067	A	No099		△	175,200	307,775	F	BP	96.8	56.0	29.6	126.8	1.7	19.1719	楕状	溝		No	No	No		
068	A	No099		△	175,200	307,775	F	BP	23.4	14.8	8.5	26	1.6	17.1617	楕状	溝		No	No	No		
069	A	No100		△	181,400	317,000	F	P	97.8	19.0	16.8	30.3	5.1	11.5111	楕状	鈎状		Yes	No	No		
070	A	No113		△	182,700	318,675	F	P	61.5	11.1	8.0	34	5.5	14.5514	楕状	鈎状		Yes	No	No		
071	A	No114		△	186,800	317,100	F	P	35.3	13.2	14.2	23.6	7.3	0.9	7.20.9	楕状	不明		Yes	No	No	
072	A	No124		△	182,500	319,100	UK	P	59.3	11.6	1.6	10.8	6.0	7.3	6.07.3	楕状	不明		Yes	No	No	
073	A	No128		△	129,575	290,875	C	P	25.0	25.0	1.4	3.1	1.0	17.9	1.017.9	楕状	寛水溝		No	No	No	
074	A	TK					F	P	30.4	8.8	8.2	4.0	4.5	1.1	45.11	楕状	不明		No	No	No	
075	A	TK					F	BP	53.6	51.9	23.3	86.0	1.0	1.6	1.01.6	楕状	溝		No	No	No	
076	A	TK					F	BP	103.7	80.8	96.4	434.8	1.3	2.2	1.32.2	楕状	溝		No	No	No	
077	A	TK					F	P	34.1	7.8	7.7	2.8	4.4	1.0	44.0	楕状	不明		No	No	No	
078	A	TK					F	P	36.0	7.8	7.8	3.6	4.6	1.0	45.0	楕状	不明		No	No	No	
079	A	TK					F	P	69.2	11.5	10.9	9.7	5.1	1.1	51.11	楕状	鈎状		No	No	No	
080	A	TT3					F	BP	64.9	47.1	20.5	72.8	1.2	2.3	1.22.3	楕状	溝		No	No	No	
081	A	TT3					F	BP	23.5	20.2	19.8	11.0	1.0	1.2	1.01.2	楕状	溝		No	No	No	
082	A	TT4																		Yes		
083	A	TY	支那				C	P	24.8	24.7	1.5	2.8	1.0	16.5	1.016.5	楕状	円巻溝		No	No	No	
084	A	TK					F	P	50.8	12.9	11.2	11.7	8.9	1.1	22.11	楕状	不明		No	No	No	
085	A	TG	N314E174				F	BP	86.7	69.0	91.5	209.3	1.3	2.2	1.32.2	楕状	溝		No	No	No	
086	A	TG	N315E174				F	BP	26.9	25.3	18.9	22.3	1.1	1.3	1.11.3	楕状	溝		No	No	No	
087	A	SX1					F	BP	67.1	47.8	21.6	70.1	1.4	2.2	1.42.2	楕状	溝		No	No	No	
088	A	SX1	N<sup>1</sup>ト				F	BP	40.6	36.8	28.2	43.1	1.1	1.3	1.11.3	楕状	溝		No	No	No	
089	A	TK					F	P	39.8	34.5	7.0	10.4	1.2	4.9	1.24.9	楕状	不明		No	No	No	
090	A	TK					F	P	36.9	34	8.0	8.1	3.9	1.2	3.91.2	楕状	不明		No	No	No	
091	A	TK					F	P	28.5	10.2	9.5	5.0	2.8	1.1	28.11	楕状	不明		No	No	No	
092	A	TK					F	P	33.0	10.4	9.5	5.8	3.2	1.1	32.11	楕状	不明		No	No	No	
093	A	TK					F	BP	53.4	51.6	20.8	90.1	1.0	1.7	1.01.7	楕状	溝		No	No	No	
094	A	TK					F	BP	87.4	44.5	14.6	53.9	1.5	3.0	1.53.0	楕状	溝		No	No	No	
095	A	TK					F	BP	31.8	27.3	29.2	23.7	1.9	1.4	1.21.4	楕状	溝		No	No	No	
096	A	TK					F	BP	19.3	16.0	13.1	5.8	1.2	1.3	1.21.3	楕状	溝		No	No	No	
097	A	SX1	N313E175				F	P	22.3	8.3	7.0	1.7	2.7	1.2	27.1.2	楕状	不明		No	No	No	
098	A	TG	N313E175				F	P	20.0	11.2	12.7	3.4	2.6	0.9	2.60.9	楕状	鈎状		No	No	No	
100	A	TG	N314E174				F	UK	33.0	24.0	12.7	8.9	1.4	1.9	1.41.9	楕状	UK		No	No	No	
101	B	S391	No.36	△	164,075	216,600	F	P	84.8	12.3	10.6	11.1	6.9	1.2	6.91.2	楕状	不明		102,103	Yes	No	No
102	B	S391	No.36	△	164,075	216,600	F	P	48.8	8.3	8.1	4.5	5.8	1.3	5.21.3	楕状	不明		101	Yes	No	No
103	B	S391	No.36	△	164,075	216,600	F	P	22.8	30.8	6.0	1.7	2.1	1.4	2.11.4	楕状	不明		101	Yes	No	No
104	C	S398	R				F	BP	56.2	43.6	22.7	22.3	1.3	1.9	1.31.9	楕状	溝		No	No	No	
105	C	S3109	No.1	△	173,975	139,750	F	P	46.5	36.3	8.7	17.3	1.8	3.0	1.83.0	楕状	不明		Yes	No	No	
106	C	S3113	No.2	△	164,400	137,150	F	P	147.7	16.7	16.7	45.2	8.8	1.0	8.81.0	楕状	鈎状		Yes	No	No	
107	C	TK					F	P	42.0	38.1	13.0	18.5	1.4	2.8	1.42.8	楕状	鈎状		No	No	No	
108	C	TK					F	P	60.5	11.1	30.8	36.7	6.6	1.0	5.51.0	楕状	鈎状		No	No	No	
109	C	TK					F	P	58.0	9.4	7.2	4.8	6.2	1.3	6.21.3	楕状	不明		No	No	No	
110	D	No108		△	197,935	272,200	C	P	27.6	19.4	1.3	3.7	1.4	14.9	1.414.9	楕状	鈎状		Yes	No	No	
111	D	TT5					F	P	49.5	42.8	6.9	9.9	1.2	6.2	1.26.2	楕状	不明		No	No	No	
112	D	SQ	No.1	△	195,050	287,150	F	P	58.2	7.7	6.9	4.2	7.6	1.1	7.61.1	楕状	不明		113,114	Yes	No	No
113	D	SQ	No.1	△	195,050	287,150	F	P	38.2	6.6	6.3	2.8	5.8	1.0	5.81.0	楕状	不明		112	Yes	No	No
114	D	SQ	No.2	△	195,050	287,150	F	P	32.7	7.5	5.3	2.3	4.4	1.4	4.41.4	楕状	不明		112	Yes	No	No
115	D	SQ	No.3	△	195,150	292,250	F	BP	94.5	89.0	34.6	146.6	1.6	1.7	1.61.7	楕状	溝		No	No	No	
116	E	TT4	No.1	△	204,100	299,925														Yes		
117	E	No150		×	UK	UK	C	P	26.9	21.9	21.3	4.1	1.2	1.0	1.21.0	楕状	鈎状		No	No	No	
118	E	No172		×	UK	UK	F	P	45.7	6.5	6.2	2.4	7.0	1.0	7.01.0	楕状	不明		No	No	No	
119	E	SX3	N306E200				F	BP	63.4	61.7	27.7	111.4	1.0	2.2	1.02.2	楕状	溝		No	No	No	



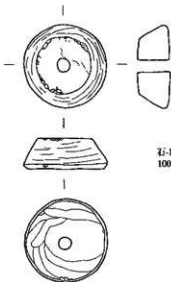
第40図 金属器実測図

#### 4 石器 (第10表)

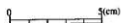
縄文時代の石器は、A地区を中心に黒曜石・チャート片がみられ、そのほとんどは剥片であるが、若干の石鏃、石匙がみられる。また打製石斧はA・C地区でみられるが、97住のものは混入と考える。また黒曜石の石核も出土している。古代以降の石器は、C地区を中心に、砥石を主としてみられ、113住からは置砥石2点が出土している。100住からは古墳時代後期とみられる紡錘車(第41図)が出土している。断面形が台形のほぼ完形品で、下面は削り調整され、側面には使用痕とみられる筋が入っている。上面のZ字状の削りは後世についたものとみられる。この他、P26からは穿孔された楕円形板状の黒雲母片岩が出土しており、甕状垂飾ともみられ古墳時代のものとする。以下、出土石器については第26表の通りであり、備考欄に写真と記載のあるものは、写真図版として提示している。

第26表 石器一覧表

No.	地区	遺構	器種	破損状況	法量(cm)・(g)				材質	時期	備考
					長さ	幅	厚さ	重量			
1	A北西	87住	石匙か剥片	20	14	3	0.8	黒曜石	縄文時代	87住SW	
2	A北西	石平2	剥片	19	10	3	0.5	黒曜石	縄文時代		
3	A北西	大塚横溝2	剥片	24	15	6	1.6	黒曜石	縄文時代		
4	A北西	T6	剥片	19	12	6	1.2	黒曜石	縄文時代		
5	A北西	T6	剥片	26	23	9	3.7	黒曜石	縄文時代		
6	A北西	不割T	石核	37	36	37	52.0	黒曜石	縄文時代	周囲、下部に磨痕有り	
7	A北西	ST1	石匙か	28	29	9	6.5	黒曜石	縄文時代		
8	A北西	ST3	剥片	26	20	7	3.8	黒曜石	縄文時代		
9	A北西	横出南中央	剥片	27	16	11	5.4	黒曜石	縄文時代		
10	A北西	横出南	剥片	30	21	12	6.0	黒曜石	縄文時代		
11	A北西	横出南	剥片	25	18	8	2.5	黒曜石	縄文時代		
12	A北西	横出南	小形石鏃	18	17	4	1.1	黒曜石	縄文時代		
13	A北西	横出南	剥片	20	12	1	0.5	チャート	縄文時代		
14	A北東	円地1	石匙か剥片	25	15	4	1.8	黒曜石	縄文時代		
15	A北東	T2	打製石斧	135	80	25	318.4	砂岩	縄文時代		
16	A北東	T2	剥片	26	26	5	4.8	チャート	縄文時代		
17	B	グリッド	剥片	24	16	10	3.3	黒曜石	縄文時代		
18	C	97住	打製石斧	一断欠	112	79	27	304.1	砂岩	縄文時代	写真
19	C	100住	紡錘車	完形	上面29	下面44	17	48.2	滑石	古墳時代後期	使用痕有 第40図 写真
20	C	100住	石匙	完形	74	59	31	42.9	解石	平安時代か	105住カマド 自然石か
21	C	100住	石鏃	一断欠	24	13	3	0.9	黒曜石	縄文時代	105住Wベルト
22	C	100住	剥片		50	33	12	17.2	黒曜石	縄文時代	105住Wベルト
23	C	113住	置砥石	一断欠	57	18	13	23.0	厚板凝灰岩	古世の混入か	113住カマドNo4 面使用痕有り 写真
24	C	113住	置砥石		188	56	20	384.7	砂岩凝灰岩	平安時代か	3面使用痕有り、1面自然面 写真
25	C	P26	甕状垂飾か	穿孔部割れ	60	34	7	23.0	黒雲母片岩	古墳時代	径5~6mmの穿孔有り 写真
26	C	遺跡3	砥石	完形	250	109	65	3090.0	砂岩	不明	3面使用痕有り 写真
27	C	No1	凹石(炭き白)	完形	112	96	60	783.6	黒雲母片岩	中世~近世か	凹部深35mm
28	D	遺跡南中央	黒曜石片		19	13	8	2.0	黒曜石	縄文時代	
29	D	横出南東	剥片		25	18	7	2.8	黒曜石	縄文時代	
30	D	横出南	未製石か剥片		57	33	14	31.5	チャート	縄文時代	黒色
31	D・E	横出南	石匙	完形	57	23	11	15.4	チャート	縄文時代	赤褐色
32	E	T5	黒曜石片		20	13	6	1.3	黒曜石	縄文時代	
33	E	T6	剥片		26	16	7	1.9	黒曜石	縄文時代	
34	E	No182	手持ち砥石	完形	129	35	21	159.0	砂岩	完形か	上下面使用痕有り



石-19  
100住出土紡錘車



第41図 石器実測図



今回で大村遺跡の調査は6回目となった。第2章第3節で述べた通り、古瓦の出土する本遺跡を含めて、かつては広い範囲を「大村遺跡」としていたが、発掘調査の増加とともに、いくつかの別の遺跡として扱うようになり、現在に至っている。今回の調査によって、その「大村遺跡」にも、いろいろな側面があることが明らかになった。時代別、種別でも様々な性格を持っており、今回任意に設けた調査区からも窺うことができる。以下では、各地区毎に明らかになった事柄についてまとめてみたい。

**A地区** 前回調査地のすぐ南側に当たるのが本地区の北西部で、そこにみられる黄褐色砂質土の範囲が、大六川の旧流路であった可能性がある。その両岸から破壊された住居址を確認している。右岸に当たる部分は、現在の大村集落の北部へ続く微高地となっており、その下に更に集落址が連続することは確実と思われる。左岸に当たる部分には北東部も含まれ、この部分の住居址内からは瓦が出土するものもあり、また検出面上からも多くの瓦を確認している。北東部では、台状地形1とした黒色土の硬化面を確認したが、版築の状況は確認できず、古代寺院の基壇と考えることは難しい。北東部検出面において出土した湿美産蓮弁文壺は、経塚等で用いられることが多いようであり、中世に仏教関連施設が存在した可能性を残した。また、台状地形1の西側で、グリッド調査により検出した石列1は水路とみられ、下げた面からは古瓦が多く出土したことから、瓦が用いられた建物の廃絶時に存在していた古代の遺構の残存部分かもしれない。

**B地区** 本地区は、検出時には遺物も少なく、暗褐色土の広がりがあるのみ、という感を受けたが、遺構確認のためのサブトレンチを設定した結果、円面硯の出土があり、91住が確認された。この住居址は奈良時代の比較的富裕な階層の住居址とみられ、高盤、円面硯という、同時期の竈穴住居址(97住等)とは異なる遺物が出土している。西側にある93住等の存在から、集落が更に南西方面に広がる可能性を考えたい。

**C地区** 数多くのピットを確認している。古代の所産と考えられるものもあるが、多くは中世まで下る建物址の柱穴と推測する。残念ながら、組み合わせから建物の柱配りを明らかにすることはできなかった。本地区の南西側は緩やかな谷状地形となり、谷底に大六川が流れていたと推測するが、その斜面部分では遺構はみられず、上面の平坦な部分に集落が展開している。古墳時代以降、奈良・平安時代の遺構が密集し、中世の遺構と同様、ほとんどの遺構が東寄り存在した。川の際よりも安全な部分に居住域があったためであろう。また、この地区では「焼土範囲」として、住居址の痕跡と思われる遺構を9ヶ所確認しているが、これらは、地表が古代においては現在より高低差があり、その高い部分に存在した遺構が、中世以降の開発などによって削られた結果によるものと考えている。

**D地区** 当初トレンチ調査のみの予定であったが、瓦の多量出土により、急きよ面的調査を行った地区である。昭和40~41年の緊急分布調査においてA地区とした部分で、その際には瓦の他、遺構として礎敷きを確認されている。今回の調査では、まず当時のトレンチを確認するため南北方向にトレンチ1を設定した。しかし、断面観察の結果からは昭和のトレンチを確認できず、当時の調査地点を把握できなかった。このトレンチ1に直交させて設定した3本のトレンチからは多量の瓦が出土したため、特に瓦出土の多い部分を中心に約300㎡を面的調査に切り替えた。その結果、数ヶ所の集石範囲を確認し、集石内から鵝尾片が2点出土した。確認された集石は、古瓦を伴うものも多く、古代建築物のグリ石の可能性もあるが、この地区がほぼ整備では盛り土となって保存されるため、それ以上の拡張は行わず、いくつかの集石遺構の平面及び断面観察のみを行った。その結果、浅い皿型の掘り方で、内部に礫があることを確認できた。この地区では、第31~33図の瓦出土状況図に示した通り、E地区より一段低く、粘質土を除去したところで瓦が出土しており、古代の瓦葺建築物の存在を想定した場合、その廃絶時点の地表は、この粘質土下の面ではないかと考えられる。

**E地区** A地区の東半部分及びD地区において瓦が多量に出土したため、両地区に挟まれた部分に遺構の存在を想定して面的調査を行った地区である。表土を取り去る際に直線状の石列を検出し、現況の水田境とも

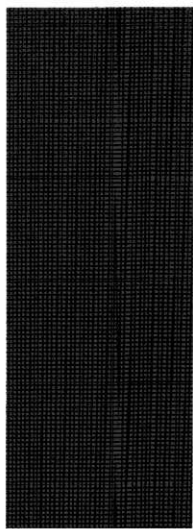
異なり、また暗渠とも考え難いことから石列3とした。この石列の詳細な用途は不明であるが、E地区全面に存在する粘土層上面の高さが、この石列を挟んで南北で約10cm異なることから、この一帯が粘土を堆積するような湿地帯であった時期に、南側への流入を防ぐための土留めの役割を有していたのではないとも考えられる。石列の上面標高は633.70m前後でほぼ一定であることから、人為的な土留めという可能性を考えたい。また、A地区でみられた台状地形と類似した高まりが本地区の南西隅でみられた。しかし、一部が水田の畦畔を造る際に削られてしまっており、全体形が不明である。上面から中世とみられる青磁碗片等が出土していることから、台状地形1と同様のものである可能性がある。この地区でも瓦が多く出土しているが、その多くは厚い粘土層の下、トレンチとして掘り下げた部分からのものが多い。古代の瓦葺建物の存在を想定した場合、その面の上に粘土が堆積し、中世の面ができたものと考えられる。

大村廃寺について 古代に遡る廃寺址の存在について、今回の調査結果から少し考察してみたい。先に結論から言えば、可能性はあるという程度の曖昧なものにならざるを得ない。多量の瓦や、特に鷗尾の出土は、この近在に古代寺院が存在した「物的証拠」には違いない。しかし、出土状況は散乱していて建物等に伴う状況は認められない。遺構についても、D地区にグリ石の可能性を有する集石遺構は存在しているが、上部にあったかもしれない礎石は取り除かれ、調査区内では確認できなかった。地元には出土した礎石と伝承される巨石が数個存在しているが、その出土地点についても現段階では詳細を明らかにできなかった。

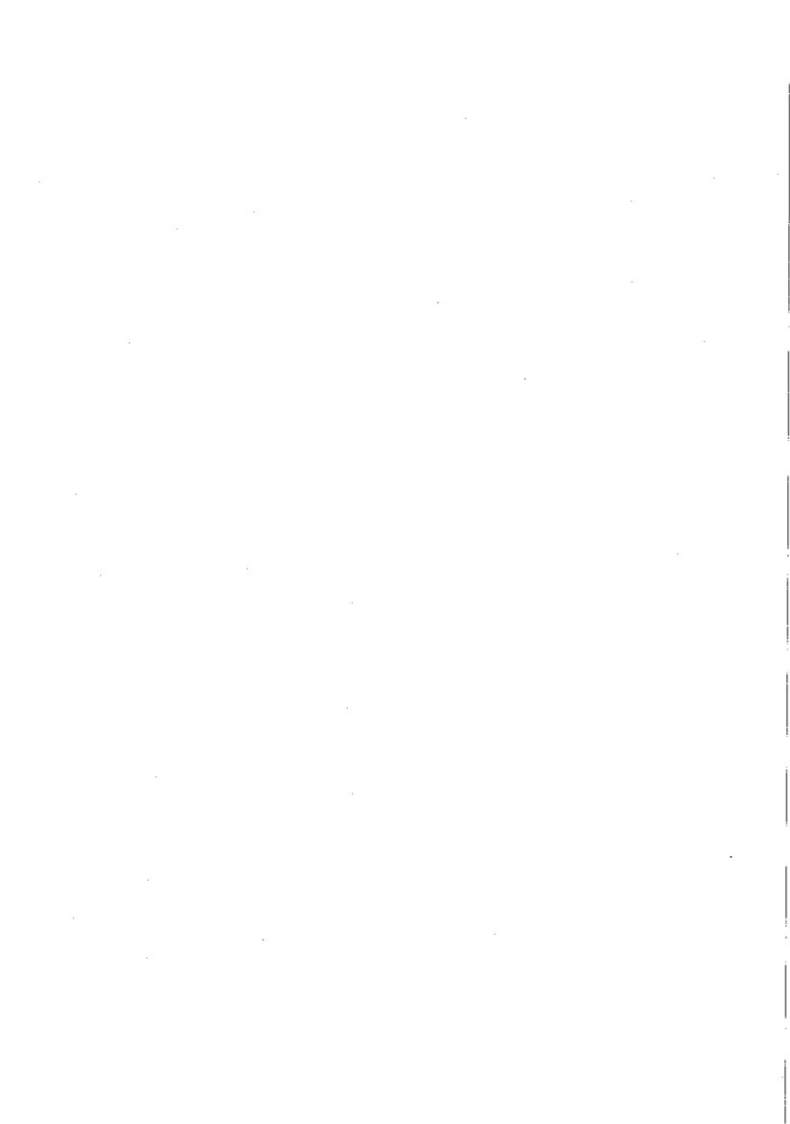
そこで一つの想定として、古代においてD・E地区あるいはそれ以北に、瓦を用いた建物（例えば寺院等）が存在していたと考えてみたい。当時、C地区一帯には古墳時代末期から続く集落が営まれていた。時代が下り中世になると、瓦を用いた建物は既に廃絶し、しかも周囲に粘土の堆積があることから、周辺は湿地化が進んだと思われる。一方、C地区一帯には集落が継続していた。そして、北側の湿地は、オーバーフローにより、南の方へ流れ出したのではないだろうか。それを防ぐために、堆積した粘土の上に東西方向の土手（E地区で検出された石列3）が築かれた。土手の構築材に用いられたのは、廃絶した建物の礎石やグリ石であったろう。また、その時点でA地区及びE地区で検出された台状地形が構築され、何らかの目的を果たしていたと思われる。この想定は、推測の域を出るものではないが、今回の調査結果を総括したものでもある。

そのほか、詳細な位置は不明であるが、E地区の南東にあたる水田から石製地蔵頭（写真図版11）が出土している。昭和10年代頃に、競馬場が廃止となって再び農地化する際に、地元の中野武雄氏が水田工事中に発見したもので、現在個人蔵（中野武氏所有）となっている。地名が、寺田等の小字名等として伝承されている点や台状地形の存在も勘案すると、中世以降にも仏教（寺院）関連の何らかの動きがあったのかもしれない。

最後になりましたが、今回の作業に際して多大なご協力を頂いた大村ほ場整備組合の皆様、地元の皆様、鷗尾に関してご教示を頂いた（財）大阪府文化財センター技師島崎久志様、そして寒風の中作業に従事して頂いた作業員の皆様方に、この場を借りて厚くお礼申し上げます。



写真図版





調査区域全景（南から、手前はC地区）



A地区北西・北東全景（南から）



C地区全景（南から）

図版1 航空写真1



B地区全景（南から）



91住の円面碗出土状況（北から）



A地区南東・D・E地区全景（南から）



78住のカマド遺物出土状況（西から）



91住の遺物出土状況（東から）



D地区備尾（D825）出土状況（東から）



D地区軒九瓦（D012）他出土状況

図版2 航空写真2・遺物出土状況写真



出土鷗尾 (D826)



下 出土鷗尾RD001 (D001, D825接合)



調査開始前全景 (北から)

図版3 出土鷗尾3面図・調査開始前全景





出土古瓦（軒丸瓦・軒平瓦）



91住出土須恵器（円面碗・高盤他）



出土輸入陶磁器（青磁・白磁）



D・E地区出土 異なる時期の遺物（縄文～中世）



軒丸瓦 (D012)



軒平瓦 (A094)



福美産蓮弁文壺 (302)



青磁碗（未実測）



青磁碗 (249)



青磁碗（未実測）



白磁碗 (296)



白磁碗 (297)



青白磁輪花里 (410)

図版4 瓦・輸入陶磁器・91住遺物





83住遺物出土状況（西から）



83住完掘状況（西から）



石列1（北から、蓋石の載った状態）



石列1（南から、完掘状況）



縄文土器（254）出土状況



85住遺物出土状況（東から）



台状地形1（南から）



凹地状遺物出土状況（西から）

図版5 A地区北東部遺構



A地区北西部北東の住居址群（西から）



82住完掘状況（西から）



96住遺物出土状況（東から）



96住完掘状況（東から）



81住遺物出土状況（西から）



81住カマド脇出土の軒平瓦（A001-2）



84住遺物出土状況（東から）



95住完掘状況（東から）

図版6 A地区北西部遺構1



A地区北西の流路1、大規模流路1（南から）



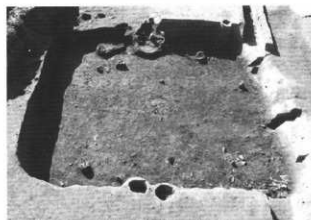
87住完掘状況（西から）



78住完掘状況（北から）



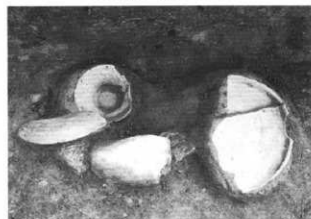
92住完掘状況（東から）



91住遺物出土状況（東から）



91住完掘状況（東から）



91住遺物出土状況（東から）



93住完掘状況（南から）

図版7 A地区北西部遺構2・B地区遺構



C地区1棟全景（東から）



97住完掘状況（東から）



98住完掘状況（東から）



99住完掘状況（東から）



100住完掘状況（南から）



101住完掘状況（西から）



102住完掘状況（東から）



103住完掘状況（東から）

図版8 C地区遺構1



104住完掘状況（東から）



105住完掘状況（東から）



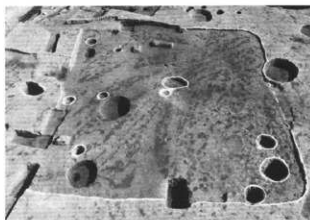
106住完掘状況（南から）



107住完掘状況（北から）



108住完掘状況（北から）



109住完掘状況（西から）



110住完掘状況（東から）



111住遺物出土状況（西から）

図版9 C地区遺構2



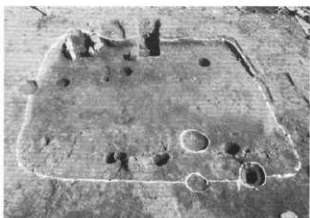
112住完掘状況 (東から)



112住遺物出土状況1



112住遺物出土状況2



113住完掘状況 (西から)



C地区検出面遺物 (419) 出土状況



集石2 (西から)



D地区瓦出土状況



D001 (西から) 出土状況

図版10 C地区遺構3・D地区遺構



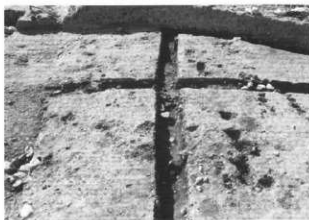
A地区南東部全景（南から）



石列3出土状況（東から）



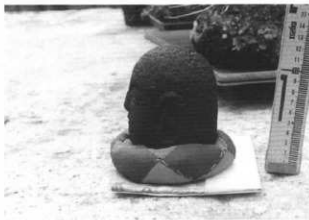
台状地形2（東から）



台状地形2下層確認トレンチ（東から）



D・E地区全景（北から）



中野武氏所有石製仏頭



中野武氏所有（伝）礎石



B地区北西に移されていた（伝）礎石

図版11 A地区南東全景・E地区遺構・石製仏頭・伝礎石



1



5



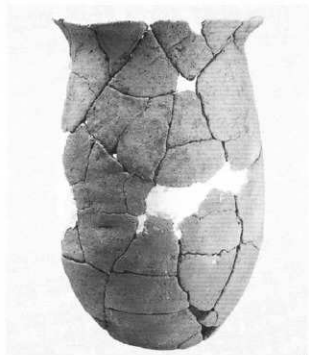
8



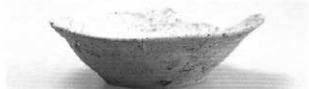
9



11



10



21



24



33



35

1~24: 78住  
33, 35: 80住

图版12 A地区78,80住出土土器





36



38



39



46



47



52



53



56



75



76



77



79



87



92



106

36 : 80住  
 38 ~ 56 : 81住  
 75 ~ 77 : 83住  
 79 ~ 106 : 84住

图版13 A地区80,81,83,84住出土土器・陶磁器



115



127



123



128



129



125



141



143



126



150

115~129: 85住  
141~150: 87住

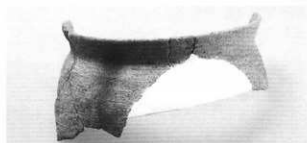
图版14 A地区85, 87住出土土器



152



153



88住



154



156



155



165



166



168



171



172

152, 153 : 87住  
88住 : 88住

154~156 : 89住  
165~172 : 92住

图版15 A地区87~89, 92住出土土器·土製品



173



174



180



181



190



196



200



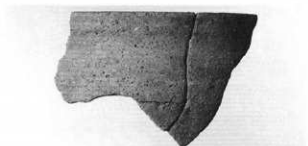
201



202



209



211



214



221

173-181: 92住  
 190, 196: 95住  
 200-221: 96住

图版16 A地区92,95,96住出土土器·陶磁器



224



226



227



228



230



231

224~228 : 96住  
230 : 8土  
231 : 17土  
236, 237 : 凹地1

244, 245 : 石列1  
248 : 石列4  
250 : 流路1  
251 : グリッド



236



237



244



245



248



250



251



267

図版17 A地区96住、土抗、凹地1、石列、流路1、グリッド出土土器・陶磁器



283



285



288



289



290



294



299



300



301



未実測



未実測



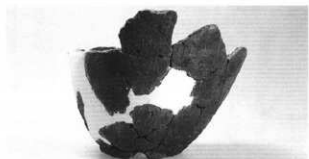
422



432

283～288：サブトレンチ 422：D地区遺物集中域  
 289～301，未実測：検出面 432：E地区石列3

図版18 A地区サブトレンチ，検出面・D地区遺物集中域・E地区石列3出土土器・陶磁器



312



317



319



321



322



324



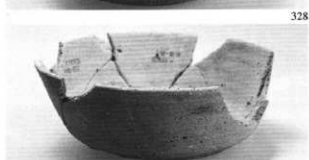
325



327



328



329



331



332



333

312~333 : 91住

図版19 B地区91住出土土器



339



340



342



石-18



石-19



345



346



348



379

339~342, 石-18: 97住

石-19: 100住

345~348: 99住

379: 108住

图版20 C地区97,99,100,108住出土土器・石器

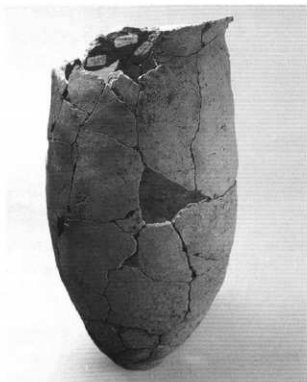




354



358



355



365



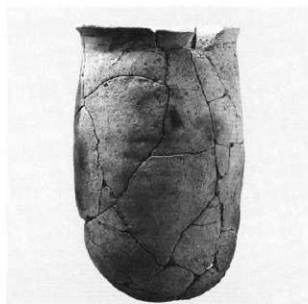
363



366

354~358: 102住  
363~366: 104住

图版21 C地区102, 104住出土土器



367



371



384



386



389



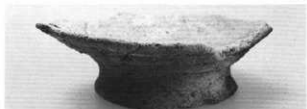
391



397



400



406



407



408



石-23



石-24

367, 371 : 105住  
 384 ~ 391 : 110住  
 397, 400 : 111住  
 400 ~ 408, 石-23, 24 : 113住

图版22 C地区105,110,111,113住出土土器·陶磁器·石器



401



404



402



石-25



石-26



405



419

401~405：112住  
石-25：P27  
石-26：流路2  
419：検出面

図版23 C地区112住、ピット、流路、検出面出土土器・石器



D012瓦当面



D012背面



D623瓦当面



D623背面



A036瓦当面



A036背面



A136瓦当面



A136背面

D012, D633, A036, A136: 軒丸瓦

图版24 出土古瓦(軒丸瓦1)



D013瓦当面



D013表面



E111瓦当面



E111表面



A001-2凹面



A001-2凸面



A001-2瓦当面



A094瓦当面



A094凹面



A094凸面

D013, E111: 軒丸瓦  
A001-2, A094: 軒平瓦

図版25 出土古瓦(軒丸瓦2, 軒平瓦1)



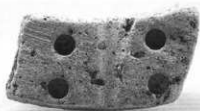
D627凹面



D627凸面



D627瓦当面



A013瓦当面



D476凹面



D476凸面



D476瓦当面



D769瓦当面



D484凹面



D484凸面



D628凹面



D628凸面



E164凹面



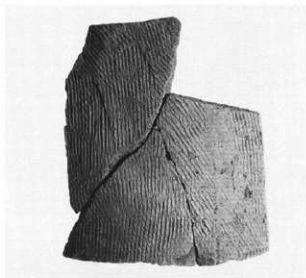
E164凸面

D627, A013, D476, D769 : 軒平瓦  
D484, D628 : 隅平瓦  
E164 : 不明瓦質製品

圖版26 出土古瓦(軒平瓦2, 隅平瓦, 不明瓦質製品)



A071凹面



A071凸面



D733凹面



D733凸面



E201凹面



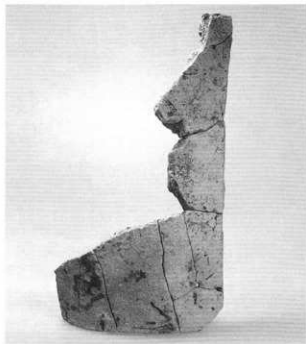
E201凸面

A071, D733, E201: 平瓦  
 次頁RD493: 平瓦  
 RE059, E011: 丸瓦

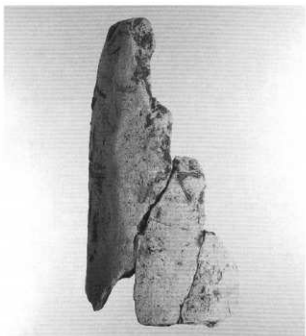
圖版27 出土古瓦(平瓦1)



RD493凹面



RD493凸面



RE059凸面



RE059凹面



E001凸面



E001凹面

图版28 出土古瓦(平瓦2, 丸瓦)



## 大村遺跡緊急発掘調査報告書抄録

ふりがな	おおむらいせき6きんきゆうはくつちようさほうこくしょ							
書名	大村遺跡緊急発掘調査報告書							
副書名								
巻次								
シリーズ名	松本市文化財調査報告							
シリーズ番号	No177							
編著者名	澤柳秀利・三村竜一・内藤 団・森 義直							
編集機関	松本市教育委員会(松本市立考古博物館)							
所在地	〒390-8620 松本市丸の内3番7号(〒390-0823 松本市大字中山3738番地1・匱0263-86-4710)							
発行年月日	平成17年2月18日(平成16年度)							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
おおむらい 大村	長野県松本市大字 大村5番地1 他	20202	73	36度 15分 13秒	137度 59分 30秒	20011119 ～ 20020325	13,500㎡	ほ場整備
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
大村	集落跡	縄文 ・ 古墳 ・ 奈良 ・ 平安 ・ 中世	竪穴住居址 36軒 土坑 62基 ビット 155個 竪穴状遺構 1基 溝址 4条 流路址 5条 築石 15ヶ所 石列 5本 台状地形 2ヶ所 凹地状遺構 1ヶ所 焼土範囲 9ヶ所	縄文土器 古墳時代土師器 古代土器・陶磁器(土師器・須恵器・灰釉陶器・陶硯) 中国産磁器(青磁・白磁・青白磁) 中世陶器(瀬美産・常滑産・古瀬戸産) 金属製品(釘・刀子・鈴・銭貨・不明品) 石製品(紡錘車・打製石斧・石匙・石鏃・砥石)	古墳時代後期から平安時代にかけての集落跡を確認した。古瓦を多量に出土し、陶瓦の一部とみられる破片も確認された。			

松本市文化財調査報告177

長野県松本市

## 大村遺跡Ⅵ

—緊急発掘調査報告書—

発行日 平成17年2月18日

発行者 松本市教育委員会

〒390-8620 長野県松本市丸の内3番7号

印刷 精美堂印刷株式会社

